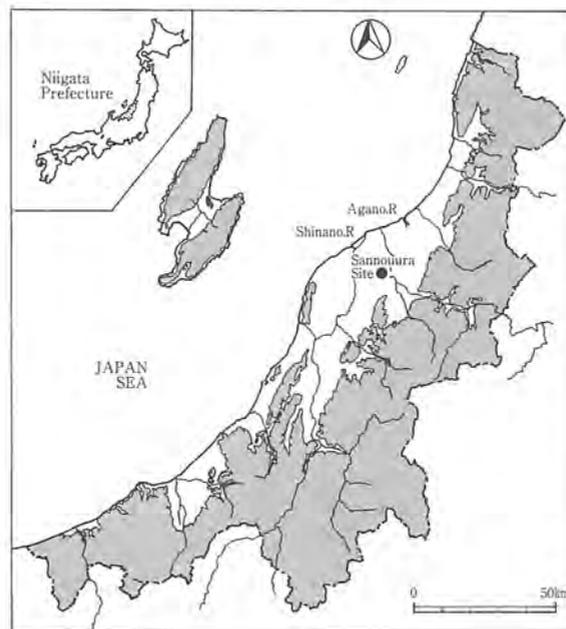


# 山王浦遺跡発掘調査報告書



2004

新津市教育委員会

## 例 言

1. 本書は新潟県新津市大字古田ノ内大野開字山王浦459他に所在する山王浦（さんのうら）遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴い、新津市教育委員会が事業主体となり発掘調査を実施した。
3. 平成14年度に発掘調査、平成15年度に報告書作成に係る整理作業と報告書刊行を行った。発掘調査と整理作業の体制は第Ⅲ章に記した。
4. 出土遺物・発掘記録は新津市教育委員会が一括して保管している。
5. 本書の編集は立木宏明（新津市教育委員会）が行い、澤野慶子（新津市教育委員会嘱託）が補佐した。執筆は、第Ⅴ章1 A・Bと第Ⅶ章2を澤野、第Ⅵ章を下記、その他を立木が行った。
6. 第Ⅱ章3を『中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』（2002）から引用した。
7. 「第Ⅵ章 新津市山王浦遺跡の自然科学分析」については（株）古環境研究所に委託した。
8. 本書で用いた写真は、遺跡写真は立木・澤野が撮影し、遺物写真は佐藤俊英氏（ビッグヘッド）に撮影頂いた。ただし、写真図版1は国土地理院が、写真図版2は（株）オリスが撮影したものを使用した。
9. 本書で示す方位は全て真北であるが、図版2「新津町ニヶ村開田耕地整理組合現形図」1922年（新津東土地改良区所蔵）のみ正確さを欠いている。
10. 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関より御指導・御協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げます。（所属・敬称略、五十音順）  
相沢 央・石沢 進・伊藤秀和・春日真実・澤田 敦・土橋由理子・古澤妥史・細野高伯・吉井雅勇  
新潟県教育庁文化行政課・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県新津農地事務所・新津東土地改良区

## 凡 例

1. 本書は本文と別表と巻末図版（図版・写真図版）からなる。
2. 本書の注は各章の末尾に記した。引用文献は著者と発行年を〔 〕文中に示し、巻末に一括して掲載した（但し、第Ⅵ章は各説の末尾に記した）。
3. 遺構番号は現場で付したものをを用いた。番号は遺構の種別毎に付さず、通し番号とした。
4. 土層の土色観察は『新版 標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修1967）を用いた。
5. 土器実測図は断面の表現を種別で区別した。黒塗は須恵器で、それ以外は白抜きである。
6. 遺物実測図で全周の1/12以下のような遺存率の低いものについては中軸線の両側に空白を作って区別している。
7. 本書に掲載した時代区分は古代、近世と記述している。古代については平安時代にはほぼ限定できる。
8. 遺物の注記は山王浦遺跡の略記号「SNU」とし、出土地点や層位を続けて記した。平成14年度出土遺物は略記号の前に「02」を付した。立会調査の遺物注記は筆頭を「山王浦」とし、出土位置・地番・出土年月日を記した。
9. 図版（図版22～29）に示した遺物ドットの略記は次のとおりである。  
●：土師器、▲：須恵器、■：黒色土器、○：礫、△：石製品、□：土製品

# 目 次

第Ⅰ章 発掘調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	2
1 遺跡の位置と地理的環境	2
2 周辺の遺跡	2
3 歴史的環境	7
第Ⅲ章 調査の概要	9
1 確認調査	9
2 発掘調査	10
A 調査方法	10
1) 現況	10
2) グリッドの設定	10
3) 調査方法	10
B 調査経過	11
C 調査体制	11
3 立会調査	12
4 整理作業	13
A 整理方法	13
1) 遺物	13
2) 遺構	13
B 整理経過	13
第Ⅳ章 遺 跡	14
1 遺跡の概要	14
2 層序	14
3 遺構各説	15
A 古代の遺構	15
1) SE	15
2) SK SX	15
3) SD	17
4) Pit	18
5) SB SA	18
第Ⅴ章 遺 物	19
1 古代の遺物	19
A 土器の分類と記述	19
B 出土土器等各説	22
1) 遺構出土土器	22
2) 包含層出土土器	28
3) 確認調査出土土器	28
4) 立会調査出土土器	28
C 石製品・鍛冶関連遺物	29
第Ⅵ章 新津市山王浦遺跡の自然科学分析	31
1 山王浦遺跡におけるテフラ分析	31
2 山王浦遺跡におけるプラント・オパール分析	35
3 山王浦遺跡における花粉分析	40
4 山王浦遺跡における樹種同定	46
第Ⅶ章 ま と め	50
1 山王浦遺跡の遺構について	50
2 山王浦遺跡の古代土器について	51
引用・参考文献	56
別表	58
報告書抄録	

## 挿図目次

第1図	新津丘陵周辺地形分類図 (1/150,000)	3
第2図	新津市周辺の古代遺跡分布図 (1/100,000)	5
第3図	山王遺跡確認・試掘・立会調査位置図 (1/5,000)	9
第4図	山王浦遺跡土師器・黒色土器分類図 (1/6)	20
第5図	山王浦遺跡須恵器分類図 (1/6、1/8)	21
第6図	山王浦遺跡遺構構成図 (1/800)	50
第7図	山王浦遺跡主要遺構別器種組成図	52
第8図	山王浦遺跡主要遺構別食膳具の法量分布図	53
第9図	山王浦遺跡出土土器の様相 (1/10、1/15)	54

## 表目次

第1表	新津市周辺の古代遺跡一覧表	4
-----	---------------	---

## 別表目次

別表1	山王浦遺跡遺構計測表	58
別表2	山王浦遺跡古代土器・土製品観察表	60
別表3	山王浦遺跡石製品・鍛冶関連遺物観察表	66
別表4	山王浦遺跡遺構出土古代土器器種構成率	67
別表5	山王浦遺跡立会調査出土遺物数量表	69

## 図版目次

図版1	周辺の旧地形図 (1/25,000)
図版2	遺跡周辺の旧地割図 (1/10,000)
図版3	山王浦遺跡と周辺遺跡 (1/20,000)
図版4	山王浦遺跡調査区とグリッド設定図 (1/2,500)
図版5	山王浦遺跡グリッド設定図 (1/1,000)
図版6	山王浦遺跡遺構平面図 (1/400)
図版7	山王浦遺跡遺構平面図 (1/200)
図版8	山王浦遺跡包含層の小グリッド別古代土器出土重量分布図 (1/400)
図版9	山王浦遺跡基本層序実測図 (1/40)
図版10	山王浦遺跡遺構全体図面割付図 (1/400)
図版11	山王浦遺跡遺構平面部分図1 (1/80)
図版12	山王浦遺跡遺構平面部分図2 (1/80)

- 図版13 山王浦遺跡遺構平面部分図3 (1/80)
- 図版14 山王浦遺跡遺構平面部分図4 (1/80)
- 図版15 山王浦遺跡遺構平面部分図5 (1/80)
- 図版16 山王浦遺跡遺構平面部分図6 (1/80)
- 図版17 山王浦遺跡遺構平面部分図7 (1/80)
- 図版18 山王浦遺跡遺構平面部分図8 (1/80)
- 図版19 山王浦遺跡遺構平面部分図9 (1/80)
- 図版20 山王浦遺跡遺構平面部分図10 (1/80)
- 図版21 山王浦遺跡遺構平面部分図11 (1/80)
- 図版22 SE 5、SK28実測図 (1/40)
- 図版23 SK20. 25. 32. 41. 57. 61. 46、Pit26. 27実測図 (1/40)
- 図版24 SK40. 46. 47. 48. 59. 62実測図 (1/40)
- 図版25 SK60. 111. 114、SX67、Pit109実測図 (1/40)
- 図版26 SK77. 84. 86. 97. 104. 112、Pit106実測図 (1/40)
- 図版27 SK68. 88. 89、SD 1、Pit24実測図 (1/40)
- 図版28 SD 4. 29. 33. 37. 105. 119、Pit72実測図 (1/40)
- 図版29 SD66. 93. 98. 99. 119、SX67、Pit16. 17. 22. 23. 118実測図 (1/40)
- 図版30 SB180. 182、SA181実測図 (1/80)
- 図版31 SB183. 184実測図 (1/80)
- 図版32 出土遺物 1 SE 5 (1)
- 図版33 出土遺物 2 SE 5 (2)
- 図版34 出土遺物 3 SE 5 (3)
- 図版35 出土遺物 4 SE 5 (4)、SK28 (1)
- 図版36 出土遺物 5 SK28 (2). 25 (1)
- 図版37 出土遺物 6 SK25 (2). 20. 41. 61. 32. 64. 40 (1)
- 図版38 出土遺物 7 SK40 (2). 62. 47
- 図版39 出土遺物 8 SK48. 59. 60. 111、SX67 (1)
- 図版40 出土遺物 9 SX67 (2)、SK77. 86. 97 (1)
- 図版41 出土遺物10 SK97 (2). 112. 104. 68 (1)
- 図版42 出土遺物11 SK68 (2). 89. 88、SD 1 (1)
- 図版43 出土遺物12 SD 1 (2)
- 図版44 出土遺物13 Pit24、SD 4. 29 (1)
- 図版45 出土遺物14 SD29 (2). 33 (1)
- 図版46 出土遺物15 SD33 (2). 37. 105. 119. 99 (1)
- 図版47 出土遺物16 SD99 (2)
- 図版48 出土遺物17 SD99 (3). 98、Pit 2. 3. 7. 8. 9. 10. 12. 14. 16. 17. 21
- 図版49 出土遺物18 Pit27. 35. 39. 69. 94. 95. 108. 131、包含層 (1)
- 図版50 出土遺物19 包含層 (2)
- 図版51 出土遺物20 包含層 (3)

- 図版52 出土遺物21 包含層(4)、確認調査4T  
図版53 出土遺物22 立会調査  
図版54 出土遺物23 石製品(1)  
図版55 出土遺物24 石製品(2)、鍛冶関連遺物

## 写真図版目次

- 写真図版1 山王浦遺跡周辺空中写真(国土地理学院1952年11月撮影)  
写真図版2 山王浦遺跡空中写真  
写真図版3 空中写真  
写真図版4 空中写真  
写真図版5 SB180. 182. 183周辺空中写真  
写真図版6 SE 5、SX67、SD99完掘状況  
写真図版7 調査前現況、空中写真  
写真図版8 基本層序、SE 5  
写真図版9 SK20. 25. 28. 41、SD33、Pit27  
写真図版10 SK32. 41. 57. 61、SD33、SB182  
写真図版11 SK40. 47. 48. 59. 62. 64  
写真図版12 SK46. 60. 111. 114  
写真図版13 SK77. 84. 86、SX67、SD98. 99  
写真図版14 SK68. 84. 86. 97. 104. 112、SD105. 119  
写真図版15 SK68. 88. 89. 112、SD 1. 105. 119、Pit24  
写真図版16 SD 1. 4. 29. 37. 66、SA181  
写真図版17 SD66. 93、Pit16. 17. 22. 23. 152他  
写真図版18 SB180. 183. 184、完掘状況  
写真図版19 山王浦遺跡出土須恵器・土師器・黒色土器  
写真図版20 出土遺物SE 5、SK68. 97、SD 1. 99、包含層  
写真図版21 出土遺物SE 5、SK28. 60. 68. 77、SD 1. 37. 99、包含層  
写真図版22 出土遺物SE 5(1)  
写真図版23 出土遺物SE 5(2)  
写真図版24 出土遺物SE 5(3)、SK28(1)  
写真図版25 出土遺物SK28(2)、SK25(1)  
写真図版26 出土遺物SK25(2)、20. 41. 61. 32. 64. 40. 62. 47. 48(1)  
写真図版27 出土遺物SK48(2)、59. 60. 111、SX67、SK77. 86. 97. 112. 104. 68(1)  
写真図版28 出土遺物SK68(2)、89. 88、SD 1(1)  
写真図版29 出土遺物SD 1(2)、Pit24(1)  
写真図版30 出土遺物SD 1(3)、Pit24(2)、SD 4. 29(1)、33(1)  
写真図版31 出土遺物SD29(2)、33(2)、37. 105. 119. 99(1)  
写真図版32 出土遺物SD99(2)、98、Pit 2. 3. 7. 8. 9. 10(1)、11(1)

写真図版33 出土遺物SD99 (3)、Pit10 (2). 11 (2). 12. 14. 16. 17. 21. 27. 35. 39. 69. 94. 95.  
108. 131

写真図版34 出土遺物包含層・確認調査・立会調査、石製品・鍛冶関連遺物

## 第 I 章 発掘調査に至る経緯

平成7年度に、新津市満日地区における県営ほ場整備事業の計画が知らされた。市生涯学習課は新津東土地改良区および市農産業振興課と協議を重ね、平成7年度から平成8年度にかけて対象面積440haの分布調査を実施した。その結果、遺物が多量に採集され、新潟県教育委員会が平成2～4年度に磐越自動車道建設に伴い本発掘調査を実施した沖ノ羽遺跡〔石川ほか1994、星野ほか1996、春日ほか2003〕の範囲とあわせて多くの遺跡の存在が予想された。

平成11年度に入り、事業計画が見直され、県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区として約170haが対象になり、新潟県新津農地事務所（以下、新津農地）と協議を重ねた結果、全区域を対象とした確認・試掘調査を平成11～13年度に実施した。その結果、ほ場整備事業範囲内に中谷内遺跡、内野遺跡、沖ノ羽遺跡、山王浦遺跡の4遺跡が確認された。山王浦遺跡は、平成13年度の確認調査で正式に確認され、遺跡登録された。

そのうち、山王浦遺跡の範囲については、平成14年度中にはほ場整備面工事の対象範囲となるため、平成13年度に、新津農地・新津東土地改良区・新潟県教育庁文化行政課・市生涯学習課の4者で遺跡の取扱いを巡って協議を重ねた結果、平成11年9月10日付け教文第578号で新潟県教育委員会教育長から通知された「発掘調査の要否の判断基準について（通知）」の基準により、遺物包含層から30cmの保護層（工事の施工に際して埋蔵文化財を保護するために設ける一定の厚さの土層、樹脂等による緩衝層）を確保できない場合には本調査を実施するとし、保護層が確保できない畑部分の約2,000㎡を本発掘調査実施することで合意した。あわせて、新設道路の用・排水管部分については、本発掘調査の直前に確認調査を実施し、発掘の要否を判断することで合意した。

新津農地から平成14年3月11付け新農第846号で文化財保護法第57条の3第1項の届が出され、畑部分の約2,000㎡について新潟県教育委員会教育長から新津農地事務所長へ平成14年3月29日付け教文第1229号で本発掘調査の指示文が出された。それを受けて、新津市教育委員会教育長から新潟県教育委員会教育長へ文化財保護法第58条の2による発掘調査の通知を提出して本発掘調査を実施した。新設道路の用・排水路部分については、別に文化財保護法第58条の2による発掘調査の通知を提出して平成14年7月4日に確認調査を実施した。その結果、遺構・遺物が少量出土し、平成14年8月14日付け教生201-2号で新潟県教育委員会教育長あてに発掘調査の終了報告を提出した。合わせて一部遺跡範囲が広がったため、同日付け教生第201-4号で「周知遺跡範囲変更等について（通知）」を提出した。この部分について新潟県教育委員会教育長から新津農地事務所長へ平成14年8月22日付け（13）教文第1299号で工事立会調査の指示文が出された。なお、工事立会調査は工事の都合で平成15年度に実施した。

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 1 遺跡の位置と地理的環境 (第1図、図版1・2)

新津市は越後平野のほぼ中央に位置し、新津丘陵を中心として東に阿賀野川、西に信濃川が北流する。享保年間には加治川が阿賀野川に、阿賀野川が新潟港で信濃川に合流する状況で、度々水害に見舞われていたため、享保15年(1730)に新発田藩が松ヶ崎放水路を開削し、現阿賀野川の河口となった。新津市域では下新付近で、五泉市域を北流してきた早出川が阿賀野川に合流し、現阿賀野川の河口となった。また、七日町付近では阿賀野川から分岐した小阿賀野川が西流し覚路津付近で信濃川に合流する。新津丘陵東縁を北流する能代川は太平洋戦争後に水害対策の河川改修が行われた。これにより村松町千原～新津市大関間の蛇行部分が直線化、新津市街地を貫流していた本来の流路から分流が東方に作られ、現在新津川・能代川となっている。この能代川と新津川は下興野町付近で再び合流し、荻島付近で小阿賀野川に注いでいる。

新津市域の地形は丘陵とその縁辺の段丘、沖積地から成っている。南南西～北北東に走る新津丘陵は加茂川を南限に標高278mの高立山が最も高く、北に行くに従い標高を下げ北端で70～80mとなり、その周囲には段丘が標高10～70m間に4段見られる。沖積地は信濃川・阿賀野川の二大河川により形成され、自然堤防や旧河道・後背湿地・三角州などの地形が見られる。阿賀野川が流路を東遷させてきた結果、新津市域では新津丘陵北端～小阿賀野川間に自然堤防が形成され、現在起伏の極少ない微高地として断続的に存在している。遺跡は能代川の東約0.51kmに位置し、この微高地上に存在する。

遺跡周辺の旧景観は現在の遺跡周辺は水田・畑地帯であり、地形の起伏はほとんど認められない。この景観は大正末期から昭和20年代に行われた耕地整理事業によって形成されたものである。耕地整理以前の地図(図版2)からは微高地の多くは畑として、微高地周辺は水田として利用されている。いわゆる「堀田」として利用されたようである。遺跡は河川が形成した自然堤防・微高地上または、微高地の周縁部を遺跡の立地としており、今回の調査成果と合致する。

### 2 周辺の遺跡 (第2図、第1表、図版3)

時代別の遺跡の分布は旧石器・縄文・弥生時代では丘陵・段丘上に集中し、古墳時代には丘陵や段丘の縁辺部や平野部微高地、奈良・平安時代になるとさらに平野部微高地に分布が見られるようになる。具体的には古代までは丘陵上に弥生後期の環壕集落・円墳などが展開し、丘陵裾部には奈良・平安時代の製鉄・須恵器(土師器)窯などの生産遺跡が集中している。そして山王浦遺跡は近接する中谷内・内野・沖ノ羽・無頭遺跡とともに古代・中世の遺跡として周知されている。

**旧石器時代の遺跡** 当該期の遺跡は、風化火山灰層(ローム層)を上部に含む矢代田層・蒲ヶ沢層により形成された新津丘陵周辺に分布する。八幡山遺跡第3次調査[川上1994]や草水町2丁目窯跡でナイフ形石器・石刃などが散発的に出土している。

**縄文時代の遺跡** 市内で20遺跡が確認されている。時期としては中期～後期が主体で、標高10～30mの丘陵上・段丘上に立地するものが多い。代表的な遺跡としては、平遺跡が市内最大規模の縄文時代遺跡とされ



第1図 新津丘陵周辺地形分類図

第1表 新津市周辺の古代遺跡一覧表

No	遺跡名	時代	種別	No	遺跡名	時代	種別	No	遺跡名	時代	種別
1	新潟市 中山	縄文・古墳・奈良・平安	遺物散布地	71	豊栄市 浦木	平安	遺物包含地	141	新津市 金津初越B	奈良～平安	遺物包含地
2	笹山前	縄文・弥生・奈良・平安	遺物散布地	72	堀内	平安	遺物包含地	142	中谷内	古墳・平安	遺物包含地
3	茗荷谷	奈良・平安	遺物包含地	73	里飯野	平安	遺物包含地	143	内野	平安	遺物包含地
4	彦七山	奈良・平安	遺物包含地	74	岡新田	平安	遺物包含地	144	大下	平安	遺物包含地
5	金塚山	縄文・奈良・平安	遺物包含地	75	大夫曾根	平安	遺物包含地	145	無頭	平安	遺物包含地
6	前山	奈良・平安	遺物包含地	76	上堀田	平安	遺物包含地	146	結七島	奈良・平安	遺物包含地
7	丸山	平安	遺物包含地	77	村下	奈良～平安	遺物包含地	147	西島中谷内	奈良・平安	遺物包含地
8	直り山A	平安	遺物散布地	78	内沼浦	奈良～平安	遺物包含地	148	久保	平安	遺物包含地
9	神明社裏	平安	遺物散布地	79	川東	奈良～平安	遺物包含地	149	山王浦	平安	遺物包含地
10	城山	古墳・平安・鎌倉	遺物包含地	80	中道	奈良～平安	遺物包含地	150	下久保	平安・中世	遺物包含地
11	北山	平安	遺物包含地	81	中道(2)	奈良～平安	遺物包含地	151	愛宕澤	縄文・平安	遺物包含地
12	直り山B	平安	遺物包含地	82	神田	奈良～平安	遺物包含地	152	水原町 三辺稲荷	平安	遺物包含地
13	小丸山	縄文・平安・中世	集 落	83	神田(2)	奈良～平安	遺物包含地	153	小旗町 東腰村	平安	遺物包含地
14	茗荷谷墓地	平安	遺物包含地	84	桜曾根	奈良～平安	遺物包含地	154	大沢谷内	平安	遺物包含地
15	清水が丘	平安	遺物包含地	85	並柳	奈良～平安	遺物包含地	155	六兵衛沢	平安	窯 跡
16	大道外	平安・中世	遺物包含地	86	桜曾根 2	奈良～平安	遺物包含地	156	横川浜堤外地	縄文・平安	遺物包含地
17	女池稲荷	平安	遺物包含地	87	池田	奈良～平安	遺物包含地	157	三沢B	平安	遺物包含地
18	松山向山	平安	遺物包含地	88	池田 2	奈良～平安	遺物包含地	158	五泉市 住吉田	奈良	遺物包含地
19	亀田町 城山A	縄文・弥生・奈良～平安	遺物包含地	89	原・藤村 曾根	平安	遺物包含地	159	山崎瀬跡	奈良	窯 跡
20	砂洲	縄文・奈良～平安	遺物包含地	90	本田裏	平安	遺物包含地	160	小丸山	縄文・弥生・古代	遺物包含地
21	迎山	縄文・奈良～室町	遺物包含地	91	城館	平安	城 館 跡	161	丸田	平安	遺物包含地
22	日本雨	縄文・奈良～室町	遺物包含地	92	千刈	平安	遺物包含地	162	横田A	奈良	遺物包含地
23	西前郷	縄文・奈良～平安	遺物包含地	93	豊四郎谷地	平安	遺物包含地	163	横田B	奈良・平安	遺物包含地
24	齊助山	縄文・弥生・奈良～平安	遺物包含地	94	山島屋敷	古墳・古代・中世	遺物包含地	164	横田C	古代	遺物包含地
25	武左衛門裏	古墳・平安	遺物包含地	95	轟	平安・中世	遺物包含地	165	町屋六条	古代・中世	遺物包含地
26	具塚	奈良・平安	遺物包含地	96	土居内西	平安・中世	遺物包含地	166	新保	奈良・平安・江戸	遺物包含地
27	三条岡	奈良・平安	遺物包含地	97	村下	古墳・平安・中世	遺物包含地	167	江中	古代	遺物包含地
28	上ノ山	奈良・平安	遺物包含地	98	豊四郎谷内C	平安・中世	遺物包含地	168	中野	奈良・平安	遺物包含地
29	中ノ山	奈良・平安	遺物包含地	99	大曲川端	平安	遺物包含地	169	寛下	奈良・平安	遺物包含地
30	狐山	奈良・平安	遺物包含地	100	新津市 舟戸	弥生・古墳・古代・中世	集 落 跡	170	村付	奈良・平安	遺物包含地
31	上沼	奈良・平安	遺物包含地	101	大坪	奈良～平安	遺物包含地	171	覆表	奈良・平安・中世	遺物包含地
32	茨島	奈良・平安	遺物包含地	102	塩辛	弥生・古墳・奈良～平安	遺物包含地	172	道金	奈良・平安	遺物包含地
33	砂岡	奈良・平安	遺物包含地	103	七本松遺跡群	平安	窯 跡	173	福島	奈良・平安・中世	遺物包含地
34	塚ノ山	奈良・平安	遺物包含地	104	寺嶋	平安・鎌倉	遺物包含地	174	ソノタ	奈良・平安	遺物包含地
35	岡田	奈良・平安	遺物包含地	105	曾根	平安・鎌倉	遺物包含地	175	石ノ子	奈良・平安	遺物包含地
36	牛道	平安	遺物包含地	106	下庵ノ木	平安・鎌倉・室町	遺物包含地	176	段ノ原	奈良・平安	遺物包含地
37	川西	平安・鎌倉	遺物包含地	107	川根	平安・鎌倉・室町	遺物包含地	177	田上町 ガンゴウ寺	平安	遺物包含地
38	市助裏	平安・鎌倉	遺物包含地	108	小戸下組	平安・鎌倉・室町	遺物包含地	178	二段あげ	平安	遺物包含地
39	藤ノ子	平安	遺物包含地	109	結	奈良	遺物包含地	179	中野	平安	遺物包含地
40	泥湖	平安	遺物包含地	110	居村A	平安	製 鉄 跡	180	願訪の前	平安	遺物包含地
41	浦ノ山	平安	遺物包含地	111	沖ノ羽	古墳・奈良～平安	遺物包含地	181	下屋敷跡	平安	遺物包含地
42	八輪前	平安	遺物包含地	112	西江浦	平安	遺物包含地	182	羽生田城跡	平安	城 館 跡
43	早通前	平安・鎌倉	遺物包含地	113	細池寺道上	平安	遺物包含地	183	糠吐	縄文・平安・中世	遺物包含地
44	前郷	縄文・平安・江戸	遺物包含地	114	上浦A	平安	集 落 跡	184	三波	縄文・平安	遺物包含地
45	曙	平安	遺物包含地	115	上浦B	古墳・古代・中世	集 落 跡	185	土居下	古墳・平安	遺物包含地
46	榎崎町 小丸山	縄文・弥生・奈良～平安	遺物包含地	116	長沼	奈良～平安	遺物包含地	186	畑外	平安	遺物包含地
47	上田	縄文・奈良～平安	遺物包含地	117	西沼	平安	遺物包含地	187	新川	縄文・平安	遺物包含地
48	前郷	縄文・弥生・奈良～平安	遺物包含地	118	長左エ門沼	平安	遺物包含地	188	館内	奈良～平安	遺物包含地
49	山ノ家	弥生・奈良～平安	遺物包含地	119	城見山	縄文(古代・中世を含む)	遺物包含地	189	中谷内	奈良～平安	遺物包含地
50	居浦郷	奈良～平安	遺物包含地	120	中郷	平安	遺物包含地	190	上谷内	奈良～平安	遺物包含地
51	駒込森所	奈良～平安	遺物包含地	121	桜大門	平安	遺物包含地	191	半ノ木	奈良～平安	遺物包含地
52	川根谷内	奈良～平安	遺物包含地	122	八幡山	弥生・古墳・平安	遺物包含地	192	竹ノ花	奈良～平安	遺物包含地
53	宮原郷	奈良～平安	遺物包含地	123	古津初越A	奈良・平安	製 鉄 跡	193	八反田	奈良～平安	遺物包含地
54	下郷	平安	遺物包含地	124	大入	平安	製 鉄 跡	194	羽生田中谷内	奈良～平安	遺物包含地
55	山のハサバ	奈良～平安	遺物包含地	125	居村C	平安(縄文・弥生後期を含む)	製 鉄 跡	195	向田	奈良～平安	遺物包含地
56	轟山	平安・鎌倉	遺物包含地	126	居村B	平安	製 鉄 跡	196	古江畑	奈良～平安	遺物包含地
57	江尻	平安	遺物包含地	127	神田	奈良・平安(縄文を含む)	遺物包含地	197	村浦	奈良～平安	遺物包含地
58	居附A	平安～室町	遺物包含地	128	古津初越B	奈良～平安	製 鉄 跡	198	吉田上谷内	奈良～平安	遺物包含地
59	平山	平安	遺物包含地	129	金津初越A	奈良～平安	製 鉄 跡	199	小清水沢	奈良～平安	遺物包含地
60	上の山	弥生・平安	遺物包含地	130	秋葉ブドウ園	縄文(中期) (古代を含む)	遺物包含地	200	横手下	奈良～平安	遺物包含地
61	松園寺	平安	遺物包含地	131	滝谷遺跡	平安	窯 跡	201	大坪	奈良～平安	遺物包含地
62	曾我森所	平安	遺物包含地	132	蘇沢町目跡	平安	窯 跡	202	保明浦	縄文・奈良～平安・近世	遺物包含地
63	川根谷内藤所	平安・室町	遺物包含地	133	山谷北	古代	遺物包含地	203	川成	奈良・平安	遺物包含地
64	天王杉	平安	遺物包含地	134	浦興野	古代	遺物包含地	204	村松町 中名坂	平安	遺物包含地
65	上郷	奈良・平安	遺物包含地	135	道ノ上	平安	遺物包含地	205	能野町(A)	平安	遺物包含地
66	上郷B	奈良・平安	遺物包含地	136	川口甲	平安	遺物包含地	206	能野町(B)	平安	遺物包含地
67	上郷C	平安	遺物包含地	137	江内	平安・中世・近世	遺物包含地	207	千原	平安	遺物包含地
68	新田郷	平安	遺物包含地	138	草水町1丁目	旧石器・縄文・平安	窯 跡	208	一本杉	平安・中世	遺物包含地
69	豊栄市 長場	平安	遺物包含地	139	古通	平安	遺物包含地	209	城下	平安	遺物包含地
70	城の湯	平安	遺物包含地	140	川口乙	平安	遺物包含地	210	山ノ入	平安・中世	遺物包含地



(国土地理院 新潟・新津 1996年 1/50,000 → 1/100,000)

第2図 新津市周辺の古代遺跡分布図

〔川上1982a〕、そのほか原遺跡（中～晩期）・秋葉遺跡（中～後期）が比較的大規模な遺跡である。

愛宕澤遺跡では1998年度の調査で市内ではほとんど確認されない縄文時代草創期前半の石器（局部磨製石斧・石核）が検出された。

**弥生時代の遺跡** 市内で7遺跡が確認されている。主に八幡山遺跡〔川上1994、渡邊1994〕とその周辺の居村C遺跡（D・E地点）〔川上1996、渡邊ほか1997〕であり、いずれも弥生時代後期に属する。特に八幡山遺跡は一定期間定住していた拠点集落と見られる高地性環濠集落で、二重の環濠・竪穴住居・炉跡・前方後方形墳墓が確認されている。遺物は東北系と北陸系の弥生土器が出土しており、当該地域の弥生時代を考える上で重要な遺跡である。平野部の舟戸遺跡〔川上1995〕でも遺物が出土しているが、平野部に立地する遺跡は少ない。平成15年度の立会調査で秋葉遺跡から中期前半、塩辛遺跡から中期後半の土器が出土している。特に塩辛遺跡は現地表から2m下から出土しており、今後台地と沖積地の境界から遺跡が検出される可能性があり注意を要する。

**古墳時代の遺跡** 市内で12遺跡が確認されている。古墳時代初頭に八幡山遺跡前方後方墳、前期には八幡山遺跡の北西端に古津八幡山古墳が造営される（墳丘約60m・造り出し付き円墳）〔甘粕・川村ほか1992〕。古墳に隣接する舟戸遺跡・高矢C遺跡は中期の遺跡であり、丘陵縁辺や端部に立地する。舟戸遺跡では前期頃の竪穴住居跡が検出され、古墳との関連が注目されている。平野部の沖ノ羽遺跡〔星野ほか1996〕・上浦B遺跡では古墳時代前・中期の土師器が出土し、結遺跡〔川上ほか1989〕では古墳時代後期の内面黒色処理を施した高杯が出土している。また、平成15年度の本発掘調査で中谷内遺跡から古墳時代中～後期の土器が、確認・立会調査で塩辛遺跡・沖ノ羽遺跡から古墳時代後期の土器が出土した。

**奈良・平安時代の遺跡** 奈良・平安時代の遺跡は市内で52遺跡確認されている。平野部には集落遺跡が多く立地し、丘陵裾部には製鉄遺跡、須恵器・土師器窯跡などの生産遺跡が集中している。新津丘陵窯跡群は新津丘陵北東斜面に分布し、七本松窯跡・草水町2丁目窯跡などがある。製鉄遺跡は居村遺跡・大入C遺跡などがあり、9世紀第2四半期以降とされる〔渡邊1997〕。平野部に位置する上浦A・B遺跡では堀立柱建物が発見され、上浦A遺跡〔渡邊1992、川上1997〕では円面硯や銅製帯金具が、上浦B遺跡では三彩小壺や多量の墨書土器が出土している。上浦A遺跡の年代は出土遺物の年代観から9世紀と考えられる。上浦B遺跡については末報告であるので遺跡の概要は不明であるが、9世紀中葉～後葉の集落と考えられている。山王浦遺跡に近接する沖ノ羽遺跡〔石川ほか1994、星野ほか1996、細野ほか2002、春日ほか2003〕からは9世紀後半の集落の一端が確認されている。また山王浦遺跡を含む満日地区（旧満日村区域）には中谷内遺跡〔立木ほか1999、渡邊ほか2002〕、内野遺跡〔立木・高野ほか2002〕、無頭遺跡〔長澤ほか2002〕など9世紀後半を中心とする遺跡が多く確認されている。

**中世の遺跡** 中世の遺跡は市内で25遺跡確認されているが、城館跡が8ヶ所、山城として東島城・金津城〔横山・竹田ほか1987〕がある。集落跡は平野部微高地に立地するが、自然堤防上の遺跡の実態がよく分からなかったが、江内遺跡〔春日ほか1996〕の発掘に伴い、14～15世紀の集落が発見された。また細池遺跡〔小池ほか1994〕では中世以降の圃場の各単位施設と思われる遺構が検出されている。また内野遺跡〔立木・高野ほか2002〕の発掘により14～15世紀の自然堤防上の集落の様相が明らかとなった。

**近世の遺跡** 集落跡は中世と同じ平野部微高地に立地しており、実態は不明である。江内遺跡で17世紀前半からの集落の一部が明らかにされている。しかし新津丘陵を中心とした地域がいったいどのような状況にあったのかは全く不明である。

### 3 歴史的環境

古墳時代の越後国については文献史料では不明な点が多い。越後平野に立地する古墳は巻町の菖蒲塚古墳・山谷古墳や三条市の保内三王山古墳群などいずれも前期のもので、5世紀代には越後平野で古墳は造営されなくなり、5世紀後半以降は高田平野・魚野川流域に造営されるようになる。

越国の領域については第1段階（3～4世紀）は旧越前国（越前・加賀・能登）、第2段階（5～6世紀）は旧越中国（頸城・古志・魚沼・蒲原4群まで含む）まで、第3段階（7世紀中～）は淳足・磐舟柵までとし、次第に北上していく様が伺える〔米沢1965・1980〕。『続日本紀』大宝2年（702）3月条には越中国4群を割いて越後国に編入するとあり、頸城・古志・魚沼・蒲原の4群がこれに当たるとされ、これにより越中国の領域が確定した。最終的に越後国の領域が確定するのは、和銅5年（712）にそれまで越後国に属していた出羽群を分割して出羽国を建国したことによる。

古代の新津市域は蒲原群に属し、その群域は概ね三条市以北阿賀野川以西の越後平野と推定され、中世南北朝期に蒲原郡の郡域が旧沼垂郡を含む領域に拡大するまでは郡域に大幅な変更はないと思われる。古代の新津市域は7世紀段階には旧越中国の淳足柵に属する領域として整備され、8世紀には蒲原郡として成立したと見られる。蒲原郡内には10世紀成立の『和名類聚抄』に桜井・勇礼・青海・小伏・日置の5郷が見られ、桜井・勇礼・青海・小伏の4郷について所在地が比定できることから、新津市域は日置郷に当たると考えられ、郷域は新津丘陵の北端部を中心に阿賀野川以西信濃川以東、概ね新津市・五泉市・小須戸町・田上町の範囲と推定される。

宝亀11年（780）の「西大寺資財流記帳」（『寧楽遺文』中巻）には西大寺の荘園として蒲原郡に鶉橋庄・槐田庄が見られる。同史料「越後国水田并墾田地帳景雲三年」などとあることから、成立はいずれもそれ以前、8世紀中葉と見られる。所在地については式内社名から、鶉橋庄は五泉市橋田、槐田庄は三条市周辺とされている。これらの荘園に新津市域が含まれていたのかは不明である。

新津丘陵における須恵器生産は早ければ7世紀後半には始まり、8世紀前半～9世紀中頃が主な操業時期である。これは越後国内の他地域の須恵器生産動向とはほぼ一致しており、いわゆる「一郡一窯体制」であった。しかし9世紀前半～中葉には佐渡小泊窯の製品が越後国全域に流通するという画期的変化が生じる〔坂井1996〕。一方金津丘陵製鉄遺跡群は新津丘陵北西側の金津地区にあり、窯跡と近接するのは燃焼が薪や木炭と共通するためである。古代の新津市域の産業は新津丘陵の製鉄・窯跡群が中心で、低湿地や潟湖が大部分を占めていた越後平野の中で新津丘陵は重要な位置にあったと思われる、文献史料上は確認できないが、沼垂柵や国府津である蒲原津とも何らかの関係があった可能性がある。

11世紀後半に各地で成立し始めた公領のひとつである金津保は新津市域に所在したとされる。金津保の初見は建武3年（1336）11月18日「羽黒義成軍忠状写」で「同日、引籠于金津保新津城、对于小国政光以下御敵等、到散々合戦畢、」（『新潟県史』資料編4-1935）とあり、北朝方である三浦和田（羽黒）義成は金津保にあった新津城に籠り、南朝方の小国政光らと戦ったとある。この史料によって金津保には新津城が含まれていたとわかり、この新津城とは新津城・程島館・東島城のいずれであろうとされる〔木村1993〕。また天正5年（1577）「三条衆給分帳」に「金津保之内遊川」（『新潟県史』資料編5-2704）とあり、遊川は田上町湯川と見られ、さらに天文13年（1544）10月10日「上杉玄清定実知行宛行状」・同「長尾晴景副状」（『新潟県史』資料編4-1495・1496）に「金津保下条村」とあるのは、五泉市下条に当たるとされる。以上のことから金津保の領域は年代によって若干の違いがあった可能性はあるが、新津市～田上町北部と新津丘陵の五泉市側までも含

む範囲であったと推定する。

院政期～鎌倉初期には建仁元年（1203）3月4日に「城四郎長茂并伴類新津四郎已下、於吉野奥被誅畢」（『吾妻鏡』）とあり、新津四郎はおそらく金津保に何らかの関連をもつ人物と見られるが、阿賀野川以北に勢力を持ち国衙勢力と対峙する城長茂と行動を共にしている。このことから公領である金津保は国衙勢力と城氏との間で不安定な状況であったことが予想される。また南北朝動乱期には阿賀野川以北の北朝方佐々木加地景綱らと、刈羽・魚沼地域に勢力を置く南朝方の小国氏らの蒲原津をめぐっての攻防が続き、阿賀野川流域である金津保つまり新津市域は其中で拠点の一つとして注目されていた。その後も越後守護となった上杉氏・守護代長尾氏にとって、その支配に抵抗する阿賀野川以北の国人層、本庄・色部・中条・佐々木加地氏らを統制するために金津保は地理的に極めて重要な拠点であった。そのため金津保は国衙領として守護の支配下に置かれることとなる。

天正6年（1578）3月上杉謙信が死去し、養子である景勝・景虎の間で後継争い「御館の乱」がおこる。この乱に景勝方として参戦した新津氏は、以後それまで金津保の勢力であった平賀氏に替わり領主となった。そして慶長3年（1598）景勝とともに会津へと国替えさせられるまで、新津氏が金津保を中心に発展することとなった。

中世における金津保を中心とした新津市域は、阿賀野川流域であり、蒲原津に近いという地理的環境や越後平野を一望することができるという新津丘陵の存在から常に不安定な政治的状况に置かれていた。先に金津保の領域に推定した範囲に新津丘陵を中心に中世城館が常に置かれていたのはそのことを示しているのだろう。

近世に入り、越後平野では新発田藩によって新田開発に伴う治水工事が行われるようになった。また近世後期には町人請負による新田開発が盛んになり、潟の干拓が行われた。阿賀野川などの河川も水害対策のために掘割を掘削するなどの普請がなされた。『中蒲原郡誌』によれば、遺跡の所在する現大字東金沢を含む旧阿賀浦村は元和元年（1615）に開発されたとみられ、旧阿賀浦村はこの開発により上興野・下興野・中興野・四興野に分かれ、その後上金沢・下金沢・大安寺・中新田に改称した。「興野」・「郷屋」の地名は天正から慶長期に成立した村に付けられたもので〔金子1986〕、新発田藩による治水土木工事も慶長期以降盛んに行われており、遺跡周辺が16世紀末～17世紀に開発されていることが窺える。

現在の遺跡周辺の景観はこの開発に基づいて形成されているが、古代から中世にかけての遺跡周辺は広大な潟湖や湿地が存在し、その中で微高地上の遺跡は当時の生活を知る上で非常に重要である。

## 第Ⅲ章 調査の概要

### 1 確認調査 (第3図)

満日地区は場整備事業に伴う試掘・確認調査は、平成11・12年度に試掘・確認調査としては場整備事業区域全域の田部分を、平成13年度には畑部分と田部分を行っている。平成11年度には869.4m<sup>2</sup> (1.4m×3m×207トレンチ)、平成12年度に659.4m<sup>2</sup> (1.4m×3m×157トレンチ) を行い、平成13年度には823.2m<sup>2</sup> (1.4m×3m×196トレンチ) を調査した。山王浦遺跡周辺は平成11年度に周辺の田部分、平成13年度に畑部分の試掘・確認調査を行い、平成13年度の確認調査により遺跡登録された。遺跡範囲は約8,800m<sup>2</sup>と推定される。

山王浦遺跡周辺の確認調査では225～227トレンチから現地表面 (G・L) から0.35～0.45mで黒茶褐色～茶褐色土層の包含層相当層が確認された。226トレンチからは土師器が11点出土し、畑部分を中心に包含層の広がりが見込まれた。以上の結果から、本発掘調査範囲は前述の通り畑部分の約2,000m<sup>2</sup>である。

さらに、農道部分 (用・排水管理設部分) については平成14年7月4日に追加の確認調査を実施した。農道部分に約20mおきに25.2m<sup>2</sup> (1.4m×3m×6トレンチ) を調査した。その結果、追加1トレンチ、追加4トレンチの現地表面 (G・L) から0.5～0.8mで旧河道が確認されたが、追加1トレンチは覆土に新しい木材加工物が確認され、耕地整理前後の河道と想定された。追加4トレンチからは約1.5m下から磨耗した土師器6点、黒色土器3点、石製品2点が出土した。追加3トレンチからは時期不明の溝跡が確認されている。この結果、遺跡範囲は拡大したが、河跡の遺物が原位置を保っていない可能性もあったため、遺跡の取扱いは立会調査となった。



第3図 山王浦遺跡確認・試掘・立会調査位置図

## 2 発掘調査

### A 調査方法

#### 1) 現 況

現況は畑・水田・荒地である。

#### 2) グリッドの設定 (図版4・5)

グリッドを設定するにあたっては、基準点はX座標201390.000 Y座標点55550.000を1 A杭とした。基準点に対し国土地理院の第8系座標軸を用いて10mの方眼を組み、これを大グリッドとした。大グリッドの名称は北西隅の杭を基点として短軸方向をアラビア数字、長軸方向をアルファベットとし、この組み合わせによって表示した。大グリッドをさらに2 m方眼に区分して1 から25の小グリッドに分割し、「3 B15」のように呼称した。基準杭の打設は測量業者に委託した。

発掘調査区5点の座標(新座標)は次のとおりである。5 D (X座標:201350.000、Y座標:55580.000、緯度:37°48′48″9463、経度:139°07′52″7956)・5 G (X座標:201350.000、Y座標:55610.000、緯度:37°48′46″9397、経度:139°07′54″0223)・7 G (X座標:201330.000、Y座標:55610.000、緯度:37°48′46″2909、経度:139°07′54″0168)・9 F (X座標:201310.000、Y座標:55600.000、緯度:37°48′45″6443、経度:139°07′53″6024)・9 H (X座標:201310.000、Y座標:55620.000、緯度:37°48′45″6399、経度:139°07′54″4202)。7 G杭で長軸方向を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対し0度23分14秒東偏し、磁北は真北に対し7度40分00秒西偏する。

#### 3) 調査方法

①表土剥ぎ 確認調査によって遺物の出土が多量であることから、遺物包含層(VI層)上面まで、遺物の出土に注意しながら重機(バックホウ)により除去した。排土は横置きした。法面は安全面を考慮して一分の勾配とした。また、湛水防止のために、表土剥ぎと並行して調査区の周囲に土側溝を掘り、2寸のポンプで強制排水を行った。土側溝は人力で掘削し、幅20cm、深さ20cm程の溝で、壁面を垂直に掘ると崩壊する恐れがあるために緩く傾斜をつけたV字の溝を掘削した。土側溝により遺構の破壊が考えられたが、湛水により調査が不能になることを防ぐ処置である。

②包含層掘削・遺構検出・発掘 重機で掘削後、ジョレン等を用いて人力で精査を行い、包含層の掘削・遺構の検出にあたった。排土は人力で調査区外へ搬出した。

③実測・写真 実測図は断面図を1/20で作成した。平・断面図や各種測量点は測量業者に委託してトータルステーションを用いて作成し、あわせて俯瞰写真を撮影した。写真撮影は35mm版・6×7版のカメラを用い、白黒フィルム・カラーポジフィルムを適宜併用した。

④遺物取り上げ 包含層出土遺物は小グリッド単位として取り上げた。遺構出土遺物は基本的には点取り上げを行い、遺物数が少ない遺構については小グリッド単位で取り上げた。

⑤自然科学分析 テフラ分析・植物珪酸体分析・花粉分析・材樹種同定を行った。

## B 調査経過

平成14年6月28日から諸準備を開始し、7月1日に器材搬入した。7月4日に農道部分の確認調査を実施した。7月5日～29日まで、重機によってI～V層を除去した。表土剥ぎと並行して作業員約4名で排水路掘削、法面仕上げを行った。7月31日作業員全員（約20名）で、包含層掘削を行い、8月6日から遺構検出作業を開始した。9月13日新津市民大学の遺跡見学会（約20名）があった。9月19日にはほぼ完掘し、20日にローリングタワーから写真撮影とラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行う。10月4日に機材撤収を行った。

最終的な発掘調査面積は、上端面積1639.42m<sup>2</sup>、下端面積1601.02m<sup>2</sup>である。

## C 調査体制

### 【平成11年度】

調査主体 新津市教育委員会（教育長 中村 博）

担 当 渡邊朋和（生涯学習課主査）

事務局 酒井峰雄（生涯学習課長）・森山則夫（同課長補佐）・荒木政幸（同係長）・小林尚紀（同主査）・立木宏明（同主事）・阿達哲二（同技士）・阿部泰之（同囑託）

整理補助員 青野満穂子・伊藤操子・小柳勢伊子・川瀬純子・小菅和子・斎藤明子・斉藤早知子・坂口千賀子・須貝律子・高橋 操・田中暁穂・中山美奈子・広瀬智子・古川紀子・森岡綾子・湯上いずみ・渡辺淳子

### 【平成12年度】

調査主体 新津市教育委員会（教育長 中村 博）

担 当 立木宏明（生涯学習課主査）

事務局 酒井峰雄（生涯学習課長）・森山則夫（同課長補佐）・荒木政幸（同係長）・小林尚紀（同主査）・渡邊朋和（同主査）・阿達哲二（同技士）・山田貴子（同囑託）

整理補助員 青野満穂子・伊藤操子・小柳勢伊子・川瀬純子・小菅和子・斎藤明子・坂口千賀子・須貝律子・田中暁穂・田中るみ・遠山直美・広瀬智子・真木千寿子・森岡綾子・渡辺淳子

### 【平成13年度】

調査主体 新津市教育委員会（教育長 松井 弘）

担 当 立木宏明（生涯学習課主査）

調査員 野水晃子（生涯学習課囑託）・佐野博子（同囑託）

事務局 石崎義郎（生涯学習課長）・目黒 正（同課長補佐）・荒木政幸（同係長）・田中茂夫（同主任）・渡邊朋和（同主査）・阿達哲二（同技士）・高野裕子（同囑託）

整理補助員 青野満穂子・五十嵐智子・伊藤操子・小柳勢伊子・川瀬純子・小菅和子・斎藤明子・坂口千賀子・須貝律子・田中暁穂・遠山直美・広瀬智子・真木千寿子・森岡綾子・渡辺淳子・石井杏奈

### 【平成14年度】

調査主体 新津市教育委員会（教育長 松井 弘）

担 当 立木宏明（生涯学習課主査）  
調 査 員 澤野慶子（生涯学習課嘱託）  
事 務 局 羽生隆夫（生涯学習課長）・目黒 正（同課長補佐）・荒木政幸（同係長）・田中茂夫（同主任）・  
渡邊朋和（同主任）・阿達哲二（同技士）・高野裕子（同嘱託）・佐野博子（同嘱託）  
作 業 員 笹川諭吉・石井勇次郎・斉藤正吾・白井利夫・柏木廣一・窪田忠栄・古室 毅・諸橋秋栄・坂  
爪昭栄・砂原智子・西郡洋子・原 民枝・田代幸子・金子千恵子・神田千代子・諸橋よし子・  
昆 ヒロコ  
整理補助員 青野満穂子・五十嵐智子・伊藤操子・小柳勢伊子・川瀬純子・小菅和子・斎藤明子・坂口千賀  
子・須貝律子・田中暁穂・遠山直美・広瀬智子・真木千寿子・森岡綾子・山田正子・四柳成  
美・上杉裕美・渡辺淳子・帆苅奈緒子・波多野裕美・山田弘美・川岸美樹

【平成15年度】

調査主体 新津市教育委員会（教育長 松井 弘）  
担 当 立木宏明（生涯学習課主査）  
調 査 員 澤野慶子（生涯学習課嘱託）  
事 務 局 羽生隆夫（生涯学習課長）・目黒 正（同課長補佐）・荒木政幸（同係長）・田中茂夫（同主任）・  
渡邊朋和（同主任）・阿達哲二（同技士）・高野裕子（同嘱託）・白井利夫（同嘱託）  
整理補助員 青野満穂子・五十嵐智子・伊藤操子・小柳勢伊子・川瀬純子・小菅和子・斎藤明子・坂口千賀  
子・須貝律子・田中暁穂・遠山直美・広瀬智子・真木千寿子・森岡綾子・山田正子・四柳成  
美・上杉裕美・渡辺淳子・帆苅奈緒子・波多野裕美・山田弘美・川岸美樹・笑喜正子

### 3 立会調査（第3図、別表5）

立会調査は、前述のとおり用・排水路埋設箇所について行った。期間は平成15年11月1日～12月26日に実施した。調査範囲は、340m×2m程度の範囲（第3図）を行い、便宜上南西から北西に約10mごとに区切り遺物を採集した。遺物は別表5に示すとおり、古代の土器（土師器・須恵器）を中心に若干の石製品が出土した。

出土位置は12区～21区の間で、概ね発掘調査区と対応するが、工事立会調査によって若干、北東側まで遺物が出土することが判明し、遺跡範囲を変更した。代表的な遺物は図版53に示したとおりで、時期的にも本発掘調査出土遺物と大差がないことが明らかになった。

## 4 整理作業

### A 整理方法

#### 1) 遺物

遺物量はコンテナ（内径54.5×33.6×10.0cm）にして80箱である。古代の土器・石製品など各種におよぶ遺物がある。

遺物の整理作業は次の手順で行った。①洗浄。②注記。③グリッド別の種別の重量計測。④接合。⑤遺構・遺物の器種別の重量・個体数計測。⑥報告書掲載遺物の抽出。⑦実測図作成。観察表作成。⑧トレース図作成。⑨版下作成。トレースは整理補助員が原寸で作成し、整理補助員が2倍図版を基本にトレースを行った。

#### 2) 遺構

平面図を作成するにあたっては、まず測量業者に委託した1/40の遺構平面図と手取り断面図との校正作業を行った。報告書の1/80と1/40の遺構平面図は測量業者が作成した原図を使用したものである。

### B 整理経過

発掘調査終了後引き続き整理作業を開始した。出土遺物の水洗・注記・接合と、写真・図面整理を行い、併せて測量作業に委託した遺構平面図の校正作業を行った。遺物実測・トレースに6名で6か月を要した。その間、職員は原稿執筆、遺物写真の撮影、図版のレイアウト・報告書の編集にあたった。



発掘調査風景（遺構調査）



現地説明会

## 第Ⅳ章 遺 跡

### 1 遺跡の概要

山王浦遺跡では古代の遺物が出土し、同時代の遺構が検出された。遺構としては掘立柱建物を中心とした古代（9世紀）の集落跡が検出された。

遺物量は遺物収納コンテナ（内径54.5×38.6×10.0cm）で約80箱である。ほとんど全てが古代の須恵器・土師器で石製品が数点存在する。

古代の遺構はSE（井戸）1基、SK（土坑）26基、SX（性格不明遺構）1基、SD（溝）11基、Pit（小土坑）140基、SB（掘立柱建物）4基、SA（柵）1基である。

### 2 層 序（図版9）

山王浦遺跡の基本層序は調査区全体に対応する。ただし、遺構確認面の標高は3.3～3.5mの標高で推移している。遺跡の基本層序は大きく7層に分けられ、11層に細分される。以下に基本層序を記す。

- I a層 におい黄褐色土 (10YR5/3) シルト 粘性ややあり、しまりややあり。耕作土（畑耕作土）。
- I b層 灰黄褐色土 (10YR4/2) シルト 粘性ややあり、しまりあり。耕作土（畑耕作土）。
- II 層 灰褐色土 (7.5YR4/2) シルト 粘性あり、しまりあり。鉄分が多く含まれる。
- III 層 黒褐色土 (10YR3/1) シルト 粘性あり、しまりあり。炭化物を極少量含む。鉄分が少量入る。
- IV 層 黄灰色土 (2.5Y4/1) シルト 粘性あり、しまりあり。鉄分が多く含まれる。
- V 層 オリーブ褐色土 (2.5Y4/4) シルト 粘性あり、しまりあり。鉄分が多く含まれる。
- VI 層 黒褐色土 (2.5Y3/1) シルト 粘性あり、しまりあり。炭化物が少量入る。遺物包含層。
- VII a層 緑灰色土 (10GY5/1) シルト 粘性非常にあり、しまりあり。（以下、地山）
- VII b層 緑灰色土 (10GY5/1) シルト 粘性あり、しまりあり。植物腐植土が若干含まれる。
- VII c層 暗緑灰色土 (10GY4/1) シルト 粘性あり、しまりあり。植物腐植土が若干含まれる。
- VII d層 暗緑灰色土 (10GY4/1) シルト 粘性あり、しまりあり。VII c層に比べて黒味が強い。

I a・I b層は畑耕作土面である。II～V層は遺物の出土はほとんど無い。VI層中から古代の遺物が出土する。遺構検出面はVI層中およびVII層上面である。現地表面から0.7～1.0m程で遺構確認面に達する。VII a層以下は地山とした層であるが、地点によって粘性土の部分と砂質土の部分があり土質も粘性の強弱が認められる。VII a層以下の地層は洪水堆積物層と考えられる。

### 3 遺構各説 (図版5～43)

井戸 (以下、SEとする)、土坑 (以下、SKとする)、性格不明遺構 (以下、SXとする)、溝 (以下、SDとする)、小土坑 (以下、Pitとする)、掘立柱建物 (以下、SBとする)、柵 (以下、SAとする) の順に記す。

詳しい遺構の計測値等は別表1に示した。遺構出土土器の詳細は別表4に詳細に示しており、遺構の記述では石製品と合わせて一部省略した。遺跡から検出された遺構はSE1基、SK26基、SX1基、SD11基、Pit140基、SB4軒、SA1基である。遺構の形態分類はSE、SK、SX、SDについては大まかに平面形は円形・楕円形・不正形・方形の4種類に、断面形は皿形・半円形・箱形・台形状の4種類に分類した。

遺構の所属時期はVI層からVII層上面を切って掘り込まれている遺構から古代の土器が出土している。したがって、全ての遺構が古代の遺構と考えられる。遺構は比較的切り合い関係が少なく、個々の遺構が独立的に存在する場合が多い。

遺構の分布は大きく2か所に分けられる。概ね調査区中央部の5～8グリッド列の掘立柱建物を中心とする遺構群と、調査区北側の3・4グリッド列の掘立柱建物を中心とする遺構群である。出土遺物から古代の遺構と判断される。

#### A 古代の遺構

##### 1) SE

SE5 (図版14・22、写真図版8)

古代の井戸である。平面形は楕円状の不定形、断面形は台形状である。途中に階段状の段差を持つ。深さは0.5m前後と浅く、土坑の可能性もあるが、4層に区分されるレンズ状に堆積する最下層の覆土からは黒色の粘性が高い土壌があり、一般的な井戸の最下層の覆土に近いことから判断した。覆土中から土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯・大甕・横瓶、細形土錘、黒色土器無台碗が出土している。遺物量が多いが、ドット図に示すように井戸埋没過程で遺物が廃棄されている。

##### 2) SK SX

SK28 (図版14・22、写真図版9)

平面形は不定形、断面形は台形である。覆土は4層に分かれ、遺物が定量出土している。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯・有台杯・大甕、黒色土器無台碗が出土している。

SK25 (図版14・23、写真図版9)

平面形は楕円形、断面形は皿形である。Pit26・27に切られる。覆土は2層に分かれ、遺物が定量出土している。土師器無台碗・無台皿・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯・有台杯・大甕、黒色土器無台碗が出土している。

SK20 (図版14・23、写真図版9)

平面形は楕円形、断面形は皿形である。覆土は単層で、遺物は須恵器無台杯1点のみ出土している。

SK41 (図版16・23、写真図版9・10)

平面形は楕円形、断面形は台形である。覆土は2層に分かれる。遺物は土師器小甕小片が5点出土してい

る。

SK61 (図版15・23、写真図版10)

約1/3が調査区外に出ているため、平面形が推定できない。断面形は皿形である。遺物は土師器小甕が4点出土している。

SK32 (図版13・16・23、写真図版10)

平面形は楕円形、断面形は皿形である。覆土は2層に分かれる。SB182に隣接し、短軸方向に接することから付帯施設の可能性が高い。土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗が出土している。

SK57 (図版16・23、写真図版10)

平面形は楕円形、断面形は皿形である。覆土は2層に分かれる。SB183の柱穴の可能性が高い。遺物の出土は無い。

SK64 (図版20・23、写真図版11)

平面形は不定形、断面形は皿形である。約1/3が調査区外に出ている。遺物は土師器長甕と小甕が出土している。

SK40 (図版17・24、写真図版11)

平面形は円形、断面形は台形である。遺物は土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯が出土している。

SK62 (図版18・24、写真図版11)

平面形は円形、断面形は台形である。SK47に隣接するが切り合い関係は無い。遺物は土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・杯蓋・長頸壺が出土している。

SK47 (図版18・24、写真図版11)

平面形は楕円形、断面形は台形である。SK62に隣接するが切り合い関係は無い。遺物は土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・広口壺が出土している。

SK46 (図版15・18・24、写真図版12)

平面形は楕円形、断面形は台形である。遺物は出土していない。

SK48 (図版15・24、写真図版11)

平面形は不定形、断面形は台形である。遺物は土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯が出土している。

SK59 (図版15・24、写真図版11)

平面形は円形、断面形は半円形である。遺物は土師器小甕・鍋が出土している。

SK60 (図版19・25、写真図版12)

平面形は楕円形、断面形は皿形である。層は単層である。遺物は土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯・大甕が出土している。

SK114 (図版19・25、写真図版12)

平面形は不正方形、断面形は皿形である。遺物は出土していない。

SK111 (図版19・25、写真図版12)

平面形は楕円形、断面形は皿形である。遺物は土師器無台碗・長甕が出土している。

SX67 (図版6・19・25、写真図版13)

平面形は不定形、断面形は皿形である。東西に延びる不正形の遺構である。SD99を切る。遺物は土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・有台杯・大甕が出土している。

## SK77 (図版19・26、写真図版13)

平面形は不定形、断面形は皿形である。Pit106に一部切られる。遺物は土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・有台杯・大甕・長頸壺が出土している。

## SK84 (図版20・26、写真図版14)

平面形は楕円形、断面形は皿形である。遺物は土師器小甕が1点出土するのみである。

## SK86 (図版19・26、写真図版14)

平面形は楕円形、断面形は皿形である。遺物は土師器無台椀・長甕・小甕、須恵器無台杯が出土している。

## SK97 (図版21・26、写真図版14)

平面形は不定形、断面形は皿形である。遺物は土師器無台椀・鉢・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀・有台椀・有台皿、須恵器無台杯・大甕が出土している。

## SK112 (図版21・26、写真図版14・15)

平面形は不定形、断面形は皿形である。遺物は土師器小甕、須恵器無台杯・大甕が出土している。

## SK104 (図版21・26、写真図版14)

平面形は楕円形、断面形は皿形である。遺物は須恵器無台杯が出土している。

## SK68 (図版21・27、写真図版14・15)

平面形は不定形、断面形は台形である。SD105を切る。土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・大甕・長頸壺・横瓶が出土している。

## SK89 (図版21・27、写真図版15)

平面形は楕円形、断面形は台形である。土師器無台椀・長甕・小甕、須恵器大甕が出土している。

## SK88 (図版21・27、写真図版15)

平面形は不正方形、断面形は台形である。土師器長甕・小甕、須恵器大甕が出土している。

## 3) S D

## SD1 (図版11・14・27・30、写真図版16)

SB180に隣接し、北東から南西に湾曲してのびる、SB180の雨落溝の可能性が高い。断面形は半円形から皿形である。Pit24に切られる。土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・杯蓋・長頸壺・横瓶が出土している。

## SD4 (図版11・14・28・30、写真図版16)

SB180の中にあるが柱軸と合致せず性格が不明である。断面形は皿形である。土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯が出土している。

## SD29 (図版14・28・30、写真図版16)

SA181に隣接し、北西から南東にのびる。断面形は皿形である。土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯・大甕が出土している。

## SD33 (図版16・28・30、写真図版9・10)

SB182に隣接し、北西から南東にのびる、SB182の雨落溝の可能性が高い。断面形は皿形である。土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯・短頸壺が出土している。

## SD37 (図版8・10・28・31、写真図版6)

SB183に隣接し、北西から南東にのびる、SB183の雨落溝の可能性が高い。断面形は箱形である。土師

器無台碗・長甕・鍋、須恵器無台杯が出土している。

SD105 (図版21・28、写真図版14)

北西から南東にのびる。SD119を切り、SK68に切られる。断面形は箱形である。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯・大甕・長頸壺・横瓶が出土している。

SD119 (図版21・28、写真図版14)

北西から南東にのび、SD105に切られる。断面形は半円形である。土師器無台碗・長甕、須恵器無台杯・大甕が出土している。

SD99 (図版6・19・29、写真図版13)

南東から北西にのび、北西方向で調査区外にのびる。SX67に切られる。断面形は皿形である。遺物は比較的多く出土し、土師器無台碗・鉢・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・杯蓋・大甕・長頸壺・短頸壺・長胴壺が出土している。

SD66 (図版20・29、写真図版17)

北東から南西にのび、北東方向で調査区外にのびる。断面形は皿形である。出土遺物はない。

SD98 (図版19・29、写真図版13)

北東から南西にのびる。断面形は皿形である。須恵器無台杯が1点出土している。

SD93 (図版20・29、写真図版17)

北から南にのびる。断面形は皿形である。出土遺物はない。

#### 4) P i t

140基確認されている。遺構規模は別表1、出土遺物は別表4に示したとおりであり、詳細は省略する。平面形はほとんどが円形あるいは楕円形である。柱根は確認されなかった。

図版18に示す4D・5Dグリッド周辺にP i tが約50基集中する地点がある。平面図等を検討したが、建物を構成することが確認されなかった。ただし、柱列あるいは作業小屋程度の建物が存在した可能性もある。

#### 5) S B S A

SB180 (図版14・30、写真図版5・18)

2間3間の方形の掘立柱建物である。長軸外に一部のびる。主軸はN-59°-Wで長軸は北西から南東と考えられる。柱掘方は円形あるいは楕円形である。雨落溝は南東側にSD1が付属する。

SA181 (図版14・30、写真図版16)

2本の柱と溝がセットになっている。主軸はN-73°-Wである。南西側を精査したがP i tが確認できなかった。あるいはSK20などがP i tになり1間1間の掘立柱建物を構成する可能性もある。

SB182 (図版16・30、写真図版5)

1間1間の方形の掘立柱建物である。主軸はN-56°-Wである。雨落溝が北西側にSD33が付属する。

SB183 (図版16・31、写真図版5・18)

1間1間の方形の掘立柱建物である。主軸はN-63°-Wである。雨落溝が南西側にSD37が付属する。

SB184 (図版21・31、写真図版18)

1間2間の方形の掘立柱建物である。主軸はN-49°-Eである。雨落溝は確認されなかった。

## 第V章 遺物

山王浦遺跡からは、古代（平安時代）の遺物が出土している。遺物出土総量はコンテナ（内径54.5×33.6×10 cm）に80箱出土した。遺物の内容は古代の土器が77箱、石製品・鍛冶関連遺物3箱である。

### 1 古代の遺物

古代の土器類は土師器・須恵器と黒色土器がある。遺跡全体の重量比は土師器73.87%（96,830 g）、須恵器24.28%（31,821 g）、黒色土器1.85%（2,431 g）、点数比は土師器85.38%（9,212点）、須恵器11.18%（1,206点）、黒色土器3.44%（371点）である。包含層の重量比は土師器77.58%（60,632 g）、須恵器20.00%（16,344 g）、黒色土器2.42%（1,182 g）、点数比は土師器86.55%（5,578点）、須恵器10.41%（671点）、黒色土器3.04%（196点）である。遺構出土総体の重量比は土師器68.40%（36,198 g）、須恵器29.24%（15,477 g）、黒色土器2.36%（1,249 g）、点数比は土師器83.66%（3,634点）、須恵器12.32%（535点）、黒色土器4.03%（175点）である。重量比・点数比ともに土師器の量が卓越している。また、後述する食膳具の遺構別比率（別表6参照）でも土師器食膳具の比率が高く特徴的である。その他、土器以外には石製品（砥石）、鍛冶関連遺物が出土している。

包含層出土遺物の出土状況は、平安時代の遺物はVI層の遺物が大半を占める。包含層の古代土器の出土状況を図版8に示した。古代土器の重量を小グリッドごとに合計し提示した。その結果、3E・3Fグリッド周辺と4D・5Dグリッド周辺および7E・7F・8Eグリッド周辺の遺物量の多さが目についた。包含層直上から遺物が集中しはじめた。その集中的な分布域は、遺構の集中度と相関的である。

本遺跡で出土した平安時代の土器類は後述するが9世紀後半の年代観が想定される。

#### A 土器の分類と記述（第4・5図）

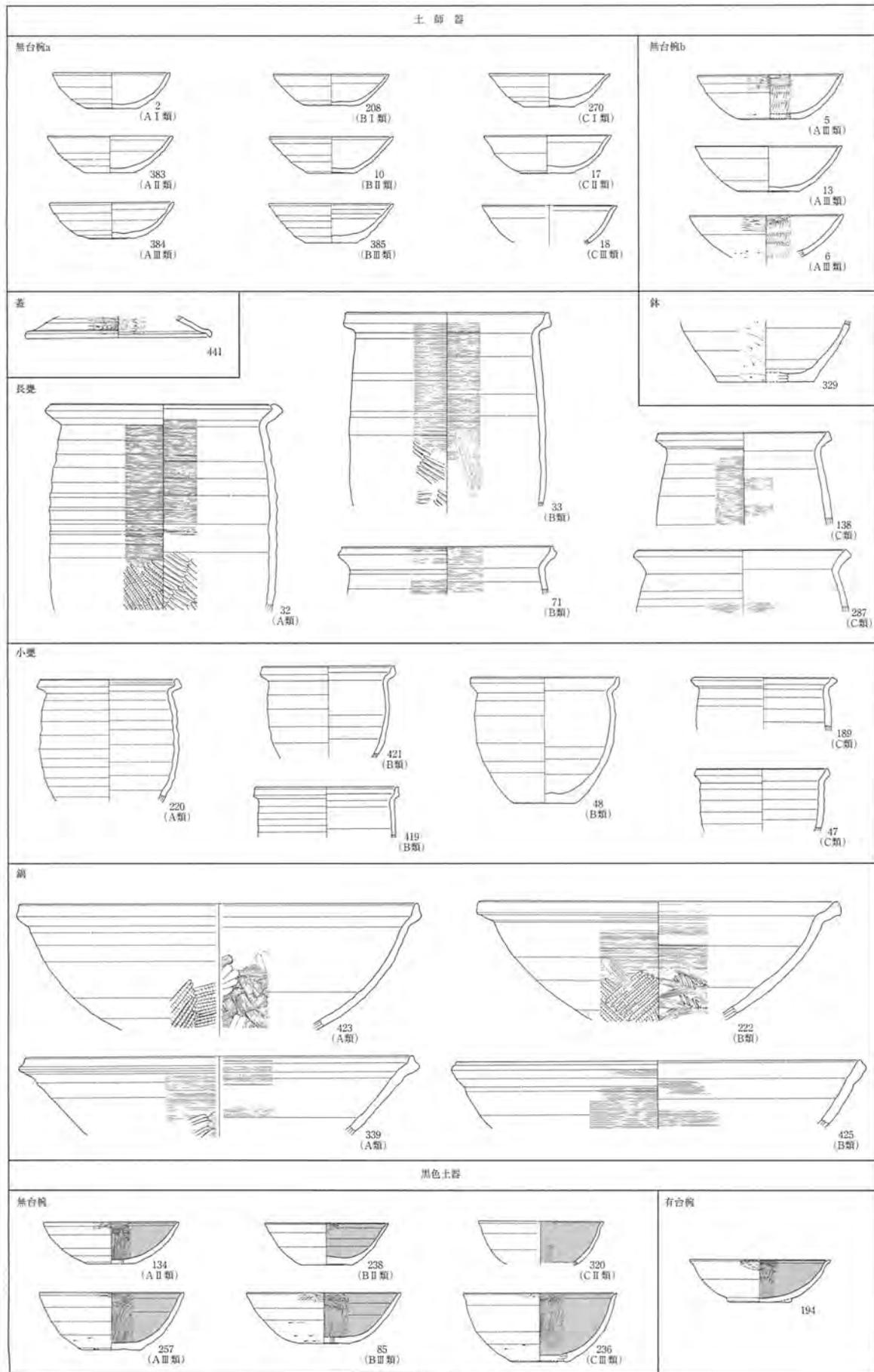
記述は最初に土器分類を行い、次に遺構別・包含層出土の土師器・黒色土器・須恵器の順に記した。分類は形態・手法による分類はアルファベットで（A・B…）と表した。法量による分類はローマ数字で（I・II…）と表した。

成形・調整の表現・名称は、山三賀Ⅱ遺跡の報告書〔坂井1989〕の記載に従った。

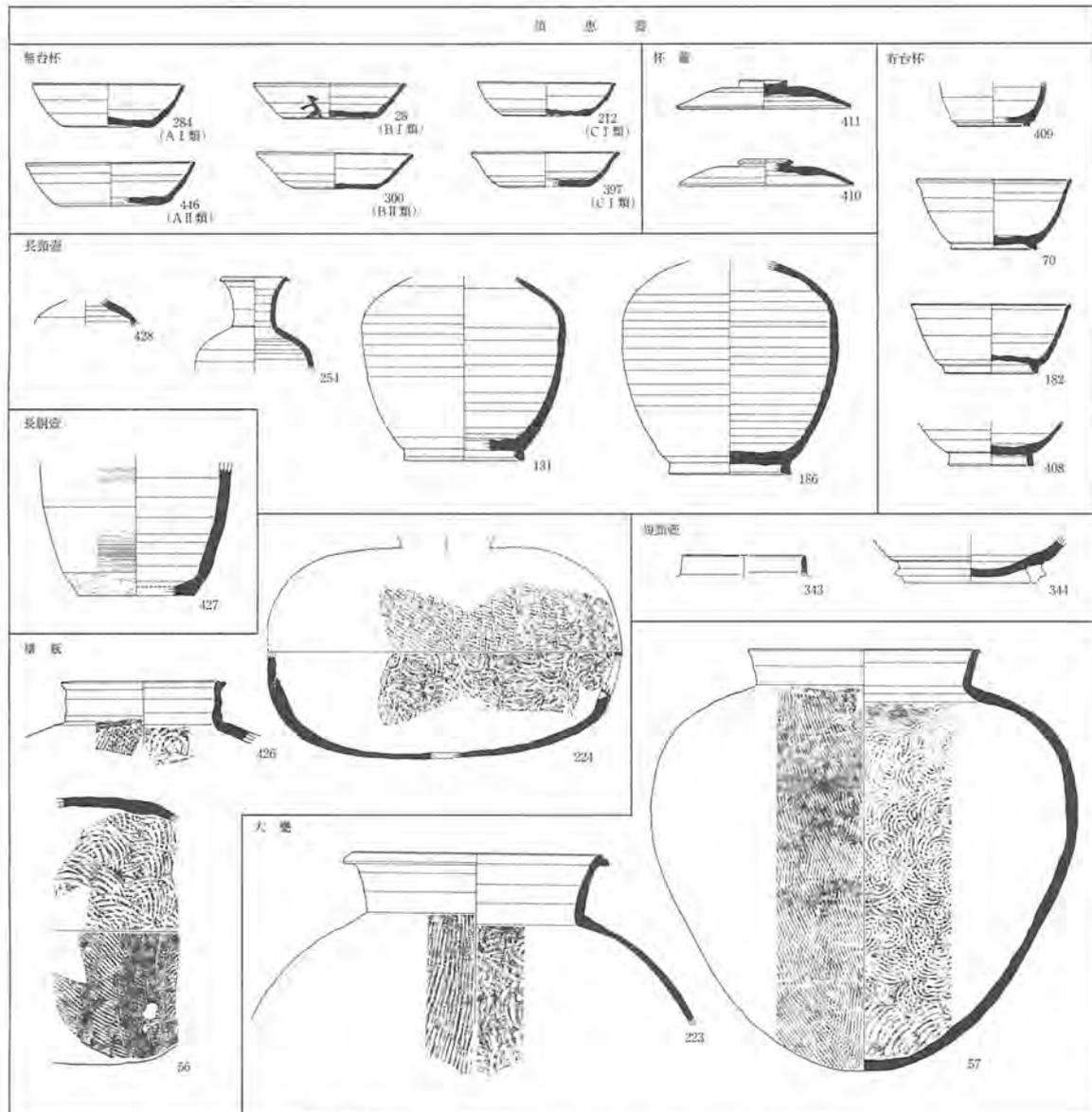
1. 「ロクロナデ」は轆轤回転を利用したなで、その他のものは「ナデ」とした。
2. 「ロクロケズリ」は回転を利用した削りである。
3. 黒色土器無台椀・土師器無台椀などに見られる笥磨きは「ミガキ」とした。
4. 須恵器大甕・横瓶・土師器長甕・鍋などの外見に見られる叩板工具を用いた成形痕を「タタキ」とし、内面の当て具工具を用いた成形痕を「当て具痕」とした。

次に本遺跡の特徴を整理するため器種分類を行い、器種ごとに説明を行う。以下、土師器・黒色土器・須恵器の順で概説する。須恵器胎土分類は山三賀Ⅱ遺跡の成果に準じた〔坂井ほか1989〕。土師器の胎土分類は多様で分類を行っていない。また、近年の調査成果〔渡邊ほか2001〕で還元炎焼成の須恵器と酸化炎焼成の須恵器の区別を行い報告しているが、山王浦遺跡出土須恵器の全てが還元炎焼成であった。その他、詳細な計測値は別表2に示した。

**土師器** 大きく食膳具と煮炊具がある。食膳具には無台椀・蓋がある。煮炊具には長甕・小甕・鍋・鉢がある。



第4図 山王浦遺跡土師器・黒色土器分類図 (S=1/6)



第5図 山王浦遺跡須恵器分類図 (S=1/6 57・244のみS=1/8)

**無台椀** 出土量は非常に多い。分類するにあたって中谷内遺跡〔立木ほか1999〕を参考に製作手法の違いにより大きく二分した。底部切り離し技法が糸切り後無調整のものを無台椀a、糸切り後底部と体部下半に回転篋削りを施し、後磨かれたものを無台椀bとした。無台椀bは体部内面にミガキが施され、口縁端部は外面も磨かれる。概ね精製品である。なお細分類は比較のため両者共通とした。

分類は口縁部形態(A~C)と口径(I~III)の組み合わせ(例 A I類)で表した。口縁部形態の分類は底部から口縁部が内彎気味に立ち上がるものをA類、底部から口縁部が直線的に立ち上がるものをB類、底部から内彎気味に立ち上がり口縁部で外反するC類に細分した。

口径は3分類し、11~12.5cmがI類、12.6cm~14cmがII類、14.1cm以上がIII類とした。

**蓋** 1点のみ出土している。内外面ともにミガキが施されている。どの器種に伴うかは不明である。

**長甕** 口縁端部の形態から3分類した。口縁端部が受け口状になるものをA類、口縁端部が上方に短く屈曲するものをB類、口縁端部が屈曲せずに丸く収まるもの、もしくは口縁端部に面を持つものをC類とした。

**小甕** 口縁端部の形態から3分類した。口縁端部が受け口状になるものをA類、口縁端部が上方に短く屈曲するものをB類、口縁端部が屈曲せずに丸く収まるもの、もしくは口縁端部に面を持つものをC類とした。

底部は糸切り後無調整である。

**鍋** 口縁端部の形態から2分類した。口縁端部が上方に短く屈曲するものをA類、口縁端部が屈曲せずに丸く収まるもの、もしくは口縁端部に面を持つものをB類とした。

**鉢** 底部から体部が大きく開いて立ち上がり、底部外面と体部外面下半がケズリで成形される。口縁部形態は不明である。

**黒色土器** 食膳具の無台碗・有台碗が出土している。主に内側を黒化处理した「内黒」の土器である。

**無台碗** 主に底部は糸切り後ミガキ、体部下半は回転削りが行なわれている。体部内面にはミガキが施され、口縁端部は外面も磨かれるものが多い。分類は土師器無台碗同様、口縁部形態・口径の組み合わせで行った。

**有台碗** 削り出し高台による円盤状高台を持つ。底部から内湾気味に立ち上がり、口縁部端部で外反する。

**須恵器** 食膳具と貯蔵具がある。食膳具には無台杯・有台杯・杯蓋がある。貯蔵具には大甕・長頸壺・短頸壺・長胴壺・横瓶がある。広口壺も出土しているが、小破片のため図化できなかった。

**無台杯** 口縁部形態(A～C)と口径(I・II)の組み合わせで分類した。口縁部形態の分類は底部から口縁部が内湾気味に立ち上がるものをA類、直線的に立ち上がるB類、内湾気味に立ち上がり口縁部で外反するC類に分類した。口径は11～12.5cmがI類、12.6cm以上をII類とした。底部は全てヘラ切り無調整である。

**有台杯** 杯のうち高台を持つもの。量的には少なく、全体形が分かる資料が少ないため細分類はしていない。

**杯蓋** 少量出土している。有台杯に伴う蓋である。つまみはボタン状で中央がくぼむものが多い。

**大甕** 大形の丸底の甕を一括した。破片数が多いが全体形が分かる資料が少なく、細分類は行っていない。

**長頸壺** 長い頸部を持つ瓶あるいは壺を一括した。

**短頸壺** 口縁端部が短く直立し球胴形の体部を持つ壺で、高台が付く。出土数は少ない。

**長胴壺** 長い胴部を持つ壺で、平底の底部を持つ。

**横瓶** 俵状の体部に「く」の字状に外反する口縁部が付くもの。

## B 出土土器等各説

### 1) 遺構出土土器

SE 5 (図版32～35、写真図版20～24)

土師器無台碗 a (1～4・7～12・15～19・21)・無台碗 b (5・6・13・14・20・22)・長甕 (30～42)・小甕 (43～52)・鍋 (53・54)、黒色土器無台碗 (23～25)、須恵器無台杯 (26～29)・大甕 (57～59)・横瓶 (55・56)、細形土錘 (60・61) が出土している。

土師器無台碗 a は 1～3・7 が A I 類、4 が A II 類、8 が B I 類、10～12・15 が B II 類、16 が C I 類、9・17・18 が C II 類で、19・21 は底部破片である。無台碗 b で全形が分かる資料はすべて A III 類である。13 は内面のミガキは見られないが丁寧にナデられ、底部外面はケズリを施している。22 は底部外面に墨書が施されているが、破片のため判読できなかった。黒色土器無台碗は 23 が A III 類、24・25 が B II 類である。須恵器無台杯は 26 が A I 類、27・29 が B I 類、28 が B II 類である。28 は墨書土器で体部外面に墨書されているが、文字は判読できなかった。また、底部ヘラ切りは右回転である。28・29 は転用硯として用いられ、内面に使用痕が残る。土師器長甕は 32 が A 類、30・31・33～37 が B 類、38 が C 類である。底部破片のうち 41・42 は内面に文様が彫刻されている当て具工具を用いていない。また、長甕のうち 32・39・40 は S D 1 と接合関係にある。小甕は 43・45 が A 類、44・47～49 が B 類、46 が C 類である。鍋は 53・54 共に口縁部が上方に短く屈曲する A 類である。須恵器大甕 57 は本遺跡出土の大甕の中で唯一全形が分かる資料である。59 は内面の当て具

痕が放射状である。横瓶55はS D 1と接合関係にある。

S K 28 (図版35・36、写真図版24・25)

土師器無台碗 a (62~66)・長甕 (71・72)・小甕 (73~76)・鍋 (77)、黒色土器無台碗、須恵器無台杯 (67~69)・有台杯 (70) 大甕 (78・79) が出土している。

土師器無台碗 a は63がA I類、62・65がA II類、66がC II類である。須恵器無台杯はいずれもB類で68がI類、67・69がII類である。有台杯70は底部の造りが雑で接地面が歪んでいる。底部ヘラ切りは右回転である。土師器長甕71はB類である。小甕は73・75共にB類である。74は底部外面にヘラ記号「×」が施されている。76は口縁部形態は不明であるが非常に小型の小甕である。また、74・75はS K 25と接合関係にある。鍋77はB類で、S K 25と接合関係にある。

S K 25 (図版36・37、写真図版25・26)

土師器無台碗 a (80~84)・無台皿・長甕 (91~94)・小甕 (95~99)・鍋 (100・101)、黒色土器無台碗 (85・86)、須恵器無台杯 (87~89)・有台杯 (90)・大甕 (102) が出土している。

土師器無台碗 a はいずれもB類で81がII類、80がIII類である。82は底部から体部が大きく開いて立ち上がる。83は底部糸切りが左回転である。黒色土器無台碗85はB III類である。須恵器無台杯は87・88がA I類、89がB II類である。90は口縁部資料のみではあるが、傾き・形態等から有台杯とした。土師器長甕は92がB類、91がC類である。94は内面に文様が彫刻される当て具工具を用いていない。小甕は96~98いずれもA類である。95は底部糸切りが左回転である。99は体部外面下半にケズリを施している。鍋は101がA類、100がB類である。

S K 20 (図版37、写真図版26)

須恵器無台杯 (103) が1点出土している。B I類に分類される。

S K 41 (図版37、写真図版26)

土師器小甕小片が5点出土している。うち1点 (104) を図化した。B類に分類される。

S K 61 (図版37、写真図版26)

土師器小甕が4点出土している。うち底部資料1点 (105) を図化した。

S K 32 (図版37、写真図版26)

土師器無台碗 a (106・107)・長甕 (108)・小甕 (109)、黒色土器無台碗が出土している。土師器無台碗 a は106がA II類、107がB I類である。長甕108は体部破片、小甕109は底部資料である。

S K 64 (図版37、写真図版26)

土師器長甕 (110・111) と小甕が出土している。長甕は111がA類、110がB類である。

S K 40 (図版37・38、写真図版26)

土師器無台碗 a (112)・長甕 (115・116)・小甕・鍋 (117)、須恵器無台杯 (113・114) が出土している。土師器無台碗 a 112は残存率が少なく口径は計測できなかったが、形態からB類とした。須恵器無台杯は113・114共にB I類である。土師器長甕115はA類である。116は体部資料であるが、S K 64と接合関係にある。

S K 62 (図版38、写真図版26)

土師器無台碗 a (118・120)・無台碗 b (119)・長甕 (125・126)・小甕 (127~130)、黒色土器無台碗 (121・122)、須恵器無台杯 (123)・杯蓋 (124)・長頸壺 (131) が出土している。土師器無台碗 a はいずれも底部破片である。119は無台碗 b で内面にはミガキをほどこしている。C III類に分類される。黒色土器無台碗122はC II類でS K 47と接合関係にある。123は須恵器無台杯の底部破片である。土師器長甕126はB類である。小甕は128がA類、129がB類である。131は体部資料のみではあるが、形態から須恵器長頸壺とした。

## 1 古代の遺物

### S K 47 (図版38、写真図版26)

土師器無台碗 a (132)・無台碗 b (133)・長甕 (136~139)・小甕 (140)・鍋 (141)、黒色土器無台碗 (134)、須恵器無台杯 (135)・広口壺が出土している。土師器無台碗 a 132はC II類である。133は無台碗 b の底部資料で内面にミガキを施している。黒色土器無台碗134はA II類である。135は須恵器無台杯の底部破片である。土師器長甕は137がA類、138がC類で口縁端部に面を持つ。140は小甕B類である。

### S K 48 (図版39、写真図版26・27)

土師器無台碗・長甕 (143)・小甕 (144・145)・鍋 (146)、須恵器無台杯 (142) が出土している。須恵器無台杯142はA I類である。土師器鍋146はB類である。

### S K 59 (図版39、写真図版27)

土師器小甕 (147)・鍋 (148) が出土している。147は土師器小甕の底部資料、148は鍋のB類である。

### S K 60 (図版39、写真図版27)

土師器無台碗 a (149)・長甕・小甕 (154)・鍋 (155)、須恵器無台杯 (150~152)・有台杯 (153)・大甕が出土している。土師器無台碗 a 149は底部資料である。須恵器無台杯は150がA I類、151がB I類、152がB II類である。150は底部ヘラ切りが右回転であった。

### S K 111 (図版39、写真図版27)

土師器無台碗 a (156)・長甕 (157) が出土している。土師器無台碗 a 156は口縁部端部が外反するC I類である。157は長甕の体部資料である。

### S X 67 (図版39・40、写真図版27)

土師器無台碗 a (158~160)・長甕 (167~171)・小甕 (172~174)・鍋 (175)、須恵器無台杯 (161~165)・有台杯 (166)・大甕が出土している。土師器無台碗 a は158がA I類、159がB II類、160がC III類である。158はS D99と接合関係にある。須恵器無台杯は161がA I類、163がA II類、162・164がB II類、165がC II類である。164はS D99と接合関係にある。166は口縁部のみの資料であるが、形態・傾き等から有台杯と判断した。土師器長甕は167がA類、168がB類、169・170は共にC類で口縁端部に面を持つ。また、168はS K 86と接合関係にある。小甕は173がA類、172がB類である。

### S K 77 (図版40、写真図版21・27)

土師器無台碗 a (176・177)・長甕・小甕 (183)・鍋 (184・185)、黒色土器無台碗 (178)、須恵器無台杯 (179~181)・有台杯 (182)・大甕・長頸壺 (186) が出土している。土師器無台碗 a 176はB I類である。黒色土器無台碗178は底部資料である。須恵器無台杯は179・180がA I類、181はB II類である。土師器鍋185はC類で口縁端部が丸く収まる。186は胴部のみの資料であるが、形態等から須恵器長頸壺とした。底部ヘラ切りは右回転で、S K 68と接合関係にある。

### S K 86 (図版40、写真図版27)

土師器無台碗 a (187)・長甕・小甕 (189・190)、須恵器無台杯 (188) が出土している。土師器無台碗 a 192はC I類である。須恵器無台杯188はB I類である。189は土師器小甕C類で口縁端部に面を持つ。

### S K 97 (図版40・41、写真図版27)

土師器無台碗 a (191~193)・長甕 (199)・小甕 (200~202)・鍋 (203)、黒色土器無台碗・有台碗 (194)・有台皿、須恵器無台杯 (195~198)・大甕が出土している。土師器無台碗 a は192がB II類である。191は口縁部破片で口径は計測できなかったが、形態はA類とした。黒色土器有台碗194は削り出し高台による円盤状高台を持つ。底部から内湾気味に立ち上がり、口縁部端部で外反する。本遺跡で図化できたのはこの1点のみである。須恵器無台杯は195がA II類、196・197がB I類、198がB II類である。土師器小甕は200がA類、

201がB類である。203は鍋B類である。

S K 112 (図版41、写真図版27)

土師器小甕 (205)、須恵器無台杯 (204)・大甕が出土している。土師器小甕204・須恵器無台杯205は共に底部資料である。須恵器無台杯205はPit90と接合関係にある。

S K 104 (図版41、写真図版27)

須恵器無台杯 (206) が1点出土している。墨書土器で底部外面に墨書されているが、破片のため判読は出来なかった。

S K 68 (図版41・42、写真図版20・21・27・28)

土師器無台碗 a (207~209)・鉢・長甕 (214~216)・小甕 (217~221)・鍋 (222)、黒色土器無台碗、須恵器無台杯 (210~212)・杯蓋 (213)・大甕 (223)・長頸壺・横瓶 (224) が出土している。

土師器無台碗 a は207がA I類、208がB I類である。須恵器無台杯はいずれもI類で211がA類、210がB類、212がC類である。212はS D 105と接合関係にある。土師器長甕は214・215ともにB類である。小甕は217・220いずれもA類である。220はS K 97・S D 105と接合関係にある。219は小甕の底部資料で、S K 97と接合関係にある。鍋222はB類である。須恵器大甕223はS K 77・88・97・S D 105と接合関係にある。横瓶224もS D 105と接合関係にあった。

S K 89 (図版42、写真図版28)

土師器無台碗 a (225)・長甕・小甕、須恵器大甕が出土している。土師器無台碗 a 225は底部破片である。

S K 88 (図版42、写真図版28)

土師器長甕 (226)・小甕、須恵器大甕が出土している。土師器長甕226は口縁端部が上方に屈曲するB類である。S D 99と接合関係にある。

S D 1 (図版42・43、写真図版20・21・28・29)

土師器無台碗 a (227~230・232・233・235)・無台碗 b (231・234)・長甕 (243~246)・小甕 (247~250)・鍋 (251・252)、黒色土器無台碗 (236~239)、須恵器無台杯 (240・241)・杯蓋 (242)・長頸壺 (254)・横瓶 (253) が出土している。

土師器無台碗 a は227・228がA I類、229がA II類、230がB I類、232がB II類、233がC II類である。231は無台碗 b で内外面に共にミガキを施している。B II類に分類される。黒色土器無台碗は239がA III類、238がB II類、236がC III類である。237は口縁端部が残存していなかったため口径は計測できなかったが、形態はC類に分類される。須恵器無台杯240はB II類である。241は体部外面に墨書されているが、破片のため判読は出来なかった。土師器長甕は243~245がいずれもB類である。245・246は体部内面に文様が彫刻される当て具工具を用いていない。また、245はSE 5・Pit 2と、246はPit 24と接合関係にある。小甕は247・248共にA類である。250は小甕の底部資料で、Pit 24と接合関係にある。鍋は251がA類、252がB類で口縁端部に面を持つ。254は須恵器長頸壺で胴部から頸部にかけての内面にしぼり痕が見られる。

Pit 24 (図版44、写真図版29・30)

土師器無台碗 a (255・256)・長甕 (258・259)・小甕・鍋 (260)、黒色土器無台碗 (257)、須恵器大甕 (261) が出土している。土師器無台碗 a 255は口径は不明であるが、形態はB類に分類される。黒色土器無台碗257はA III類である。土師器長甕258・259は共にB類である。鍋260はB類で口縁端部に面を持つ。

S D 4 (図版44、写真図版30)

土師器無台碗 a (262)・長甕 (266・267)・小甕 (268)・鍋、黒色土器無台碗 (263)、須恵器無台杯 (264・265) が出土している。土師器無台碗 a 262はA I類である。黒色土器無台碗263はA III類である。須恵器無台

## 1 古代の遺物

杯は264がA I類、265がB I類である。土師器長甕266はB類である。268は小甕B類である。

S D 29 (図版44・45、写真図版30・31)

土師器無台椀 a (269~271)・長甕 (274~277)・小甕 (278・279)・鍋、須恵器無台杯 (272・273)・大甕 (280・281) が出土している。土師器無台椀 a は269がA II類、270がC I類である。270・271は底部糸切りが左回転であった。須恵器無台杯は共にB類で272がI類、273がII類である。272は底部外面にヘラ記号「××」が施されている。土師器長甕は274がA類、275・276がB類である。

S D 33 (図版45・46、写真図版30・31)

土師器無台椀 a (282)・長甕 (285~289)・小甕 (290~294)・鍋 (295・296)、須恵器無台杯 (283・284)・短頸壺が出土している。土師器無台椀 a 282は体部破片で分類は出来なかった。須恵器無台杯は284がA I類、283がB II類である。284は底部ヘラ切りが右回転であった。土師器長甕は285・286がB類、287がC類で口縁端部に面を持つ。また、285はS K 32と接合関係にある。小甕は291がA類、292~294がB類である。鍋は295がA類、296がB類である。295はSD29と接合関係にある。

S D 37 (図版46、写真図版31)

土師器無台椀 a (297・298)・長甕 (301)・鍋、須恵器無台杯 (299・300) が出土している。土師器無台椀は297・298共に底部資料である。須恵器無台杯300はB II類である。底部ヘラ切りは右回転であった。301は長甕B類である。

S D 105 (図版46、写真図版31)

土師器無台椀 a (302~305)・長甕 (308)・小甕 (309)・鍋、須恵器無台杯 (306・307)・大甕・長頸壺・横瓶が出土している。土師器無台椀 a は302がA II類、303がB I類、304がC I類である。須恵器無台杯は共にI類で、306がB類、307がC類である。309は小甕B類である。

S D 119 (図版46、写真図版31)

土師器無台椀 a (310)・長甕 (312)、須恵器無台杯 (311)・大甕が出土している。土師器無台椀 a 310、須恵器無台杯311は共に底部資料である。土師器長甕312は体部破片であった。

S D 99 (図版46・47、写真図版31~33)

土師器無台椀 a (313~319)・鉢 (329)・長甕 (330~333)・小甕 (334~337)・鍋 (338~342)、黒色土器無台椀 (320)、須恵器無台杯 (321~327)・杯蓋 (328)・大甕 (345)・長頸壺・短頸壺 (343・344)・長胴壺が出土している。

土師器無台椀 a は313がA I類、316がA III類、318がB I類、314がC I類、317がC II類である。315は墨書土器で底部外面に墨書されているが、破片のため判読不可であった。黒色土器無台椀320はC II類である。須恵器無台杯は321・322・324がA I類、323がA II類、325・326がB I類、327がC I類である。326は墨書土器で底部外面に墨書されているが、破片のため判読不可だった。329は土師器の鉢である。底部と体部下半をケズリで成形し、体部は開いて立ち上がる。口縁部の形態は不明である。S K 68・Pit 94と接合関係にあった。長甕330・331・333はいずれもB類である。小甕は334・335共にB類である。鍋は339~341がA類、342がB類で口縁端部は面を持つ。343は須恵器短頸壺の口縁部資料である。344は底部のみの資料であるが、形態等から短頸壺とした。

S D 98 (図版48、写真図版32)

須恵器無台杯 (346) が1点出土している。小破片のため口径は計測できなかったが、形態はB類とした。

Pit 2 (図版48、写真図版32)

土師器長甕、黒色土器無台椀 (347) が出土している。黒色土器無台椀347は底部のみの資料である。

## Pit3 (図版48、写真図版32)

土師器長甕、黒色土器無台碗(348)、須恵器大甕(349)が出土している。黒色土器無台碗348はCⅡ類で、SD4と接合関係にある。

## Pit7 (図版48、写真図版32)

土師器無台碗a(350)・鍋(351・352)が出土している。土師器無台碗a350はAⅡ類である。鍋352は口縁端部が上方に短く屈曲するA類である。また、SD1と接合関係にある。

## Pit8 (図版48、写真図版32)

土師器無台碗a(353)・小甕が出土している。土師器無台碗a353はCⅡ類である。

## Pit9 (図版48、写真図版32)

土師器無台碗・長甕(354)・小甕(355)が出土している。土師器長甕354は体部破片である。355は小甕A類である。

## Pit10 (図版48、写真図版32・33)

土師器無台碗a(356)・長甕・小甕・鍋(359)、黒色土器無台碗(357・358)が出土している。土師器無台碗a356はBⅠ類である。黒色土器無台碗はいずれもA類で357がⅡ類、358がⅢ類である。また、358はSE5と接合関係にある。

## Pit11 (図版48、写真図版32・33)

土師器長甕(360)・小甕(361)・鍋(362)が出土している。土師器小甕361はA類である。長甕360、鍋362はいずれも体部資料である。

## Pit12 (図版48、写真図版33)

土師器長甕(363)・小甕が出土している。土師器長甕363は体部破片である。

## Pit14 (図版48、写真図版33)

土師器無台碗・長甕(364)・小甕が出土している。土師器長甕364は体部破片である。

## Pit16 (図版48、写真図版33)

土師器無台碗・長甕(365)・小甕(366)・鍋(367)、須恵器大甕(368)が出土している。365は土師器長甕A類、366は小甕B類である。

## Pit17 (図版48、写真図版33)

土師器無台碗・長甕(369・370)・小甕が出土している。土師器長甕369は小破片のため口径は計測できなかったが、B類に分類される。

## Pit21 (図版48、写真図版33)

土師器長甕が3点出土している。うち1点(371)を図化した。体部資料である。

## Pit27 (図版49、写真図版33)

土師器長甕(372・373)が出土している。372は受口状の口縁を持つA類である。

## Pit35 (図版49、写真図版33)

土師器長甕(374)・小甕・鍋が出土している。土師器長甕374は底部付近の資料である。内面の当て具痕がハケで消されている。

## Pit39 (図版49、写真図版33)

土師器長甕(375)1点が出土している。体部破片で、外面にススが付着している。

## Pit69 (図版49、写真図版33)

須恵器無台杯(376)1点が出土している。内彎するAⅠ類に分類される。

Pit94 (図版49、写真図版33)

土師器鉢・長甕 (377) ・小甕が出土している。土師器長甕377はC類で口縁端部に面を持つ。

Pit95 (図版49、写真図版33)

土師器無台椀 a (378) ・小甕が出土している。土師器無台椀 a378はB II類である。

Pit108 (図版49、写真図版33)

土師器小甕 (379) 1個体が出土している。B類に分類される。

Pit131 (図版49、写真図版33)

土師器無台椀 a (380) ・長甕 (381) が出土している土師器無台椀 a380は小破片のため口径は不明であるが、形態からC類に分類される。長甕381は体部破片である。

2) 包含層出土土器 (図版49～52、写真図版20・21・34)

包含層出土遺物のうち完形に近い資料や器種的に特筆される資料を中心に選択して掲載を行った。土師器無台椀 a (382～389) ・長甕 (413～416) ・小甕 (417～422) ・鍋 (423～425)、黒色土器無台椀 (390～394)、須恵器無台杯 (395～406) ・有台杯 (407～409) ・杯蓋 (410～412) ・横瓶 (426) ・長胴壺 (427) ・長頸壺 (428・429) ・大甕 (430～433) ・細形土錘 (434) を図化した。

土師器無台椀 a は382・387がA I類、383・384・388がA II類、385・386がB II類である。385は底部糸切りが左回転であった。389は底部から体部が内彎しながら立ち上がり、口縁端部が外側に折れ曲がっているような形態である。底部は糸切り後無調整である。黒色土器無台椀390はA III類である。391～394はすべて底部資料である。須恵器無台杯は395・400がA I類、396・398・399・401～405がB I類、406がB II類、397がC I類である。395は底部にヘラ記号「×」が施されている。403は他のものに比べてやや厚身のある器壁を持つ。また、395・404は底部のヘラ切りが右回転である。有台杯408は体部が内彎しながら立ち上がる。また内外面に墨の痕跡があることから、内外面の両方を転用硯として用いたと思われる。409は小型の有台杯である。杯蓋410・411は共にボタン状のつまみで中央がくぼんでいる。土師器長甕は416がA類、413～415がB類である。小甕は417がA類、418～421がB類である。鍋は423・424がA類、425がB類で口縁端部に面を持つ。427は胴部のみの資料である。体部外面にはカキ目が巡り、下半はケズリを施している。平底の底部はケズリで成形されている。口縁部形態が不明のため須恵器長胴壺とした。428は頸部付近のみの資料ではあるが、形態から小型の長頸壺とした。429は胴部のみの資料であるが、形態から長頸壺とした。体部にはヘラ記号「××」が施され、体部下半は削られる。

3) 補足確認調査出土土器 (図版52、写真図版34)

土師器無台椀 b (435) ・長甕 (437・438) ・小甕 (439)、黒色土器無台椀 (436) が出土した。土師器無台椀 b435は底部資料で内面が磨かれ、体部外面下半にケズリを施している。黒色土器無台椀436は底部資料である。土師器長甕438はC類で口縁端部に面を持つ。437は体部破片である。439は小甕の体部破片である。

4) 立会調査出土土器 (図版53、写真図版34)

立会調査出土土器のうち完形に近い資料や器種的に特筆される資料を中心に選択して掲載を行った。土師器無台椀 b (440) ・蓋 (441) ・長甕 (448・449) ・小甕 (450・451) ・鍋 (452・453) ・太形土錘 (455)、須恵器無台杯 (442～446) ・杯蓋 (447) ・長胴壺 (454) を図化した。

土師器無台椀 b は底部資料である。内面は丁寧になでられ、体部外面下半にはケズリを施している。蓋

441は内外面ともに丁寧に磨かれている。どの器種に伴うかは不明である。須恵器無台杯は446がAⅡ類、443～445がBⅠ類である。442は墨書土器で底部外面に「合」と墨書されている。444はやや厚身のある器壁を持つ。447はボタン状のつまみを持つ杯蓋である。土師器長甕は449がA類、448がB類である。小甕は450・451共にB類である。鍋は453がA類、452がB類で口縁端部に面を持つ。454は底部のみの資料であるが、平底で底部・体部外面共にケズリで成形されていることから長胴壺とした。やや小型である。455は太形の土錘である。

### C 石製品・鍛冶関連遺物 (図版54・55、写真図版43)

山王浦遺跡の古代に所属する石製品の出土点数は21点、鍛冶関連遺物の出土点数は1点である。補足確認調査・立会調査資料を含めて一括して報告する。内訳は砥石10点、台石1点、敲石3点、軽石製石製品4点、磨石3点、鉄滓1点である。全て図化を行った。それ以外に井戸等に投げ込まれた搬入礫が多数存在する。一部に焼成を受けた礫も見られ、竈等の施設の構築物の可能性があるが、性格を推定できるものは少数である。石製品・鍛冶関連遺物の数値観察表は別表3に示した。

**砥石 (1～10)** 10点存在する。砥石は分類上おおまかに仕上げ砥石、中砥石、荒砥石の3種がある。砥石の分類は石材(産地)で分類する場合と機能を推定して分類する場合、重量による分類、砥石の目の細かさによる分類等に分けられる。ここでは形状と石材から類推したおおまかな区分であるが、中砥石と荒砥石に分類した。

**中砥石 (1～6)** 6点出土した。中形の砥石を一括した。現在も使用される鎌砥石に類似する。形状は棒状の直方体状で砥面が湾曲し複数面存在するものが多いが、一部不定形なものがある。ほとんどが破損品である。1は断面形が方形に復元される砥石の破損品である。4面砥面が残る。2はS E 5出土の4面砥面が残る砥石である。3は風化が進み1面の砥面のみ残る。4はS E 5出土の砥面が1面残る資料である。5は小形の砥石であるいは仕上げ砥石の可能性もある。6は2面に砥面が残る。

**荒砥石 (7～10)** 4点出土した。中・大形の砥石で置砥石である。7～9は礫を用いた置砥石の断片である。10は棒状の凝灰岩礫を砥石に利用している。

砥石に使用されている緑色凝灰岩・凝灰岩の石材産地については、近隣では阿賀野川あるいは信濃川流域の第三紀中新世七谷層中に含まれる。

#### 台石 (11)

緑色凝灰岩製の台石が1点出土している。使用の痕跡は明確ではないが凹面を表面にして使用した可能性がある。

#### 敲石 (12～14)

礫の端部に敲打痕が残る石器を一括した。12は礫の半分が分割されている。端部に敲打痕が残る。13は軟質な珪質流紋岩を石材とし、端部に敲打の痕跡が残る。14は棒状の礫を分割し端部を敲打面としている。

#### 軽石製石製品 (15～18)

軽石の円礫の一部に擦痕が残る石器を一括した。磨石あるいはある種の砥石としての機能が推定される。15・16は円礫に加工を加えず一部わずかに擦痕が残る資料である。17・18は軽石製石製品の破損品である。

軽石は阿賀野川あるいは小阿賀野川の河川敷で現在でも採取可能である。特に数m地下を工事する際に表出する旧河床中に多く含まれることから、近隣からの採取品であろう。

#### 磨石 (19～21)

円礫に擦痕が残る石器を一括した。19は比較的楕円形の礫を、20・21は円礫を用いている。

鍛冶関連遺物 (22)

1点のみ出土した。22は断面の形態から碗形鉄滓であろう。若干、湾曲する。メタル度はほとんどない。

## 第Ⅵ章 新津市山王浦遺跡における自然科学分析

### 1 山王浦遺跡におけるテフラ分析

早田 勉 (株式会社古環境研究所)

#### A はじめに

新津市域とその周辺には、妙高、浅間、沼沢沼などの火山、さらには中国地方や九州地方に分布する火山などから噴出したテフラ (tephra、火山砕屑物、いわゆる火山灰) が数多く分布している。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、それらとの関係を求めることにより、地層の堆積年代や土壌の形成年代だけでなく、遺構や遺物の層位や年代などについても知るようになるようになっている。そこで山王浦遺跡においても、地質調査を行って土層の記載を行うとともに、テフラ検出分析と屈折率測定を行って、指標テフラの検出同定を試みるようになった。地質調査の対象となった地点は、9 G16南壁セクションおよびSE5の2地点である。

#### B 土層層序

##### 1) 9 G16南壁セクション

9 G16南壁セクションでは、下位より灰白色シルト層 (層厚24cm、Ⅶ d層)、灰色シルト層 (層厚11cm、Ⅶ c層)、灰白色シルト層 (層厚19cm、Ⅶ b層)、青灰白色シルト層 (層厚37cm)、暗灰色泥層 (層厚9cm、Ⅵ層)、灰白色シルト層 (層厚5cm、Ⅴ層)、黄灰白色シルト層 (層厚11cm、Ⅳ層)、暗灰色粘質土 (層厚5cm、Ⅲ層)、暗灰色粘質土 (層厚26cm、Ⅱ層)、鉄分を多く含む灰褐色土 (層厚6cm、Ⅰ b層)、灰褐色表土 (層厚11cm、Ⅰ a層) が認められる (図1)。

##### 2) SE5

井戸の可能性が考えられているSE5の覆土は、下位より黒色炭化物層 (層厚3cm)、黄灰色シルト層ブロックを含む灰色土 (層厚2cm、以上4層)、黒色炭化物層 (層厚10cm、3層)、炭化物混じり灰色粘質土 (層厚23cm、2層)、暗灰色粘質土 (層厚7cm、1層) からなる (図2)。

#### C テフラ検出分析

##### 1) 分析試料と分析方法

9 G16南壁セクションの土層の層位や年代に関する資料を得るために、基本的に5cmごとに設定採取された試料のうち、17点についてテフラ検出分析を行った。テフラ検出分析の手順は次の通りである。

- (1) 試料10gを秤量。
- (2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- (3) 恒温乾燥器により80℃で乾燥。
- (4) 実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や特徴を観察。

## 2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。9G16南壁セクションの試料から、軽石やスコリアは検出されなかった。火山ガラスは、試料29、試料23、試料21で認められた。試料29に含まれる火山ガラスとしては、白色の軽石型が少量認められる。試料23には、無色透明や淡褐色の軽石型やバブル型のガラスが少量含まれている。さらに試料21には、無色透明の軽石型ガラスが少量含まれている。

## D 屈折率測定

### 1) 測定試料と測定方法

9G16南壁セクションにおいて火山ガラスが検出された試料のうち、試料29について、温度一定型屈折率測定法(新井、1972、1993)によりテフラ粒子の屈折率測定を行った。

### 2) 測定結果

屈折率の測定結果を表2に示す。試料29には、重鉱物として緑色の角閃石や斜方輝石が含まれている。火山ガラスや斜方輝石については、量が少なく屈折率の測定が困難であった。角閃石( $n_2$ )の屈折率は、1.672-1.676である。

## E 考察

9G16南壁セクションの試料29に含まれる粒子のうち角閃石については、色調や屈折率などから、約5,000年前\*1に沼沢火山から噴出した沼沢1テフラ(Nm-1、只見川第四紀研究グループ、1966a、1966b、町田・新井、1992)に由来すると考えられる。しかしながらその産状から、二次的に含まれている可能性が高く、この試料付近に降灰層準あるいは、その火山泥流の堆積層準のある可能性は高くないと考えられる。本地域では、地層の状況によっては、915年に十和田火山から噴出したと考えられている十和田a火山灰(To-a、大池ほか、1966、大池、1972、町田ほか、1981)などを含め多くの指標テフラが検出される可能性があることから、引き続き分析が続けられることがのぞまれる。

## F 小 結

新津市山王浦遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、沼沢1テフラ(Nm-1、約5,000年前\*1)に由来する可能性があるテフラ粒子が検出された。

\*1 放射性炭素(14C)年代。

## 文献

新井房夫(1972)斜方輝石・角閃石によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究。第四紀研究、11、p.254-269。

新井房夫(1993)温度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2—研究対象別分析法」、p.138-149。

町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス。東京大学出版会、276p。

町田 洋・新井房夫・森脇 広(1981)日本海を渡ってきたテフラ。科学、51、p.562-569。

大池昭二 (1972) 十和田火山東麓における完新世テフラの編年. 第四紀研究, 11, p.232-233.

大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之 (1966) 馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰. 第四紀研究, 5, p.29-35.

只見川第四紀研究グループ (1966 a) 福島県野沢盆地の浮石質砂層の基底部より産出した木材の14C年代-日本の第四紀研究層の14C年代 X X VI-. 地球科学, 82, p. 8-9.

只見川第四紀研究グループ (1966 b) 只見川・阿賀野川流域の第四系の編年-とくに沼沢浮石層の層位学的諸問題について, 第四紀, 8, p.76-79.

試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
	量	色調	最大径	量	形態	色調
1	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-
11	-	-	-	-	-	-
13	-	-	-	-	-	-
15	-	-	-	-	-	-
17	-	-	-	-	-	-
19	-	-	-	-	-	-
21	-	-	-	+	pm	透明
23	-	-	-	+	pm, bw	透明, 淡褐
25	-	-	-	-	-	-
27	-	-	-	-	-	-
29	-	-	-	+	pm	白
31	-	-	-	-	-	-

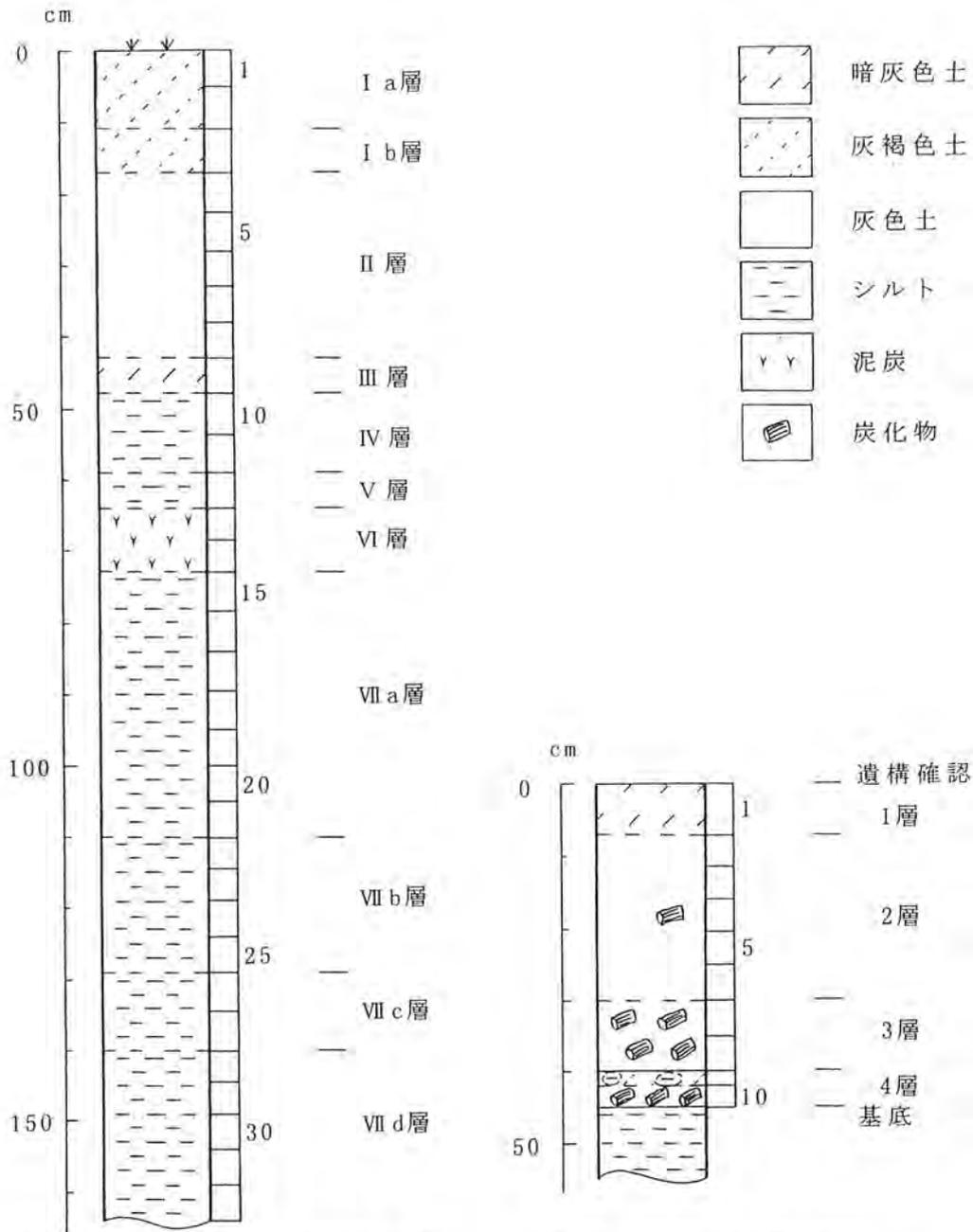
++++: とくに多い, ++++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない.  
最大径の単位は, mm. bw: パズル型, pm: 軽石型.

表1 9 G 16南壁セクションにおけるテフラ検出分析結果

試料	火山ガラス (n)	重鉱物	斜方輝石 ( $\gamma$ )	角閃石 ( $n_2$ )
29	-	ho > opx	-	1.672-1.676

屈折率測定は, 温度一定型屈折率測定法 (新井, 1972, 1993) による.  
opx: 斜方輝石, ho: 角閃石.

表2 9 G 16南壁セクションにおける屈折率測定結果



第1図 9G16南北セクションの土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

第2図 SE5覆土の土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

## 2 山王浦遺跡におけるプラント・オパール分析

杉山 真二 (株式会社古環境研究所)

### A はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 ( $\text{SiO}_2$ ) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である (杉山, 2000)。

### B 試料

試料は、9 G16南壁セクションおよびSE5 (井戸) の2地点から採取された計16点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

### C 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法 (藤原, 1976) を用いて、次の手順で行った。

- (1) 試料を105℃で24時間乾燥 (絶乾)
- (2) 試料約1gに対し直径約40 $\mu\text{m}$ のガラスビーズを約0.02g添加 (電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- (3) 電気炉灰化法 (550℃・6時間) による脱有機物処理
- (4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- (5) 沈底法による20 $\mu\text{m}$ 以下の微粒子除去
- (6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- (7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:  $10^{-5}\text{g}$ ) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ (赤米) の換算係数は2.94、ヒエ属 (ヒエ) は8.40、ヨシ属 (ヨシ) は6.31、ススキ属 (ススキ) は1.24、タケ亜科 (ネザサ節) は0.48である。

### D 分析結果

水田跡 (稲作跡) の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

## E 考 察

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山、2000）。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

### (1) 9 G16南壁セクション

I a層（試料1）からVII d層（試料11）までの層準について分析を行った。その結果、I a層（試料1）、I b層（試料2）、II層（試料3）、III層（試料4）、VI層（試料7）からイネが検出された。このうち、I a層（試料1）では密度が10,500個/gとかなり高い値である。これは、現在もしくは比較的最近の水田耕作に由来するものと考えられる。VI層（試料7）では、密度が3,000個/gと比較的高い値である。また、直上のIV層～V層ではイネがまったく検出されないことから、上層から後代のものが混入した可能性は考えにくい。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

I b層（試料2）～III層（試料4）では、密度が800～2,200個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。V層～II層ではヨシ属が卓越していることから、当時はヨシ属などが多く生育する湿地的な環境になっていたと考えられ、稲作は休止もしくは縮小されていた可能性が考えられる。

### (2) S E 5

遺構覆土の1層（試料1）～4層（試料5）について分析を行った。その結果、これらのすべてからイネが検出された。このうち、3層（試料3）では密度が48,200個/gと極めて高い値であり、4層（試料4、5）でも30,800～33,000個/gとかなり高い値である。また、2層（試料2）では6,800個/gと高い値であり、1層（試料1）でも3,800個/gと比較的高い値である。さらに、定量は行わなかったが、試料3と試料4からは籾殻（穎の表皮細胞）に由来するプラント・オパールが多量に検出された。

以上のことから、井戸と見られる遺構の内部には、何らかの形でイネの茎葉（稲藁）およびイネ籾（穀）が多量に入れられていたと推定される。

## F ま と め

プラント・オパール分析の結果、9 G16南壁セクションではI a層およびVI層からイネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、I b層～III層でも稲作が行われていた可能性が認められた。V層～II層の堆積当時は、ヨシ属などが多く生育する湿地的な環境になっていたと考えられる。

井戸と見られるS E 5の内部には、何らかの形でイネの茎葉（稲藁）およびイネ籾（穀）が多量に入れられていたと推定される。

## 文献

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）、考古学と植物学、同成社、p.189-213.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—、考古学と自然科学、9、p.15-29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）—プラント・オパール分析による水田址の探査—、考古学と自然科学、17、p.73-85.

表1 新津市、山王浦遺跡におけるプラント・オパール分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	地点・試料										
		9 G16南壁セクション										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	105	22	8	8			30				
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type											
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	8	22	76	68	75	82	15		37	8	7
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	8	15		8			15		7		
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	8	30	38	15	15	37	23	157	45	30	52

推定生産量 (単位: kg/m<sup>2</sup>・cm)

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	3.09	0.66	0.22	0.22			0.89				
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type											
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	0.47	1.42	4.77	4.31	4.73	5.20	0.95		2.36	0.47	0.47
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.09	0.19		0.09			0.19		0.09		
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.04	0.14	0.18	0.07	0.07	0.18	0.11	0.75	0.22	0.14	0.25

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	地点・試料				
		SE 5				
		1	2	3	4	5
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	38	68	482	308	330
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type		8			
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	53	8		8	
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type		8			
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	38	23	30	68	38

推定生産量 (単位: kg/m<sup>2</sup>・cm)

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	1.11	2.00	14.17	9.05	9.71
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type		0.64			
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	3.33	0.48		0.47	
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type		0.09			
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.18	0.11	0.14	0.32	0.18

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

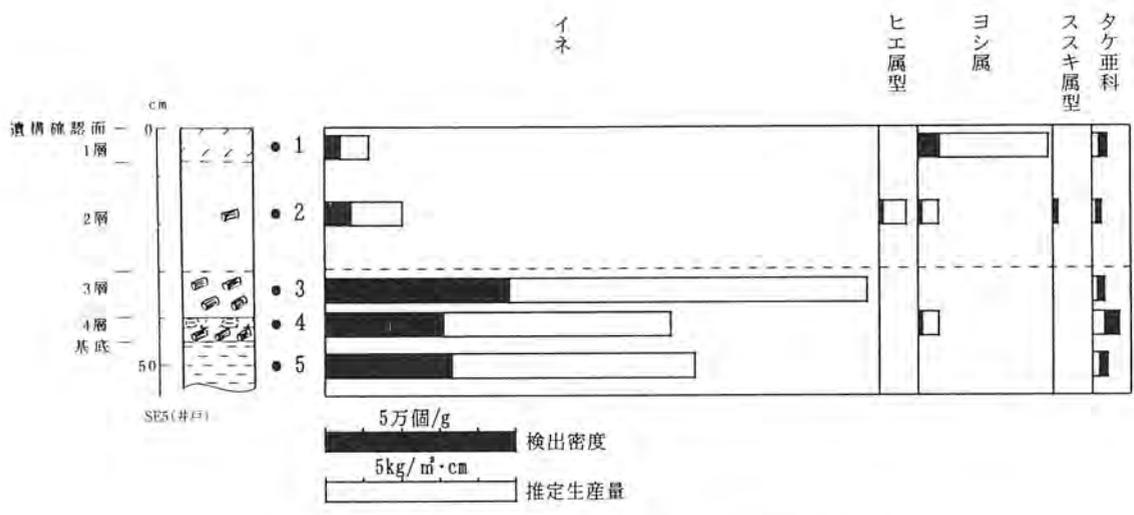
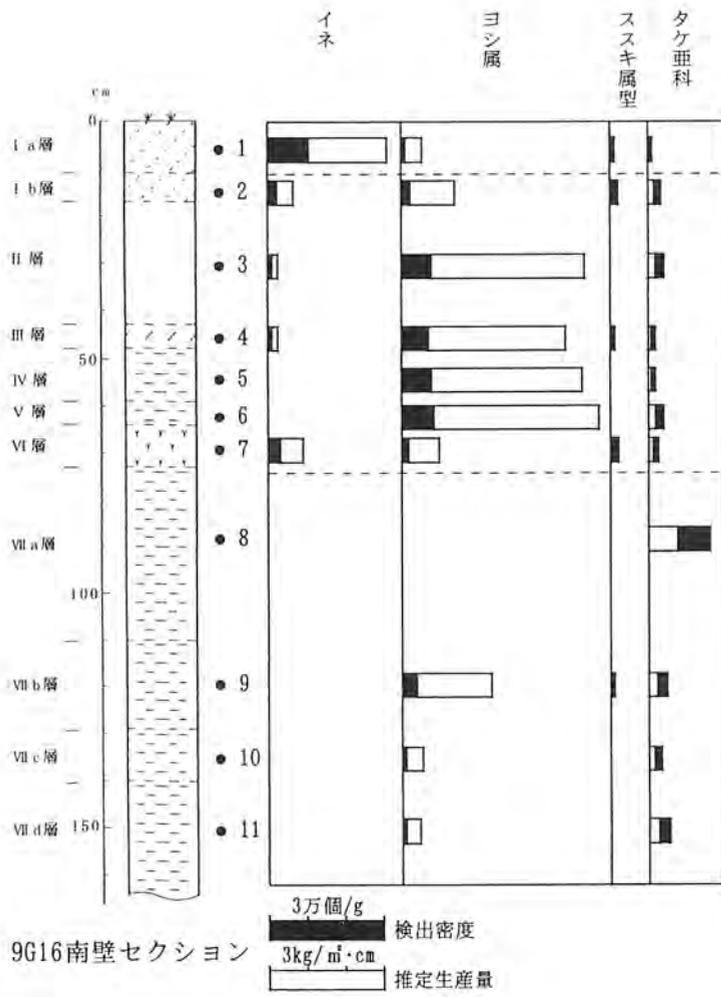


図1 山王浦遺跡におけるプラント・オパール分析結果



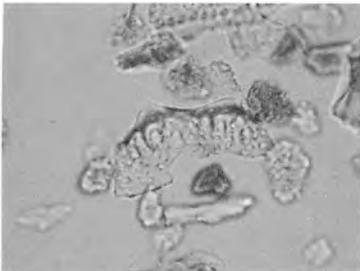
イネ  
SE5 2



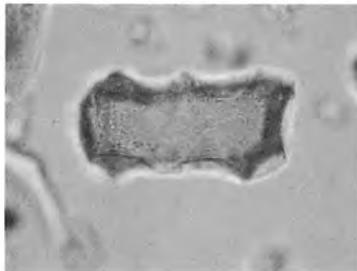
イネ  
SE5 3



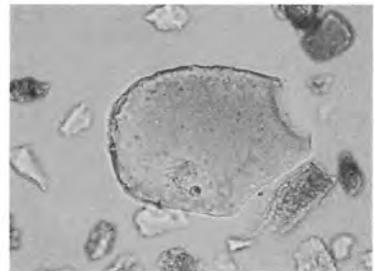
イネ  
SE5 4



イネの籾殻(穎の表皮細胞)  
SE5 3



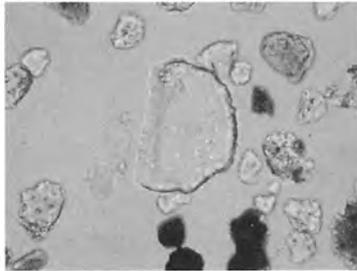
ヒエ属型  
SE5 2



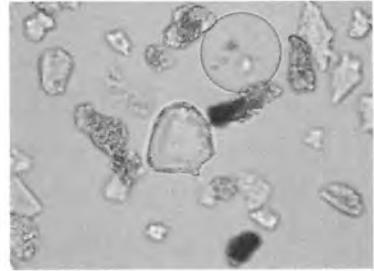
ヨシ属  
9G16南壁 3



ネザサ節型  
SE5 1



クマザサ属型  
9G16南壁 8



ミヤコザサ節型  
9G16南壁 8



表皮毛起源  
9G16南壁 1



イネ科の茎部起源  
9G16南壁 4



海綿骨針  
9G16南壁 3

植物珪酸体(プラント・オパール)の顕微鏡写真

————— 50μm

### 3 山王浦遺跡における花粉分析

金原 正子 (株式会社古環境研究所)

#### A はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象として比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

#### B 試料

試料は、9G16南壁セクションおよびS E 5 (井戸) から採取された計6点である。これらは、プラント・オパール分析に用いられた試料と同一層準から採取されたものである。

#### C 方法

花粉粒の分離抽出は、中村 (1973) の方法をもとに、以下の手順で行った。

- (1) 5%水酸化カリウム溶液を加えて15分間湯煎
- (2) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- (3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- (4) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水してアセトリシス処理を施す
- (5) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- (6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- (7) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300~1000倍で行った。花粉の同定は、島倉 (1973) および中村 (1980) をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン (-) で結んで示した。イネ属については、中村 (1974, 1977) を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

#### D 結果

##### 1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉23、樹木花粉と草本花粉を含むもの2、草本花粉13、シダ植物孢子2形態の計40である。分析結果を表1に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。以下に出現した分類群を記す。

[樹木花粉]

モミ属、トウヒ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、モチノキ属、カエデ属、トチノキ、シナノキ属、

ツツジ科、ニワトコ属ーガマズミ属

[樹木花粉と草本花粉を含むもの]

クワ科ーイラクサ科、マメ科

[草本花粉]

ガマ属ーミクリ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ソバ属、アカザ科ーヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、セリ亜科、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

[シダ植物孢子]

単条溝孢子、三条溝孢子

## 2) 花粉群集の特徴

### (1) 9 G16南壁セクション

花粉組成の変遷から、I帯とII帯の花粉分帯を設定した。以下に、花粉分帯に沿って花粉群集の特徴を記す。

I帯：VII a層(試料8)・VII b層(試料9)

VII b層(試料9)では、ハンノキ属やヨモギ属などが検出されたが、いずれも微量である。VII a層(試料8)では、花粉が検出されなかった。

II帯：IV層(試料5)・VI層(試料7)

樹木花粉よりも草本花粉の占める割合が高い。草本花粉ではイネ科が優占し、ヨモギ属やカヤツリグサ科も多い。また、アブラナ科やキク亜科なども伴われる。イネ科の主体は、プラント・オパール分析の結果(第VI章2)からヨシ属と考えられる。樹木花粉では、ハンノキ属の出現率が高く、コナラ属コナラ亜属なども伴われる。

### (2) SE5(井戸)

樹木花粉よりも草本花粉の占める割合が高い。草本花粉では、イネ科、ヨモギ属、アブラナ科、カヤツリグサ科、アカザ科ーヒユ科の出現率が高く、試料4ではソバ属、試料5ではイネ属型が伴われる。樹木花粉では、ハンノキ属の出現率が比較的高く、スギやクリなどが伴われる。

## E 花粉分析から推定される植生と環境

### (1) 9 G16南壁セクション

下位のVII a層～VII b層では、花粉がほとんど検出されなかった。花粉が検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたことなどが考えられる。

VI層およびIV層の堆積当時は、イネ科(ヨシ属など)やカヤツリグサ科などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、その周辺はヨモギ属などが生育する比較的乾燥した人里の環境であったと推定される。森林植生としては、周辺地域にハンノキの湿地林やナラ林などが分布していたと推定される。

### (2) SE5(井戸)

井戸と見られるSE5の覆土の堆積当時は、イネ科、ヨモギ属、カヤツリグサ科、アカザ科ーヒユ科などの

草本が優勢な人里の環境であったと考えられ、周辺ではイネ、ソバ属（ソバ）、アブラナ科などの栽培が行われていたと推定される。森林植生としては、周辺地域にハンノキの湿地林やスギ林、クリ林などが分布していたと推定される。

## 文献

中村純（1973）花粉分析．古今書院、p.82-110.

金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法、角川書店、p.248-262.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集、60p.

中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第13集、91p.

中村純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（*Oryza sativa*）を中心として．第四紀研究、13、p.187-193.

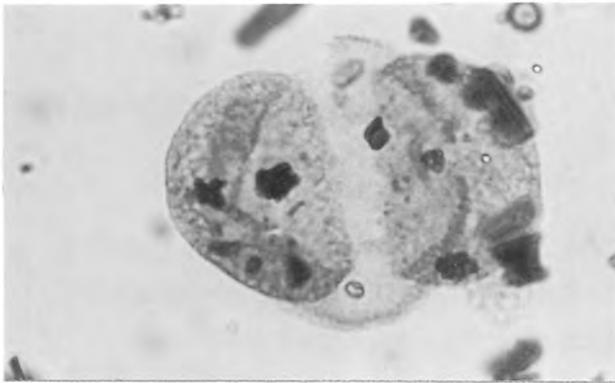
中村純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学、第10号、p.21-30.

表1 山王浦遺跡における花粉分析結果

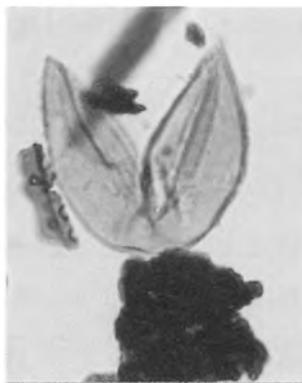
分類群		9G16南壁セクション				SE5(井戸)	
		IV層	VI層	VIIa層	VIIb層	4層	
学名	和名	5	7	8	9	4	5
Arboreal pollen	樹木花粉						
<i>Abies</i>	モミ属	1	1				
<i>Picea</i>	トウヒ属					1	
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属複維管束亜属	1				2	1
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	1	1			4	15
<i>Sciadopitys verticillata</i>	コウヤマキ					1	1
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	1				1	
<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ	1					1
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	14	18		2	19	14
<i>Betula</i>	カバノキ属	2					1
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ	3					1
<i>Castanea crenata</i>	クリ					5	3
<i>Castanopsis</i>	シイ属					1	1
<i>Fagus</i>	ブナ属	1	1				
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	1	4				6
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属		2				
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ				1	2	2
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ					1	
<i>Ilex</i>	モチノキ属				1		1
<i>Acer</i>	カエデ属	1					
<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ					4	1
<i>Tilia</i>	シナノキ属		1		1		
Ericaceae	ツツジ科	1					
<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニワトコ属-ガマズミ属						4
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉						
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	1	6			3	14
Leguminosae	マメ科						1
Nonarboreal pollen	草本花粉						
<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1
Gramineae	イネ科	35	43			15	88
<i>Oryza type</i>	イネ属型						9
Cyperaceae	カヤツリグサ科	16	10			12	26
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属					1	
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科		3			11	15
Caryophyllaceae	ナデシコ科						2
Cruciferae	アブラナ科	1	1		1	17	40
Apioidae	セリ亜科	2					3
Lactuoidae	タンポポ亜科		2			1	
Asteroidae	キク亜科	1	3				1
<i>Xanthium</i>	オナモミ属						1
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	16	34		2	20	80
Fern spore	シダ植物孢子						
Monolate type spore	単条溝孢子	17	41	1	6	45	34
Trilate type spore	三条溝孢子	3	18			12	7
Arboreal pollen	樹木花粉	28	28	0	5	41	52
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	1	6	0	0	3	15
Nonarboreal pollen	草本花粉	71	96	0	3	77	266
Total pollen	花粉総数	100	130	0	8	121	333
Unknown pollen	未同定花粉	4	9	0	1	3	3
Fern spore	シダ植物孢子	20	59	1	6	57	41
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)



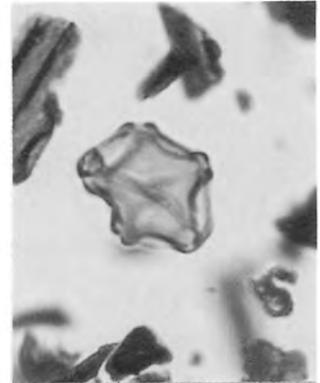
山王浦遺跡の花粉・孢子



1 マツ属複維管束胚属



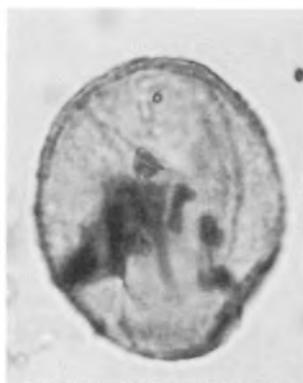
2 スギ



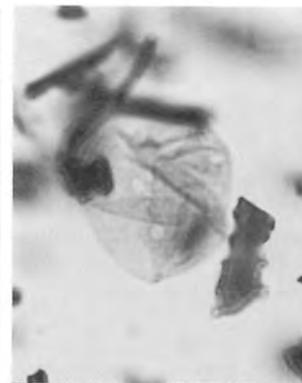
3 ハンノキ属



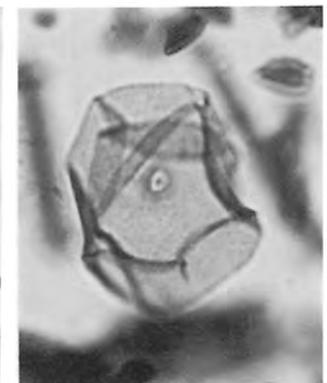
4 クリ



5 コナラ属コナラ胚属



6 クワ科-イラクサ科



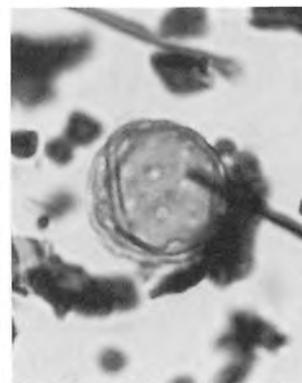
7 イネ科



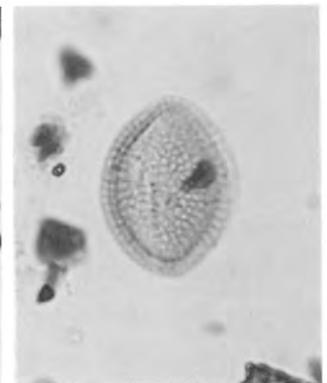
8 イネ属型



9 カヤツリグサ科



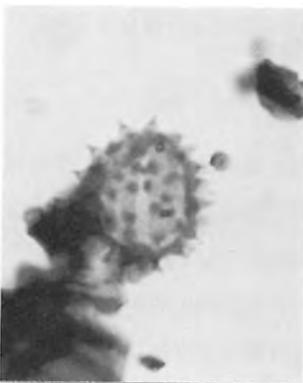
10 アカザ科-ヒユ科



11 アブラナ科



12 セリ亜科



13 キク亜科



14 ヨモギ属



15 シダ植物単条溝孢子

— 10 $\mu$ m

## 4 山王浦遺跡における樹種同定

金原 明 (株式会社古環境研究所)

### A はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から属レベル程度の同定が可能である。また、木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

### B 試料

試料は、9世紀後半とされる井戸から出土した炭化材4点である。

### C 方法

試料を割折して新鮮な基本的三断面(木材の横断面、放射断面、接線断面)を作製し、落射顕微鏡によって75~750倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

### D 結果

結果は表1に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

#### ブナ属 *Fagus* ブナ科 図版1

横断面：小型でやや角張った道管が、単独あるいは2~3個複合して密に散在する散孔材である。早材から晩材にかけて、道管の径は緩やかに減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔および階段穿孔である。放射組織はほとんど平伏細胞からなるが、ときに上下端のみ方形細胞が見られる。

接線断面：放射組織は、まれに上下端のみ方形細胞が見られるが、ほとんどが同性放射組織型で、単列のもの、2~数列のもの、大型の広放射組織のものがある。

以上の形質よりブナ属に同定される。ブナ属には、ブナ、イヌブナがあり、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20~25m、径60~70cmぐらいであるが、大きいものは高さ35m、径1.5m以上に達する。材は堅硬、緻密、韌性あり、保存性は低い。容器などに用いられる。

#### コナラ属コナラ節 *Quercus*sect. *Prinus* ブナ科 図版2

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、1~数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属コナラ節に同定される。コナラ属コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ15m、径60cmぐらいに達する。材は強韌で弾力に富み、建築材などに用いられる。

ケヤキ *Zelkova serrata* Makino ニレ科 図版3

横断面：年輪のはじめに大型の道管が1～2列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して円形、接線状ないし斜線状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部のものは方形細胞でしばしば大きくふくらんでいる。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、上下の縁辺部の細胞のなかには大きくふくらんでいるものがある。幅は1～7細胞幅である。

以上の形質よりケヤキに同定される。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20～25m、径60～70cmぐらいであるが、大きいものは高さ50m、径3mに達する。材は強靱で従曲性に富み、建築、家具、器具、船、土木などに用いられる。

ヤマグワ *Morus australis* Poiret クワ科 図版4

横断面：年輪のはじめに中型から大型の丸い道管が、単独あるいは2～3個複合して配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は複合して円形の小块をなす。道管の径は徐々に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部の1～3細胞ぐらいは直立細胞である。

接線断面：放射組織は上下の縁辺部が直立細胞からなる異性放射組織型で、1～5細胞幅である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

以上の形質よりヤマグワに同定される。ヤマグワは北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、通常高さ10～15m、径30～40cmである。材は堅硬、韌性に富み、建築などに用いられる。

## E 所 見

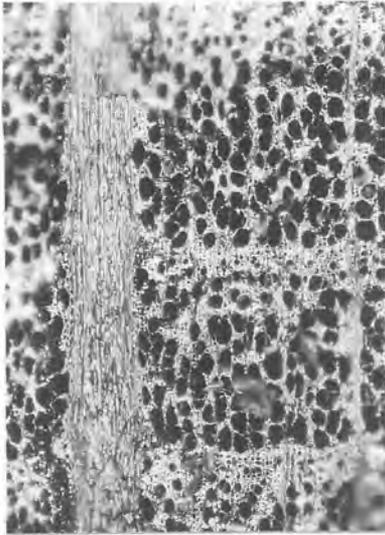
分析の結果、9世紀後半とされる井戸から出土した炭化材は、ブナ属1、コナラ属コナラ節1、ケヤキ1、ヤマグワ1と同定された。いずれの樹種も冷温帯ないし温帯に生育する樹種であり、ブナ属とコナラ属コナラ節は冷温帯落葉広葉樹林の主要構成要素である。

## 文献

佐伯浩・原田浩 (1985) 針葉樹材の細胞, 木材の構造, 文永堂出版, p.20-48.

佐伯浩・原田浩 (1985) 広葉樹材の細胞, 木材の構造, 文永堂出版, p.49-100.

山王浦遺跡の炭化材 I



横断面 ————— : 0.4mm

1. 分析No. 1 ブナ属



放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm

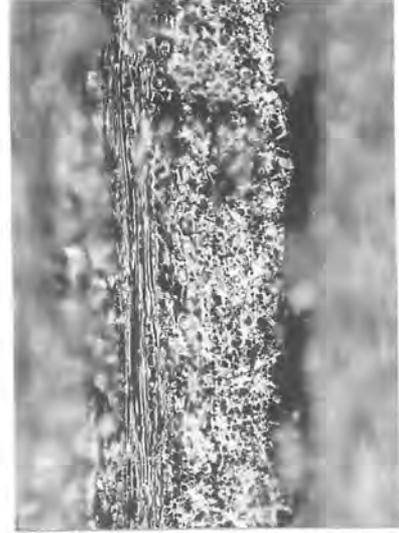


横断面 ————— : 0.4mm

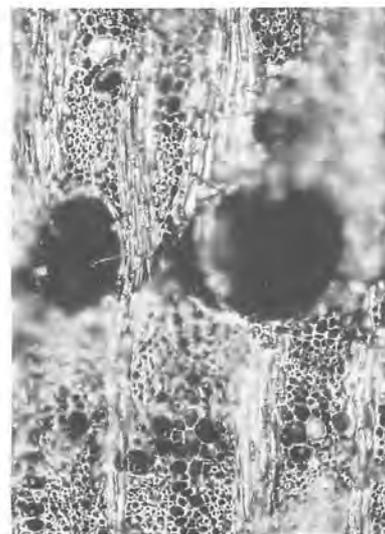
2. 分析No. 4 コナラ属コナラ節



放射断面 ————— : 0.2mm

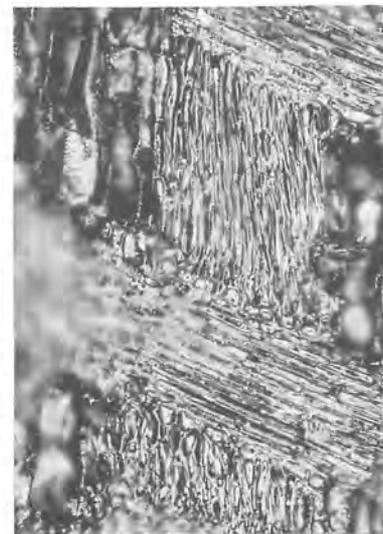


接線断面 ————— : 0.2mm

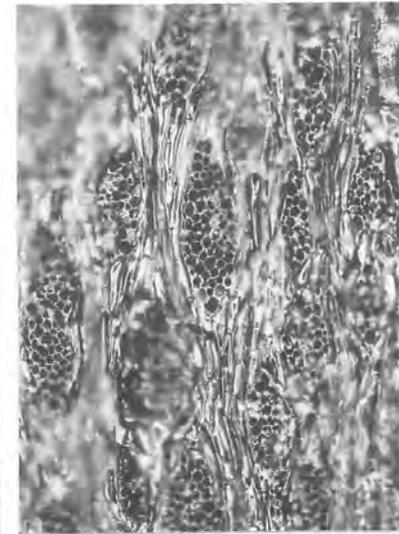


横断面 ————— : 0.2mm

3. 分析No. 3 ケヤキ

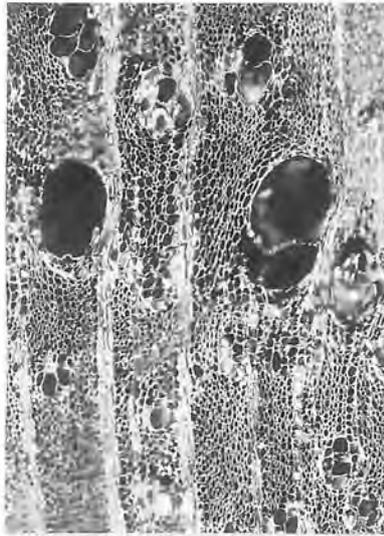


放射断面 ————— : 0.2mm

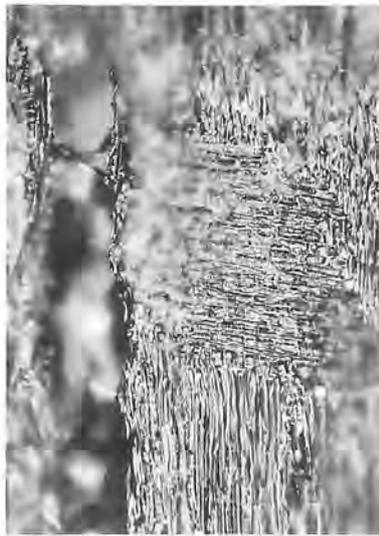


接線断面 ————— : 0.2mm

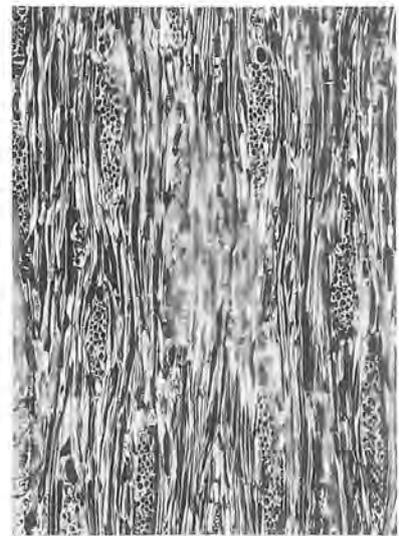
山王浦遺跡の炭化材II



横断面 : 0.2mm



放射断面 : 0.2mm



接線断面 : 0.2mm

4. 分析No.2 ヤマグワ

表1 山王浦遺跡における樹種同定結果

分析No.	遺構	層位	結果 (和名/学名)	
1	SE5	2	ブナ属	<i>Fagus</i>
2	SE5	3	ヤマグワ	<i>Morus australis</i> Poirét
3	SE5	4	ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i> Makino
4	SE5	4	コナラ属コナラ節	<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>

## 第Ⅶ章 ま と め

### 1 山王浦遺跡の遺構について

山王浦遺跡では掘立柱建物は4棟確認されている。そのうち東柱を持つ比較的大形の建物は1棟確認された。第6図に遺跡の模式図を示した。

調査区北側のS B184は北東-南西に主軸方向を持ち、雨落溝を持たない掘立柱建物である。

調査区中央のS B180・182・183は雨落溝等などの方向から主軸が北西-南東の方向を向き3棟が同方向を向く。S B184とは異なる構成の集落と考えられる。S B180は2間3間の東柱を持つ比較的大形の建物であり、おそらく居住域として機能したものと考えられる。それに対してS B182・183は若干不正形の形をなす1間1間の建物である。この2棟は柱穴も細く、居住域というより倉庫としての機能が想定される。

調査区北側と中央では層位的な関係は捉えられないが、別時期の集落域であると考えられる。前者を集落域1、後者を集落域2とした。集落域1は調査区外北側に集落が展開する可能性が高い。周辺の土坑・溝などの遺構群も性格は不明であるが集落域1に付随するものである。

集落域2は調査区外の南西側に広がる。S B180に隣接するS E5（井戸）は後述される土器の編年観からもほぼ同時期であると考えられ、同時存在した可能性が高い。周辺に散在する土坑類も含め、各々が計画的に配置された遺構群であろう。

また、倉庫と推定されるS B182・183も主軸方向に統一性があり、同時期の所産と考えてよかろう。春日真実氏の古代集落分類〔春日1995〕では、各々の建物に土坑・井戸・畑などが単位としてまとまって出現するE群に分類される。時期的には9世紀後半とし、後述する山王浦遺跡の編年観とも合致する。このような居住域・倉庫・井戸がセットとなる構成は隣接する沖ノ羽遺跡でも確認されている〔細野ほか2002〕。遺跡周辺にはS E5（井戸）の花粉分析の結果（第Ⅵ章3参照）からソバ属（ソバ）・アブラナ科の栽培が想定され、今回未確認であった畑についても近隣に存在すると考えられる。

集落域1と集落域2では後述される土器の編年では前者が古く、後者が新しい。建物の軸方位が異なることも根拠に、集落域1から集落域2への変遷が想定される。両集落域の存続時期が各々土器編年の1時期にあたり、短期間である。移動の要因としては細野氏が沖ノ羽遺跡で考察〔細野ほか2002〕したように自然災害の原因だけではなく、未墾地への移動・開墾を繰り返し、積極的な新田開発を行った結果とも捉えられ、今後の検討課題である。

遺跡の性格については遺物の面からは特殊な遺物は確認されていない。遺構の点からも特殊な集落とは言えない。近隣で米栽培なども想定されており、9世紀後半の「一般的農民層」の典型的な集落遺跡として評価される。



第6図 山王浦遺跡遺構構成図

## 2 山王浦遺跡の古代土器について

山王浦遺跡では発掘調査によって遺構から良好な一括資料が出土した。本稿では周辺地域の土器編年を参考にして山王浦遺跡の編年的位置付けを示す。主要遺構の器種構成比率を第7図に、食膳具の法量分布図を第8図に示した。組成比は口縁部残存率をもとに算出した。

前述した遺構の分布状況と各遺構の一括資料の検討から、山王浦遺跡では2時期の変遷が明らかとなった(第9図)。古段階とした集落域1を1期、新段階とした集落域2を2期と呼称する。集落域1からSK68、SD99、集落域2からSE5、SD1を取り上げた。これらの4遺構は土器の出土量が多かっただけでなく、SK68とSD99、SE5とSD1のそれぞれの間で多くの土器が接合している。このため各集落域の両遺構間には高い一括性があると考え、主要遺構として選出した。

また、SE5は層位が4層に分かれており各層位からまんべんなく土器が出土しているが、層位間での接合例も多い。このことから、SE5では層位による時期差は無いと考えられる。また、他の遺構もSE5同様、各層位間で多くの土器が接合していることから、山王浦遺跡の遺構は層位による時期差はなく、遺物の多くは遺構廃絶後の一括廃棄であると考えられる。

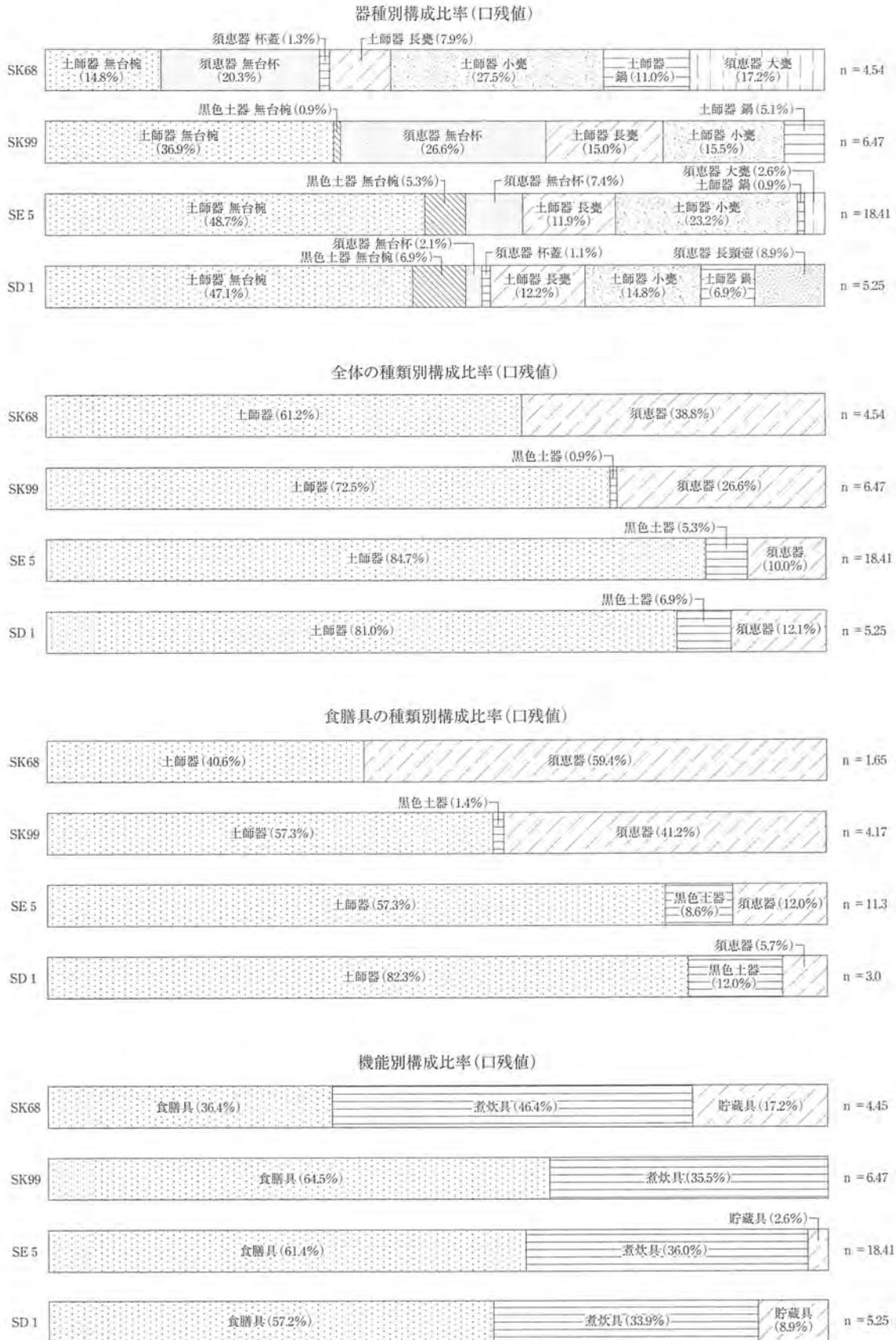
1期の主要遺構であるSK68、SD99の器種構成を見ていくと、全体では土師器が60~70%、須恵器が30%~40%と土師器が主体を占めているが、須恵器も一定量出土している。食膳具の比率を見るとSD99で土師器が57.3%、須恵器が41.2%、SK68では土師器40.6%、須恵器59.4%で、いずれも須恵器の比率が高い傾向にある。1期にはこの他に資料数が少なく土器組成比のグラフを載せてはいないが、ある程度の傾向がうかがえる遺構としてSX67、SK97が挙げられる。この2遺構の器種構成は、全体の種類別構成比でSX67は土師器・須恵器がほぼ同率を示し、SK97では土師器が4割、須恵器が6割となっている。食膳具の比率ではSX67、SK97のいずれも須恵器が85%前後を占めており、SK68、SD99同様に須恵器が高率を示すという様相が見られる。また、今まで挙げた4遺構のすべてで黒色土器の割合が極端に少ないことも特徴の一つとして挙げられる。

煮炊具では集落域1のほぼ全ての遺構から出土した土師器長甕と鍋の中で口縁部が外反し端部に面を持つ、という特徴のものが一定量出土している。貯蔵具ではSK68の須恵器大甕223が口縁端部で肥厚し外側に突出する、という特徴を持つ。

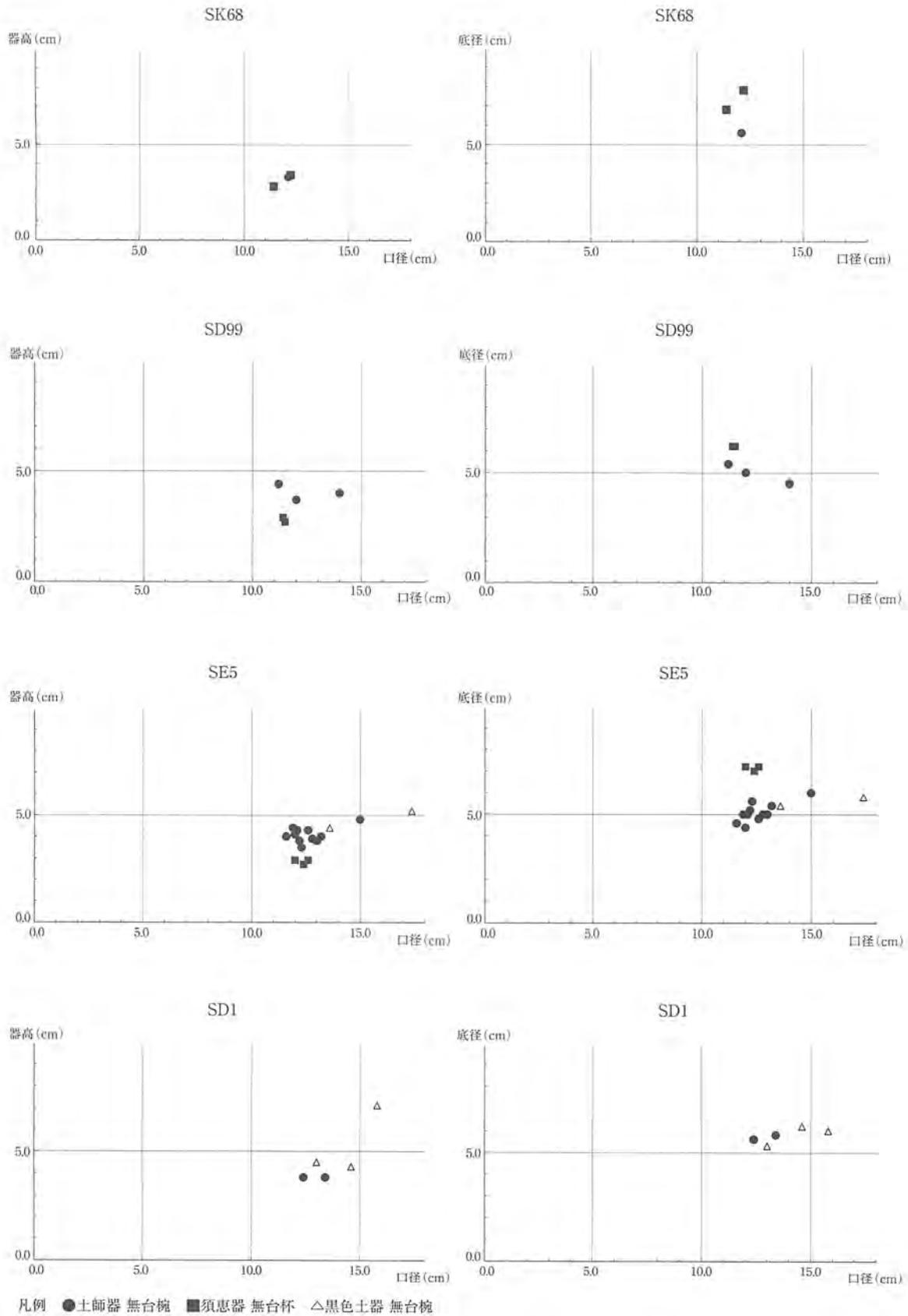
一方2期の主要遺構であるSE5、SD1を見ていくと、全体の種類別構成比では土師器が80%、須恵器が10%前後でどちらの遺構も土師器が高い比率を占めている。食膳具でもSE5は土師器が79.4%、須恵器が12%、SD1では土師器82.3%、須恵器5.7%となっており、全体でも食膳具だけでも土師器が圧倒的に高い比率を示している。また、SE5、SD1では内面が磨かれ、底部・体部外面下半にケズリを施す土師器無台碗bが一定量出土している。さらに、1期での出土が少なかった黒色土器の割合も食膳具の比率でSE5は8.6%、SD1では12.0%となっており、2期になると確実に増加していることがわかる。

煮炊具を見ていくと、SE5、SD1両遺構の土師器長甕・小甕・鍋の中で口縁端部が肥厚し上方に屈曲する、という特徴をもつものが主体を占めるようになる。貯蔵具ではSE5から口縁端部が肥厚しない薄手の大甕が出土しており、また体部に放射状の当て具を用いている大甕も出土している。

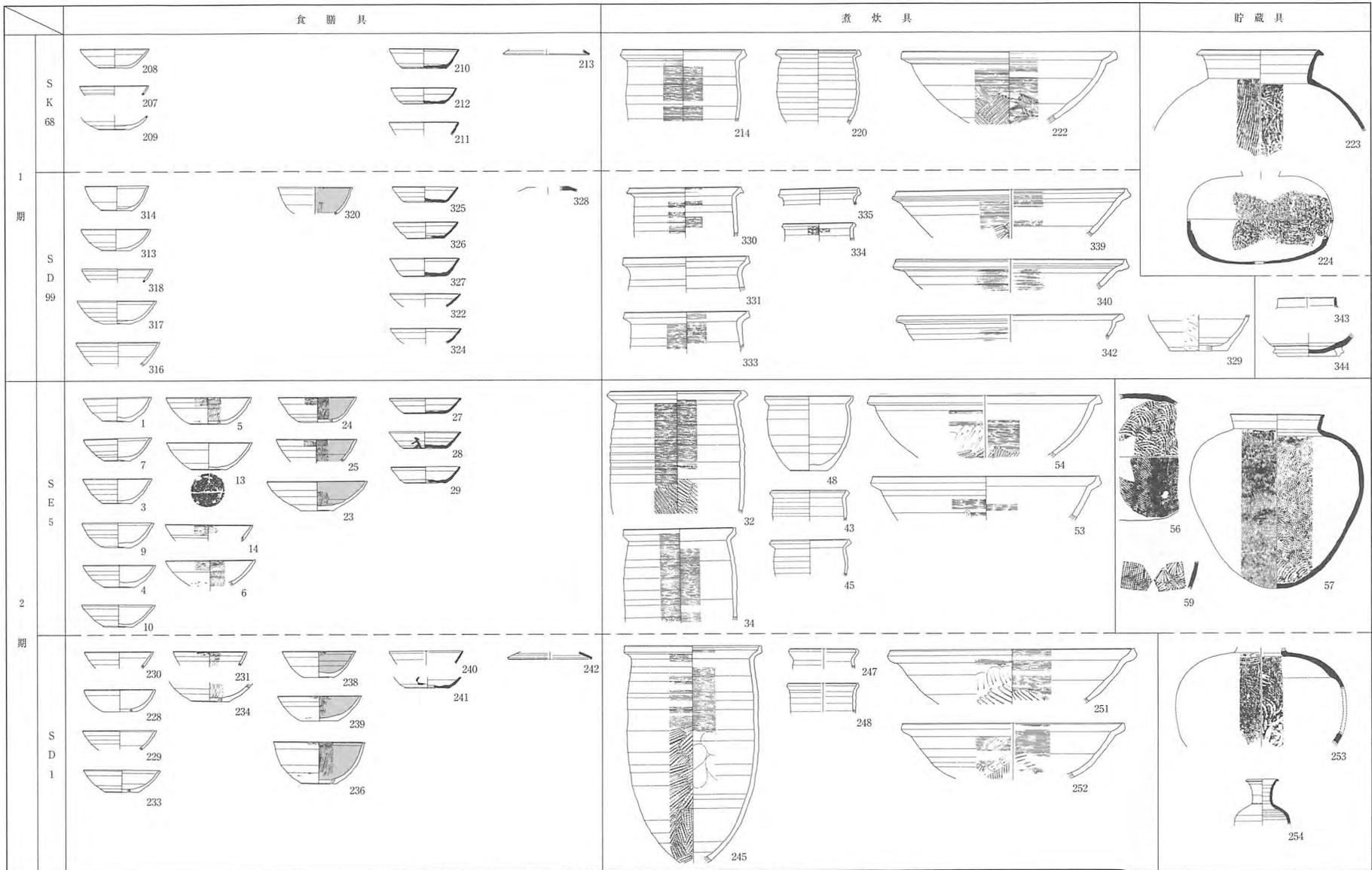
これら山王浦遺跡出土の土器の年代を考えていく上で指標となるのは須恵器無台杯である。本遺跡出土の須恵器無台杯はすべて佐渡小泊窯産であった。小泊産須恵器は9世紀以降、越後国内に向けて流通を開始し、編年的には下口沢窯段階からカメ畑窯、江ノ下窯段階と続く〔坂井ほか1991〕。



第7図 山王浦遺跡主要遺構別の器種組成図



第 8 図 山王浦遺跡主要遺構別食膳具の法量分布図



第9図 山王浦遺跡出土土器の様相 (S=1/10 57・224はS=1/15)

山王浦遺跡の須恵器無台杯を見ていくと、形態は器壁が薄手で口縁の外傾度が高いものが大半を占めている。法量的には1期では口径が13cm以上になる一群と、口径12cm前後の一群に分けることが可能である。また、食膳具の中で須恵器の割合が比較的高いことなどからも1期は「カメ畑1～3号窯」段階〔坂井1989、坂井ほか1991〕に相当する。一方2期の須恵器無台杯は口径がほぼ12.5cm前後に収まっており法量差が無くなりつつある。また、食膳具の比率も須恵器の割合が10%前後と低くなっていることから、2期は「江ノ下窯」段階〔坂井1989、坂井ほか1991〕に入る特徴を持つと考えられる。

新津市内の当該期の遺跡には中谷内遺跡〔立木ほか1999〕がある。中谷内遺跡と比較すると、山王浦遺跡1期は出土した須恵器無台杯のすべてが佐渡小泊産で新津産須恵器が見られないことや、土師器と須恵器の比率がほぼ同率、もしくは須恵器の方が高率であることなどから中谷内遺跡のSK4およびSX28・29・30と同様の様相を持つことが分かる。これらの特徴を春日真実氏の編年〔春日1997a・2003b〕（以下春日編年）に照らすと、山王浦遺跡1期はVI1期で実年代は9世紀第3四半世紀に比定できると考える。

2期は土師器の比率が80%以上を占めていることや、土師器無台碗の器高指数が35前後の高い器高を持つものが増加することなどから、中谷内遺跡のSK13・14およびSE32との対比が可能である。この中谷内遺跡SK13・14、SE32はVI2期とされている（立木1999）。しかし春日氏は2003年の論考で「VI2期とVI3期を明確に区分できない可能性もある」（春日2003b）とし、VI期の後半をVI2・3期としている。山王浦遺跡の2期もVI2期に限定できるような指標となる資料が無く、VI2期とVI3期の明確な画期が見出せない。よって山王浦遺跡2期はVI期の後半、春日編年のVI2・3期とし、実年代では9世紀第4四半世紀と捉えておく。

その他の遺構の時期を見ていくと、集落域1では須恵器大甕223がSK68・77・88・97、SD105の間で接合している。この他にもSD99とSK88、SD99とSX67など、SB184周辺の遺構間で多くの土器が接合している。また、グラフ化はしていないが集落域1の多くの遺構で須恵器の割合が高率を示している。これらのことから集落域1に含まれるSK77・88・97、SX67、SD105等の遺構がSK68、SD99と同時期のVI1期に収まるものと考えられる。

集落域2ではSE5とSD1の間で土師器の長甕をはじめとして多くの土器が接合している。しかし、SE5、SD1と接合関係にある遺構は少なく、SE5とPit8・10、SD1とSD4、Pit7といった程度である。しかしSD29とSD33、SD33とSK32というように、近接する遺構間では土器が接合しており、集落域1に含まれる遺構とは接合していない。よって、集落域2に属するSK32、SD29・33等の遺構もSE5、SD1と同様の時期、VI2・3期に比定できると考える。集落域1・2の各遺構間で土器の接合が見られないことから、2つの集落域の間に明確な時期差が存在していることがわかる。

ただし、SE5に隣接するSK25・28では須恵器の割合が高くなっており、また、集落域1がある調査区北側の西端に位置しているSK47・62では逆に土師器の割合が80%以上を占めている。各時期の中心が、VI1期では集落域1、VI2・3期では集落域2にあったことは間違いないが、それぞれの時期にVI1期では南側へ、VI2・3期では北側へ若干の広がりを持っていた可能性も考えられる。

## 引用・参考文献

- ア甘粕 健・川村浩司ほか 1992 『古津八幡山古墳Ⅰ』 新津市教育委員会
- イ飯坂盛泰ほか 2002 『一般国道7号中条黒川バイパス関係発掘調査報告書 蔵ノ坪遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 家田順一郎 1986 『小丸山遺跡』 横越村教育委員会
- 石川智紀ほか 1994 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅰ(A地区)』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川智紀ほか 2001 『国営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 新保遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石坂圭介 1997 『岩田遺跡 第2次発掘調査報告書』 越路町教育委員会
- 伊藤 崇 1998 『松山窯跡 新潟県北蒲原郡黒川村大字塩沢地内における古代窯跡の発掘調査報告書』 黒川村教育委員会
- 伊藤秀和 2001 『鬼倉遺跡—国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書—』 加茂市教育委員会
- ウ植田 真ほか 2003 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 新津市教育委員会
- 上野一久・春日真実 1997 『横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 宇野隆夫 1989 『考古資料にみる古代と中世の歴史と社会』 真陽社
- 宇野隆夫 1991 『律令社会の考古学研究 北陸を舞台として』 桂書房
- 宇野隆夫 1992 『食器計量の意義と方法』『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集 国立歴史民俗博物館
- 力春日 1991 『古代佐渡小泊窯における須恵器の生産と流通』『新潟考古学談話会』第8号 新潟考古学談話会
- 春日真実 1994 『第Ⅵ章まとめ2 古墳時代後期の土器』『北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ—一之口遺跡東地区(本文編)』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1995 『古代集落の展開』『研究紀要』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1997a 『越後・佐渡における9世紀中葉の画期』『北陸古代土器研究』第6号 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1997b 『越後における10・11世紀の土器様相』『北陸古代土器研究』第7号 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1997c 『第Ⅶ章まとめ B平安時代』『横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1998 『中組遺跡出土の緑釉陶器について』『町史研究 よしだ』第2号 吉田町教育委員会
- 春日真実 1999 『第4章古代 第2節土器編年と地域性』『新潟県の考古学』高志書院
- 春日真実 2000 『考古編 第5章 まとめ』『吉田町史 資料編1 考古・古代・中世』吉田町
- 春日真実 2003a 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅲ(C地区)』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2003b 『消費遺跡出土佐渡小泊産須恵器のロクロ回転方向—越後出土の資料を中心に』『研究紀要』第4号(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実ほか 1996 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 江内遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実・笹沢正史 1999 『越後・佐渡の様相』『北陸古代土器研究』第8号 北陸古代土器研究会
- 川上貞雄 1981 『山崎須恵窯跡』 五泉市教育委員会
- 川上貞雄 1982a 『平遺跡緊急発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1982b 『中ノ山遺跡発掘調査報告書』 亀田町教育委員会
- 川上貞雄 1992 『川口甲遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1993 『山ん家遺跡緊急発掘調査報告書』 横越村教育委員会
- 川上貞雄 1994 『八幡山遺跡Ⅰ 遺構編』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1995 『舟戸遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1996 『金津丘陵製鉄遺跡群 居村B・D地区』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1997 『上浦A遺跡 新津市工業団地第2期工事地内発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄ほか 1983 『馬場屋敷遺跡等発掘調査報告書』 白根市教育委員会
- 川上貞雄ほか 1991 『発久遺跡発掘調査報告書』 笹神村教育委員会
- 川上貞雄・木村宗文・鈴木郁夫 1989 『新津市史』資料編第1巻 原始・古代・中世 新津市
- 川村尚 2002 『佐渡郡羽茂町小泊窯跡』『新潟県考古学会第14回大会 研究発表会発表要旨』 新潟県考古学会
- キ木村宗文 1989 『資料解説—古代越後国と蒲原郡』『新津市史』資料編第1巻 原始・古代・中世 新津市
- コ小池邦明 1999 『山木戸遺跡第2次発掘調査概要』 新潟市教育委員会
- 小池邦明・藤塚明 1993 『新潟市の場遺跡 的場土地区画整理事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 小池邦明・本間桂吉 1992 『山木戸遺跡第1次発掘調査概要』 新潟市教育委員会
- 小池邦明・本間桂吉 1995 『小丸山遺跡 直り山団地建設事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 小池義人ほか 1994 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 細池遺跡 寺道上遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小池義人ほか 1998 『上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅳ 関川谷内遺跡Ⅰ』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小鍛冶快弘 1999 『茨塚遺跡発掘調査報告書』 村松町教育委員会
- サ酒井和男 1980 『三王山遺跡』 亀田町教育委員会
- 坂井秀弥 1988 『越後・佐渡における古代土器の生産と流通—8~10世紀を中心として—』『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 坂井秀弥 1989a 『北陸型土師器長甕の製作技法』『新潟考古学談話会会報』第3号 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 1989b 『第Ⅶ章まとめ 2奈良・平安時代の土器』『新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』 新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟県国道工事事務所
- 坂井秀弥 1994 『庁と館、集落と屋敷—東国古代遺跡における館の形成—』『城と館を掘る・読む—古代から中世へ—』山川出版社
- 坂井秀弥 1996 『水辺の古代官衛遺跡—越後平の内水面・舟運・漁業』『越と古代の北陸』 名著出版
- 坂井秀弥 1999 『第Ⅳ章古代 第1節総論』『新潟県の考古学』高志書院
- 坂井秀弥ほか 1984 『上新バイパス関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』 新潟県教育委員会
- 坂井秀弥ほか 1986 『北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅱ 一之口遺跡西地区』 新潟県教育委員会
- 坂井秀弥ほか 1989 『新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』 新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟県国道工事事務所
- 坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実 1991 『佐渡の須恵器』『新潟考古』第2号 新潟県考古学会

- 坂上有紀 2003 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 上浦遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
 笹澤正史 1998 『Ⅷ付編 高田平野における平安時代前半期の食膳具について』『保坂遺跡発掘調査報告書』 上越市教育委員会
- 笹澤正史 2001 『須恵器瓶類の口縁頸部接合痕跡』『北陸古代土器研究』第9号 北陸古代土器研究会  
 笹澤正史ほか 1997 『保坂遺跡発掘調査報告書』 上越市教育委員会
- シ 品田高志・伊藤啓雄 1997 『前掛り—新潟県柏崎市・前掛り遺跡発掘調査報告書—』 柏崎市教育委員会  
 品田高志・伊藤啓雄 1999 『角田—新潟県柏崎市・角田遺跡発掘調査報告書—』 柏崎市教育委員会  
 清水潤三 1955 『新潟県中蒲原郡川根独木舟』『日本考古学年報』3 日本考古学協会  
 上越市 2003 『上越市史』資料編2 考古
- ス 鈴木俊成 1994 『第Ⅵ章まとめ 1平安時代の土器』『北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一之口遺跡東地区(本文編)』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
 鈴木俊成ほか 1998 『県営ほ場整備事業(神林村)関連埋蔵文化財発掘調査報告書 天王前遺跡・有明の場遺跡・石川遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
 鈴木俊成・遠藤孝司 1988 『北陸自動車道 糸魚川地区発掘調査報告書Ⅴ 小出越遺跡』 新潟県教育委員会  
 鈴木俊成・春日真実・高橋一功 1994 『北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一之口遺跡東地区(本文編)』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- タ 高野裕子・渡邊朋和 2003 『川口乙遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会  
 高橋与右エ門 1984 『須恵器大甕にみられる「放射状当て具痕」について』『紀要』Ⅳ (財)岩手県埋蔵文化財センター  
 滝沢規朗ほか 1995 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 大坂上道遺跡・猿額遺跡・中棚遺跡・牧ノ沢遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 田嶋明人 1988 『古代土器編年軸の設定』『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 田中 靖 1996 『門新遺跡 外割田地区』 和島村教育委員会  
 田中 靖ほか 1995 『門新遺跡』 和島村教育委員会
- ツ 立木宏明ほか 1998 『細池遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会  
 立木宏明ほか 1999 『中谷内遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会  
 立木宏明ほか 2000 『川根遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会  
 立木宏明・高野裕子ほか 2002 『内野遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会  
 立木宏明・澤野慶子ほか 2003 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅰ』 新津市教育委員会  
 鶴巻康志 1998 『市道関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ 山王浦遺跡第1・2次調査 松橋遺跡 岡塚館跡』 新発田市教育委員会  
 鶴巻康志・若林知美ほか 2003 『桑ノ口遺跡発掘調査報告書』 新発田市教育委員会
- ト 東北中世考古学会編 2001 『東北中世考古学叢書2 掘立と堅穴 中世遺構論の課題』 東北中世考古学会編  
 土橋由理子 1999 『国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ 牛道遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ナ 長岡市 1992 『長岡市史』資料編1 考古  
 長澤展生ほか 2002 『無頭遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- ハ 八森繁治・中村美恵子 1988 『新潟県上越市四ッ屋遺跡発掘調査報告書』 四ッ屋遺跡調査団  
 新潟市史編さん原始古代中世史会 1994 『新潟市史』資料編1原始古代中世 新潟市
- ヒ 廣野耕造 2000 『前田遺跡 県営かんがい排水事業に伴う発掘調査報告書』 新潟市教育委員会  
 廣野耕造・朝岡政康 1999 『大淵遺跡 宅地開発事業に伴う発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- フ 藤塚 明・小池邦明・渡邊朋和 1982 『新潟市小丸山遺跡発掘調査概報』 新潟市教育委員会  
 古川百作 1982 『川根の丸木舟発掘』『新津郷土誌』第9号 新津郷土誌料研究会
- ホ 星野信明ほか 1996 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅱ(B地区)』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
 細野高伯ほか 2002 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- マ 満日郷土史編纂委員会 1977 『満日郷土史』
- モ 望月精司 1997 『第2章各地域の土師器生産と土師器焼成遺構 第4節北陸』『古代の土師器生産と焼成遺構』 真陽社
- ヤ 山崎 天 1999a 『橋田B遺跡』 五泉市教育委員会  
 山崎 天 1999b 『小美山遺跡』 五泉市教育委員会  
 山中雄志 1998 『福島県会津地方の越後・出羽日本海系クロコ長胴甕—そのアウトラインについての研究ノート—』『東国史論』第13号 群馬考古学研究会
- 山本 仁 1996 『村松町城下遺跡発掘調査報告書』 村松町教育委員会  
 横山勝栄・竹田和夫ほか 1987 『新潟県中世城跡等分布調査報告書』 新潟県教育委員会
- ヨ 吉井雅勇 1994 『古谷地B遺跡・寺田遺跡・赤井遺跡 県営圃場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』 荒川町教育委員会  
 吉井雅勇 2001 『田島遺跡 県営圃場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』 荒川町教育委員会  
 吉井雅勇ほか 1999 『元山窯跡群 平成9・10年度町内遺跡試掘確認調査報告書』 荒川町教育委員会  
 吉井雅勇ほか 2002 『鴨侍遺跡—一級河川乙日川(烏川工区)統一級河川整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 荒川町教育委員会
- 渡邊朋和 1991 『長沼遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会  
 ヲ 渡邊朋和 1992 『上浦遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会  
 渡邊朋和 1994a 『八幡山遺跡発掘調査報告書—平成5年度範囲確認調査—』 新津市教育委員会  
 渡邊朋和 1994b 『平成5年度 新津市内遺跡確認調査報告書』 新津市教育委員会  
 渡邊朋和 1999 『第4章第4節第3項製鉄』『新潟県の考古学』 新潟県考古学会  
 渡邊朋和ほか 1997 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ 居村遺跡E・A・C地点、大入り遺跡A地点』 新津市教育委員会  
 渡邊朋和ほか 1998 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅲ(分析・考察編)』 新津市教育委員会  
 渡邊朋和ほか 2001 『寺道上遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会  
 渡邊朋和ほか 2002 『中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 新津市教育委員会
- 渡辺ますみ 1991 『荒木前遺跡』 亀田町教育委員会  
 渡辺ますみ 1994 『緒立C遺跡発掘調査報告書』 黒崎町教育委員会  
 渡辺ますみ 1998 『第2章 原始・古代—緒立遺跡—第3節出土遺物第3項 奈良・平安時代の遺物1』『黒崎町史資料編1』原始・古代・中世 黒崎町
- 渡辺美穂子・田中耕作 2001 『坂ノ沢C遺跡Ⅱ(平安時代編)』 新発田市教育委員会

別表1 山王浦遺跡遺構計測表

調査No.	遺構	クワド	時代	確認部	主軸方位	原 形 (m)				傾 度	断面傾斜 (m)	形 状		階 土	遺物の有無	遺物図版	遺構の長さ(m)	幅(m)	面積(m <sup>2</sup> )	
						上 端	下 端	幅 度	深 度			断 面	断 面							
14-22	SK5	7F-6(11-12-16-17)	古代	瓦	N-69°-W	4.50	2.10	2.40	1.30	0.50	3.10	不整形	台形	4	○	32-33-34-35-54	49	28	828	
14-15-22	SK28	4E-19-19-24	古代	瓦	N-7°-W	1.10	1.10	0.70	0.70	0.30	3.30	不整形	台形	4	○	35-36	2	36	36	
14-15-23	SK25	6E-22-24, 7E-3-4	古代	瓦	N-71°-W	2.60	1.00	2.40	0.80	0.10	3.50	槽内形	扇形	2	○	36-37	3	262		
14-23	SK20	7F-6	古代	瓦	N-43°-W	0.70	0.50	0.50	0.30	0.10	3.50	槽内形	扇形	1	○	37	1	37		
16-23	SK41	6F-4	古代	瓦	N-68°-W	0.50	0.80	0.32	0.60	0.12	3.38	槽内形	扇形	2	○	37	3	269		
15-23	SK61	6D-15	古代	瓦	-	1.00	-	0.90	0.90	0.08	3.52	不整形	扇形	1	○	37	1	37		
13-16-23	SK22	6F-15	古代	瓦	N-10°-E	1.20	0.70	1.02	0.53	0.12	3.48	槽内形	扇形	2	○	37	1	37		
16-23-31	SK57	5F-9-10-14	古代	瓦	N-66°-W	0.88	0.52	0.71	0.29	0.10	3.50	槽内形	扇形	1	○	37	1	37		
20-23	SK64	4C-19-17-21-22	古代	瓦	N-7°-W	1.50	-	1.00	-	0.20	3.40	不整形	扇形	3	○	37	1	37		
16-17-20-21-24	SK40	SC-2-7	古代	瓦	N-7°-W	1.30	1.60	1.10	1.32	0.43	3.17	槽内形	扇形	2	○	37-38	1	38		
18-24	SK62	5D-9-14	古代	瓦	N-10°-W	1.53	1.50	0.70	0.81	0.50	3.10	不整形	台形	3	○	38-54-55	4	386		
15-18-24	SK47	5D-14-15	古代	瓦	N-15°-W	1.30	1.28	0.73	0.88	0.36	3.24	内形	台形	3	○	38	1	4		
15-18-24	SK46	5E-11-16	古代	瓦	N-24°-E	0.54	0.72	0.24	0.28	0.10	3.50	槽内形	扇形	2	○	39	1	39		
15-18-24	SK48	5D-15, 5E-11	古代	瓦	N-12°-E	0.86	1.02	0.58	0.68	0.20	3.40	不整形	台形	3	○	39	1	39		
15-18-24	SK59	5D-10-16	古代	瓦	N-1°-E	0.80	0.80	0.50	0.49	0.10	3.50	内形	半円形	2	○	39	1	39		
19-25	SK60	4E-19-20-24-26	古代	瓦	N-34°-E	2.34	1.66	2.10	1.38	0.10	3.40	槽内形	扇形	1	○	39	3	183		
19-25	SK114	4E-13	古代	瓦	N-23°-E	0.46	0.42	0.32	0.25	0.08	3.52	不整形	扇形	2	○	39	1	39		
19-21-26	SK111	4E-7-12	古代	瓦	N-10°-W	1.54	1.28	1.31	1.11	0.09	3.51	槽内形	扇形	2	○	39	1	39		
19-21-29	SK67	4E-9-10-14-15, 4F-6-11	古代	瓦	-	1.26	3.55	0.94	3.11	0.22	3.38	不整形	台形	2	○	39-40	7	117		
19-21-26	SK77	4F-1-6	古代	瓦	N-20°-E	2.20	1.49	1.80	1.30	0.10	3.50	不整形	扇形	1	○	40	2	114		
19-20-21-26	SK84	3F-22, 4F-3	古代	瓦	N-16°-E	0.82	0.32	0.56	0.16	0.08	3.52	槽内形	扇形	1	○	41	1	41		
19-20-21-26	SK66	3F-22, 4E-2	古代	瓦	N-24°-E	1.65	0.43	1.40	0.29	0.12	3.48	槽内形	扇形	2	○	40	1	40		
19-20-21-26	SK97	5F-12-17	古代	瓦	N-34°-W	2.19	1.78	1.80	0.85	0.15	3.45	不整形	扇形	2	○	40-41	3	12		
19-20-21-26	SK112	3F-18-23	古代	瓦	N-15°-E	0.66	0.50	0.35	0.23	0.10	3.50	不整形	扇形	1	○	41	1	41		
20-21-26	SK104	3F-14-19	古代	瓦	N-45°-W	0.92	0.42	0.52	0.18	0.12	3.49	槽内形	扇形	1	○	41	1	41		
19-20-21-27	SK68	3F-12, 3F-17-18	古代	瓦	N-90°-E	2.10	2.24	1.92	1.16	0.16	3.44	不整形	台形	2	○	41-42	5	2124		
20-21-27	SK69	5F-4-5-10	古代	瓦	N-25°-W	1.35	2.35	0.98	2.09	0.19	3.41	槽内形	扇形	3	○	42	1	42		
20-21-27	SK88	3F-4-9	古代	瓦	N-87°-E	0.88	0.66	0.64	0.32	0.12	3.48	不整形	台形	2	○	42	1	42		
11-13-14-27-30	SD1	8F-4-9-9-11-12-13	古代	瓦	N-47°-E	5.82	0.79	5.50	0.54	0.30	3.22	不整形	半円形	3	○	42-43-54	6	193		
11-14-28	SD4	7E-22, 8E-2-7	古代	瓦	N-31°-E	3.24	0.84	3.04	0.64	0.10	3.50	不整形	扇形	2	○	44	1	44		
14-15-16-28-30	SD29	6E-20, 6E-16-17-21-22-23	古代	瓦	N-68°-W	6.10	0.33	5.92	0.23	0.16	3.44	不整形	扇形	2	○	44	1	44		
13-16-28-30	SD33	6E-3-4-9-10	古代	瓦	N-66°-W	4.92	0.99	4.76	0.75	0.12	3.48	不整形	扇形	2	○	45-46	4	1100		
16-28-31	SK37	5F-18-19-22-24-26	古代	瓦	N-69°-W	-	4.18	0.99	-	3.85	0.20	3.54	不整形	台形	2	○	46-55	6	173	
20-21-28	SD105	5F-19-19-24	古代	瓦	N-40°-W	-	0.32	-	-	0.13	3.46	不整形	台形	2	○	46	1	46		
20-21-28-29	SD119	5F-18-19-24	古代	瓦	-	-	0.32	-	-	0.14	3.46	不整形	台形	2	○	46	1	46		
19-21-29	SD99	3E-22-23, 4E-2-3-4-5-9-10	古代	瓦	N-66°-W	-	1.50	-	1.00	0.18	3.42	不整形	扇形	3	○	46-47-48	6	47		
20-21-29	SK66	3F-8-9-13	古代	瓦	N-25°-W	-	0.32	-	-	0.16	3.44	不整形	扇形	2	○	46	1	46		
19-21-29	SK68	3E-25, 4E-5	古代	瓦	N-30°-W	2.54	0.54	2.24	0.54	0.12	3.48	不整形	扇形	2	○	48	1	48		
20-21-29	SD63	5F-15-20	古代	瓦	N-10°-W	1.50	0.36	1.08	0.16	-	-	不整形	扇形	2	○	48	1	48		
11-14-30	PK2	8E-12	古代	瓦	-	0.42	0.24	0.41	0.16	-	-	不整形	扇形	1	○	48	1	48		
11-14-30	PK3	8E-6	古代	瓦	-	0.48	0.40	0.24	0.16	-	-	不整形	扇形	1	○	48	1	48		
11-11-14-30	PK7	8E-4	古代	瓦	-	0.18	0.12	0.18	0.12	-	-	不整形	扇形	1	○	48	1	48		
14-30	PK8	7F-22-23	古代	瓦	-	0.34	0.30	0.24	0.16	-	-	不整形	扇形	1	○	48	1	48		
14	PK9	7F-23	古代	瓦	-	0.28	0.04	0.32	0.09	-	-	不整形	扇形	1	○	48	1	48		
14-30	PK10	7F-22	古代	瓦	-	0.38	0.16	0.40	0.17	-	-	不整形	扇形	1	○	48	1	48		
14-30	PK11	8E-1	古代	瓦	-	0.56	0.18	0.52	0.16	-	-	不整形	扇形	1	○	48	1	48		
14	PK12	7F-21	古代	瓦	-	0.40	0.20	0.46	0.18	-	-	不整形	扇形	1	○	48	1	48		
14	PK14	7F-13	古代	瓦	-	0.39	0.20	0.46	0.21	-	-	不整形	扇形	1	○	48	1	48		
14-29	PK16	7F-8	古代	瓦	-	0.57	0.53	0.40	0.37	0.10	3.50	槽内形	扇形	1	○	48	1	48		
14-29	PK17	7F-7-12	古代	瓦	-	0.58	0.71	0.27	0.47	0.16	3.44	槽内形	扇形	2	○	48	1	48		
14-15	PK21	7E-9	古代	瓦	-	0.28	0.08	0.26	0.06	-	-	不整形	扇形	1	○	48	1	48		
11-13-14-27-30	PK24	8F-8-9	古代	瓦	-	0.45	0.11	0.46	0.10	-	-	不整形	扇形	1	○	48	1	48		
14-15-29	PK26	8E-24	古代	瓦	-	0.40	0.14	0.29	0.18	0.07	3.53	不整形	扇形	1	○	44	1	44		
14-15-22	PK27	6E-24	古代	瓦	-	0.38	0.29	0.47	0.33	0.07	3.53	槽内形	扇形	1	○	49	1	49		
16	PK34	6F-4	古代	瓦	-	0.36	0.36	0.12	0.11	-	-	不整形	扇形	1	○	49	1	49		
14-15	PK35	7E-4-9	古代	瓦	-	0.36	0.36	0.14	0.14	-	-	不整形	扇形	1	○	49	1	49		
14-15-16-30	PK39	6E-21	古代	瓦	-	0.16	0.18	0.16	0.14	-	-	不整形	扇形	1	○	49	1	49		
13-16-30	PK69	6F-10	古代	瓦	-	0.16	0.18	0.08	0.12	0.06	3.54	内形	半円形	1	○	49	1	49		
20-21-31	PK90	3F-9-14	古代	瓦	-	0.40	0.38	0.18	0.24	-	-	不整形	扇形	1	○	49	1	49		
19-21-31	PK92	3F-6	古代	瓦	-	0.47	0.36	0.26	0.24	-	-	不整形	扇形	1	○	49	1	49		
19-21	PK94	3F-21	古代	瓦	-	0.38	0.38	0.12	0.16	-	-	不整形	扇形	1	○	49	1	49		
19-21	PK95	3E-20, 3F-16	古代	瓦	-	0.38	0.32	0.12	0.10	-	-	不整形	扇形	1	○	49	1	49		
19-21-31	PK96	3E-15-20	古代	瓦	-	0.24	0.30	0.18	0.16	-	-	不整形	扇形	1	○	49	1	49		
18	PK100	5D-13	古代	瓦	-	0.28	0.18	0.16	0.12	-	-	不整形	扇形	1	○	49	1	49		
13-14	PK108	7F-9	古代	瓦	-	0.19	0.24	0.12	0.16	-	-	不整形	扇形	1	○	49	1	49		
18	PK113	4D-19	古代	瓦	-	0.18	0.18													

図版 No.	透視	グリッド	時代	雑断面	主軸方位	傾 度 (m)				傾度	断面傾度 (m)	形 態		土 質	透納の 種類	透納 図版 頁	傾 度	重量 (g)
						長軸	短軸	長軸	短軸			円形	断面					
16	Pl63	6F-5	古代	Yes	-	0.14	0.14	0.08	0.07	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
17	Pl65	5G-9	古代	Yes	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
13-14-16-30	Pl70	6F-14-16	古代	Yes	-	0.19	0.18	0.08	0.08	-	-	円形	-	-	-	-	-	
16-20	Pl71	6F-13	古代	Yes	-	0.18	0.20	0.08	0.08	-	-	円形	-	-	-	-	-	
13-16-28	Pl72	6F-9	古代	Yes	-	0.18	0.18	0.08	0.09	-	-	円形	-	-	-	-	-	
13-16-30	Pl73	6F-8	古代	Yes	-	0.15	0.15	0.02	0.02	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
18	Pl74	6F-3	古代	Yes	-	0.14	0.12	0.02	0.03	-	-	楕円形	-	-	-	-	-	
19-20-21	Pl75	4F-13	古代	Yes	-	0.24	0.28	0.12	0.16	-	-	円形	-	-	-	-	-	
20	Pl76	4F-25	古代	Yes	-	0.22	0.23	0.14	0.14	-	-	楕円形	-	-	-	-	-	
16	Pl78	5F-25	古代	Yes	-	0.12	0.12	0.07	0.06	-	-	円形	-	-	-	-	-	
16	Pl79	5F-25	古代	Yes	-	0.15	0.12	0.09	0.07	-	-	円形	-	-	-	-	-	
16	Pl80	5F-16	古代	Yes	-	0.18	0.18	0.12	0.12	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
16	Pl81	5F-9	古代	Yes	-	0.10	0.10	0.06	0.08	-	-	円形	-	-	-	-	-	
16	Pl82	5F-19	古代	Yes	-	0.14	0.14	0.08	0.06	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
16-31	Pl83	5F-18	古代	Yes	-	0.20	0.18	0.18	0.12	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
19-20-21	Pl85	4F-6	古代	Yes	-	0.22	0.22	0.08	0.10	-	-	円形	-	-	-	-	-	
11	Pl87	6F-22	古代	Yes	-	0.16	0.16	0.03	0.04	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
19-20-21-31	Pl91	3F-3	古代	Yes	-	0.24	0.26	0.20	0.20	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
19-21-31	Pl101	3F-21	古代	Yes	-	0.44	0.44	0.24	0.20	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
19-21	Pl102	3E-25	古代	Yes	-	0.18	0.20	0.04	0.04	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
19-21	Pl103	4F-1	古代	Yes	-	0.44	0.38	0.14	0.20	-	-	楕円形	-	-	-	-	-	
19-21-28	Pl106	4F-1	古代	Yes	-	0.32	0.28	0.16	0.16	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
12	Pl107	8G-2	古代	Yes	-	0.20	0.18	0.16	0.14	-	-	円形	-	-	-	-	-	
19-21-28	Pl109	4E-15	古代	Yes	-	0.24	0.22	0.14	0.08	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
19-21	Pl110	4E-5	古代	Yes	-	0.26	0.22	0.16	0.14	-	-	楕円形	-	-	-	-	-	
19	Pl116	3E-19	古代	Yes	-	0.18	0.22	0.12	0.12	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
19-21	Pl116	3E-25	古代	Yes	-	0.18	0.18	0.16	0.15	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
19-21	Pl117	4E-15	古代	Yes	-	0.16	0.18	0.10	0.10	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
19-21-29	Pl118	4E-10	古代	Yes	-	0.26	0.34	0.12	0.12	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
19	Pl120	4E-17	古代	Yes	-	0.30	0.34	0.14	0.26	-	-	楕円形	-	-	-	-	-	
16-17	Pl121	6G-2	古代	Yes	-	0.20	0.21	0.08	0.12	-	-	円形	-	-	-	-	-	
13-16	Pl122	6G-7	古代	Yes	-	0.24	0.22	0.12	0.13	-	-	円形	-	-	-	-	-	
13-17	Pl123	6G-17	古代	Yes	-	0.19	0.22	0.15	0.12	-	-	円形	-	-	-	-	-	
13-17	Pl124	6G-18	古代	Yes	-	0.21	0.24	0.16	0.12	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
13-17	Pl125	6G-19	古代	Yes	-	0.21	0.20	0.14	0.13	-	-	円形	-	-	-	-	-	
13-17	Pl126	6G-19	古代	Yes	-	0.20	0.19	0.10	0.12	-	-	円形	-	-	-	-	-	
13-17	Pl127	6G-19	古代	Yes	-	0.24	0.21	0.14	0.14	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
19-21	Pl128	4F-7	古代	Yes	-	0.18	0.20	0.15	0.14	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
17	Pl129	8H-2	古代	Yes	-	0.16	0.16	0.04	0.05	-	-	円形	-	-	-	-	-	
14	Pl130	7E-20, 7F-16	古代	Yes	-	0.21	0.21	0.20	0.20	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
18	Pl132	5D-1	古代	Yes	-	0.14	0.14	0.02	0.02	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl133	4D-21	古代	Yes	-	0.16	0.15	0.03	0.02	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl134	5D-2	古代	Yes	-	0.16	0.20	0.03	0.04	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl135	5D-2	古代	Yes	-	0.06	0.08	0.02	0.02	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
18	Pl136	5D-2	古代	Yes	-	0.15	0.15	0.06	0.06	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl137	5D-3	古代	Yes	-	0.14	0.12	0.03	0.04	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl138	4D-22	古代	Yes	-	0.18	0.18	0.12	0.08	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl139	4D-22	古代	Yes	-	0.24	0.24	0.08	0.08	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl140	4D-22	古代	Yes	-	0.16	0.12	0.03	0.02	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl141	4D-23	古代	Yes	-	0.18	0.14	0.03	0.04	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl142	5D-3	古代	Yes	-	0.21	0.22	0.04	0.05	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl143	4D-23, 5D-3	古代	Yes	-	0.14	0.15	0.06	0.06	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl144	4D-21	古代	Yes	-	0.18	0.18	0.03	0.03	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl145	4D-23	古代	Yes	-	0.20	0.20	0.08	0.08	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl146	5D-4	古代	Yes	-	0.20	0.20	0.06	0.07	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl147	5D-4	古代	Yes	-	0.16	0.18	0.14	0.14	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl148	5D-4	古代	Yes	-	0.21	0.18	0.09	0.10	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
18	Pl149	4D-23	古代	Yes	-	0.14	0.12	0.04	0.04	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
18	Pl150	4D-23	古代	Yes	-	0.12	0.12	0.04	0.04	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl151	4D-23	古代	Yes	-	0.16	0.15	0.04	0.04	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl152	4D-23	古代	Yes	-	0.24	0.24	0.04	0.05	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl153	4D-24	古代	Yes	-	0.15	0.15	0.04	0.04	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl154	4D-24	古代	Yes	-	0.12	0.12	0.04	0.04	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl155	4D-24	古代	Yes	-	0.12	0.12	0.04	0.04	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl156	5D-4	古代	Yes	-	0.22	0.19	0.12	0.12	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
18	Pl157	5D-4	古代	Yes	-	0.16	0.16	0.08	0.07	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
18	Pl158	5D-4	古代	Yes	-	0.16	0.16	0.09	0.09	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
18	Pl159	5D-4	古代	Yes	-	0.16	0.16	0.08	0.08	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
18	Pl160	5D-5	古代	Yes	-	0.16	0.16	0.05	0.04	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl161	5D-5	古代	Yes	-	0.14	0.15	0.07	0.08	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
18	Pl162	5D-4	古代	Yes	-	0.16	0.16	0.08	0.08	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
18	Pl163	5D-4	古代	Yes	-	0.16	0.16	0.08	0.08	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
18	Pl164	4D-24	古代	Yes	-	0.19	0.19	0.06	0.06	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
18	Pl165	4D-24	古代	Yes	-	0.17	0.17	0.04	0.04	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
18	Pl166	4D-25	古代	Yes	-	0.16	0.16	0.06	0.06	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
18	Pl167	4D-24, 5D-4	古代	Yes	-	0.26	0.25	0.06	0.06	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
18	Pl168	4D-19	古代	Yes	-	0.18	0.18	0.04	0.04	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
18	Pl169	4D-19	古代	Yes	-	0.19	0.19	0.10	0.10	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl170	4D-19	古代	Yes	-	0.18	0.18	0.06	0.06	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl171	5D-5	古代	Yes	-	0.18	0.18	0.04	0.04	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
18	Pl172	4D-20	古代	Yes	-	0.18	0.18	0.07	0.07	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl173	4E-16	古代	Yes	-	0.24	0.24	0.04	0.04	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl174	4D-20	古代	Yes	-	0.20	0.20	0.06	0.06	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl175	4D-20	古代	Yes	-	0.19	0.19	0.05	0.05	-	-	円形	-	-	-	-	-	
18	Pl176	4D-20	古代	Yes	-	0.21	0.24	0.18	0.18	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
18	Pl177	4D-20	古代	Yes	-	0.28	0.28	0.20	0.20	-	-	不定形	-	-	-	-	-	
19-21	Pl178	3E-10	古代	Yes	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
18	Pl179	4D-9-14	古代	Yes	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
11-13-14-30	SB180	7F-10-21-22-23, 8F-1-2-3-4-8-7-8-12	古代	Yes	-	0.20	0.20	0.04	0.04	-	-	円形	-	-	-	-	-	
14-16-30	SA181	8F-16-17	古代	Yes	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
14-16-30	SB182	6F-8-9-10-13-14-19	古代	Yes	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
16-30	SB183	5F-9-14-15	古代	Yes	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
19-20-21-31	SB184	3F-3-6-7-8-9-16-17-18-21, 3E-16-20	古代	Yes	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

別表2 山王浦遺跡古代土器・土製品観察表

- 1 出土位置 遺構名・グリッド名を記した。
- 2 器種 第V項に記した。
- 3 口径 口径×100
- 4 底径 底径×100
- 5 法 口径・底径・器高を示す。括弧内の数値は保存率の低いものである。
- 6 胎土 須恵器・土師器について胎土中に含まれる磁物・小礫等について記した。「石」は石英類、「長」は長石類、「雲」は金雲母あるいは黒雲母、「チ」はチャート、「焼」は焼土類、「白」は白色炭灰石、「角」は角閃石、「海」は海狗骨針を表す。
- 7 色 胎土・釉薬の名称(「山」・「海」1887の記号を記した)。
- 8 焼成 酸化炭素成・還元炭素成の区別を記した。須恵器で酸化したものは褐色あるいは褐色の色調で軟質なものを表す。白色・灰白色のものは含めていない。
- 9 手法 特徴的な手法のみを記し、明確な記載は行っていない。底面「糸切り」、「へら切り」はいずれも回転台を用いたものである。「無調整」はそれが認められないもの。回転方向は回転台の回転方向を表す。底面調整やロクロケズリ・ロクロナデから判断した。
- 10 保存 分装状態で保存台を示した。

図録No.	器種	遺構名・グリッド	層位	取上げNo.	種別	器種	法 量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土	色調	焼成	手 法			保存率	口縁部	胴部	全体	備考
							口径	底径	器高						外面	内面	底部					
32	1SE5	7F12	2・中層		土師器	無台碗	11.9	5.0	4.4	37	42	石・長・チ	浅黄緑(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	35/36	36/36	36/36	No.214 (2層) No.58 (中層)
32	2SE5	7F12	上層		土師器	無台碗	12.2	5.2	3.8	31	43	石・長・角	浅黄緑(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	6/36	36/36	18/36	
32	3SE5	7F12	中層	No.52-53	土師器	無台碗	12.1	5.0	4.3	36	41	石・長・チ・焼	浅黄緑(7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	17/36	17/36	17/36	
32	4SE5	7F11	中層	No.123	土師器	無台碗	12.8	5.0	3.9	30	39	石・長・角	淡黄(2.5YR/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	8/36	17/36	16/36	
32	5SE5	7F11-12	2・3・中層		土師器	無台碗		5.9				石・長	黄(2.5YR7/6)	酸化	ミガキ・ケズリ	ミガキ			4/36			No.285-286 (3層) No.31 (中層)
32	6SE5	7F12	中層	No.50	土師器	無台碗	15.8					石・長	淡黄(2.5YR/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			7/36			
32	7SE5	7F12	中層	No.60	土師器	無台碗	12.0	4.4	4.1	34	37	石・長・角	淡赤褐(2.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	23/36	36/36	30/36	
32	8SE5	7F12	中層	No.57-58	土師器	無台碗	12.3	5.4	3.5	28	46	石・長・チ	淡黄緑(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	12/36	17/36	20/36	
32	9SE5	7F12-17	4・中層		土師器	無台碗	12.6	4.8	4.3	34	38	石・長・焼	灰白(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	左	19/36	36/36	32/36	No.136 (4層) No.44 (中層)
32	10SE5	7F12	3・中層		土師器	無台碗	13.0	5.0	3.8	29	38	石・長・角	灰白(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	2/36	36/36	5/36	No.317 (3層) No.3 (中層)
32	11SE5	7F12	2層	No.221	土師器	無台碗	13.6					石・長・白	淡黄緑(7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			6/36			
32	12SE5	7F11-12	上・3層		土師器	無台碗	13.6					石・長・チ	灰白(10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			14/36			No.319 (3層)
32	13SE5	7F12	上・中層		土師器	無台碗	15.0	6.0	4.8	32	40	石・長	にぶい黄(5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ		35/36	36/36	36/36	No.102 (中層)
32	14SE5	7F12	3層	No.314	土師器	無台碗	15.4					石・長・角	灰白(2.5YR/2)	酸化	ミガキ	ミガキ			4/36			
32	15SE5	7F12	上・中層		土師器	無台碗	13.8					石・長・焼	淡黄緑(7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			6/36			No.102 (中層)
32	16SE5	7F12	3層	No.242	土師器	無台碗	11.6	4.6	4.0	34	40	石・長・焼	淡黄緑(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		5/36	7/36	9/36	
32	17SE5	7F11-12	上・上・中層		土師器	無台碗	13.2	5.4	4.0	30	41	石・長	淡黄緑(7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	13/36	36/36	20/36	No.111-112-352 (中層)
32	18SE5	7F12	中層	No.102	土師器	無台碗	(14.0)					石・長・角	淡黄緑(7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			
32	19SE5	7F11	中層	No.133	土師器	無台碗		5.2				石・長・角	灰黄緑(10YR6/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36		
32	20SE5	7F12	3層	No.330	土師器	無台碗		5.6				石・長・焼	淡黄(2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		10/36		
32	21SE5	7F12	2層	No.219	土師器	無台碗		4.4				石・長・角	淡黄(2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		17/36		
32	22SE5	7F12	2層	No.220	土師器	無台碗		6.2				石・長	淡黄緑(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		9/36		
32	23SE5	7F12	3・上層		黒色土器	無台碗	17.4	5.8	5.2	30	33	石・長	淡黄緑(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	3/36	18/36	21/36	底部外面黒青「口」
32	24SE5	7F12-17	中層	No.25-66	黒色土器	無台碗	13.6	5.4	4.4	32	40	石・長	灰黄(2.5Y7/2)	酸化	ケズリ	ミガキ	糸切り後ミガキ		16/36	19/36	17/36	
32	25SE5	7F11-12	3層		黒色土器	無台碗	14.0					石・長・チ	淡黄緑(10YR8/4)	酸化	ミガキ	ミガキ			6/36			
32	26SE5	7F11-12	3層		須恵器	無台杯	(12.4)					石・長・白	灰白(5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			
32	27SE5	7F11	中層	No.2	須恵器	無台杯	12.4	7.0	2.7	22	56	石・長	青灰(5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	へら切り	左	2/36	13/36	10/36	転用現 使用痕
32	28SE5	7F12	中層	No.94	須恵器	無台杯	12.6	7.2	2.9	23	57	石・長	灰(7.2/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	へら切り	右	15/36	27/36	21/36	転用現 使用痕
32	29SE5	7F12	中層	No.17	須恵器	無台杯	12.0	7.2	2.9	24	60	石・長	灰(N5/7)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	へら切り	右	10/36	16/36	12/36	転用現 使用痕
33	30SE5	7F12	4層	No.3	土師器	長靴	18.2					石・長・角	淡黄緑(7.5YR8/3)	酸化	カキメ	カキメ			5/36			体部内外面ス
33	31SE5	7F12	4層	No.350	土師器	長靴	19.6					石・長・チ・角	淡黄緑(7.5YR8/6)	酸化	カキメ	カキメ			5/36			
33	32SE5	7F12-17-18,8F12	上・中・V層		土師器	長靴	23.2					石・長・雲・角	にぶい黄(5YR7/4)	酸化	平行タタキメ	平行タタキメ			8/36			No.93-96-115 (中層) SD1-No.61 (上層) 体部外面ス
33	33SE5	7F12-17,8F12-18	上・中・V層		土師器	長靴	21.2					石・長・角	にぶい黄(5YR7/3)	酸化	平行タタキメ	平行タタキメ			9/36			No.48-239-261-269-277 (3層) No.24-79 (中層) 体部外面ス
33	34SE5	7F11-12	3・4・中層		土師器	長靴	19.4					石・長・チ	淡黄緑(10YR8/3)	酸化	カキメ	カキメ			6/36			No.51 (3層) No.354 (4層) No.109-113-117-128 (中層)
33	35SE5	7F17	中層	No.45	土師器	長靴	20.0					石・長・チ・角	淡黄緑(10YR8/4)	酸化	カキメ	カキメ			8/36			
33	36SE5	7F12	中層	No.65	土師器	長靴	22.4					石・長・雲・角	にぶい黄(10YR7/3)	酸化	カキメ	カキメ			4/36			
33	37SE5	7F12	中層	No.91	土師器	長靴	22.2					石・長・焼・角	灰白(10YR8/2)	酸化	カキメ	カキメ			6/36			体部外面ス
34	38SE5	7F11-12	4・中層		土師器	長靴	20.6					石・長・角	淡黄緑(7.5YR8/3)	酸化	カキメ	カキメ			5/36			No.422-423 (4層) No.105-125 (中層)
34	39SE5	7F12-18,8F8-9	上・中・V層	No.69-84	土師器	長靴						石・長・チ・角	にぶい黄(10YR7/4)	酸化	平行タタキメ	平行タタキメ						SD1-No.22 (上層) No.50 (下層)
34	40SE5	7F11-12,8F12	上・中・V層		土師器	長靴						石・長・角	淡黄緑(10YR8/4)	酸化	平行タタキメ	平行タタキメ						No.22-95 (中層) SD1-No.63-67 (上層)
34	41SE5	7F12-15-17-21	3・中・V層		土師器	長靴						石・長・角	にぶい黄(7.5YR7/4)	酸化	平行タタキメ	平行タタキメ						No.287 (3層) No.70-76 (中層)
34	42SE5	7F12-17	中層	No.238-120-117	土師器	長靴						石・長・チ・角	にぶい黄(10YR7/3)	酸化	平行タタキメ	平行タタキメ						体部外面ス
34	43SE5	7F17	中層	No.47-48	土師器	小甕	12.9					石・長・角	灰黄緑(10YR6/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			20/36			内外面ス
34	44SE5	7F12	中層	No.37-40	土師器	小甕	12.8					石・長・焼・角	にぶい黄(5YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			11/36			
34	45SE5	7F12	中層	No.88	土師器	小甕	13.6					石・長・チ・角	黒褐(2.5Y3/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			10/36			内外面ス
34	46SE5	7F11-12	2・3層		土師器	小甕	11.9					石・長・白・角	にぶい黄(7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			27/36			No.229-248-249-252-255 (3層) 内外面ス
34	47SE5	7F12	中層	No.97-104	土師器	小甕	13.4					石・長・焼・角	灰褐(7.5YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			7/36			
34	48SE5	7F12	3・4・中層		土師器	小甕	15.2	6.4	13.1	86	42	石・長・角	にぶい黄(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	14/36	36/36	17/36	No.188 (2層) No.347-348-371-375 (4層) No.11-13 (中層) 体部内外面ス
34	49SE5	7F12	中層	No.77	土師器	小甕	15.8					石・長・角	褐灰(10YR5/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36			内面炭化物
34	50SE5	7F12	上層		土師器	小甕		5.8				石・長・雲・角	にぶい黄(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			15/36			
34	51SE5	7F12	1層	No.145	土師器	小甕		6.8				石・長・焼	にぶい黄(7.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		7/36			
34	52SE5	7F12	2・3・中層		土師器	小甕		5.4				石・長・焼・角	褐灰(10YR4/1)	酸化	カキメ	カキメ			36/36			No.183 (2層) No.137-296-297 (3層) No.56 (中層)
34	53SE5	7F12	中層	No.33-34	土師器	甕	39.4					石・長・角	にぶい黄(10YR7/2)	酸化	カキメ・ケズリ	カキメ			5/36			
34	54SE5	7F17-18	中・V層	No.23	土師器	甕	(39.8)					石・長・チ・角	黄(7.5YR7/6)	酸化	カキメ	カキメ			3/36			
35	55SE5	7E20,7F8-11,8F8	上・下・V層	No.1	須恵器	横瓶						石・長	青灰(5B5/1)	還元	格子タタキメ	同心円当て具痕						SD1-No.4 (下層)
35	56SE5	7F12																				

図版No.	報告No.	出工位置 区画名 ブロッツド	層位	取上げNo.	種別	種番	法量 (cm)			器高 指数	底径 指数	土質	色調	焼成	手法			搬入率			備考	
							口径	底径	器高						外面	内面	底部	口径側	底側	全体		
35	67	SK28 6E18-24	上・VI層		須臾器	無台杯	12.6	8.0	2.9	23	63	石・長	灰(7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	14/36	17/36	16/36		
35	68	SK28 6E24	上層		須臾器	無台杯	12.0					石・長・白	灰(7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36				
35	69	SK28 6E24	上層		須臾器	無台杯	12.8	7.0	3.2	25	55	石・長	灰(7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	10/36	13/36	10/36		
36	71	SK28 6E23	上層	No. 7	須臾器	有台杯	12.7	7.0	5.9	46	55	石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	2/36	30/36	14/36		
36	72	SK28 6E24	上層	No. 26	土師器	長甕	22.0					石・長・角	浅黄緑(7.5YR8/3)	酸化	カキス	カキス		4/36				
36	73	SK28 6E24	上層	No. 6	土師器	長甕	12.0					石・長・角	黄緑(5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	平行当て具痕					
36	74	SK28 6E23	上・下層		土師器	小甕		6.6				石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	切取り	右	4/36			
36	75	SK28 6E18-23, 7E4	上・下層		土師器	小甕	14.2					石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		20/36			No.10 (上層) No.47 (下層) SK25 底部ヘラ記号「×」	
36	76	SK28 6E23	上層		土師器	小甕						石・長・角	黄緑(5YR7/6)	酸化	カキス	カキス					No.1-42 (上層) No.9 (下層) SK25	
36	77	SK28 6E18-23, 24, 7E4	上・下・VI層		土師器	甕	43.6					石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		14/36			No.2-3 (上層) No.13・14・15・18 (下層) SK25 体部内外面ス	
36	78	SK28 6E23	上層	No. 12	須臾器	大甕	27.2					石・長	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		12/36				
36	79	SK28 6E23	上・VI層		須臾器	大甕						石・長・白	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						
36	80	SK25 6E23			土師器	無台杯	(15.6)					石・長・白	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36				
36	81	SK25 6E24, 7E4			土師器	無台杯	13.6					石・長・白	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36				
36	82	SK25 6E23			土師器	無台杯		5.8				石・長・白	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						
36	83	SK25 7E4			土師器	無台杯		6.4				石・長・白	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	切取り	右	28/36			
36	84	SK25 7E4			土師器	無台杯		4.5				石・長・白	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	切取り	左	25/36			
36	85	SK25 6E24・7E4	2・VI層	No. 6・8	土師器	無台杯	16.0	5.4	5.3	33	34	石・長	灰白(10YR8/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	切取り	右	36/36			
36	86	SK25 7E4			土師器	無台杯		5.6				石・長	灰白(2.5YR8/2)	還元	ミガキ	ケズリ	切取り	右	5/36	18/36	9/36	
36	87	SK25 6E24, 7E4			土師器	無台杯						石・長・白・角	浅黄緑(10YR8/3)	還元	ケズリ	ミガキ						
36	88	SK25 6E23, 7E4			土師器	無台杯	11.9					石・長	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36				
36	89	SK25 6E23, 7E4			須臾器	無台杯	12.5	7.5	2.6	21	60	石・長・白	灰(7.5YR6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	12/36	28/36	20/36	
36	90	SK25 6E23, 7E4	VI層		須臾器	無台杯	13.0	8.0	3.2	25	62	石・長	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	14/36	9/36	10/36	
37	91	SK25 7E4			土師器	長甕	13.4					石・長・白	灰(10YR4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		11/36				
37	92	SK25 7E4	VI		土師器	長甕	18.1					石・長	灰(10YR4/1)	還元	カキス	カキス		6/36				
37	93	SK25 7E4	2層	No. 7	土師器	長甕	20.0					石・長・角	浅黄緑(7.5YR8/4)	酸化	カキス	カキス		11/36				
37	94	SK25 6E23			土師器	長甕						石・長・白	灰(10YR7/2)	還元	平行タタキス	ハケス						
37	95	SK25 7E3・4, 7F18	VI層		土師器	小甕		6.0				石・長・角	灰(10YR7/2)	還元	平行タタキス	ハケス						
37	96	SK25 6E23			土師器	小甕	14.0					石・長・白	灰(10YR7/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	切取り	左	21/36			
37	97	SK25 7E4			土師器	小甕	16.0					石・長・白	灰(10YR7/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36				
37	98	SK25 6E23	1層	No. 1-2	土師器	小甕	14.0					石・長・白	灰(10YR7/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36				
37	99	SK25 7E4	VI層		土師器	小甕		6.2				石・長・白・角	灰(5Y7/1)	還元	カキス	カキス	切取り	右	13/36			体部内外面ス
37	100	SK25 6E25			土師器	小甕	(40.0)					石・長・白	灰(5Y7/1)	還元	ケズリ	ロクロナデ	切取り	右	36/36			体部外面ス
37	101	SK25 6E25			土師器	小甕	(40.0)					石・長・白	灰(5Y7/1)	還元	カキス	カキス		1/36				体部外面ス
37	102	SK25 7E4			須臾器	大甕						石・長・白	灰(7.5YR6/1)	還元	カキス	カキス		2/36				外面ス
37	103	SK20 7E6			須臾器	大甕	(11.0)					石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	平行タタキス	ハケス						
37	104	SK41 5F24			土師器	小甕	14.0					石・長・角	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36				
37	105	SK61 6D15			土師器	小甕		6.0				石・長・角	灰(10Y6/1)	還元	カキス	カキス		9/36				
37	106	SK32 6F11			土師器	無台杯	(13.0)					石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	切取り	右	36/36			
37	107	SK32 6F15			土師器	無台杯	(12.0)					石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36				
37	108	SK32 6F15			土師器	長甕						石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36				
37	109	SK32 6F15			土師器	小甕		6.0				石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	平行タタキス	平行当て具痕						
37	110	SK64 4E22, 5F5	VI層		土師器	長甕	21.4					石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	切取り		6/36			
37	111	SK64 4E22			土師器	長甕	(20.0)					石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	カキス	カキス		17/36				内面剥落
37	112	SK40 5E7	上層		土師器	無台杯	(13.0)					石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36				
37	113	SK40 5E6-7	1層		須臾器	無台杯	11.6	6.2	2.9	25	53	石・長	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	4/36	7/36	5/36		SK50
37	114	SK40 5E7	1層		須臾器	無台杯	(11.8)					石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36				
38	115	SK40 5E2	1層		須臾器	長甕	(20.0)					石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36				
38	116	SK40 4E21, 5E2-7	1層		須臾器	長甕						石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	平行タタキス	ハケス						
38	117	SK40 5E7	1層		土師器	甕						石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	平行タタキス	ハケス						
38	118	SK62 5D14	上層	No. 16	土師器	無台杯		7.0				石・長	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	切取り	左				
38	119	SK62 5D14	下層	No. 7-12, 21	土師器	無台杯	14.2					石・長	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	切取り	右	11/36			
38	120	SK62 5D9	上・下層		土師器	無台杯		6.0				石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	切取り	右	20/36			No.34 (上層) No.45 (下層)
38	121	SK62 5D9	VI層		土師器	無台杯						石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		14/36				
38	122	SK62 5D9-14			土師器	無台杯	14.0					石・長	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36				
38	123	SK62 5D9	下層	No. 41	須臾器	無台杯		7.5				石・長	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36				
38	124	SK62 5D9	上層	No. 27	須臾器	杯蓋	(13.0)					石・長	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36				
38	125	SK62 5D9	上層	No. 38	土師器	長甕						石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						
38	126	SK62 5D8-9	上・VI層	No. 24-25	土師器	長甕	19.5					石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	平行タタキス	ハケス						
38	127	SK62 5D8-9	上・VI層	No. 39	土師器	小甕		7.2				石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	カキス	カキス	切取り	右	6/36			体部内外面ス
38	128	SK62 5D14	上層	No. 17	土師器	小甕	(14.6)					石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36				
38	129	SK62 5D9	上層	No. 23	土師器	小甕	(10.8)					石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36				
38	130	SK62 5D9	上層	No. 33	土師器	小甕		5.6				石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	切取り	右	24/36			
38	131	SK62 5D9	上層	No. 19	須臾器	長頸甕		10.0				石・長	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	22/36			
38	132	SK47 5D14	下・VI																			

図号 No.	番付 No.	用土位置 位置	層位	取上げNo.	種別	別種	種別	法 量 (cm)			器高 指数	底係 指数	土 質	色 調	構成	手 法			選 査		備 考					
								口 径	深 度	層 高						外 面	内 面	底 部	口 径	選 査 率						
39	142	SK48	5D15	上層	No.3	須臾器	無台杯	(12.0)				石・長	灰(7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36							
39	143	SK48	5E11			土師器	長甕					石・長・角	浅黄緑(7.5YR8/3)	酸化	平行タタキメ	平行当て具痕										
39	144	SK48	5D15	3層	No.17	土師器	小甕					石・長・角	黄緑(7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				27/36						
39	145	SK48	5D15	下層	No.20	土師器	小甕		7.0			石・長・角	黄緑(7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36							
39	146	SK48	5E11			土師器	小甕	(41.0)				石・長・白	黄緑(7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				16/36						
39	147	SK59	5D10-15-19	2層		土師器	小甕		7.0			石・長・白	浅黄緑(7.5YR8/3)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36							
39	148	SK59	4D22-5D15	VI層		土師器	小甕	(40.2)				石・長・角	浅黄緑(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				18/36						
39	149	SK60	4E19	上層		土師器	無台杯		6.4			石・長・角	灰白(10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				18/36						
39	150	SK60	4E20-24	1層		須臾器	無台杯		12.4	7.0	3.2	24	56	石・長・白	灰白(7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	20/36	36/36	32/36			
39	151	SK60	4E19	1層		須臾器	無台杯		12.0	7.2	2.9	24	60	石・長・白・角	灰白(5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		15/36	16/36	13/36			
39	152	SK60	4E19			須臾器	無台杯		13.9					石・長	灰白(5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36					
39	153	SK60	4E20	1層		須臾器	有台杯		8.0					石・長	灰(7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		14/36					
39	154	SK60	4E20			土師器	小甕		6.3					石・長・角	浅黄緑(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	28/36					
39	155	SK60	4E25	上層		土師器	小甕							石・長・角	浅黄緑(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36		体部外面ス	
39	156	SK111	4E7			土師器	無台杯	(12.0)						石・長・角	浅黄緑(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ								
39	157	SK111	4E7			土師器	長甕							石・長・角	浅黄緑(10YR8/4)	酸化	平行タタキメ	平行当て具痕								
39	158	SK67	4E4-9-15	1層	No.42	土師器	無台杯	12.0	5.4	3.5	29	45		石・長・白	浅黄緑(10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	4/36	12/36	7/36	SD99-No.196(上層)		
39	159	SK67	4E15	1層	No.67	土師器	無台杯	(13.0)						石・長・白	にぶい黄緑(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ								
39	160	SK67	4E15	2層	No.35	土師器	無台杯	15.0	5.4	5.3	35	36		石・長	黄緑(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		6/36	11/36	16/36			
39	161	SK67	4E10-15	1・VI層	No.23	須臾器	無台杯	12.1						石・長	黄緑(10YR8/3)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			9/36	12/36	9/36			
39	162	SK67	4E15	2層	No.50	須臾器	無台杯	12.6	7.5	3.1	25	60		石・長・白	青灰(5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		4/36					
39	163	SK67	4E11	1層	No.16	須臾器	無台杯	13.1						石・長・白	青灰(5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			6/36	22/36	10/36	SD99		
39	164	SK67	4E3-15	1層	No.58	須臾器	無台杯	13.1	7.3	3.0	23	56		石・長・白	灰(NS/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		3/36					
39	165	SK67	4E15	1層	No.65	須臾器	無台杯	13.2						石・長	灰(NS/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36					
39	166	SK67	4E15	1・2層		須臾器	有台杯	(13.6)						石・長	灰(7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			No.62(1層)	No.57(2層)	
39	167	SK67	4E15	1層	No.36	土師器	長甕	20.6						石・長・角	浅黄緑(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36					
39	168	SK67	4E5-14-15,4F1-2	2・VI層	No.48	土師器	長甕	22.5						石・長・角	浅黄緑(7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			15/36				SK66	
40	169	SK67	4F11	1層	No.12	土師器	長甕	(20.0)						石・長・角	灰白(10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36					
40	170	SK67	4F11			土師器	長甕	(22.0)						石・長・角	浅黄緑(10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36					外面ス
40	171	SK67	4F11			土師器	長甕							石・長・角	にぶい黄緑(10YR7/3)	酸化	平行タタキメ	平行当て具痕								
40	172	SK67	4F11	1層		土師器	小甕	11.8						石・長	灰(7.5YR5/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36					体部外面ス、内面炭化物
40	173	SK67	4E15	1層	No.63	土師器	小甕	14.0						石・長・角	にぶい黄緑(5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36					外面ス、内面炭化物
40	174	SK67	4E15,4F11	2層	No.30-33-34	土師器	小甕		6.0					石・長・角	黄緑(5YR5/1)	酸化	平行タタキメ	平行当て具痕								
40	175	SK67	4F11	1層	No.10	土師器	小甕							石・長・角	黄緑(7.5Y5/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ								
40	176	SK77	4F6			土師器	無台杯	11.2						石・長	にぶい黄緑(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36					
40	177	SK77	4F6	1層	No.11	土師器	無台杯		5.8					石・長	浅黄緑(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	36/36					
40	178	SK77	4F6	1層		土師器	無台杯		6.0					石・長	灰白(10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	11/36					
40	179	SK77	4F6			須臾器	無台杯	(12.0)						石・長・角	灰(7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36					
40	180	SK77	4F6			須臾器	無台杯	12.0						石・長・白	灰(7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36					
40	181	SK77	4F6	1層	No.6	須臾器	無台杯	14.0						石・長・白	灰(10Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36					
40	182	SK77	4F1	1層		須臾器	有台杯	13.0	7.7	5.8	45	59		石・長・白	灰(5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	3/36	19/36	16/36			
40	183	SK77	4F1	1層		土師器	小甕		5.6					石・長・角	灰白(10YR8/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	36/36					体部外面ス
40	184	SK77	4F6			土師器	長甕							石・長・角	にぶい黄緑(7.5YR7/4)	酸化	平行タタキメ	平行当て具痕							体部外面ス	
40	185	SK77	4F1	1層		土師器	小甕							石・長	灰白(10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36					
40	186	SK77	4F11-15,4F1-2	VI層		須臾器	長頸蓋	10.0						石・長・白	灰(NS/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	29/36					SK68
40	187	SK86	3F22			土師器	無台杯	(12.0)						石・長・角	浅黄緑(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36					
40	188	SK86	4F2			須臾器	無台杯	12.4						石・長・角	灰(7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36					
40	189	SK86	4F2			土師器	小甕	14.2						石・長・角	黄緑(5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36					
40	190	SK86	3F22			土師器	小甕		6.8					石・長・角	にぶい黄緑(7.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	9/36					
40	191	SK97	3F12			土師器	無台杯							石・長・角	浅黄緑(7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36					
40	192	SK97	3F12			土師器	無台杯	(13.0)						石・長・角	灰白(10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36					
40	193	SK97	3F12			土師器	無台杯		6.4					石・長	黄緑(7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			12/36					
40	194	SK97	3F8-12	VI層		黒色土師	有台杯	14.6	6.2	4.5	31	42		石・長	灰白(7.5YR8/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	4/36	25/36	9/36			
40	195	SK97	3F12			須臾器	無台杯	12.6						石・長・白・角	灰(7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36					
40	196	SK97	3F6-12	1・VI層	No.5	須臾器	無台杯	11.0	5.8	2.8	25	53		石・長	灰(7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		6/36	8/36	9/36			
40	197	SK97	3F11-12	VI層		須臾器	無台杯	11.8	7.2	2.4	20	61		石・長	灰(7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		19/36	11/36	15/36			
40	198	SK97	3F12			須臾器	無台杯	12.8						石・長	灰(7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36					
40	199	SK97	3F12			土師器	長甕							石・長・角												



図取 No.	報告 No.	出仕位置 面別(1) フリワード	層位	取上げNo.	種別	器種	法長 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎土	色調	焼成	手 法			滑 倉 率	備 考	
							口 径	底 径	高						外 面	内 面	底 部			口縁側 底 面
45	292	SD33 6F9	1層	No. 29	土師器	小甕	(12.0)					石・長・角	褐灰(7.5YR4/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	体部外面ス
45	293	SD33 6F10	1層	No. 13-15	土師器	小甕	(15.5)					石・長・角	にぶい黄緑(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	体部内外面ス
45	294	SD33 6F4			土師器	小甕	13.0					石・長・角	黄緑(5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			8/36	
45	295	SD33 6F10	下層	No. 27	土師器	甕	41.4					石・長・角	にぶい黄緑(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36	SD29-No. 18
46	296	SD33 6F4			土師器	甕	(39.5)					石・長・角	黄緑(7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	
46	297	SD37 5F24	下層	No. 4	土師器	無台檢		5.6				石・長・角	赤赤緑(2.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			18/36	
46	298	SD37 5F23	2層	No. 7-14	土師器	無台檢		5.8				石・長・角	にぶい黄緑(5YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			25/36	
46	299	SD37 5F22	2層	No. 15	須恵器	無台杯		7.0				石・長・角	灰白(N7/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			8/36	
46	301	SD37 5F24-23	1・2層		須恵器	無台杯	13.0		3.0	23	50	石・長・角	青灰(5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			24/36	No. 18 (1層) No. 9 (2層)
46	302	SD105 3F18	1層	No. 19	土師器	無台檢	23.2					石・長・雲・角	黄緑(7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			26/36	No. 2 (1層) No. 5 (2層) 体部外面ス 内面剥落
46	303	SD105 3F18	1層	No. 17	土師器	無台檢	(13.2)					石・長	にぶい黄緑(7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	
46	303	SD105 3F18	1層	No. 17	土師器	無台檢	(11.8)					石・長	黄緑(10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	
46	304	SD105 3F18	1層	No. 78	土師器	無台檢	(12.0)					石・長・白	黄緑(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	
46	305	SD105 3F18	1層	No. 18	土師器	無台檢		5.0				石・長・白	黄緑(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			15/36	
46	306	SD105 3F18	2層	No. 66	須恵器	無台杯	12.0					石・長・白	灰白(5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36	
46	307	SD105 3F18-23	2層	No. 41-43-46-83	須恵器	無台杯	12.0					石・長・白	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			11/36	
46	308	SD105 3F24	1層	No. 71	土師器	長甕						石・長・角	にぶい黄緑(5YR7/4)	酸化	平行タタキ	平行当て具痕				
46	309	SD105 3F18	1層	No. 35	土師器	小甕	(11.8)					石・長・角	灰白(10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	
46	310	SD119 3F19			土師器	無台檢		5.0				石・長・白	赤赤緑(2.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			7/36	
46	311	SD119 3F19			須恵器	無台杯		7.0				石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			11/36	
46	312	SD119 3F19			土師器	長甕						石・長・角	にぶい黄緑(7.5YR7/4)	酸化	平行タタキ	平行当て具痕				
46	313	SD99 4E3	上層	No. 29-31-33-34	土師器	無台檢	12.0	5.0	3.7	31	42	石・長・角	にぶい黄緑(7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			12/36	
46	314	SD99 4E3	上層		土師器	無台檢	11.2	5.4	4.4	39	48	石・長・角	黄緑(7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			21/36	
46	315	SD99 3E23, 4E3	上層	No. 8-121	土師器	無台檢		5.0				石・長・角	黄緑(7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			38/36	
46	316	SD99 4E9	上層	No. 243-256-275	土師器	無台檢	14.8					石・長・角	灰白(2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			11/36	底部外面銀母「口」
46	317	SD99 4E3	上-1層		土師器	無台檢	14.0	4.5	4.0	29	32	石・長・角	灰白(10YR5/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			9/36	
46	318	SD99 3E22	上層	No. 1	土師器	無台檢	12.4					石・長・角	にぶい黄緑(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36	No. 280 (1層) No. 27-41・132-154 (上層)
46	319	SD99 4E4			土師器	無台檢		7.0				石・長・角	黄緑(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			7/36	
46	320	SD99 4E4			黒色土器	無台檢	(13.0)					石・長・角	灰白(10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	
46	321	SD99 4E4			須恵器	無台杯	12.4					石・長・白	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36	
46	322	SD99 4E3	上層	No. 83	須恵器	無台杯	12.4					石・長	灰(N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36	
46	323	SD99 4E10	上層	No. 259	須恵器	無台杯	(13.0)					石・長	灰(7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	
46	324	SD99 4E10	上層	No. 256	須恵器	無台杯	12.5					石・長・白	灰(7.5YR6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36	
46	325	SD99 4E3	上層	No. 23-32	須恵器	無台杯	11.5	6.2	2.7	23	54	石・長・白	青灰(5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			23/36	
46	326	SD99 4E10	上層		須恵器	無台杯	11.4	6.2	2.9	25	54	石・長	黄灰(2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36	底部外面銀母「口」
46	327	SD99 4E4-9-10	VI層	No. 228	須恵器	無台檢	12.0	7.0	3.2	27	58	石・長・白・角	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			8/36	
47	328	SD99 4E3	上層	No. 137	須恵器	杯蓋						石・長・白	灰白(4Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			18/36	
47	329	SD99 3F13-21, 4E3	上-1層		土師器	無台檢		10.0				石・長・角	黄緑(10YR8/3)	酸化	ケズリ	ロクロナデ			36/36	No. 275-276-277-278 (1層) No. 77-85-86-89-90-100-131 (2層) 58-60-66 (1層) F104 体部外面ス 底部外面ス
47	330	SD99 4E3	1層	No. 274	土師器	長甕	19.6					石・長・角	灰白(10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			11/36	
47	331	SD99 4E3	上層	No. 124	土師器	長甕	21.8					石・長・白	にぶい黄緑(10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36	外面体部ス
47	332	SD99 4E4-9-10	上層	No. 184-229-233	土師器	長甕						石・長・角	にぶい黄緑(7.5YR7/4)	酸化	平行タタキ	平行当て具痕				
47	333	SD99 4E3, 4F1	上-1層		土師器	長甕	21.6					石・長・雲・角	灰白(2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			12/36	No. 107 (上層) No. 162 (下層)
47	334	SD99 4E10	上層	No. 238	土師器	小甕	12.3					石・長・角	黄緑(7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36	
47	335	SD99 3E23, 4E3	上-1層		土師器	小甕	13.8					石・長・角	灰黄緑(10YR6/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			19/36	No. 282 (1層) No. 10-18-47 (上層)
47	336	SD99 4E3	上層	No. 98	土師器	小甕		6.4				石・長・角	灰(7.5YR6/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			23/36	
47	337	SD99 4E3	上層	*****	土師器	小甕		7.2				石・長・雲・角	灰黄緑(10YR6/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			30/36	
47	338	SD99 3E23, 3F23	上層	No. 7-9	土師器	甕						石・長・角	灰黄緑(10YR5/2)	酸化	平行タタキ	平行当て具痕				
47	339	SD99 4E4	上層	No. 164	土師器	甕	(40.0)					石・長・白	にぶい黄緑(10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	
47	340	SD99 4E3	上層	No. 78-90	土師器	甕	(40.0)					石・長・白	灰白(2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	体部外面ス
47	341	SD99 4E3	上層	No. 24-97-102	土師器	甕	40.0					石・長・角	灰白(2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			6/36	
47	342	SD99 4E9	上層	No. 204	土師器	甕	(39.0)					石・長・角	灰白(10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	
48	343	SD99 4E3	上層	No. 126	須恵器	短頸甕	(10.0)					石・長・白	灰(7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	
48	344	SD99 4E3			須恵器	短頸甕						石・長・白	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				
48	345	SD99 3E23, 4E3	上層	*****	須恵器	大甕						石・長	青灰(5B6/1)	還元	平行タタキ	平行当て具痕				
48	346	SD98 4E5			須恵器	無台杯						石・長・角	青灰(5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36	
48	347	PIt 2 8F12			黒色土器	無台檢		4.8				石・長・角	にぶい黄緑(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			9/36	
48	348	PIt 3 8F6-7			黒色土器	無台檢	(14.0)					石・長・白・角	黄緑(10YR8/3)	酸化	ミガキ	ケズリ			3/36	SD4 (上層)
48	349	PIt 3 8F6			須恵器	大甕						石・長・白	灰(N6/)	還元	平行タタキ	平行当て具痕				
48	350	PIt 7 8F4			土師器	無台檢	13.6					石・長	黄緑(7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36	
48	351	PIt 7 8F4			土師器	甕						石・長・角	にぶい黄緑(10YR7/3)	酸化	平行タタキ	平行当て具痕				
48	352	PIt 7 8F4			土師器	甕	(40.0)					石・長・角	黄緑(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	体部外面ス
48	353	PIt 8 7F22			土師器	無台檢	(14.0)					石・長・角	にぶい黄緑(7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	SD1-No. 2 体部外面ス
48	354	PIt 9 7F23			土師器	長甕						石・長・角	黄緑(7.5YR8/4)	酸化	平行タタキ	平行当て具痕				
48	355	PIt 9 7F23	上層		土師器	小甕	(12.0)					石・長・白・角	灰(7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	
48	356	PIt 10 7E22			土師器	無台檢	(12.0)					石・長・白・角	にぶい黄緑(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	
48	357	PIt 10 7E22			黒色土器	無台檢	(14.0)					石・長	黄緑(2.5Y7/2)	酸化	ケズリ	ミガキ			2/36	
48	358	PIt 10 7F12-22			黒色土器	無台檢	14.6					石・長・角	黄緑(10YR8/3)	酸化	ミガキ	ミガキ			10/36	SE5-No. 111 (中層)
48	359	PIt 10 7F22			土師器	甕						石・長・白	褐灰(10YR4/1)	還元	平行タタキ	平行当て具痕				
48	360	PIt 11 8F1			土師器	長甕						石・長・雲・角	黄緑(10YR8/3)	酸化	平行タタキ	平行当て具痕				
48	361	PIt 11 8F1			土師器	小甕	13.8					石・長・角	にぶい黄緑(10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36	外面ス
48	362	PIt 11 8F1			土師器	甕						石・長・白	にぶい黄緑(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				
48	363	PIt 12 7F21			土師器	長甕						石・長・白	にぶい黄緑(10YR7/3)	酸化	平行タタキ	平行当て具痕				
48	364	PIt 14 7F12			土師器	長甕						石・長	にぶい黄緑(10YR7/3)	酸化	平行タタキ	平行当て具痕				
48	365	PIt 16 7F8	上-VI層		土師器	長甕	22.0					石・長・雲・角	黄緑(10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			11/36	外面ス
48	366	PIt 16 7																		

図番 No.	報告 No.	出土位置 面番 アリノド	層位	取上げNo.	種別	脚種	法風 (Cm)			脚高 指数	底径 指数	胎土	色調	焼成	外面		手 内面		底 部	口縁部	口縁高	保存 状態	備考	
							口 径	底 径	脚 高						外面	内面	底 部	口縁部						
48	367	P1116	7F8		土師器	鉢					石・長・チ・白	にぶい黄楢 (10YR7/3)	還元	外 面	指頭圧痕									
48	368	P1116	6F21, 7F13	VI層	須恵器	大甕					石・長	灰白 (5Y7/1)	還元	外 面	平行当て具痕									
48	369	P1117	7F7	上層	土師器	長甕					石・長・白・角	浅黄楢 (7.5YR8/4)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36				
48	370	P1117	7F7	上層	土師器	長甕					石・長・角	にぶい黄楢 (10YR7/4)	還元	外 面	平行タタキ	平行当て具痕								
48	371	P1121	7E9		土師器	長甕					石・長・雲・角	淡黄 (2.5YR/3)	還元	外 面	平行タタキ	平行当て具痕								
49	372	P1127	6E24・25	VI層	No. 4	土師器	長甕		22.0		石・長	浅黄楢 (10YR8/4)	還元	外 面	力キヌ	力キヌ				12/36				
49	373	P1127	6E24	I層	No. 2	土師器	長甕				石・長・チ	浅黄楢 (10YR7/2)	還元	外 面	平行タタキ	平行当て具痕						体部内外面ス		
49	374	P1135	7E4		土師器	長甕					石・長・チ・角	浅黄楢 (7.5YR8/4)	還元	外 面	ハケヌ	ハケヌ						体部外面ス		
49	375	P1139	6F21		土師器	長甕					石・長・チ	にぶい黄楢 (10YR7/2)	還元	外 面	平行タタキ	平行当て具痕						体部外面ス		
49	376	P1169	6F10		須恵器	無台椀	(12.0)				石・長	灰白 (10Y7/1)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36				
49	377	P1194	3F21, 4E11	VI層	土師器	長甕	23.8				石・長	浅黄楢 (10YR8/4)	還元	外 面	力キヌ	力キヌ						体部外面ス		
49	378	P1195	3F16		土師器	無台椀	(13.0)				石・長	淡赤楢 (2.5YR7/4)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36				
49	379	P1108	7E9		土師器	小甕	14.8				石・長・焼・角	にぶい黄楢 (7.5YR7/3)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ				6/36		体部内外面ス		
49	380	P1131	4E3		土師器	無台椀					石・長・焼・白・角	浅黄楢 (10YR8/4)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36				
49	381	P1131	4E3		土師器	長甕					石・長・チ	にぶい黄楢 (7.5YR7/3)	還元	外 面	平行タタキ	平行当て具痕								
49	382	包含層	7F11	VI層	土師器	無台椀	11.8	4.6	4.0	34	39	石・長	浅黄楢 (7.5YR8/3)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	36/36	36/36	36/36		
49	383	包含層	7E14	VI層	土師器	無台椀	12.8	5.2	3.8	30	41	石・長・白	黄楢 (10YR8/6)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	13/36	36/36	30/36		
49	384	包含層	5F2	VI層	土師器	無台椀	12.8	4.6	3.7	29	36	石・長	にぶい黄楢 (10YR7/4)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	17/36	36/36	25/36		
49	385	包含層	4E25	VI層	土師器	無台椀	13.0	5.4	4.1	32	42	石・長	淡赤楢 (2.5YR7/4)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	左	5/36	36/36	18/36		
49	386	包含層	4E7	VI層	土師器	無台椀	13.2	5.4	4.6	35	41	石・長	にぶい黄楢 (10YR7/3)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	6/36	18/36	13/36		
49	387	包含層	7F16	VI層	土師器	無台椀	11.8	4.0	4.0	34	34	石・長	にぶい黄楢 (5YR7/4)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	12/36	36/36	32/36		
49	388	包含層	7F21	VI層	土師器	無台椀	12.6	5.4	3.8	30	43	石・長・角	浅黄楢 (7.5YR8/4)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	3/36	35/36	18/36		
49	389	包含層	4D22, 5D9	VI層	土師器	無台椀	13.4	5.0	3.7	28	37	石・長・チ・角	楢 (7.5YR7/6)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	5/36	20/36	12/36		
49	390	包含層	7F16・17・21	VI層	黒色土師	無台椀	15.2	6.2	5.1	34	41	石・長	浅黄楢 (10YR8/4)	還元	外 面	ミガキ	ケズリ				2/36	36/36	17/36	
49	391	包含層	5D25	VI層	黒色土師	無台椀	7.2					石・長・焼	にぶい黄楢 (10YR7/4)	還元	外 面	ケズリ	ミガキ	ケズリ				11/36		
49	392	包含層	5E11	VI層	黒色土師	無台椀	5.4					石・長	浅黄楢 (10YR8/3)	還元	外 面	ロクロナデ	ミガキ	ケズリ				12/36		
49	393	包含層	5D20	VI層	黒色土師	無台椀	6.0					石・長	にぶい黄楢 (10YR7/4)	還元	外 面	ケズリ	ミガキ	ケズリ				14/36		
49	394	包含層	5E11	VI層	黒色土師	無台椀	7.0					石・長	浅黄楢 (10YR8/3)	還元	外 面	ケズリ	ミガキ	ケズリ				6/36		
49	395	包含層	5D8	VI層	須恵器	無台椀	12.2	7.0	2.8	23	57	石・長・白	灰 (5B6/1)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	7/36	36/36	20/36		底部ヘラ記号「×」
49	396	包含層	3F11・18	VI層	須恵器	無台椀	12.2	7.2	2.8	23	59	石・長・焼・白	灰 (N6/)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	13/36	17/36	13/36		
49	397	包含層	4D22	VI層	須恵器	無台椀	12.2	6.8	2.9	24	56	石・長・白	灰 (N7/)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	12/36	16/36	13/36		
49	398	包含層	6E25	VI層	須恵器	無台椀	11.6	6.0	2.8	24	52	石・長	灰 (7.5Y6/1)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	12/36	11/36	11/36		
49	399	包含層	3F16	VI層	須恵器	無台椀	11.6	7.6	2.6	22	66	石・長	灰 (7.5Y6/1)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	11/36	30/36	19/36		
50	400	包含層	4E9	VI層	須恵器	無台椀	11.8	7.0	3.1	26	59	石・長・白	灰白 (10Y7/1)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	19/36	33/36	24/36		
50	401	包含層	3F16	VI層	須恵器	無台椀	12.0	6.8	2.8	23	57	石・長	灰 (N7/)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	6/36	31/36	20/36		
50	402	包含層	3F11	VI層	須恵器	無台椀	12.0	7.0	2.8	23	58	石・長	灰 (N6/)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	36/36	36/36	36/36		
50	403	包含層	6E25	VI層	須恵器	無台椀	11.6	7.5	3.4	29	65	石・長	灰 (7.5Y6/1)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	12/36	36/36	20/36		
50	404	包含層	3F16	VI層	須恵器	無台椀	12.0	6.0	2.8	23	50	石・長	灰 (7.5Y6/1)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	13/36	36/36	20/36		
50	405	包含層	7F21	VI層	須恵器	無台椀	12.2	7.4	3.2	26	61	石・長・白	灰 (N6/)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	30/36	36/36	35/36		
50	406	包含層	4E1・7・17	VI層	須恵器	無台椀	12.8	7.0	2.7	21	55	石・長・白	灰 (N5/)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	9/36	29/36	18/36		
50	407	包含層	4E7	VI層	須恵器	有台椀	7.8					石・長・白	黄楢 (5B6/1)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	22/36				
50	408	包含層	4E19	VI層	須恵器	有台椀	7.0					石・長・白	灰 (7.5Y6/1)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	25/36				
50	409	包含層	4E4	VI層	須恵器	有台椀	6.0					石・長	灰 (N6/)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	4/36				転用鏡 内外面磨
50	410	包含層	3F16, 4E9	VI層	須恵器	杯蓋	14.0					石・長	灰 (5Y6/1)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ				11/36		9/36	
50	411	包含層	3F16	VI層	須恵器	杯蓋	14.0					石・長・白	黄楢 (2.5Y6/1)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ				12/36		20/36	
50	412	包含層	3F24	VI層	須恵器	杯蓋	13.7					石・長・白	灰 (N5/)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ				7/36			
50	413	包含層	8F12	VI層	土師器	長甕	(21.4)					石・長・角	にぶい黄楢 (7.5YR7/4)	還元	外 面	力キヌ	力キヌ				3/36		内外面ス	
50	414	包含層	5D3・8	VI層	土師器	長甕	20.8					石・長	にぶい黄楢 (7.5YR7/3)	還元	外 面	力キヌ	力キヌ				6/36			
50	415	包含層	8F22, 8F25	VI層	土師器	長甕	20.6					石・長・雲	にぶい黄楢 (7.5YR7/4)	還元	外 面	力キヌ	力キヌ				14/36			
51	416	包含層	6F16	VI層	土師器	長甕	23.4					石・長・角	楢 (5YR7/6)	還元	外 面	力キヌ	力キヌ				7/36			
51	417	包含層	5D8	VI層	土師器	小甕	13.0					石・長・白	にぶい黄楢 (7.5YR7/4)	還元	外 面	力キヌ	力キヌ				6/36		体部外面ス	
51	418	包含層	7F8	VI層	土師器	小甕	14.2					石・長・角	にぶい黄楢 (7.5YR7/4)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ				24/36		体部内外面ス	
51	419	包含層	7F13・14・18	VI層	土師器	小甕	14.8					石・長	浅黄楢 (10YR8/3)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ				7/36			
51	420	包含層	5D8	VI層	土師器	小甕	13.4					石・長・チ	にぶい黄楢 (10YR7/4)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ				9/36			
51	421	包含層	5D9	VI層	土師器	小甕	13.6					石・長・角	楢 (5YR7/6)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ				7/36			
51	422	包含層	5D3	VI層	土師器	小甕			5.4			石・長・角	にぶい黄楢 (10YR7/2)	還元	外 面	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			36/36		
51	423	包含層	4D22, 5D13・19	VI層	土師器	鉢	(41.0)					石・長	浅黄楢 (10YR8/3)	還元	外 面	力キヌ	力キヌ						2/36	

図版No.	報告No.	遺物名	出土位置 グリッド	層位	取上げNo.	種別	器種	法量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎土	色調	焼成	手法			遺存率			備考	
								口径	底径	線高						外面	内面	底部	左	口縁部	胴全体		墨書底部外面「合」
53	442	須臾器	13区	山王跡457		須臾器	無台杯		7.6			石・長・白	灰 (N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	17/36				
53	443	須臾器	17区, 18区	山王跡457		須臾器	無台杯	11.8	6.8	2.9	25	58	石・長	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	12/36	36/36	18/36	
53	444	須臾器	13区	山王跡457		須臾器	無台杯	11.2	6.8	3.0	27	61	石・長	灰 (10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	6/36	13/36	9/36	
53	445	須臾器	14区	山王跡457		須臾器	無台杯	12.2	7.0	2.5	20	57	石・長	灰 (10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	10/36	17/36	16/36	
53	446	須臾器	18区, 19区	山王跡457		須臾器	無台杯	14.0	8.0	3.6	26	57	石・長	灰白 (10Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		3/36	13/36	7/36	
53	447	須臾器	17区, 18区	山王跡457		須臾器	杯蓋						石・長・白	褐灰 (10YR6/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						
53	448	土師器	13区	山王跡457		土師器	長襷	21.2					石・長・角	灰黄 (2.5YR7/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36			
53	449	土師器	13区	山王跡457		土師器	長襷	19.8					石・長・角	にぶい橙 (7.5YR7/4)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			6/36			外面スス
53	450	土師器	13区	山王跡457		土師器	小甕	13.6					石・長・角	にぶい橙 (7.5YR7/3)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			17/36			内外面スス
53	451	土師器	13区, 14区	山王跡457		土師器	小甕	12.1	6.9	12.4	102	57	石・長・紫・角	淡赤橙 (2.5YR7/3)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	14/36	19/36	14/36	内外面スス
53	452	土師器	12区	山王跡458		土師器	鉢	36.0					石・長・赤	灰白 (10YR6/3)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36			
53	453	須臾器	12区	山王跡458		須臾器	鉢	37.6					石・長・赤	にぶい橙 (10YR7/3)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36			
53	454	須臾器	14区	山王跡457		須臾器	長胴碗		8.0				石・長	灰 (N4/)	還元	ケズリ	ロクロナデ	ケズリ			8/36		
53	455	土製品	13区	山王跡457		土製品	土鉢	86.2(mm)	41.3(mm)	39.3(mm)			石・長・焼	にぶい橙 (7.5YR7/4)	還元	磨	手づくね						

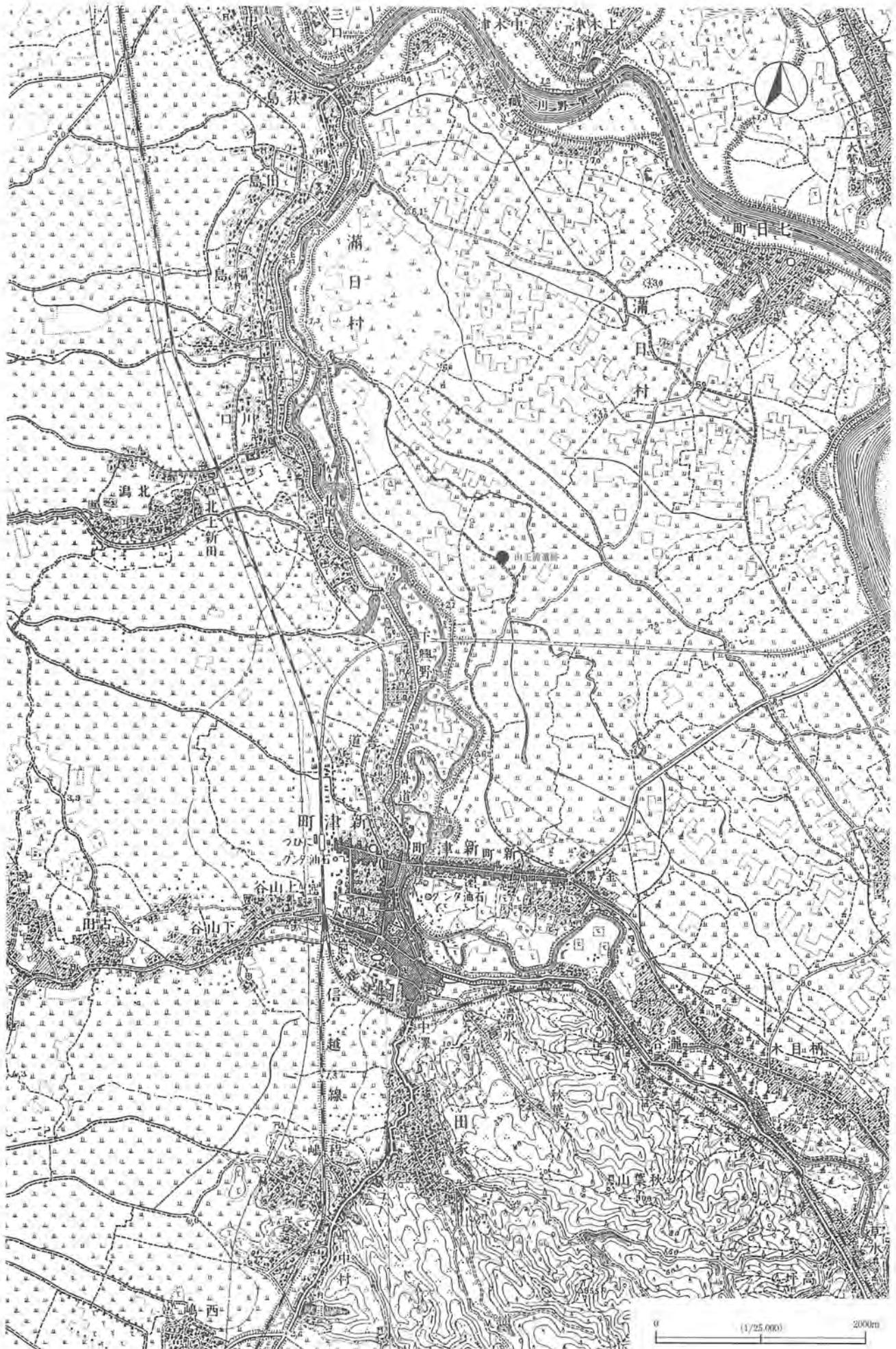
別表3 山王浦遺跡石製品・鍛冶関連遺物観察表

実測No.	図版No.	遺物No.	出土位置		層位	時代	器種	石材	法量				備考
			遺構	グリッド					長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	
石19	54	1		7E8	VI層	古代	砥石	ハリ質安山岩	7.9	5.3	4.4	233.9	
石6	54	2	SE5	7F12	4層	古代	砥石	凝灰岩	45.7	67.9	40.7	123.0	取上No. 388
石5	54	3	SD1	8F12		古代	砥石	緑色凝灰岩	68.6	70.8	36.4	149.1	取上No. 20
石10	54	4	SE5	7F12	中層	古代	砥石	緑色凝灰岩	51.8	50.9	52.5	115.2	取上No. 13
石3	54	5	SK62	5D62	上層	古代	砥石	緑色凝灰岩	36.9	31.8	13.9	17.6	取上No. 32
石21	54	6	立会13区			古代	砥石	凝灰岩	72.0	69.8	34.2	183.0	
石9	54	7		3F20	VI層	古代	砥石	輝緑岩	80.7	67.0	54.7	327.1	
石7	54	8	SE5	7F12	中層	古代	砥石	凝灰岩	66.9	59.7	10.5	45.1	取上No. 29
石4	54	9	SK62	5D14	下層	古代	砥石	安山岩	103.4	104.5	36.8	355.2	取上No. 20
石13	54	10		5D13	VI層	古代	砥石	凝灰岩	152.1	72.9	52.3	629.1	
石11	54	11		7G13	VI層	古代	合石	緑色凝灰岩	129.9	111.9	57.6	1014.1	
石12	55	12		5D13	VI層	古代	砥石	ハリ質安山岩	101.5	76.9	47.9	574.6	
石14	55	13		4E25	VI層	古代	砥石	安山岩	147.0	73.9	46.0	601.5	
石15	55	14		5D15	VI層	古代	砥石	珪質流紋岩	143.0	64.3	59.1	721.0	
石16	55	15	確認 4T			古代	軽石製石製品	軽石	52.9	36.8	30.4	24.9	
石17	55	16	確認 4T			古代	軽石製石製品	軽石	56.3	44.7	26.0	24.5	
石8	55	17		8F13	VI層	古代	軽石製石製品	軽石	30.4	41.6	28.7	14.1	
石2	55	18	SK62	5D14	上層	古代	軽石製石製品	軽石	42.6	29.9	13.5	5.9	
石1	55	19	SD37	5F23	下層	古代	磨石	緑色凝灰岩	76.3	57.9	10.5	55.1	取上No. 8
石18	55	20		5D8	VI層	古代	磨石	凝灰岩	39.1	38.1	21.5	30.0	
石20	55	21		4F11	VI層	古代	磨石	緑色凝灰岩	40.4	35.4	35.3	36.7	
鉄1	55	22	SD105	3F23	1層	古代	鉄滓		45.3	53.1	28.0	54.4	取上No. 70



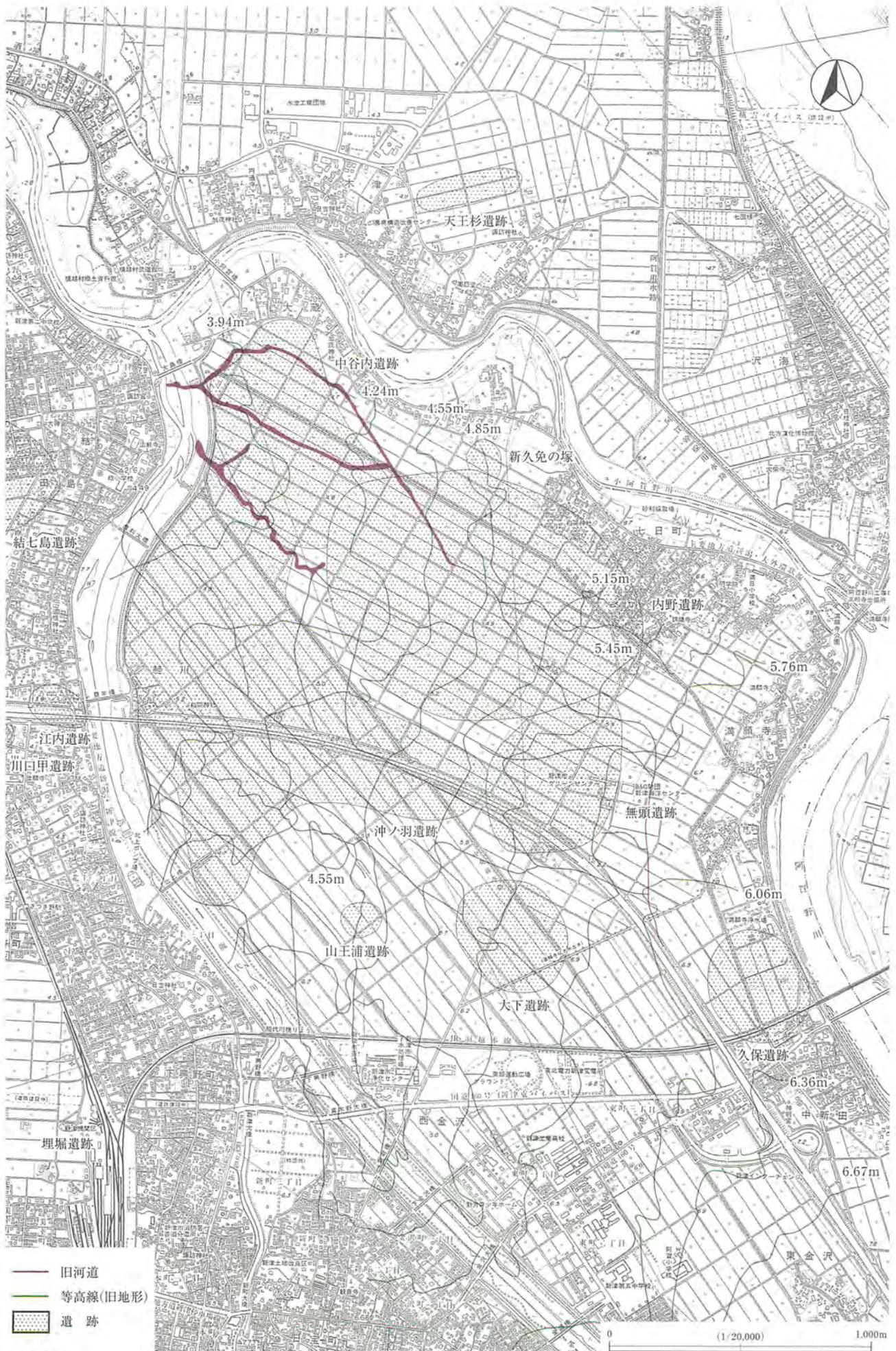








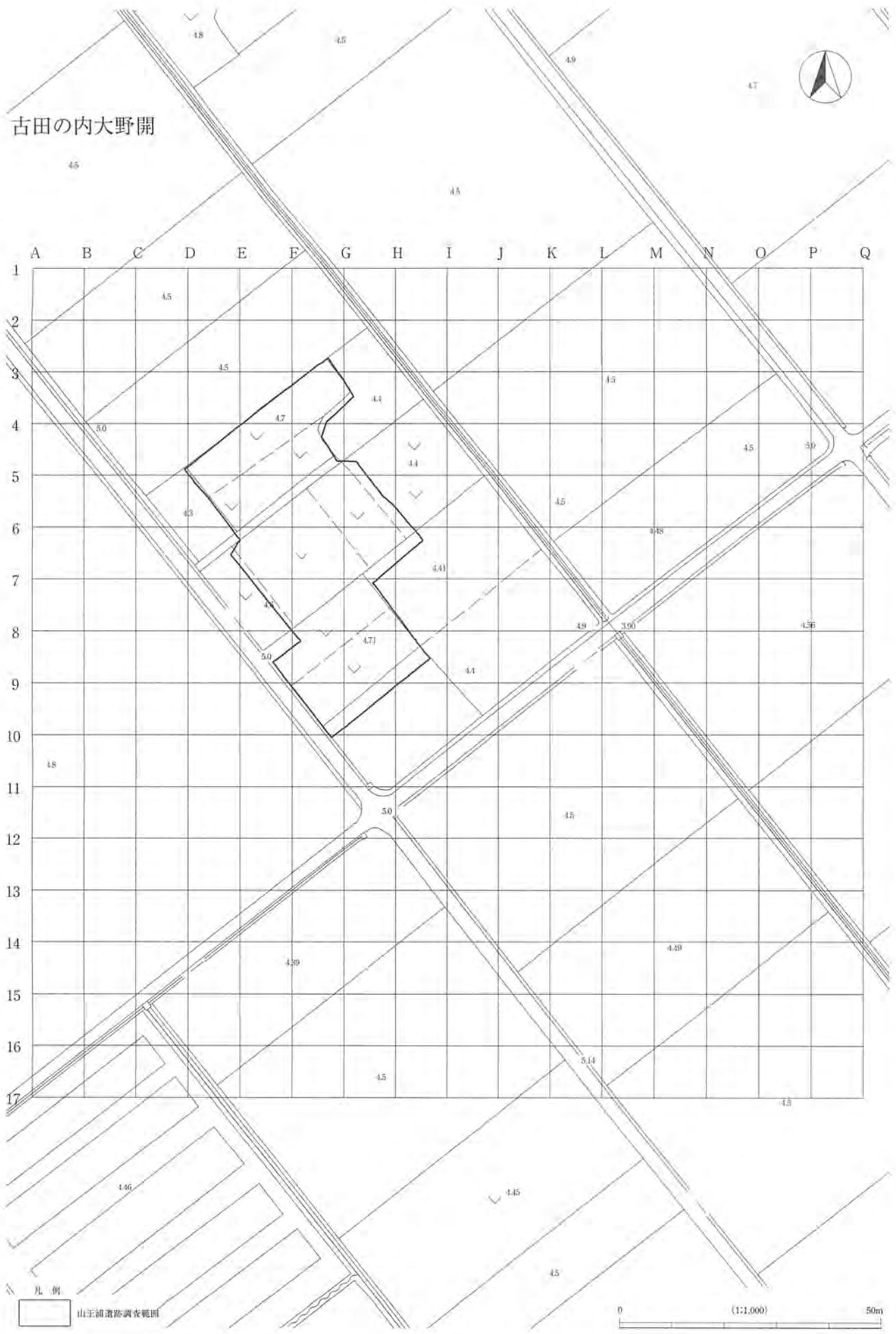
新津可外二ヶ村開田耕地整理組合現形図 1922年 1/1,800→1/10,000  
 新津郷耕地整理組合現形図 1940年頃 1/1,800→1/10,000  
 新津市都市計画図 1995年 1/2,500→1/10,000



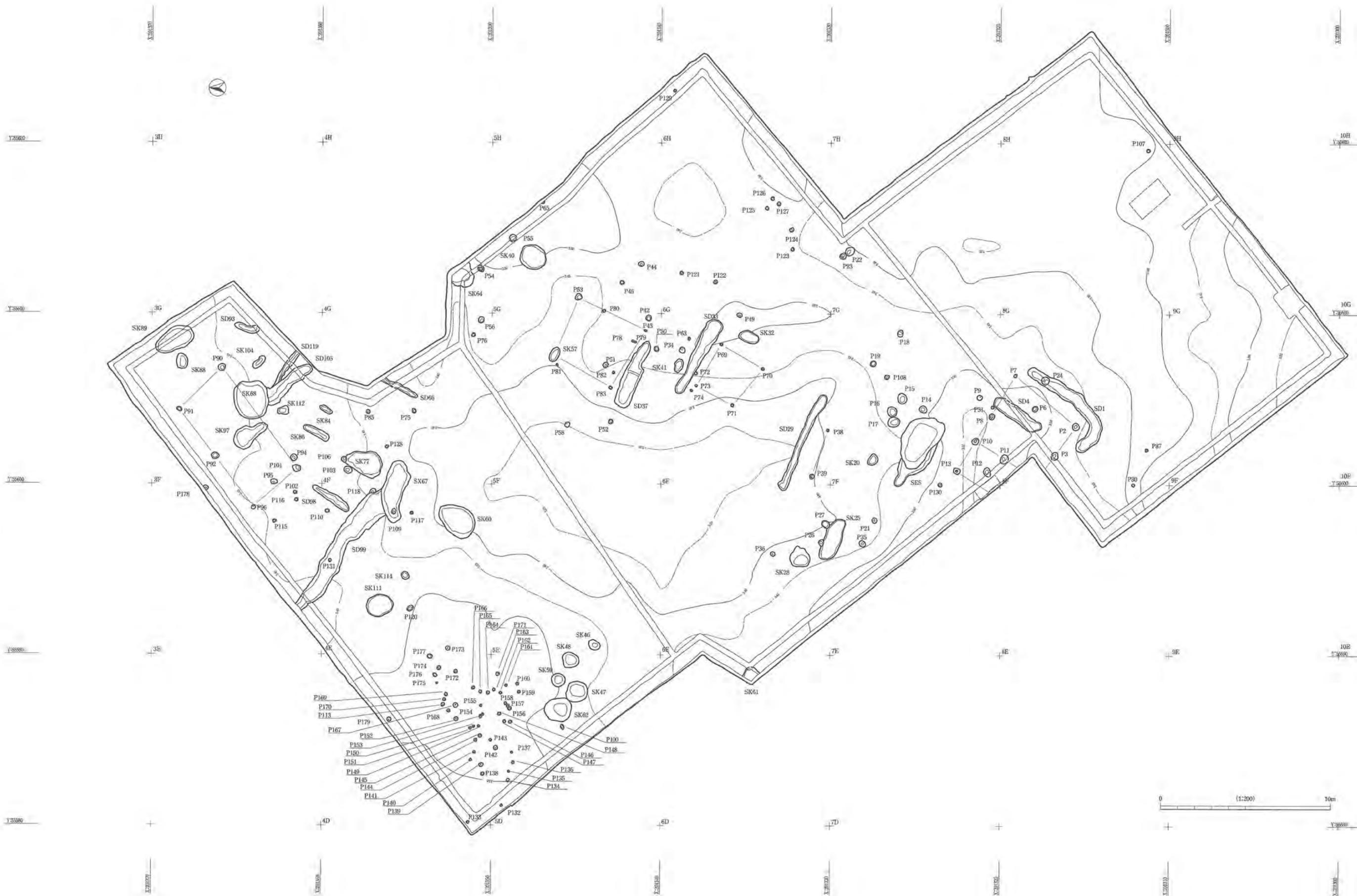
(2004年3月現在)

(新津町外二ヶ村開田耕作整理組合 1922)  
(新津町東部整理組合 1940)  
(小池ほか 1994)からの作成

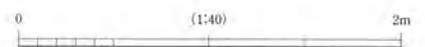
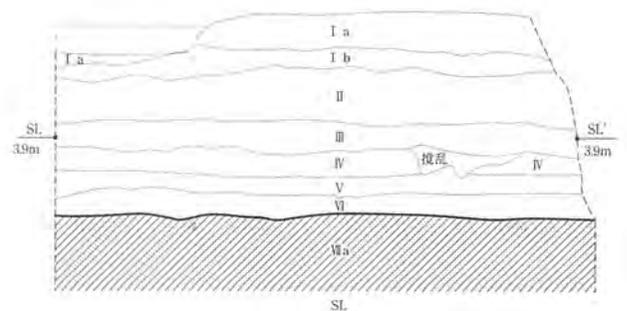
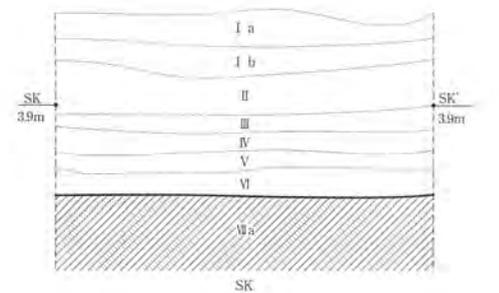
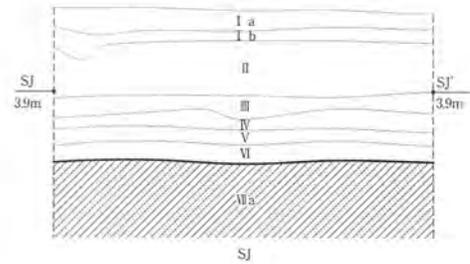
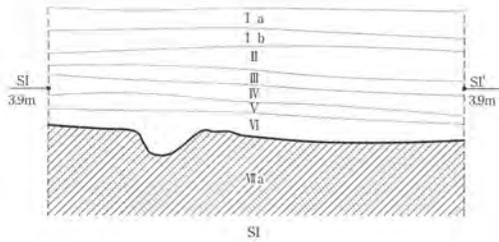
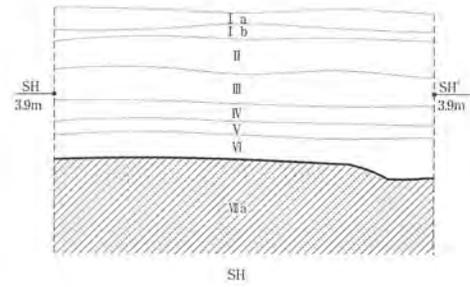
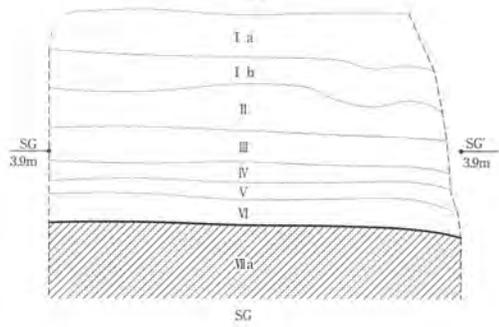
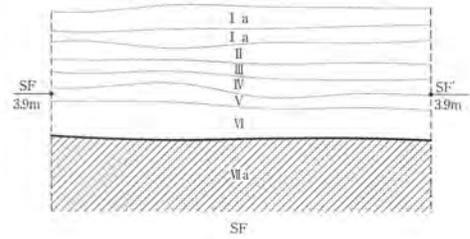
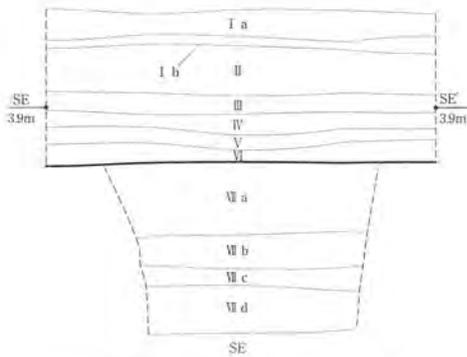
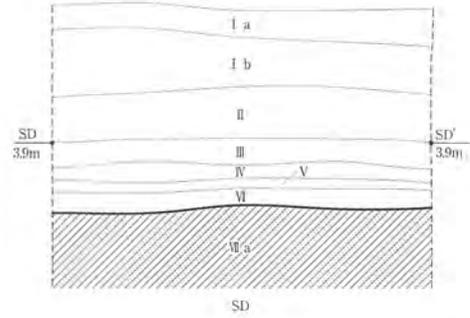
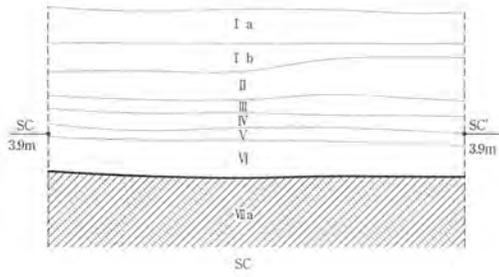
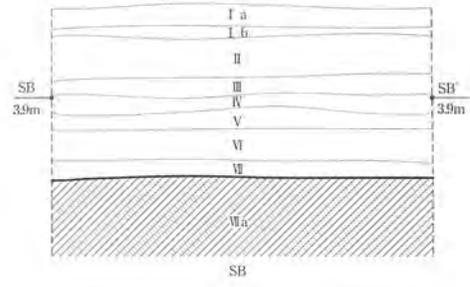
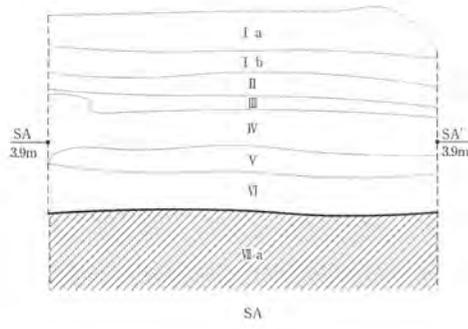


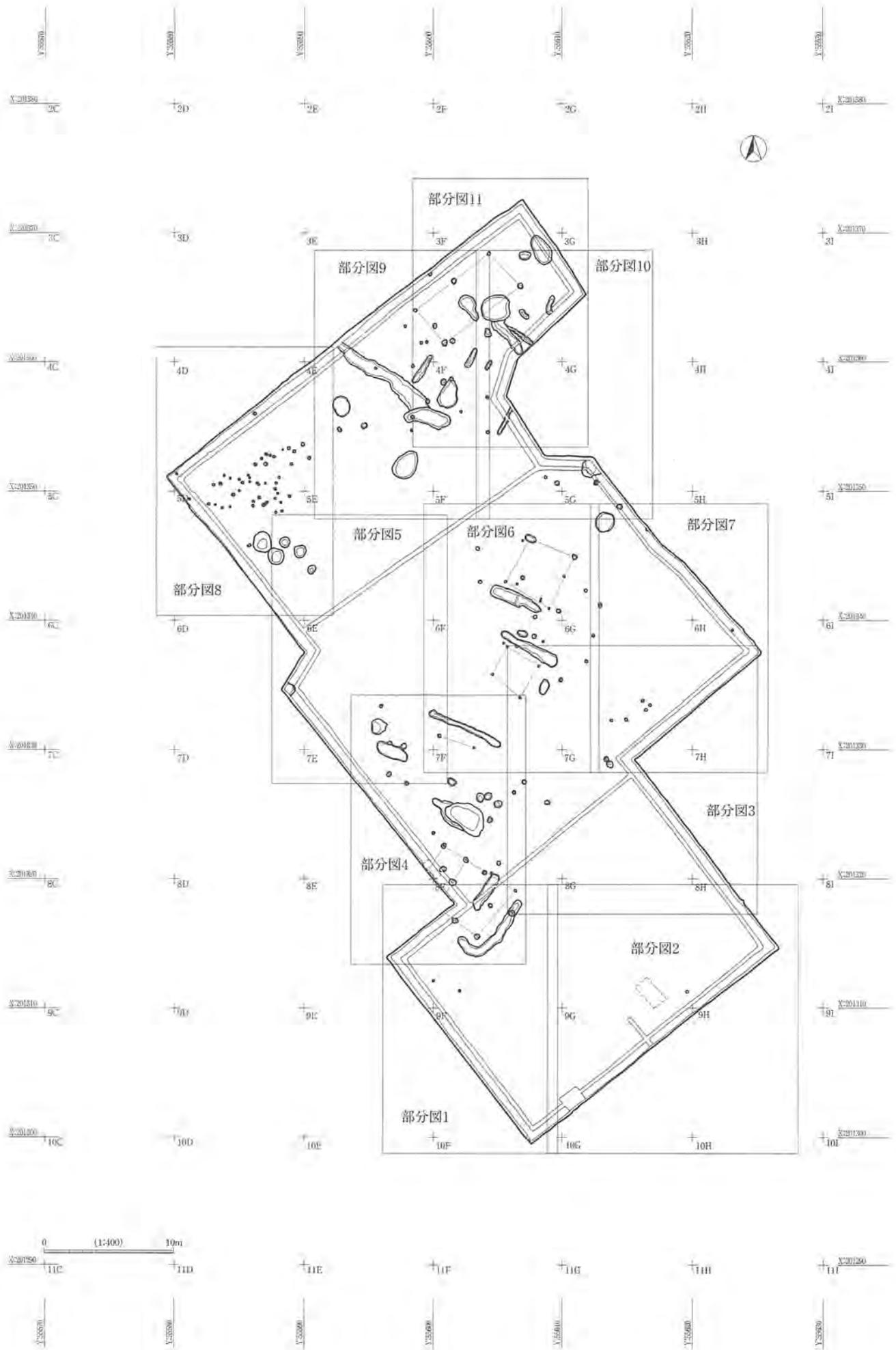


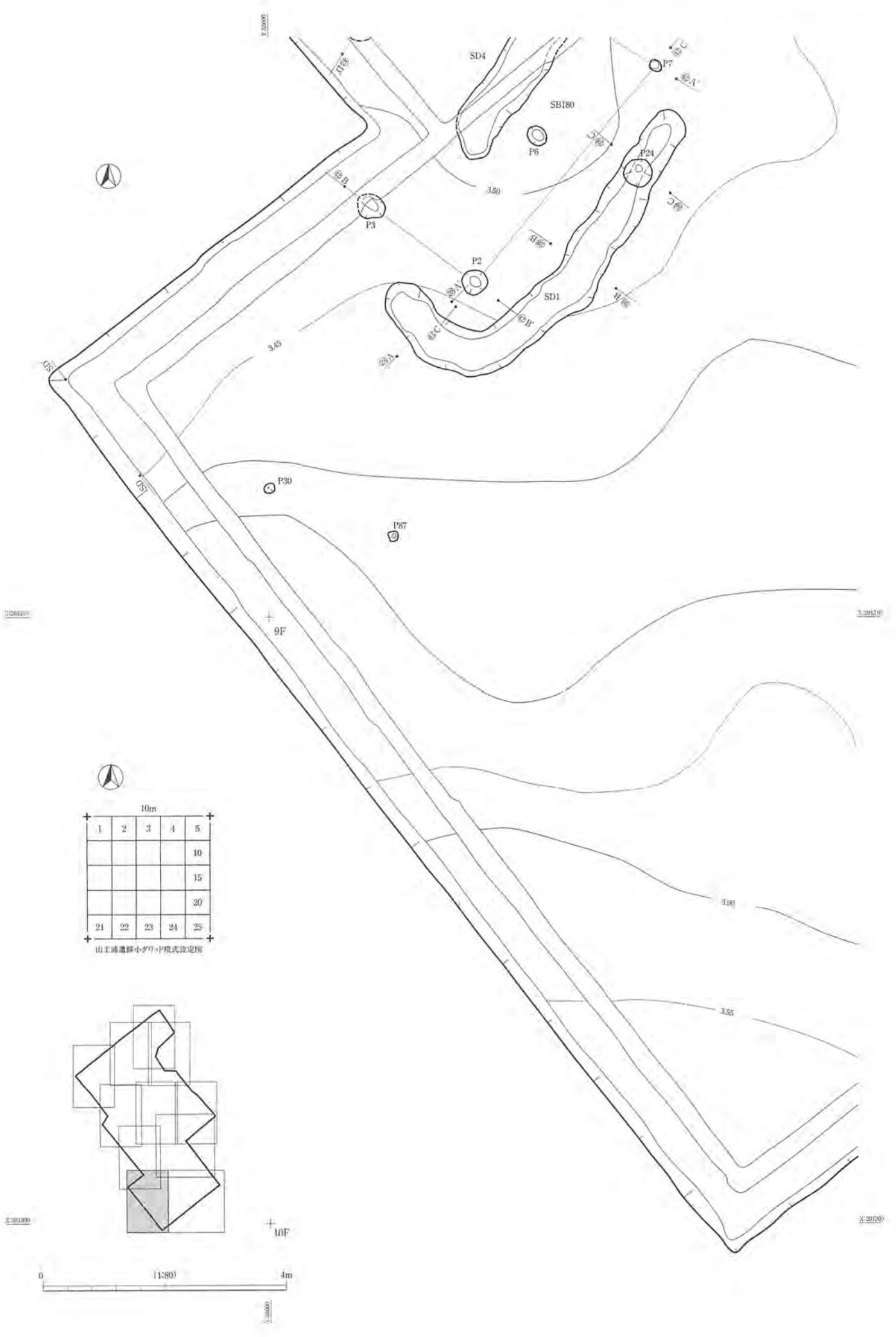


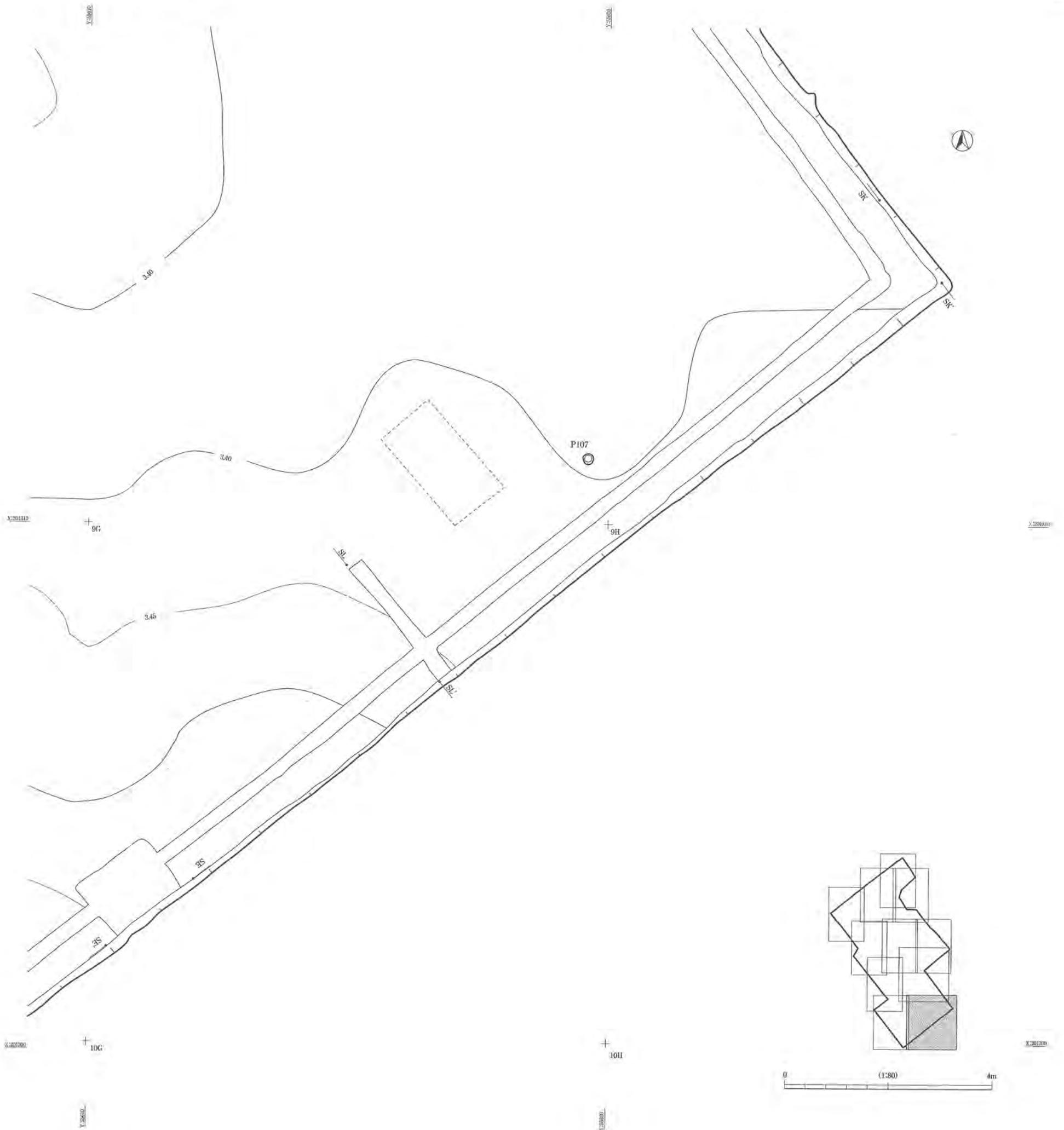


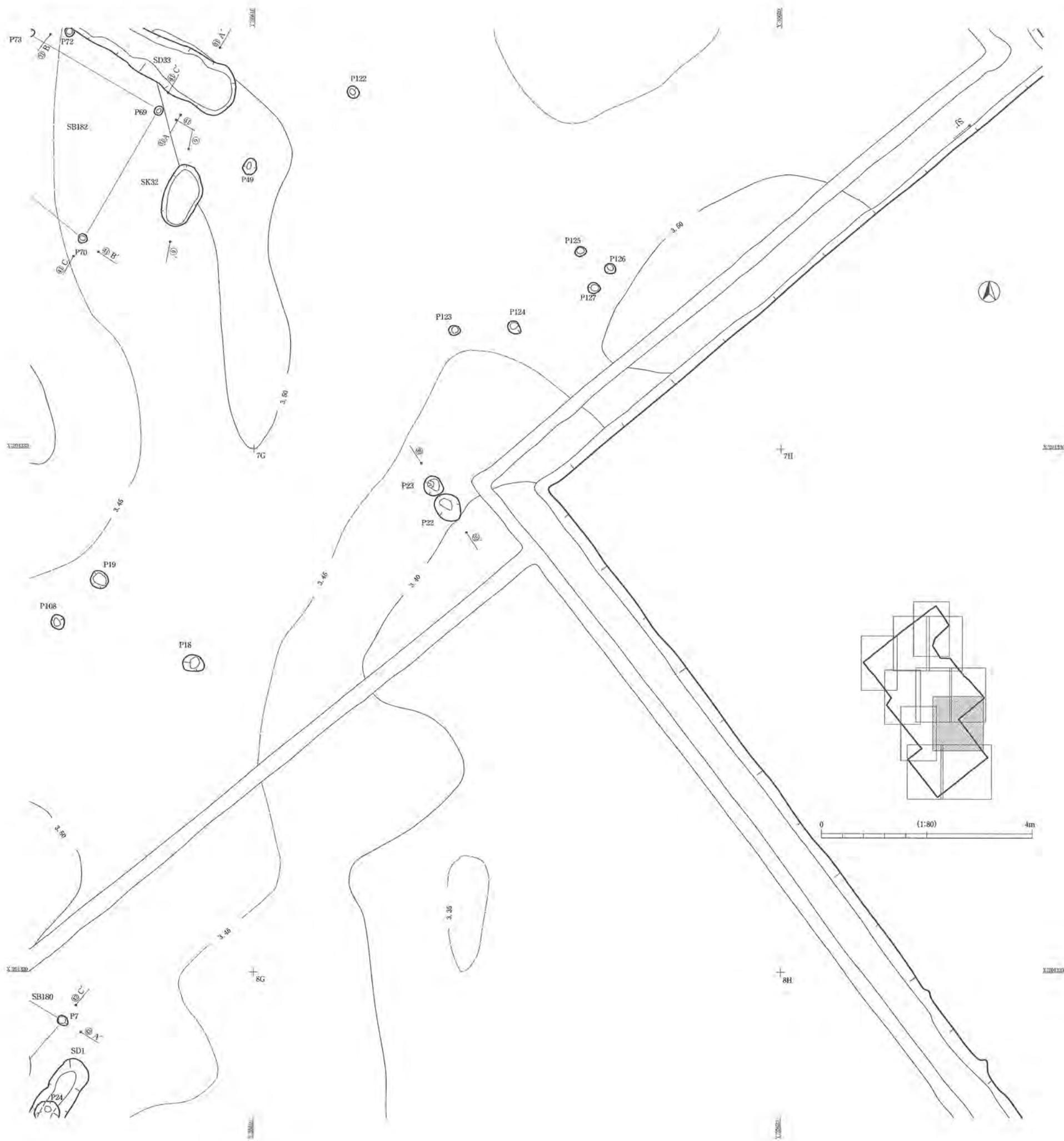


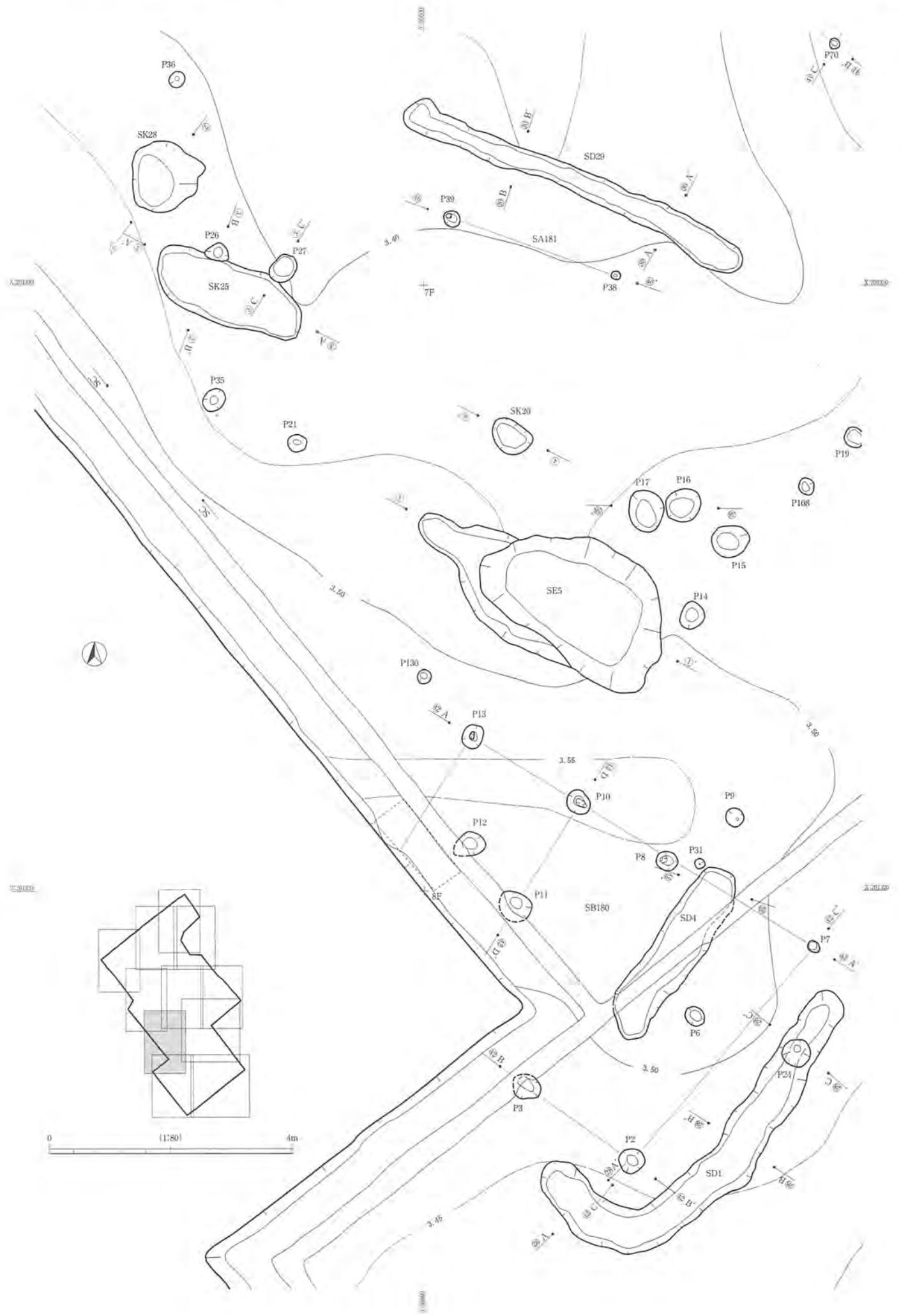


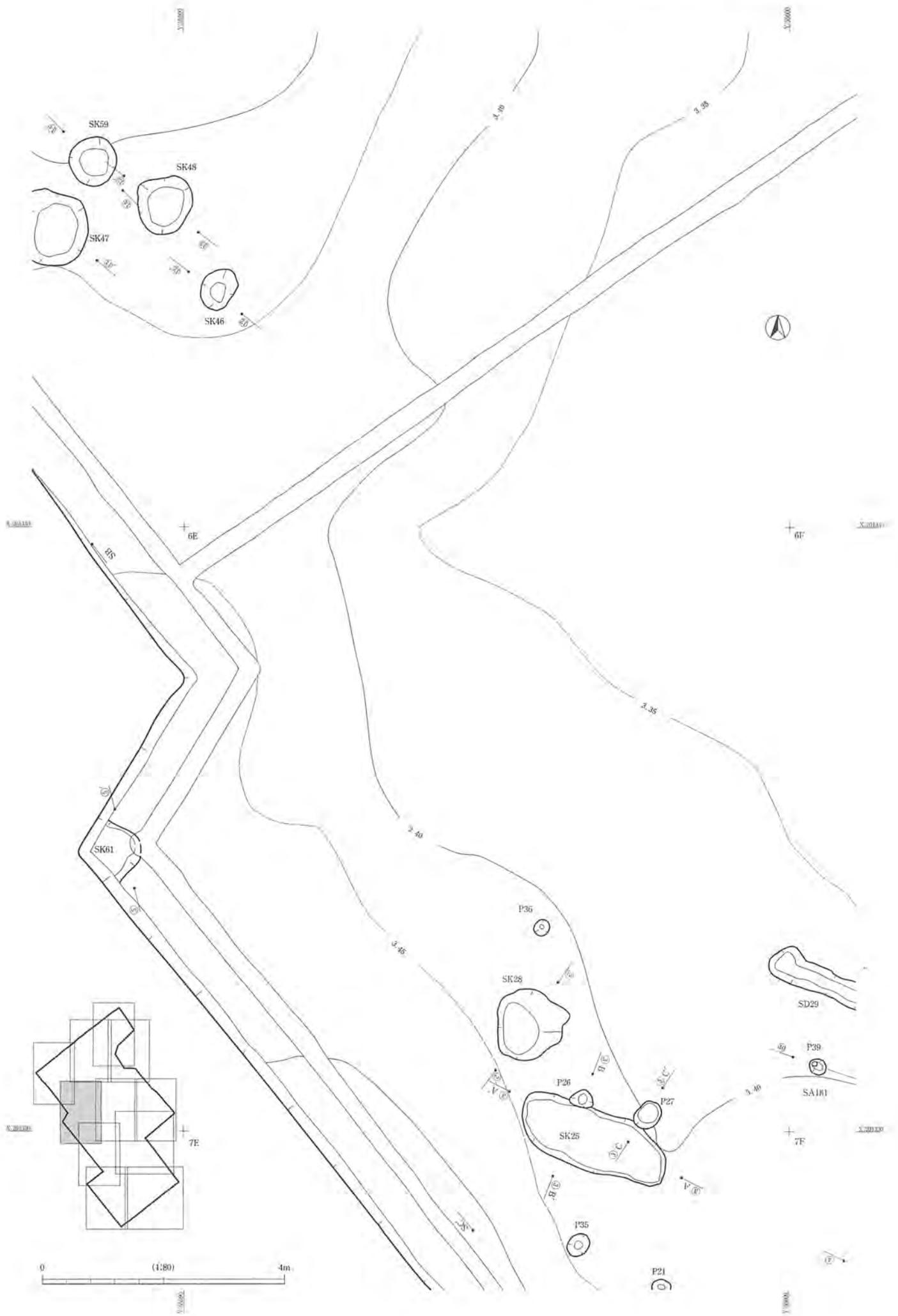


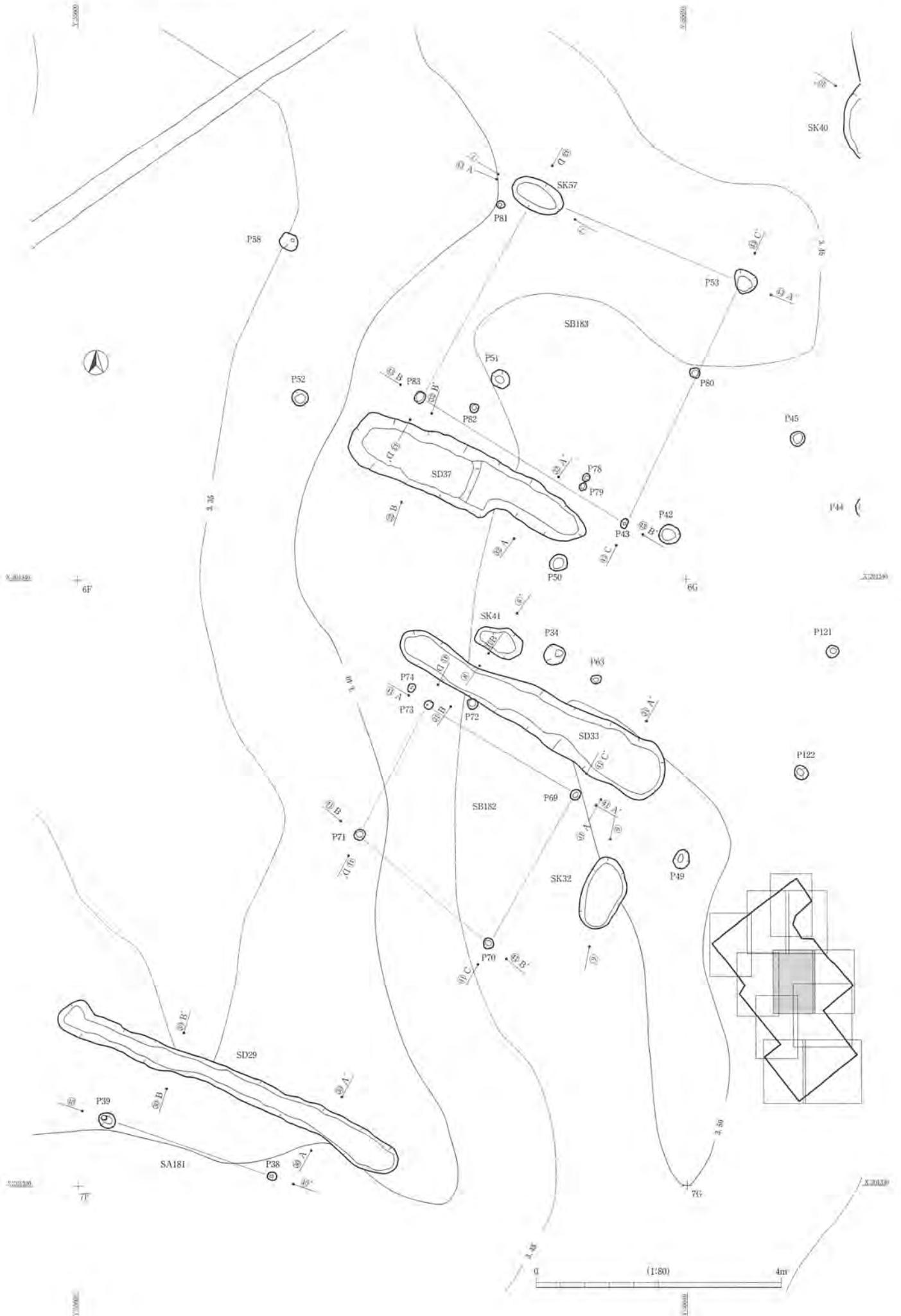


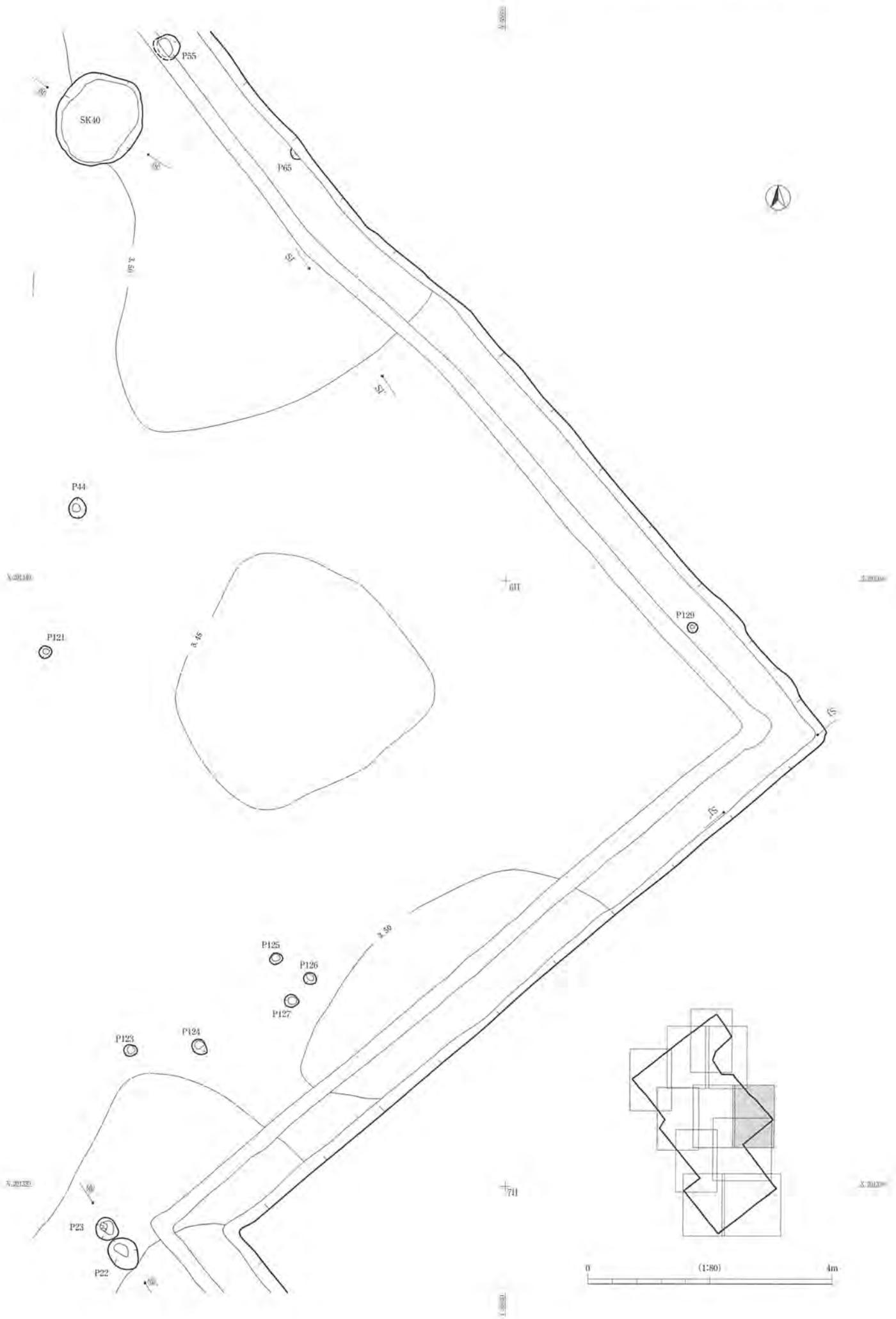


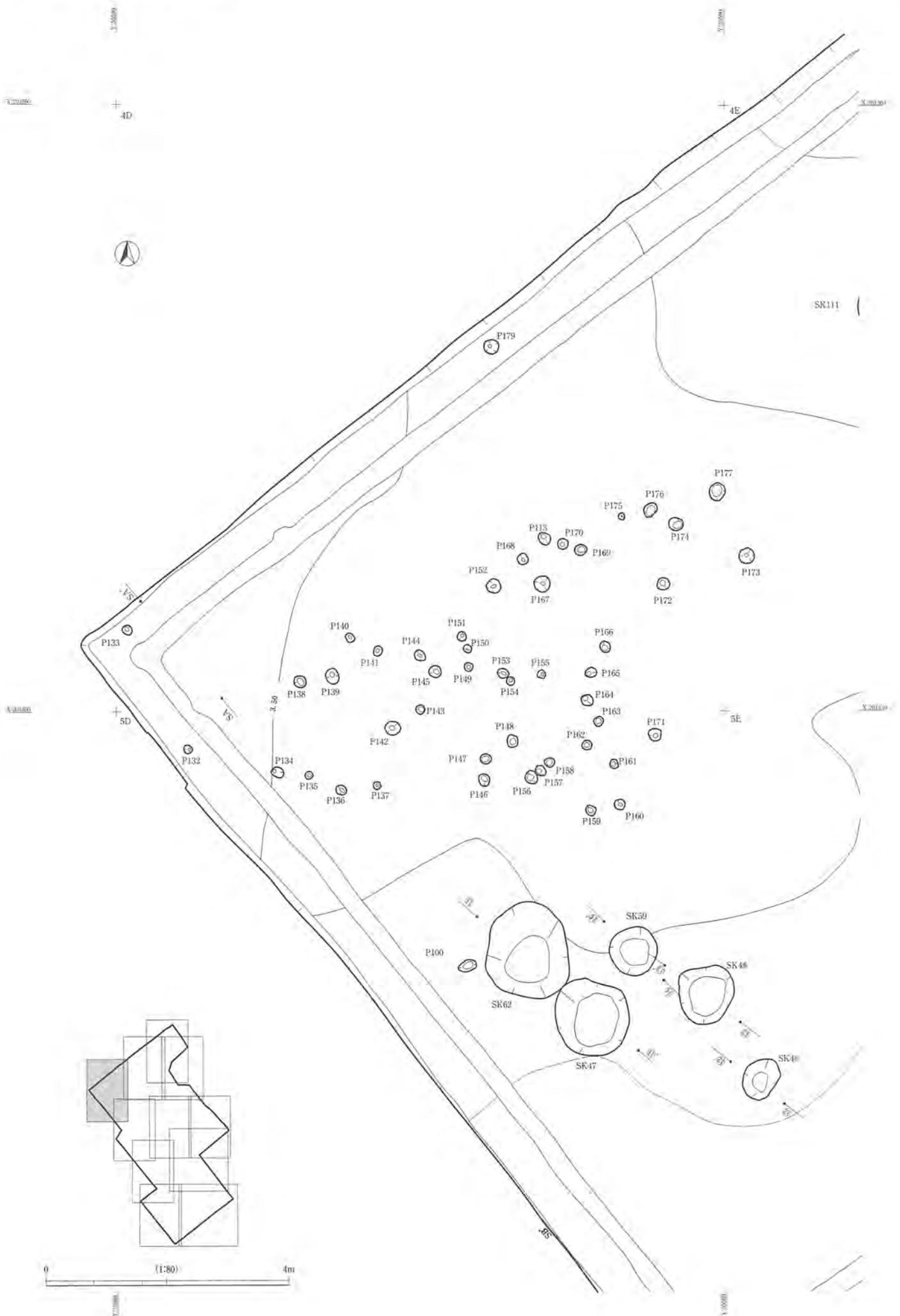


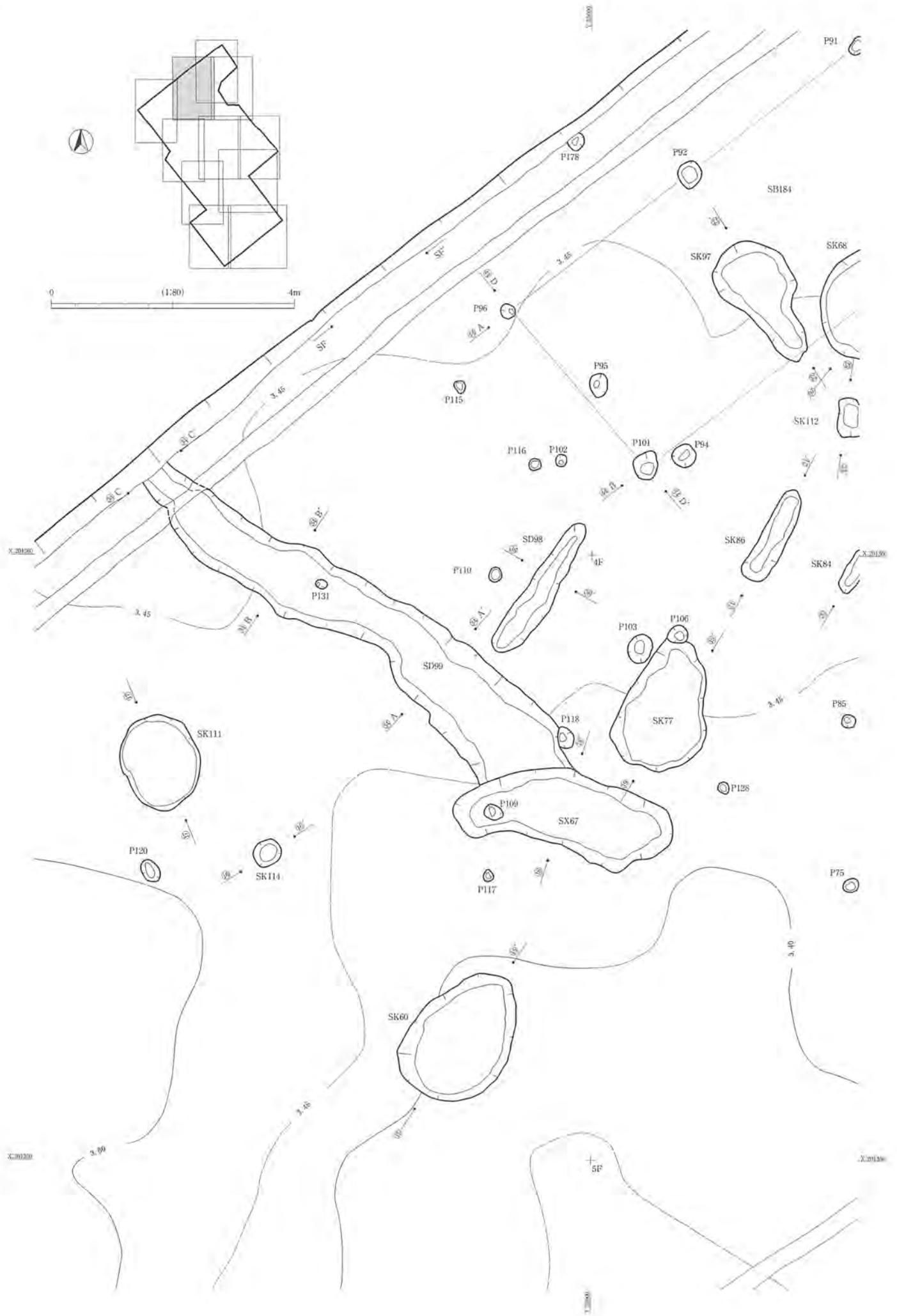


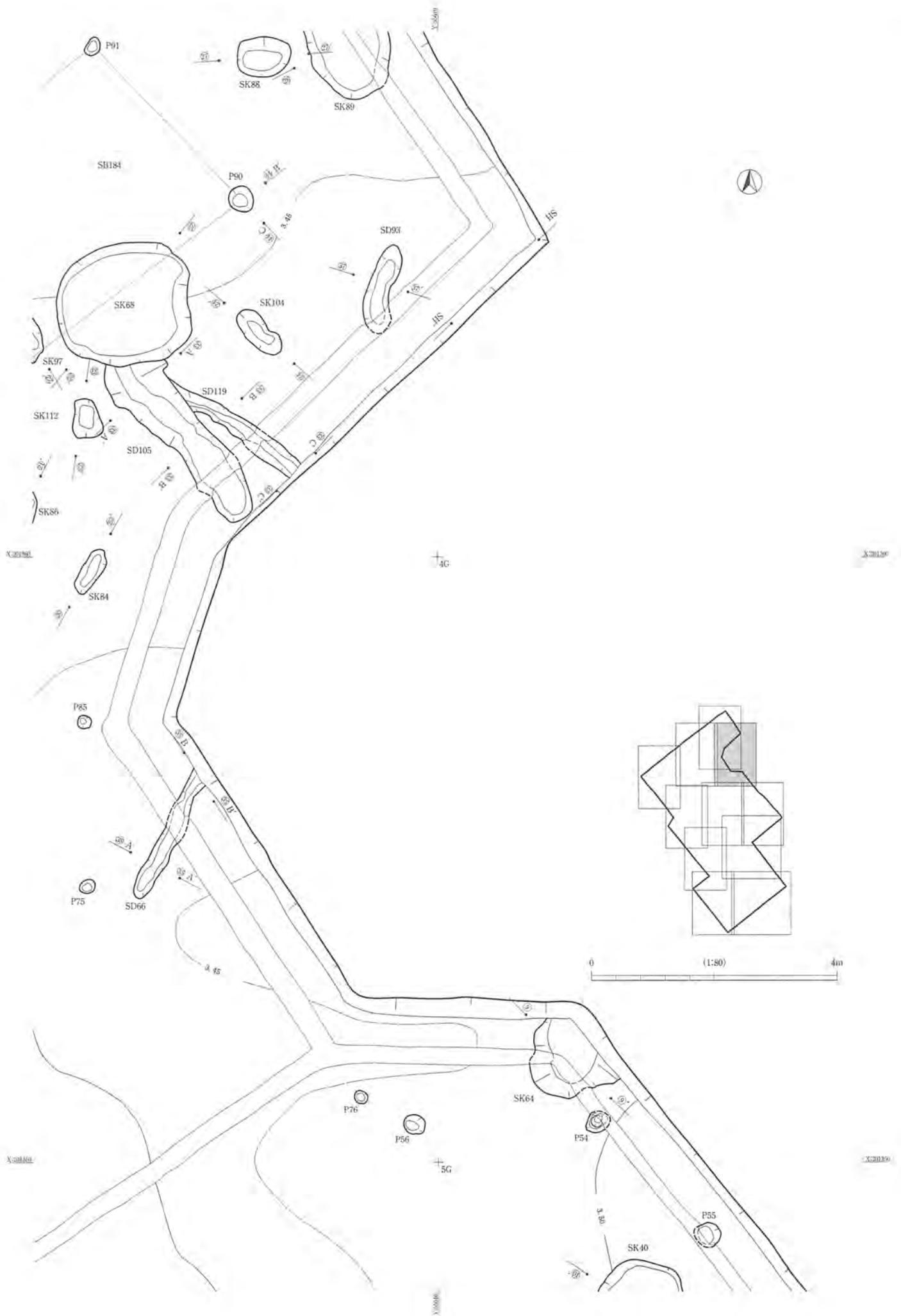


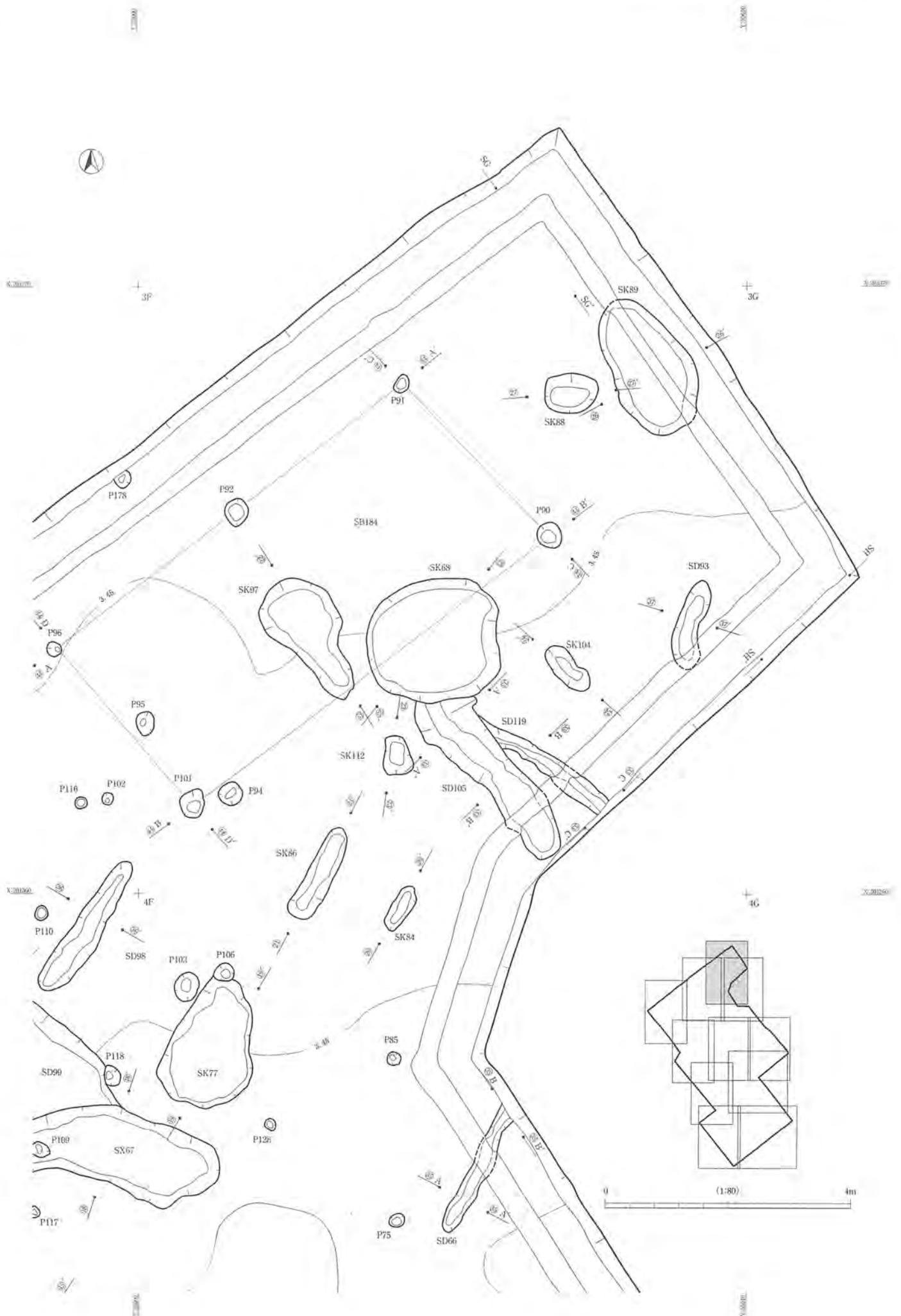


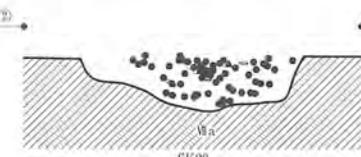
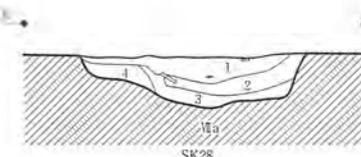
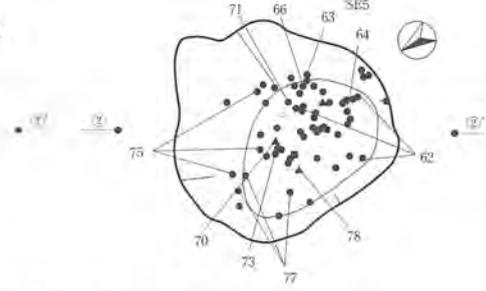
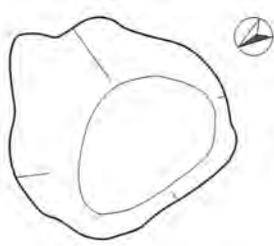
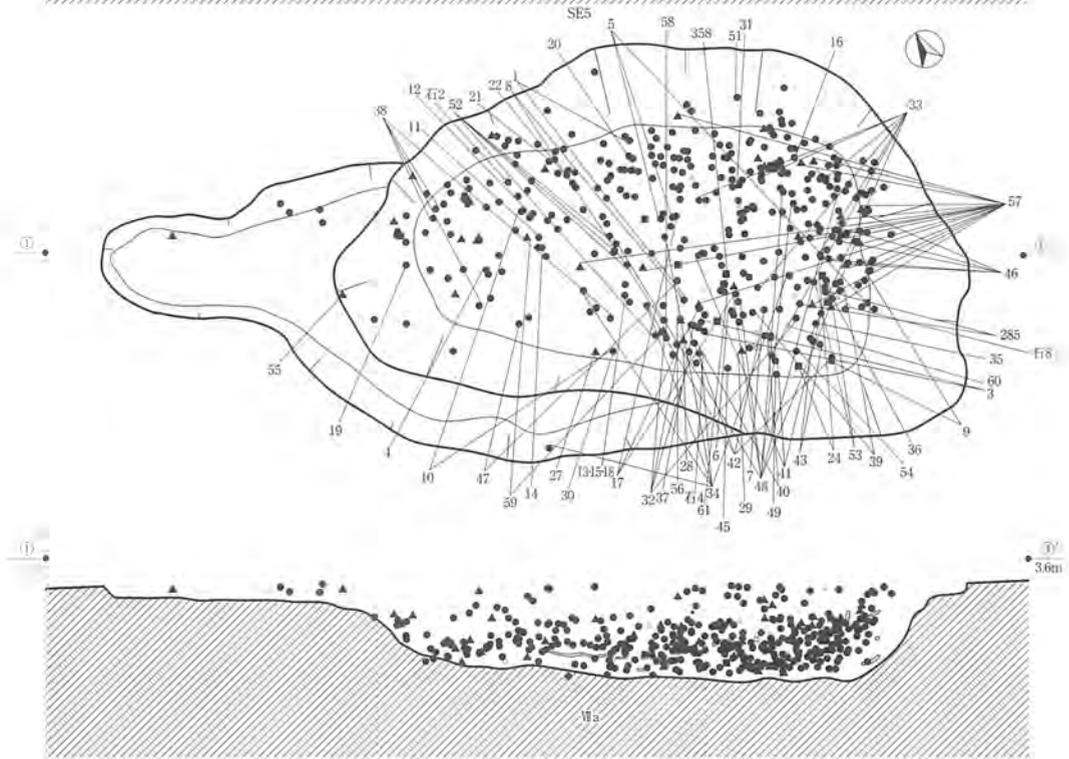
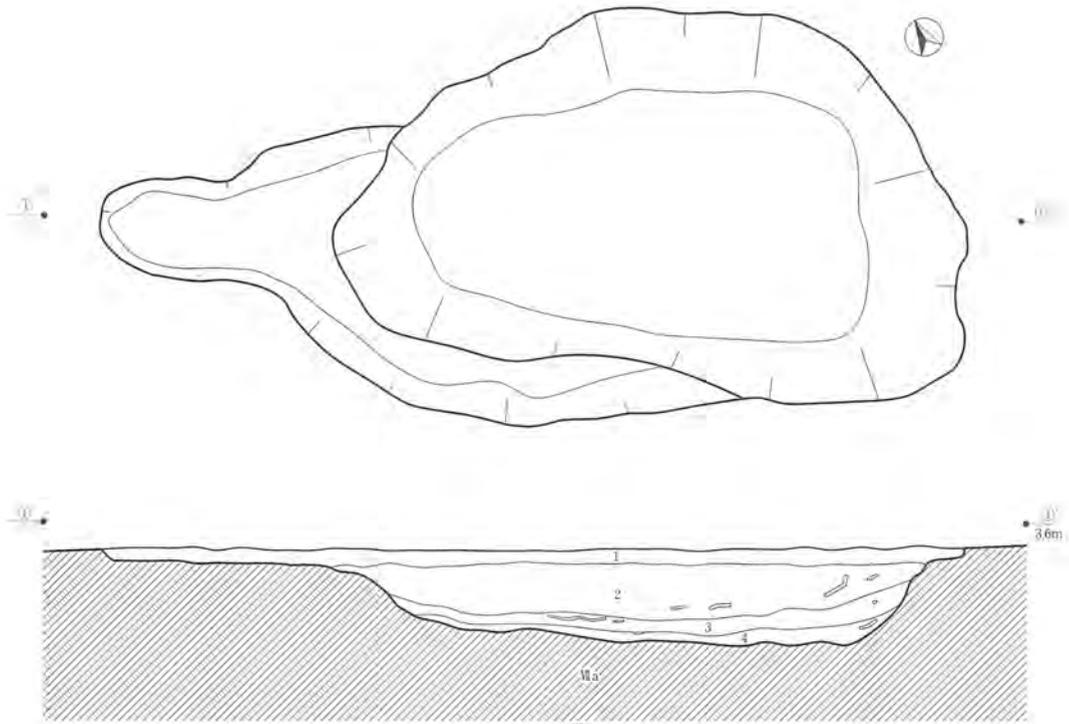




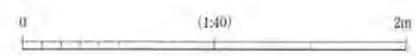


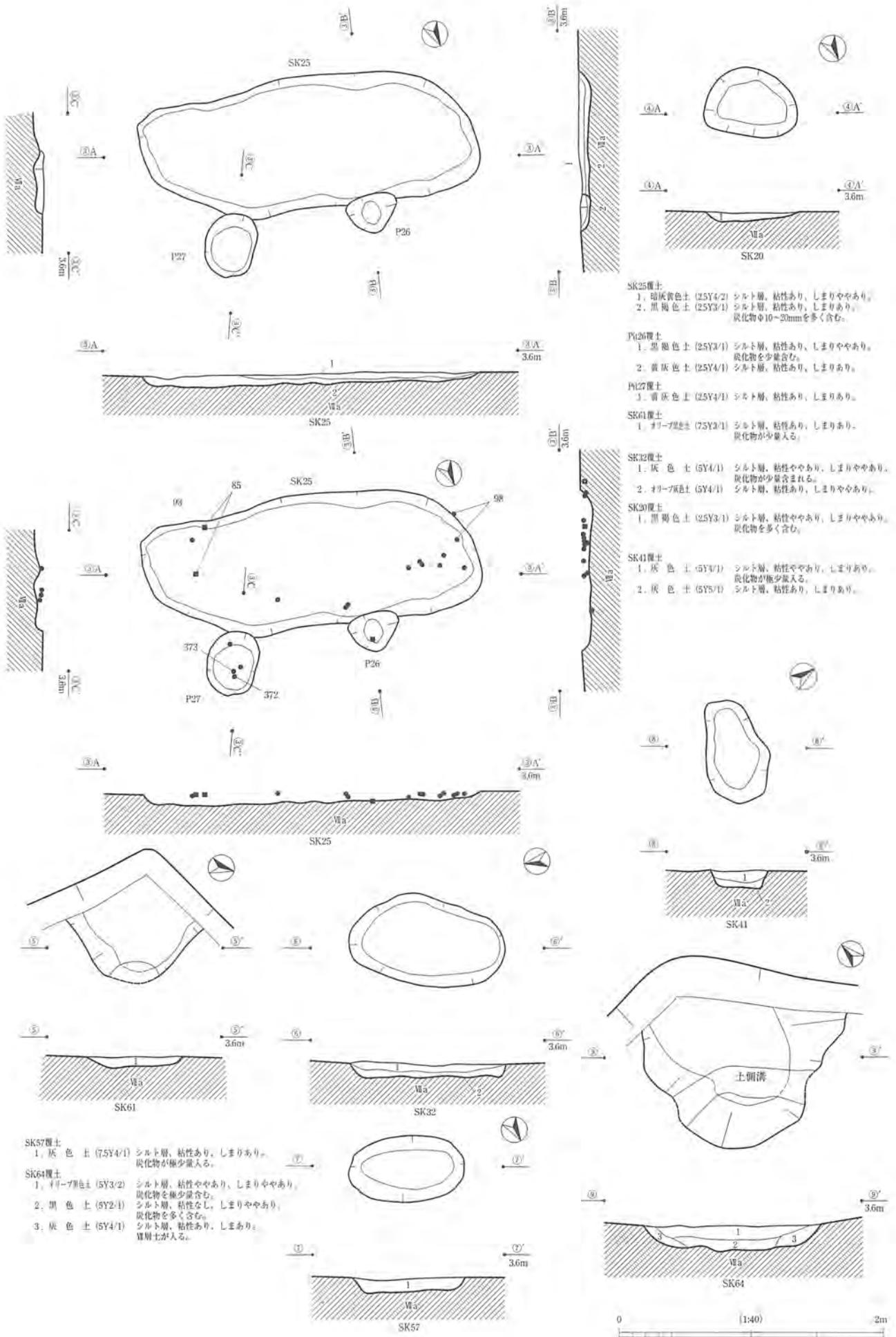


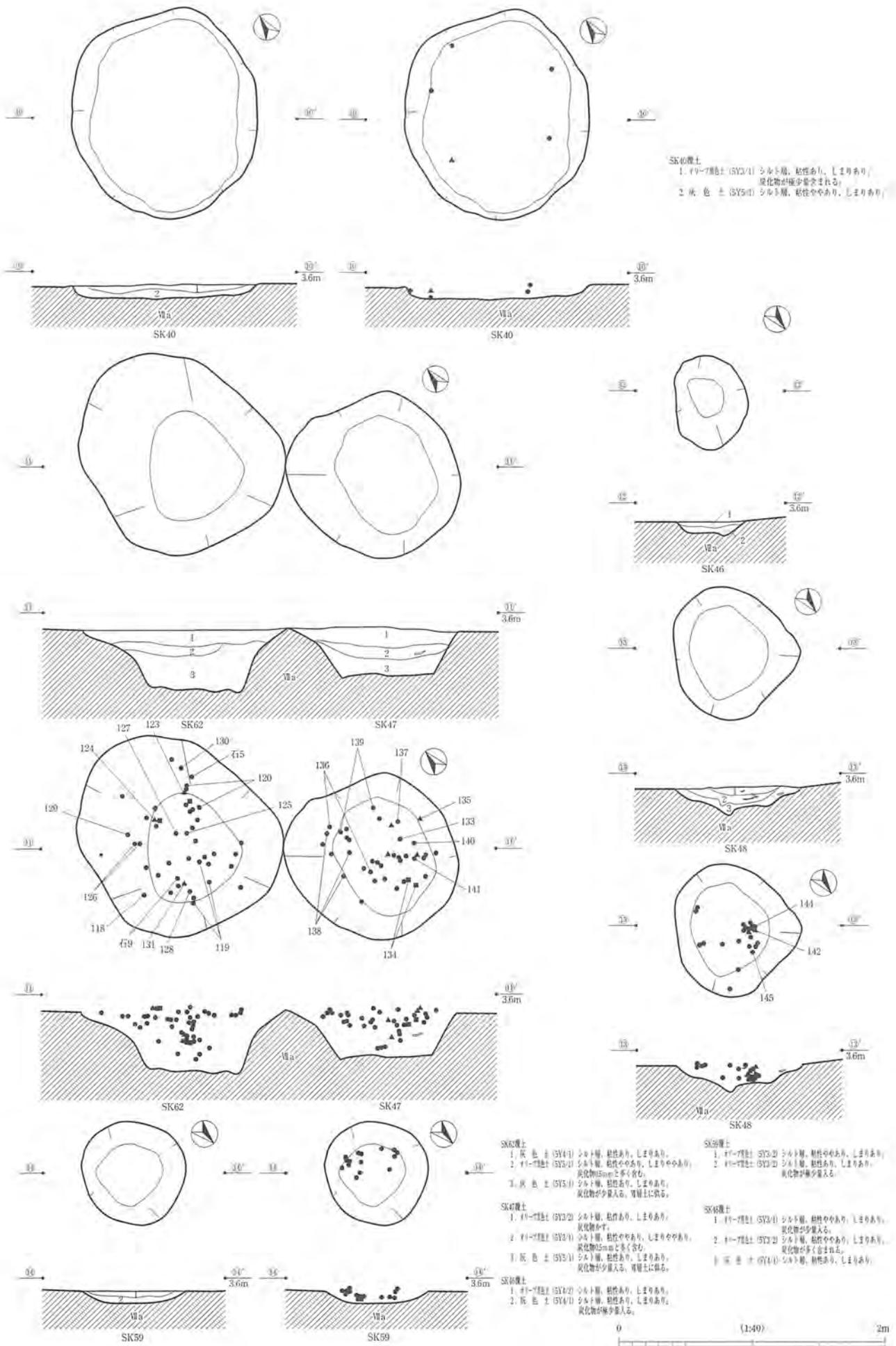


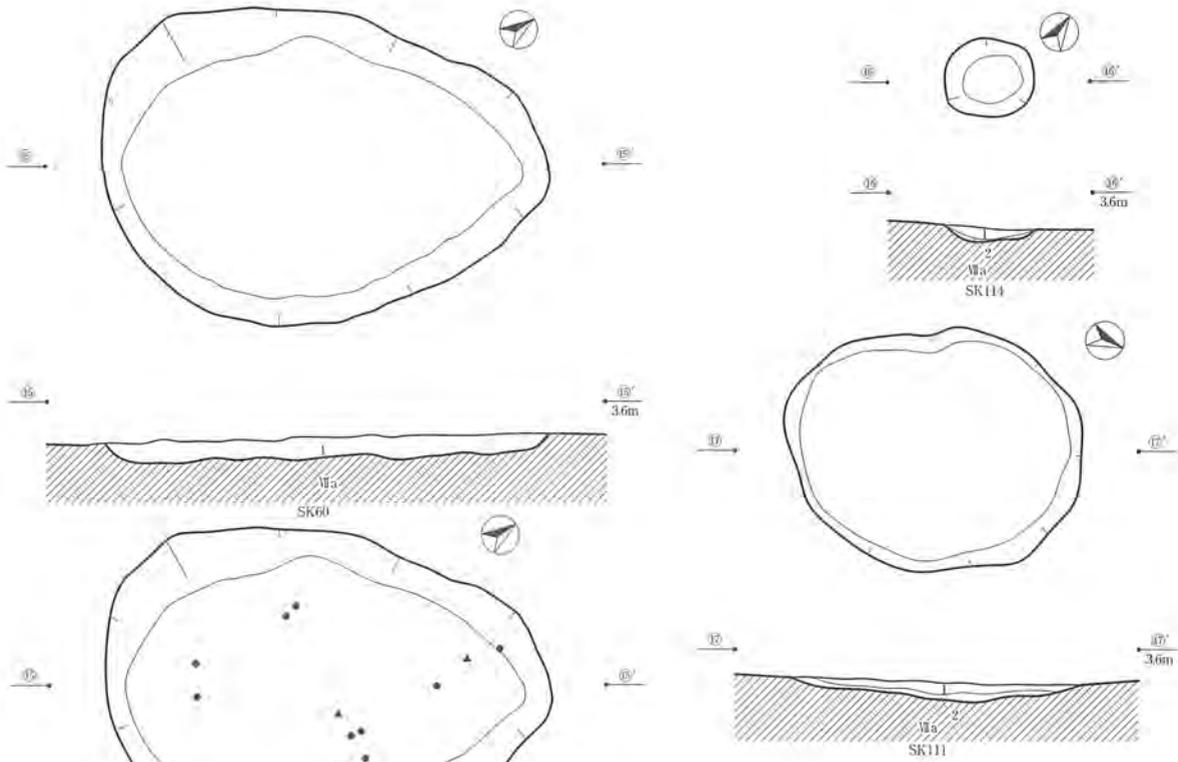


- SE5覆土**
- 1. 灰色土 (5Y5/1) シルト層、粘性あり、しまりあり。
  - 2. オリーブ褐色土 (5Y3/1) シルト層、粘性ややあり、しまりあり。炭化物が少量含まれる。
  - 3. 黒色土 (5Y2/1) シルト層、粘性なし、しまりあり。炭と炭化物が多く入る。
  - 4. オリーブ褐色土 (5Y3/2) シルト層、粘性ややあり、しまりあり。炭化物が多く入る。
- SK28覆土**
- 1. オリーブ褐色土 (7.5Y5/1) シルト層、粘性あり、しまりややあり。炭化物が少量入るφ10~20mm。
  - 2. 灰色土 (7.5Y4/1) シルト層、粘性ややあり、しまりややあり。
  - 3. 黒色土 (7.5Y2/1) シルト層、粘性ややあり、しまりややあり。炭化物が多く入る。
  - 4. 灰色土 (7.5Y5/1) シルト層、粘性あり、しまりあり。炭化物が極少量入る、骨層との流れ込み。

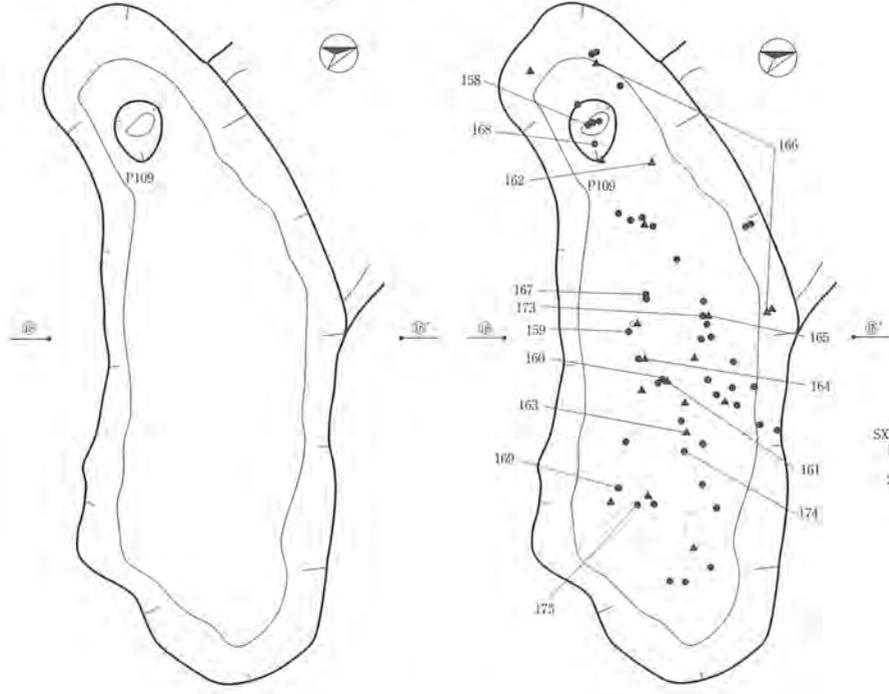




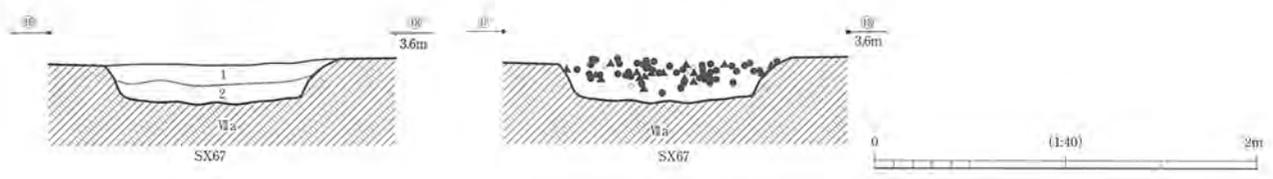


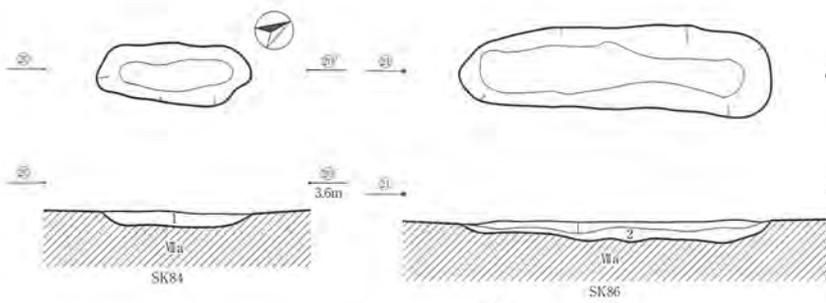
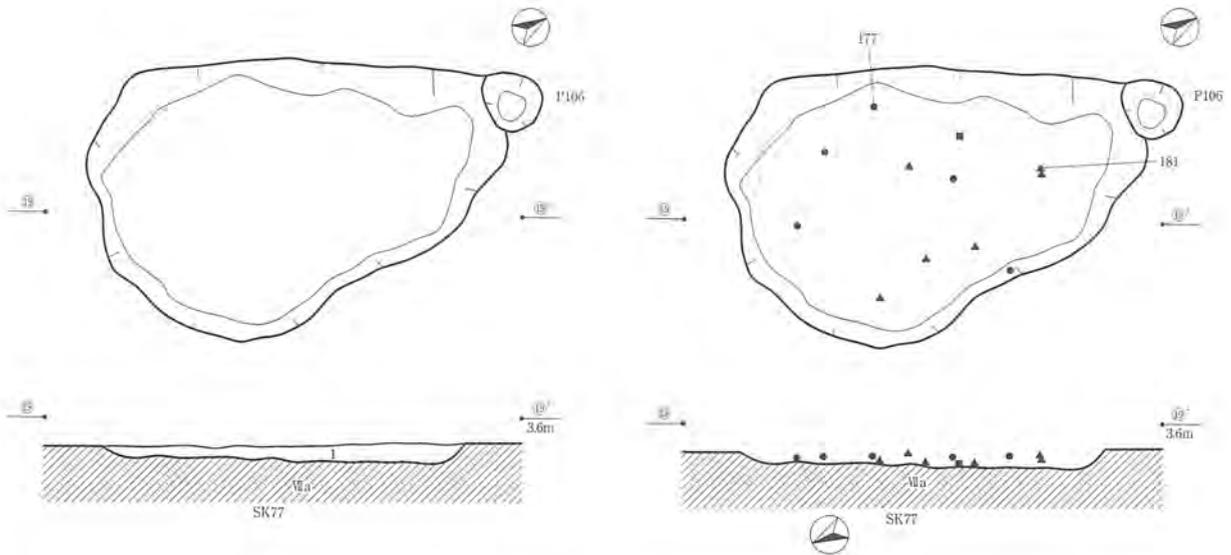


SK60覆土  
 1. 灰色土 (5Y4/1) シルト層、粘性あり、しまりあり。炭化物を極少量入る。  
 SK111覆土  
 1. 灰色土 (7.5Y4/1) シルト層、粘性あり、しまりあり。炭化物が極少量入る。  
 2. 灰色土 (7.5Y6-1) シルト層、粘性あり、しまりあり。重層土が入る。  
 SK114覆土  
 1. 黒色土 (7.5Y2/1) シルト層、粘性ややあり、しまりややあり。炭化物が多量に入る。  
 2. 灰色土 (7.5Y5/1) シルト層、粘性あり、しまりあり。

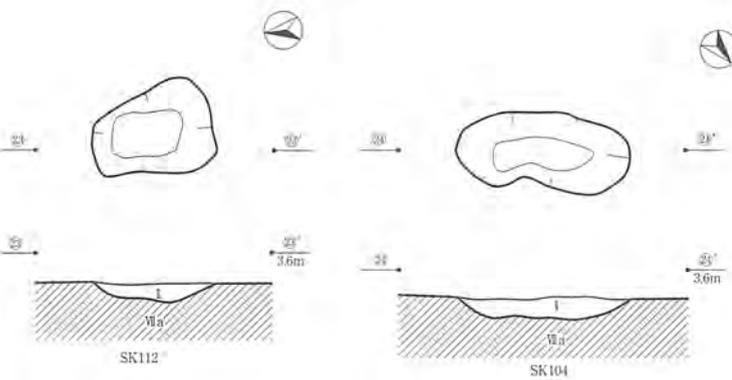
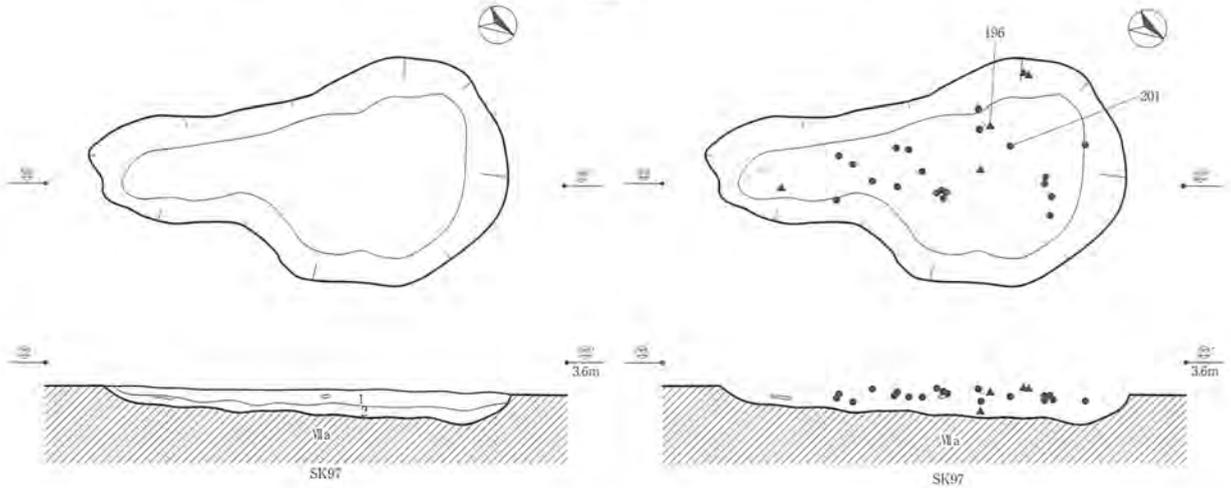


SX67覆土  
 1. オリーブ褐色土 (5Y3/1) シルト層、粘性ややあり、しまりあり。炭化物が少量入る。  
 2. 灰色土 (5Y4/1) シルト層、粘性ややあり、しまりあり。炭化物が極少量入る。

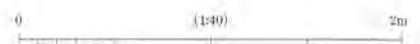


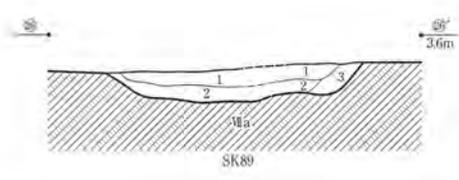
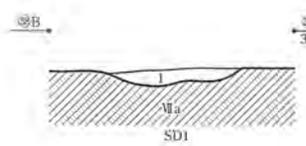
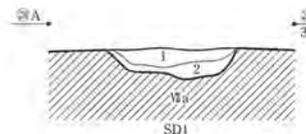
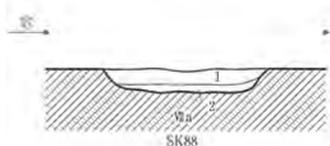
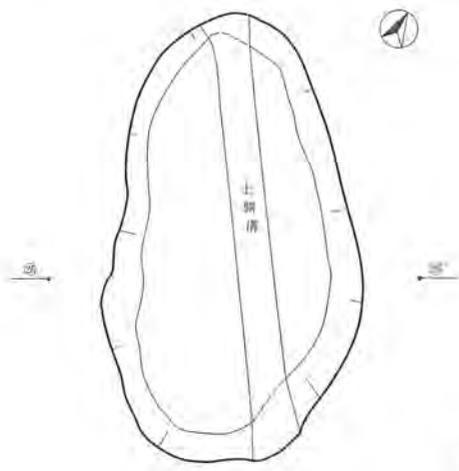
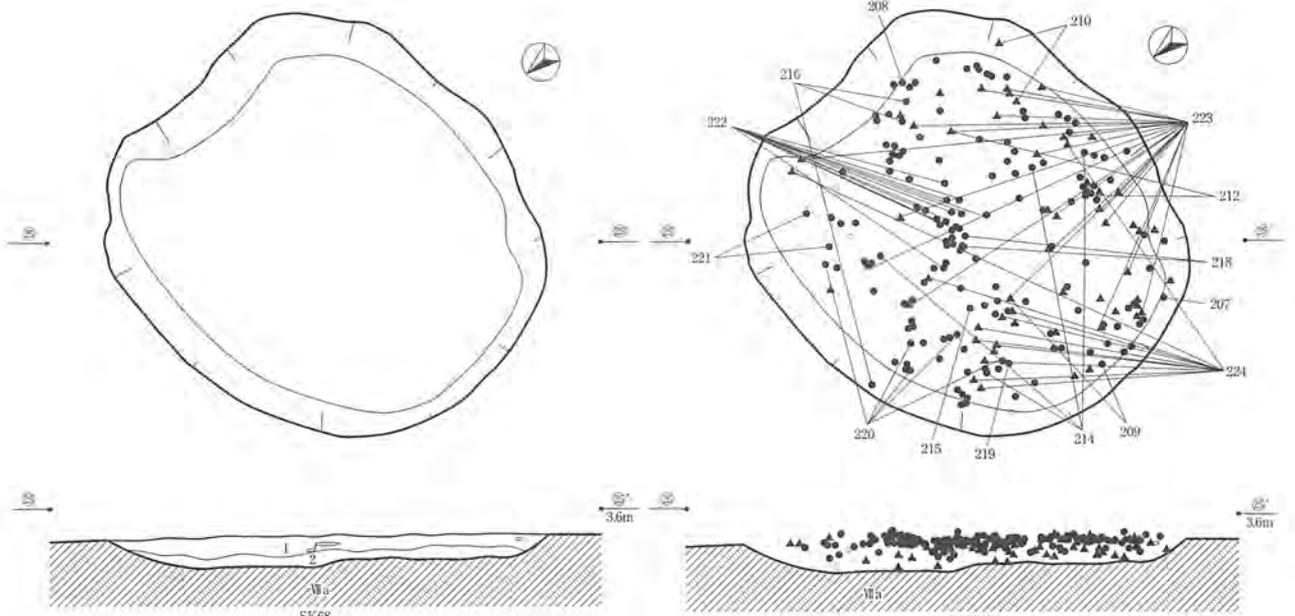


- SK77覆土  
1. 灰色土 (5Y4/1) シルト層, 粘性ややあり, しまりあり, 炭化物が少量入る。
- SK84覆土  
1. 灰色土 (5Y5/1) シルト層, 粘性ややあり, しまりなし, 炭化物が少量入る。
- SK86覆土  
1. 灰色土 (5Y4/1) シルト層, 粘性あり, しまりあり, 炭化物が少量入る。  
2. 黄褐色土 (5Y3/1) シルト層, 粘性あり, しまりあり, 炭化物が少量入る。



- SK97覆土  
1. 黄褐色土 (5Y3/1) シルト層, 粘性ややあり, しまりあり, 炭化物が少量入る。  
2. 灰色土 (5Y4/1) シルト層, 粘性あり, しまりあり。
- SK112覆土  
1. 灰色土 (7.5Y4/1) シルト層, 粘性あり, しまりあり, 炭化物が極少量入る。
- SK104覆土  
1. 灰褐色土 (7.5Y4/2) シルト層, 粘性あり, しまりあり, 炭化物が極少量入る。

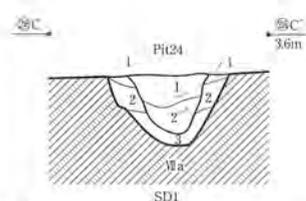




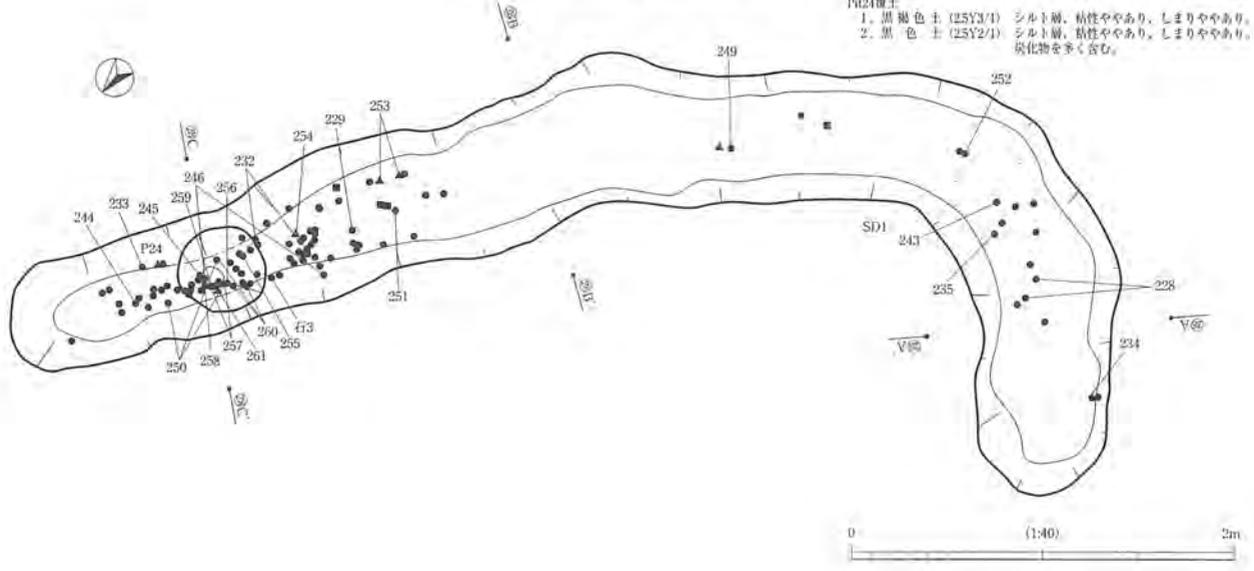
- SK68覆土
1. 灰色土 (5Y4/1) シルト層、粘性あり、しまりややあり。炭化物が少量入る。
  2. 黒色土 (5Y4/1) シルト層、粘性ややあり、しまりややあり。炭化物が非常に多く入る。

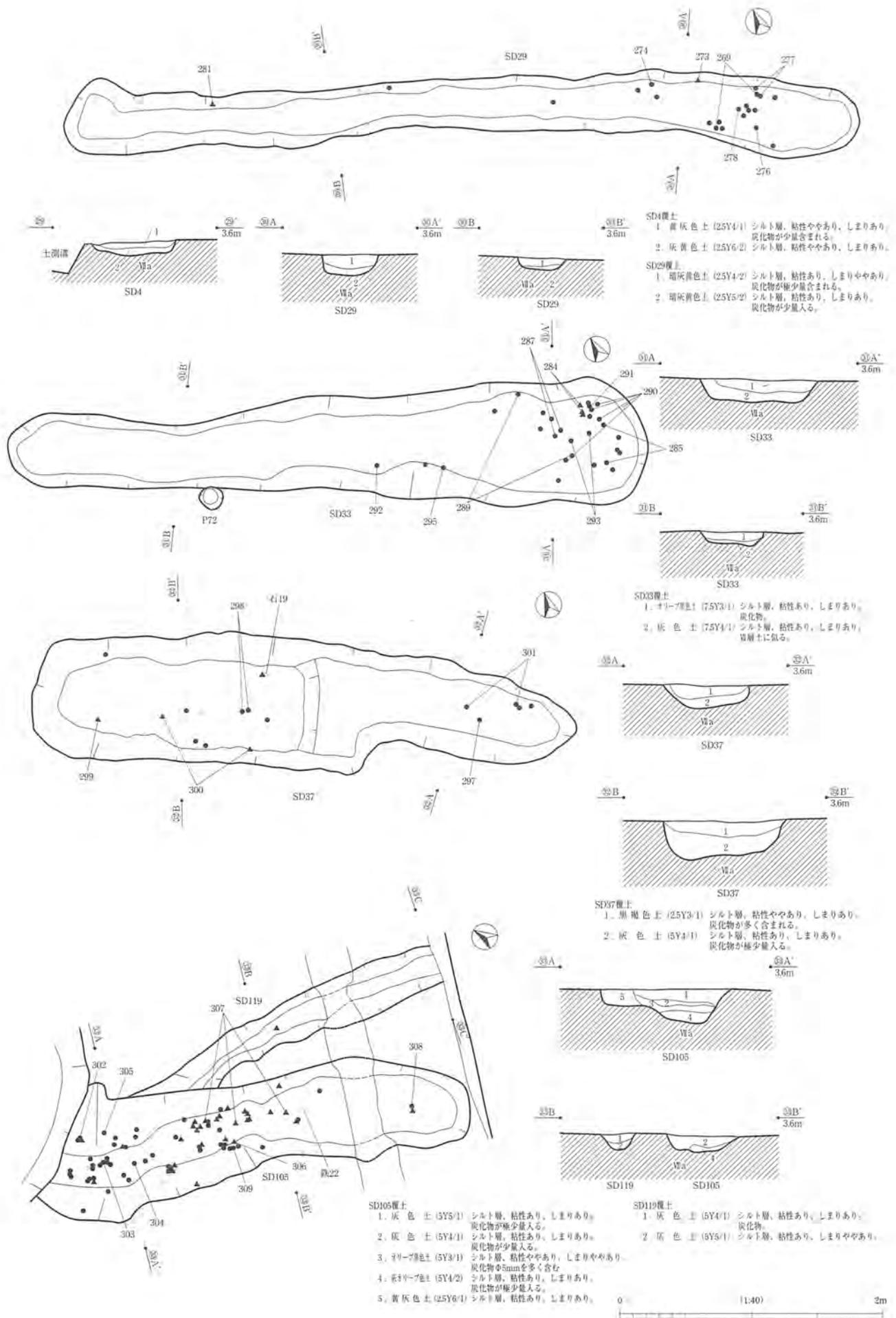
- SK89覆土
1. 灰色土 (7.5Y5/1) シルト層、粘性ややあり、しまりややあり。
  2. 灰色土 (7.5Y4/1) シルト層、粘性あり、しまりあり。炭化物が多く含まれる。
  3. 灰色土 (7.5Y6/1) シルト層、粘性あり、しまりあり。

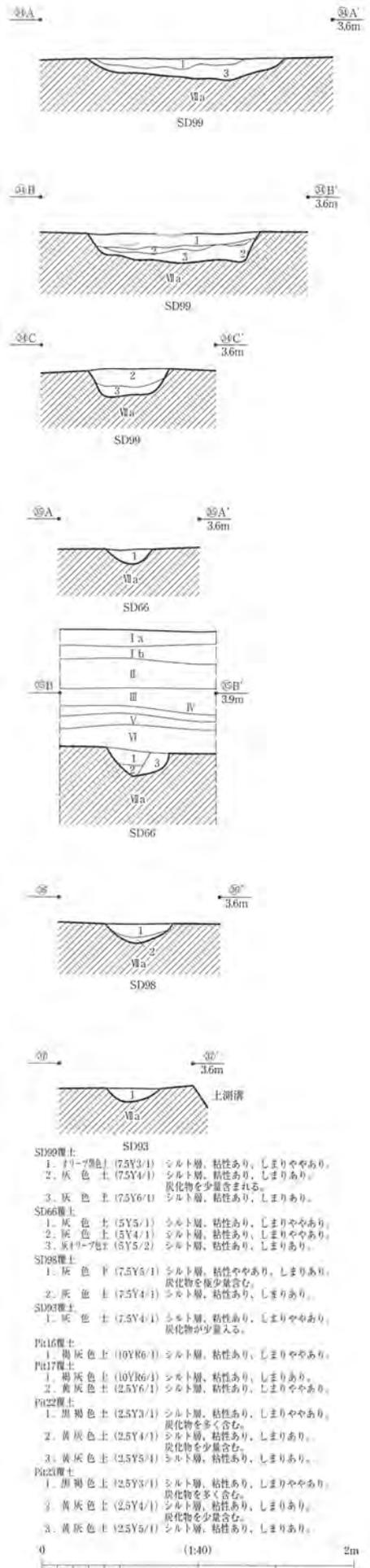
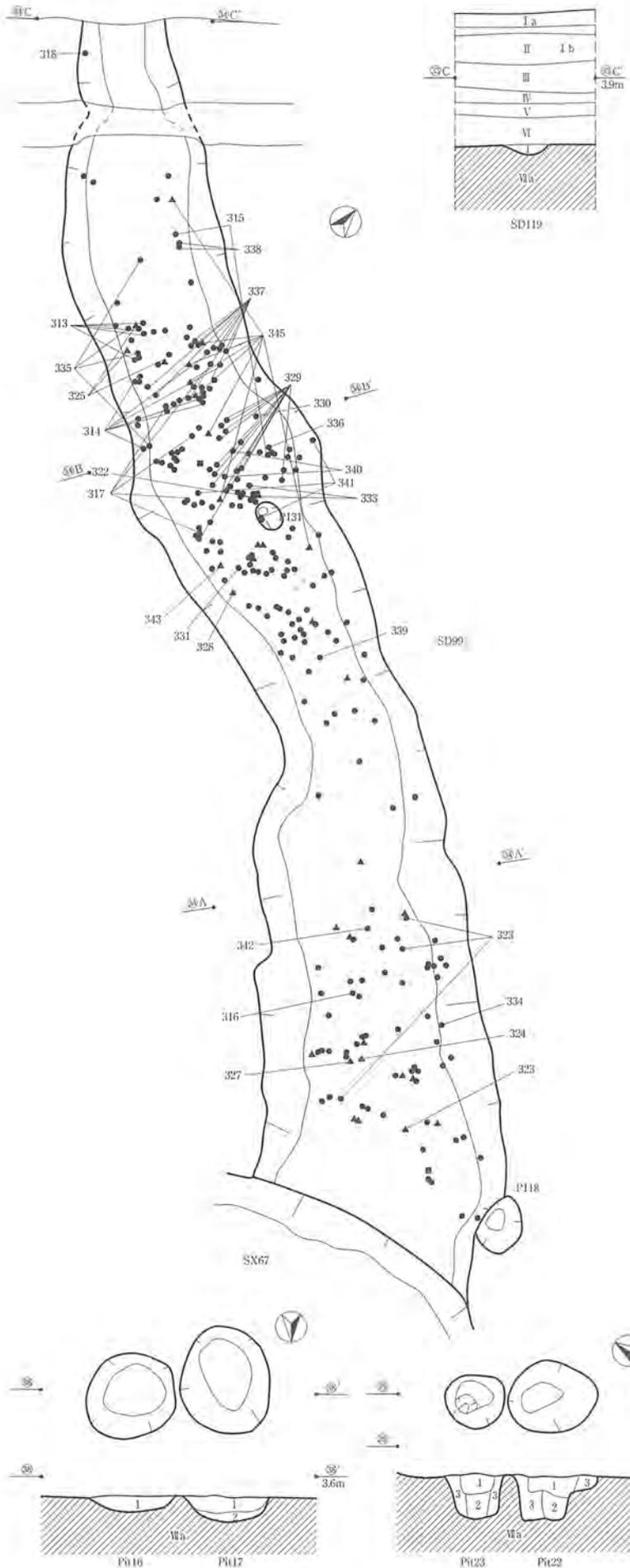
- SK88覆土
1. 灰色土 (5Y3/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物が少量含まれる。
  2. 灰色土 (5Y4/1) シルト層、粘性あり、しまりあり。

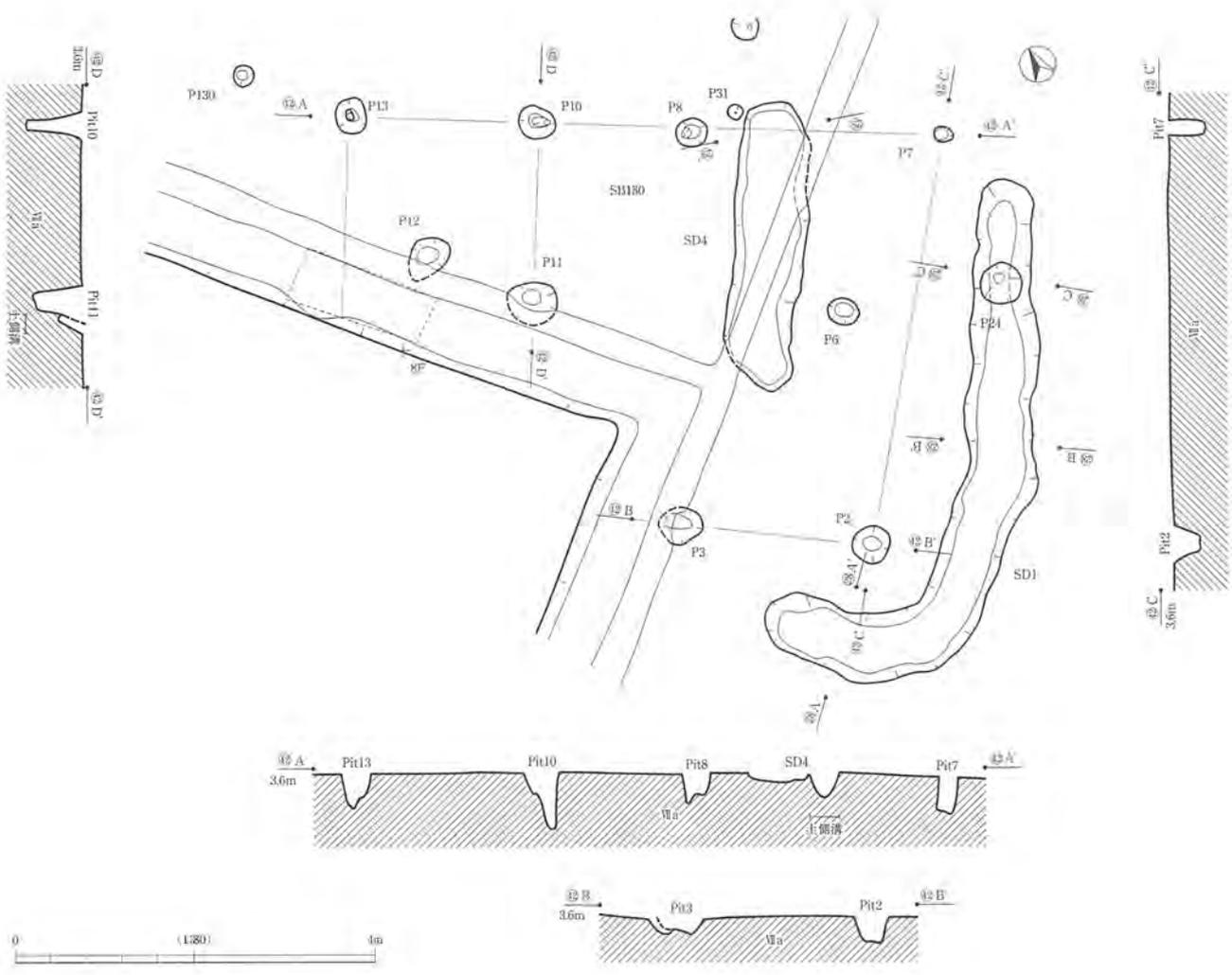
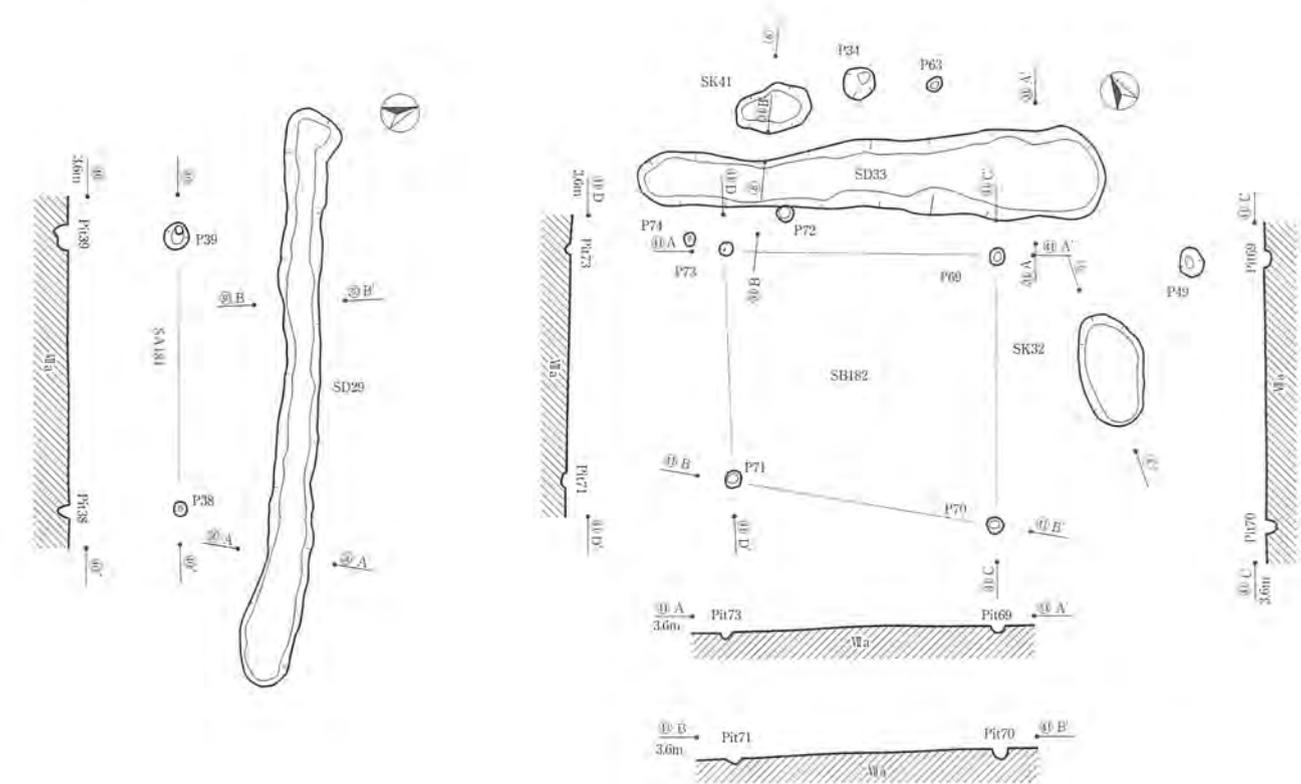


- SD1覆土
1. 暗灰色土 (10YR4/1) シルト層、粘性あり、しまりややあり。
  2. 灰青褐色土 (10YR5/2) シルト層、粘性あり、しまりあり。
  3. 黒褐色土 (2.5Y3/1) シルト層、粘性あり、しまりあり。炭化物を多く含む。
- Pit24覆土
1. 黒褐色土 (2.5Y3/1) シルト層、粘性ややあり、しまりややあり。
  2. 黒色土 (2.5Y2/1) シルト層、粘性ややあり、しまりややあり。炭化物を多く含む。



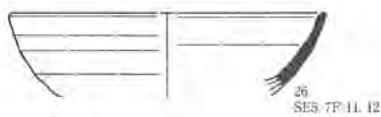
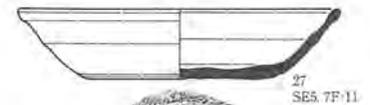
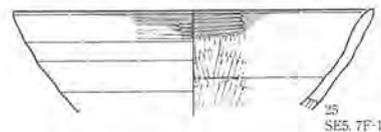
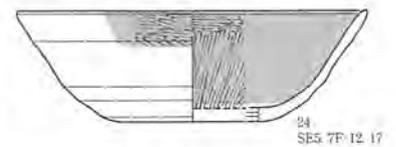
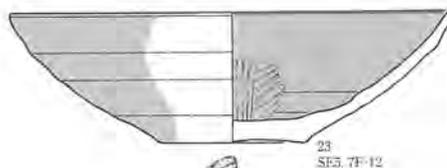
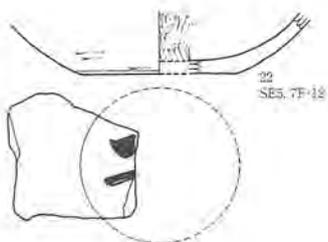
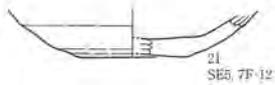
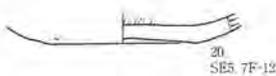
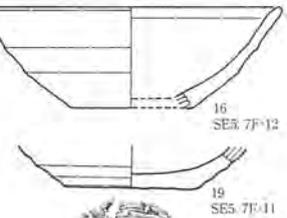
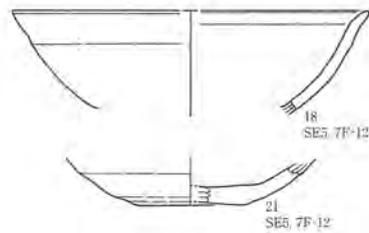
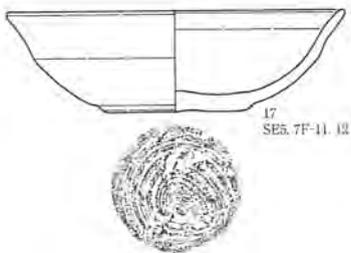
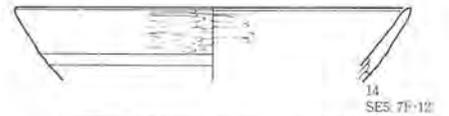
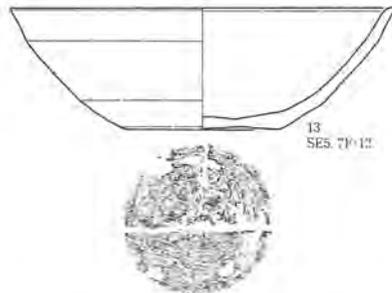
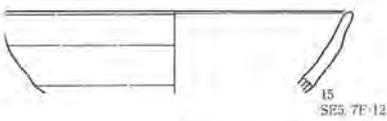
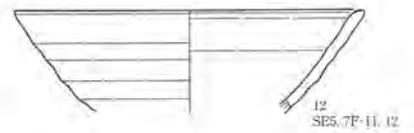
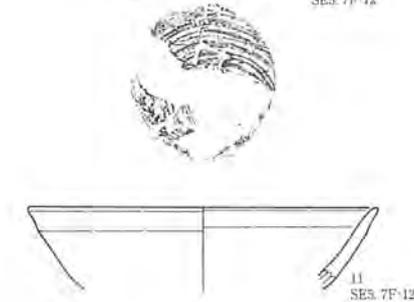
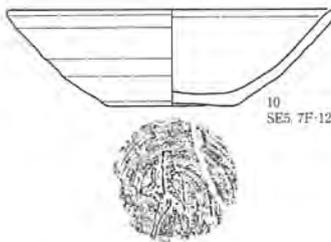
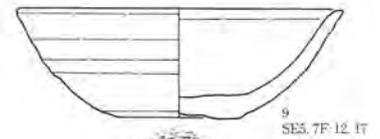
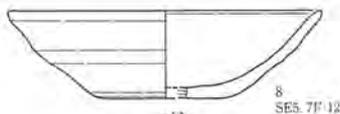
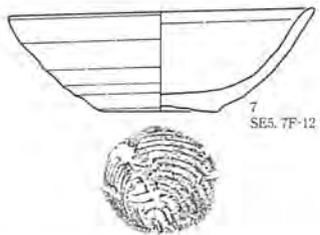
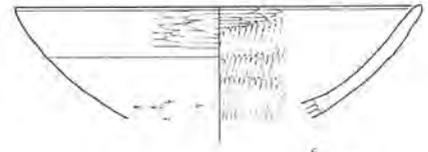
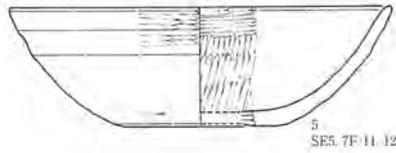
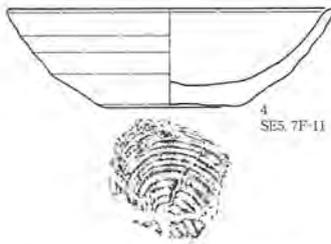
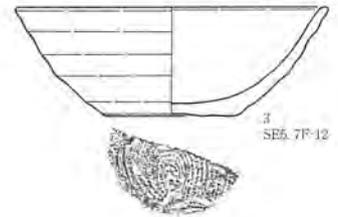
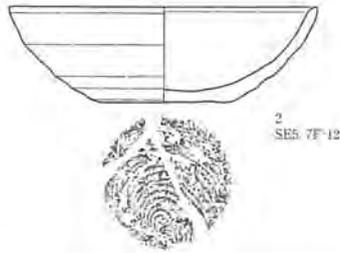
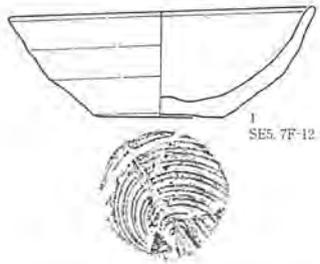






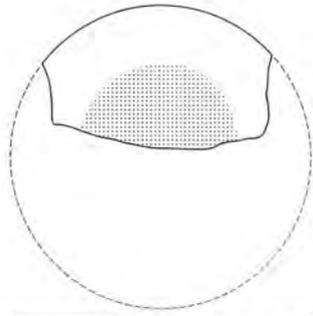
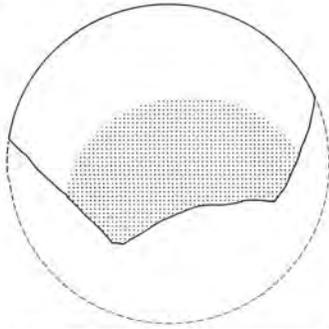


SE5(1)-27



0 (1/3) 10cm

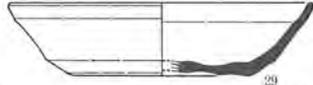
SE5(28-37)



30  
SE5. 7F-12



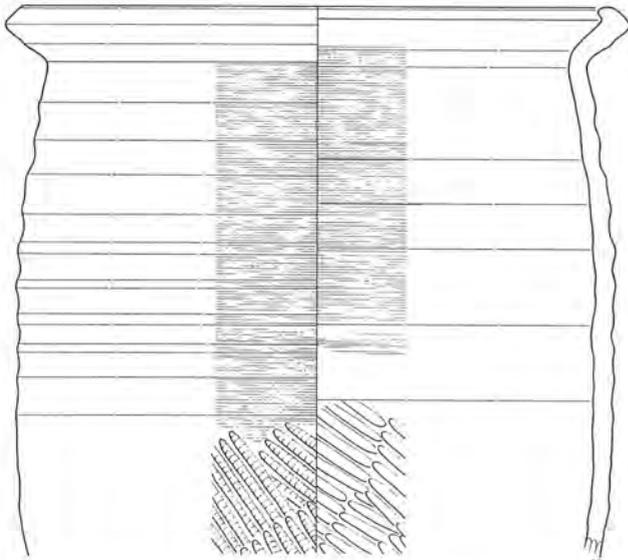
28  
SE5. 7F-12



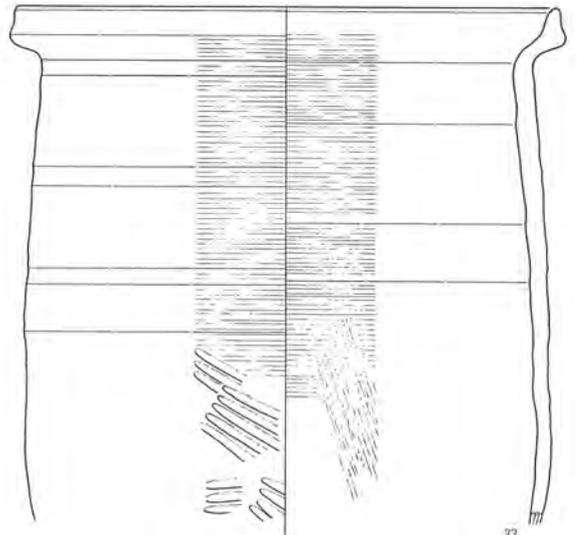
29  
SE5. 7F-12



31  
SE5. 7F-12



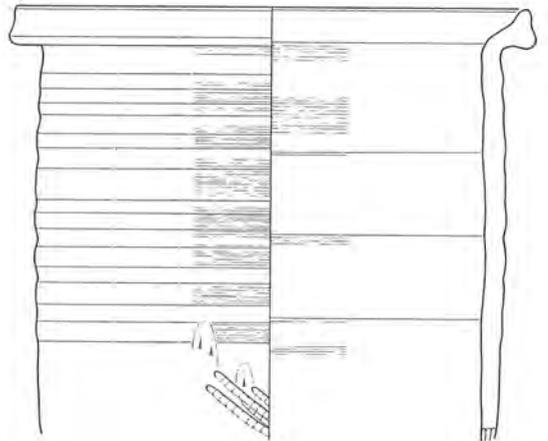
32  
SE5. 7F-12他



33  
SE5. 7F-12他



34  
SE5. 7F-11,12



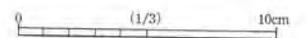
35  
SE5. 7F-17



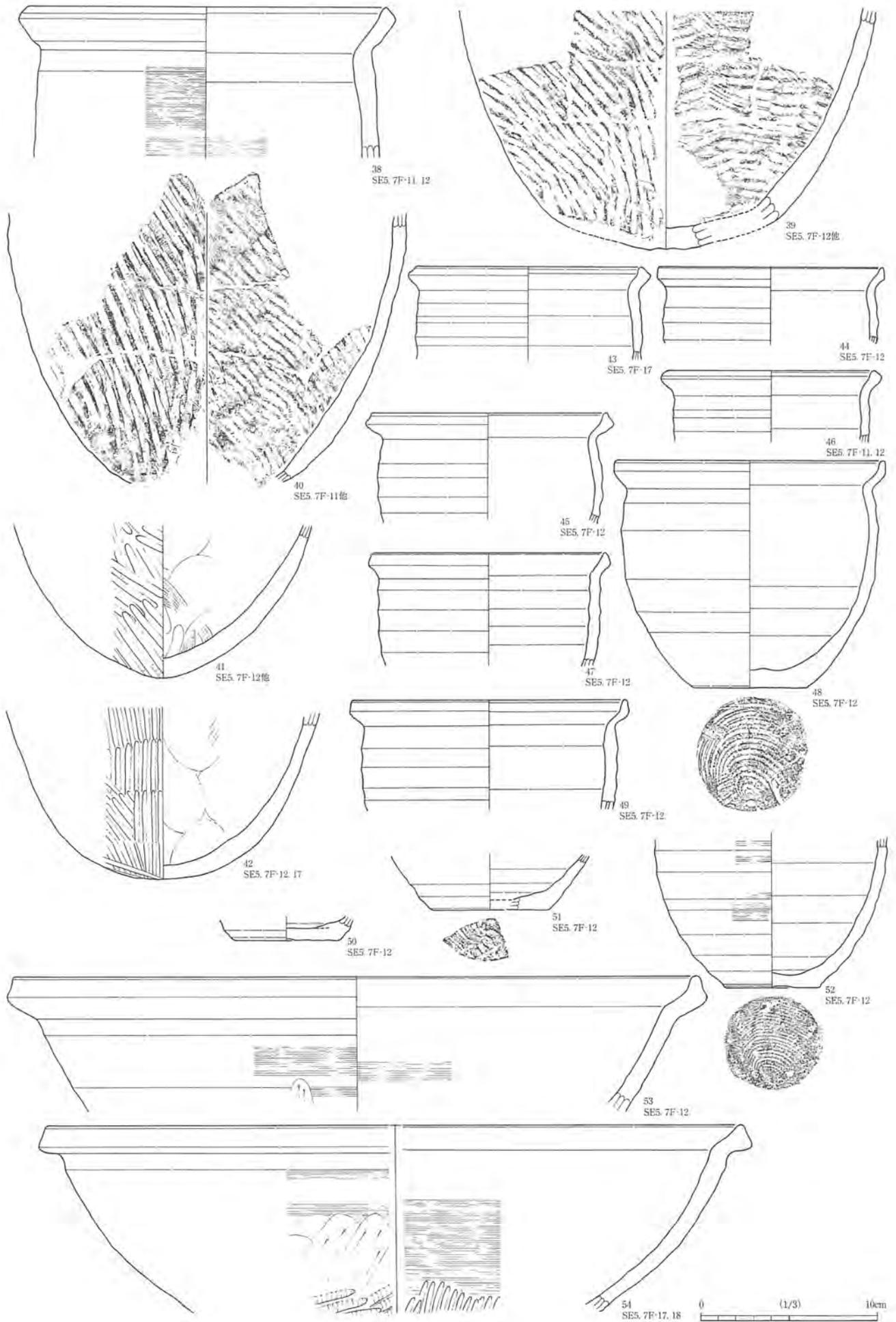
36  
SE5. 7F-12



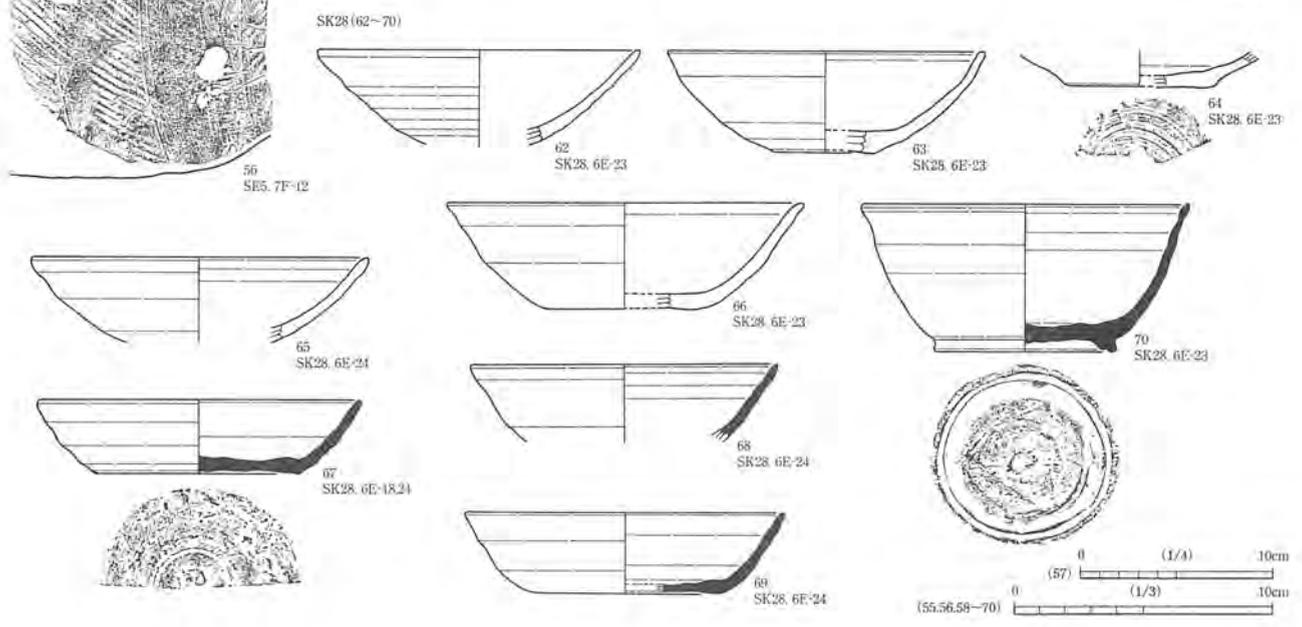
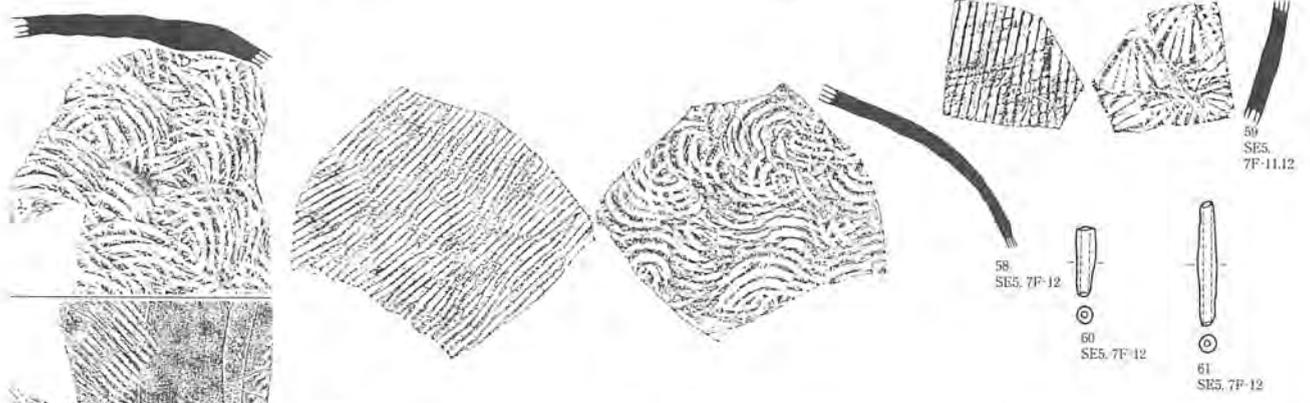
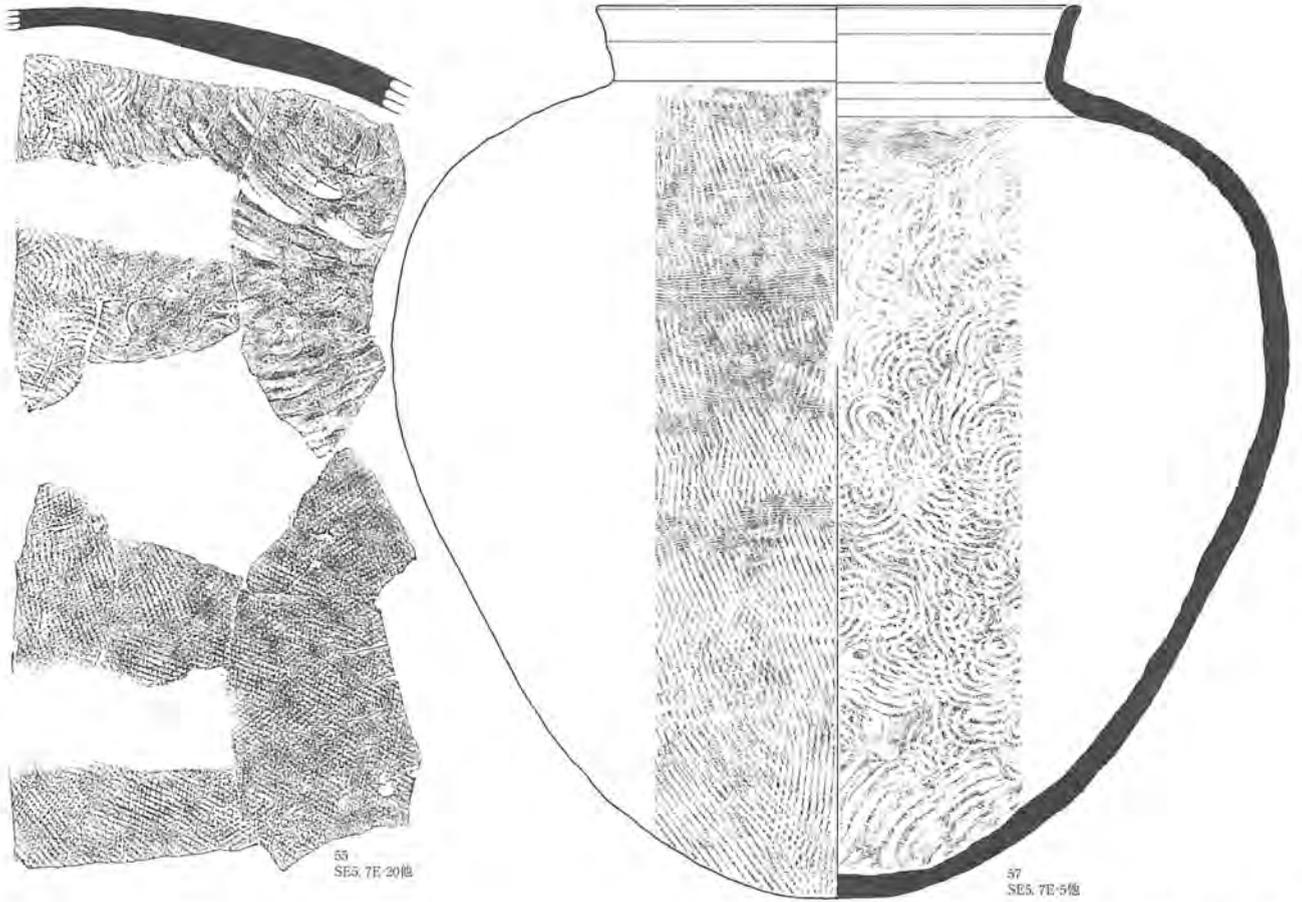
37  
SE5. 7F-12



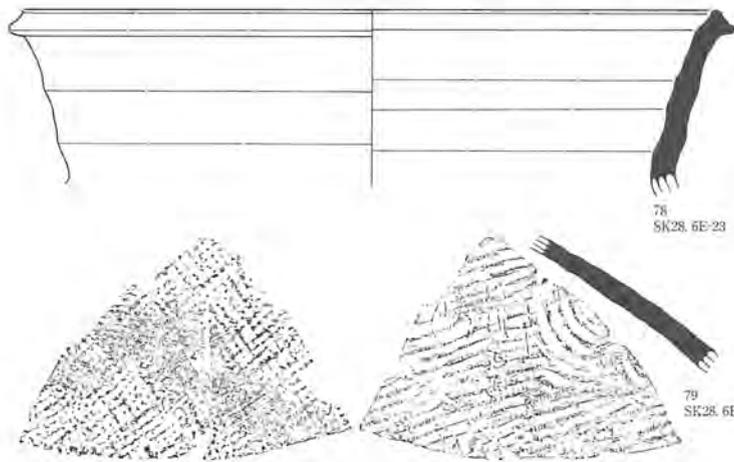
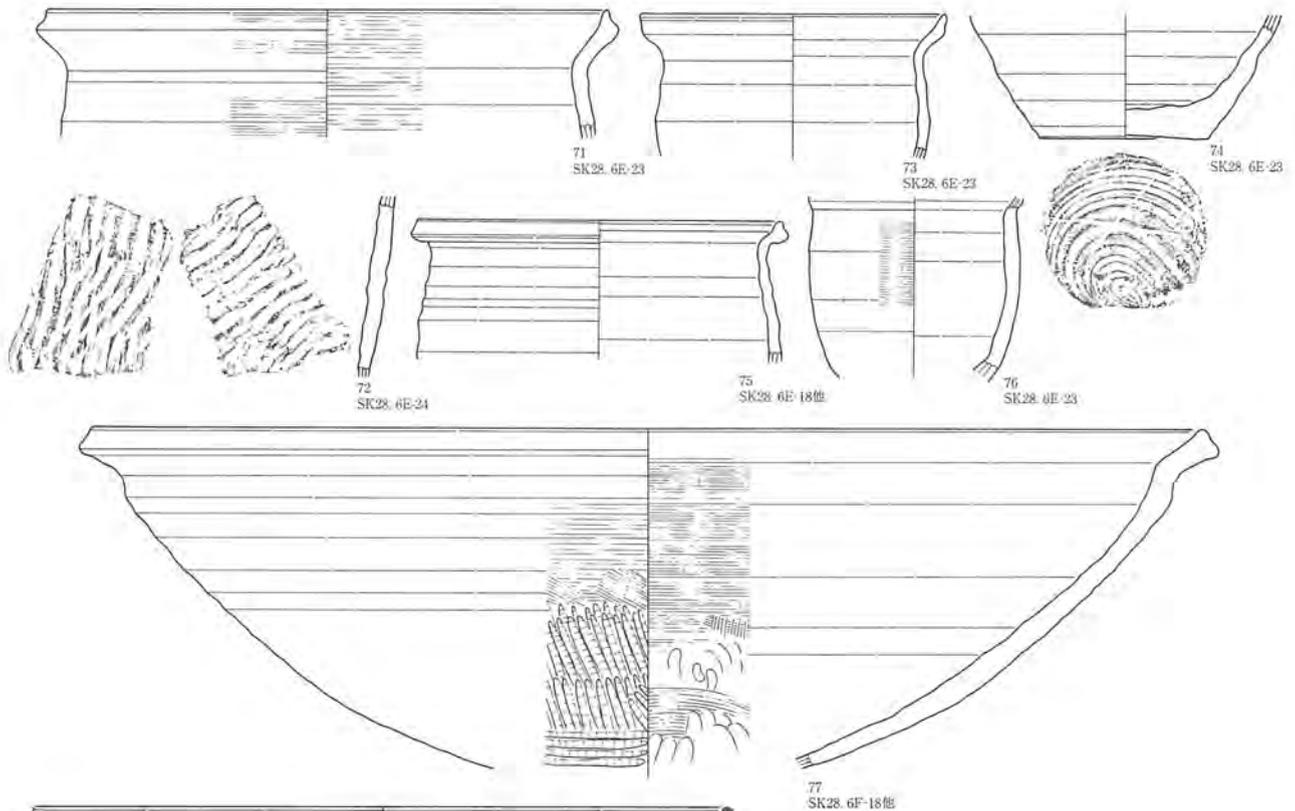
SE5(38-54)



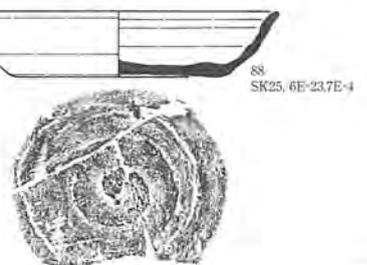
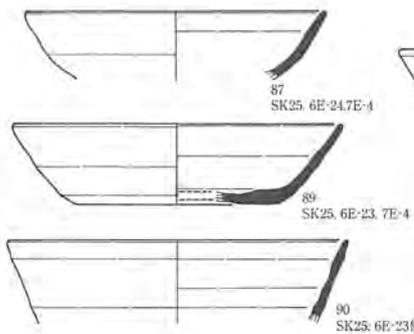
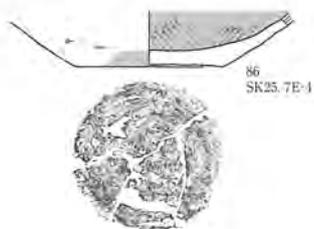
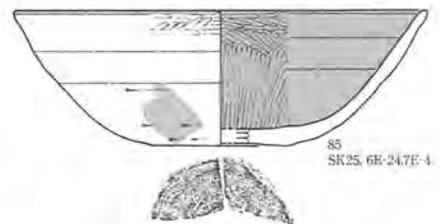
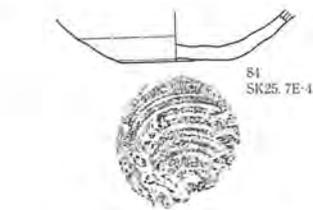
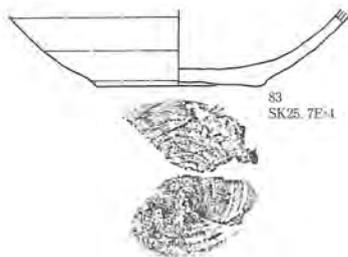
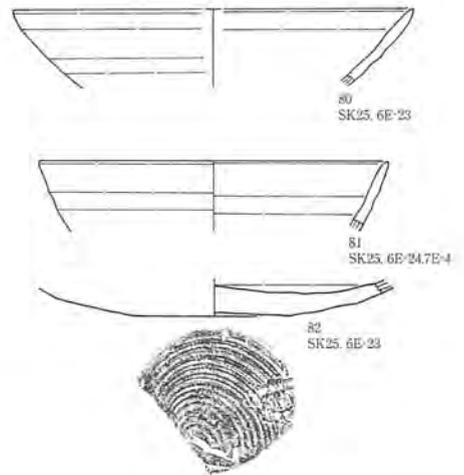
SE5(55-61)



SK28(71-79)



SK25(80-90)



0 (1/3) 10cm

SK25(91~102).SK20(103).SK41(104).SK61(105)



91 SK25.7E-4



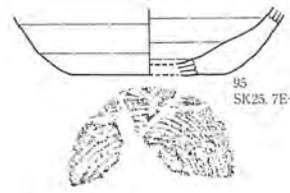
92 SK25.7E-4



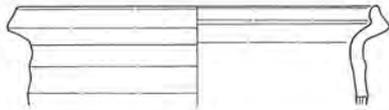
93 SK25.7E-4



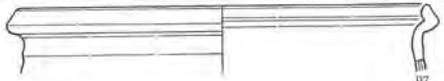
94 SK25.6E-23



95 SK25.7E-3他



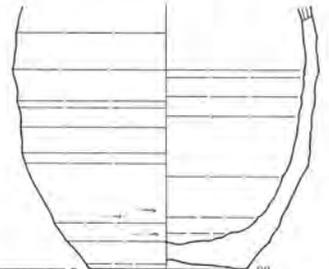
96 SK25.6E-23



97 SK25.7E-4



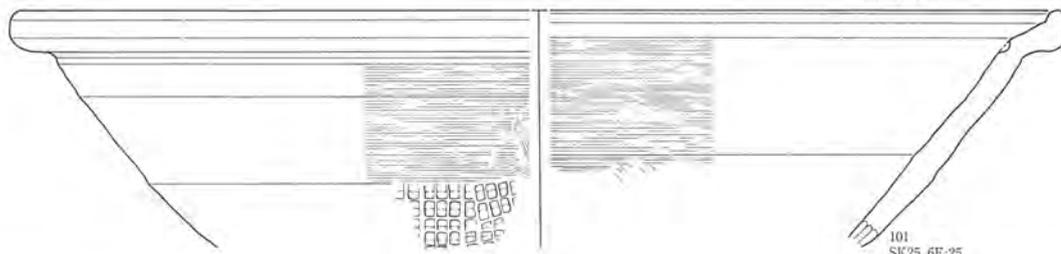
98 SK25.6E-23



99 SK25.7E-4



100 SK25.6F-25



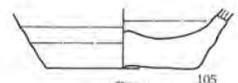
101 SK25.6E-25



102 SK25.7E-4



103 SK20.7F-6



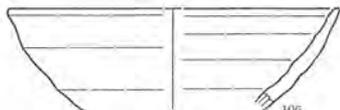
105 SK61.6D-15



104 SK41.5F-24



SK32(106~109)



106 SK32.6F-11



107 SK32.6F-15



108 SK32.6F-15



109 SK32.6F-15

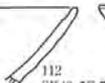
SK64(110,111)



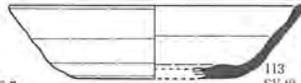
SK40(112~114)



111 SK64.4G-22



112 SK40.5G-7

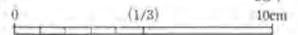


113 SK40.5G-6,7

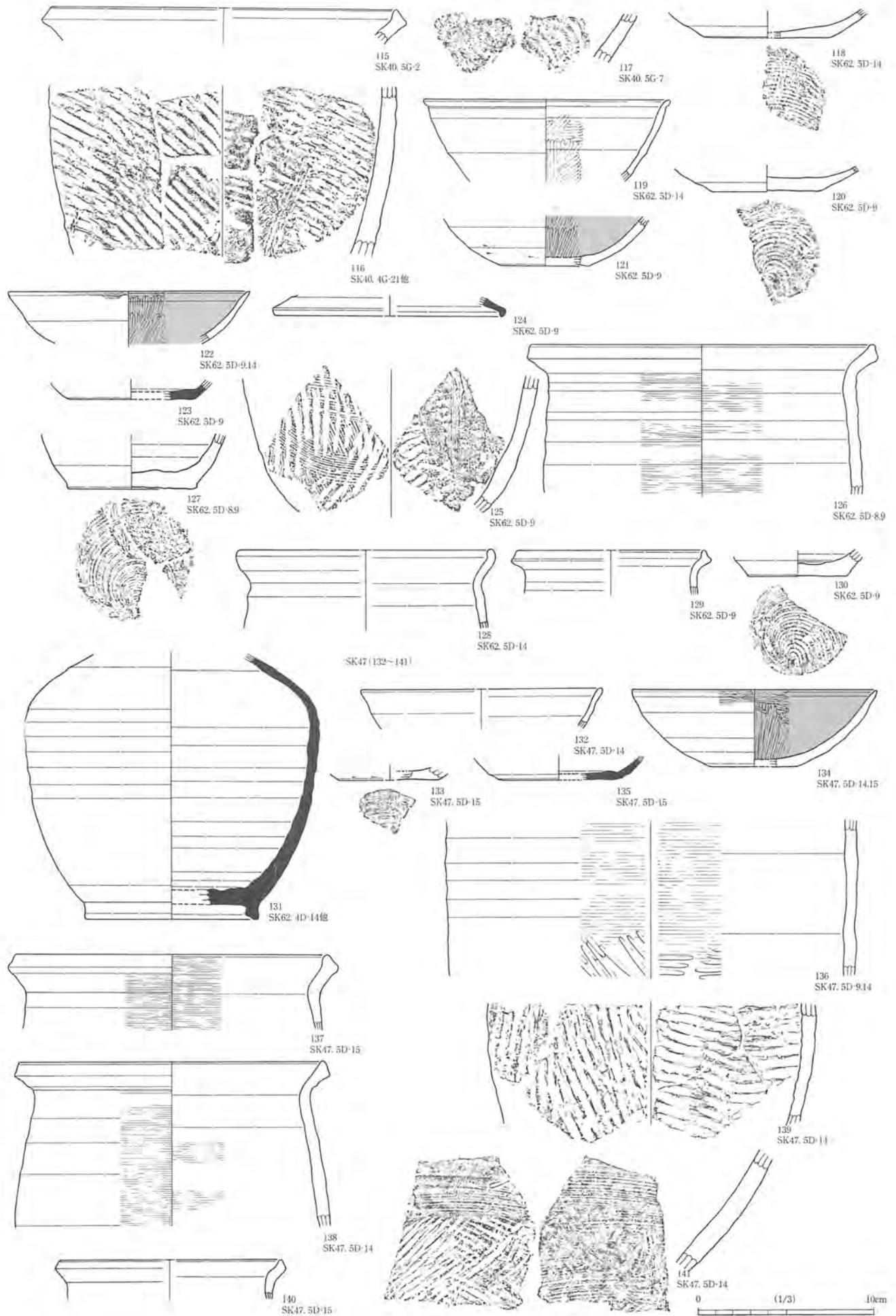


114 SK40.5G-7

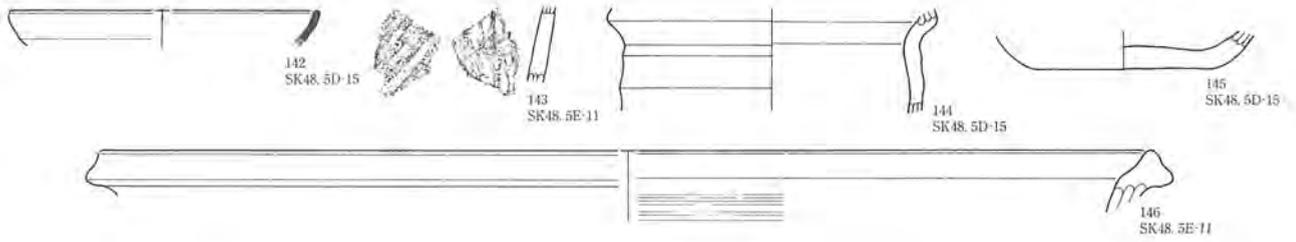
110 SK64.4G-22.5F-5



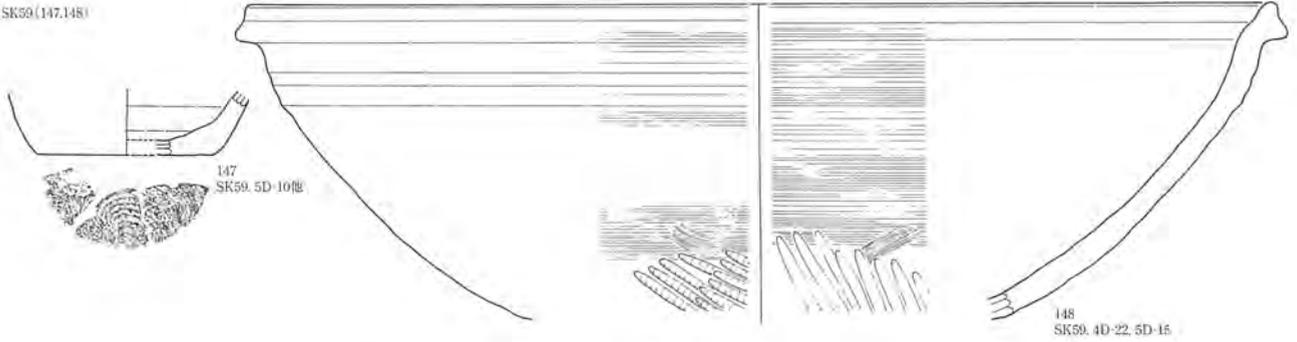
SK40(115-117) SK62(118-131)



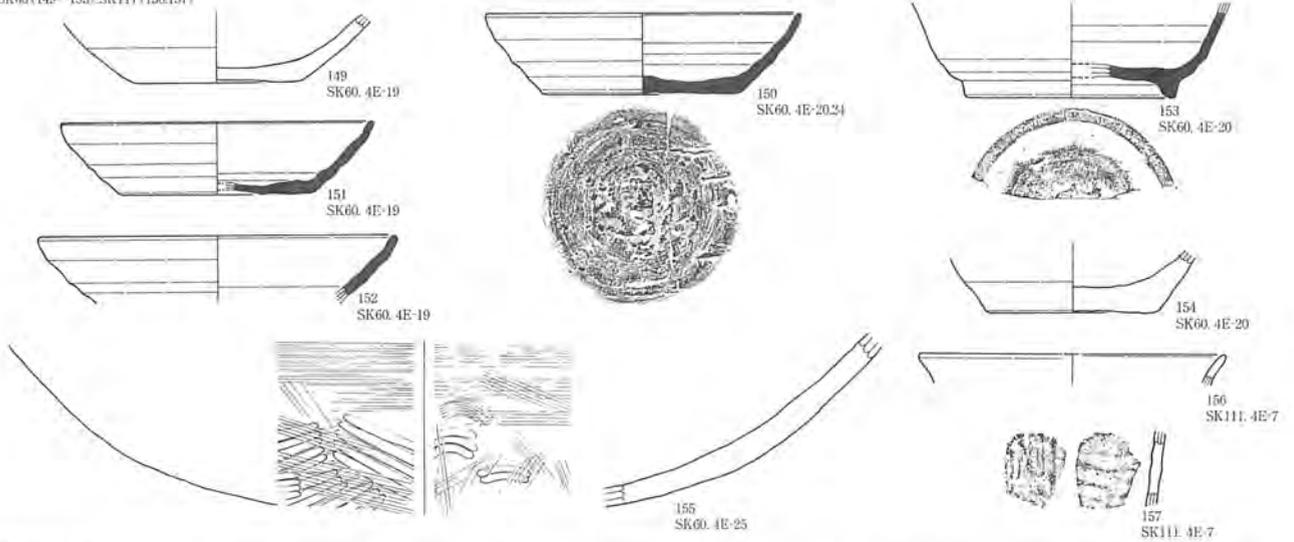
SK48(142~146)



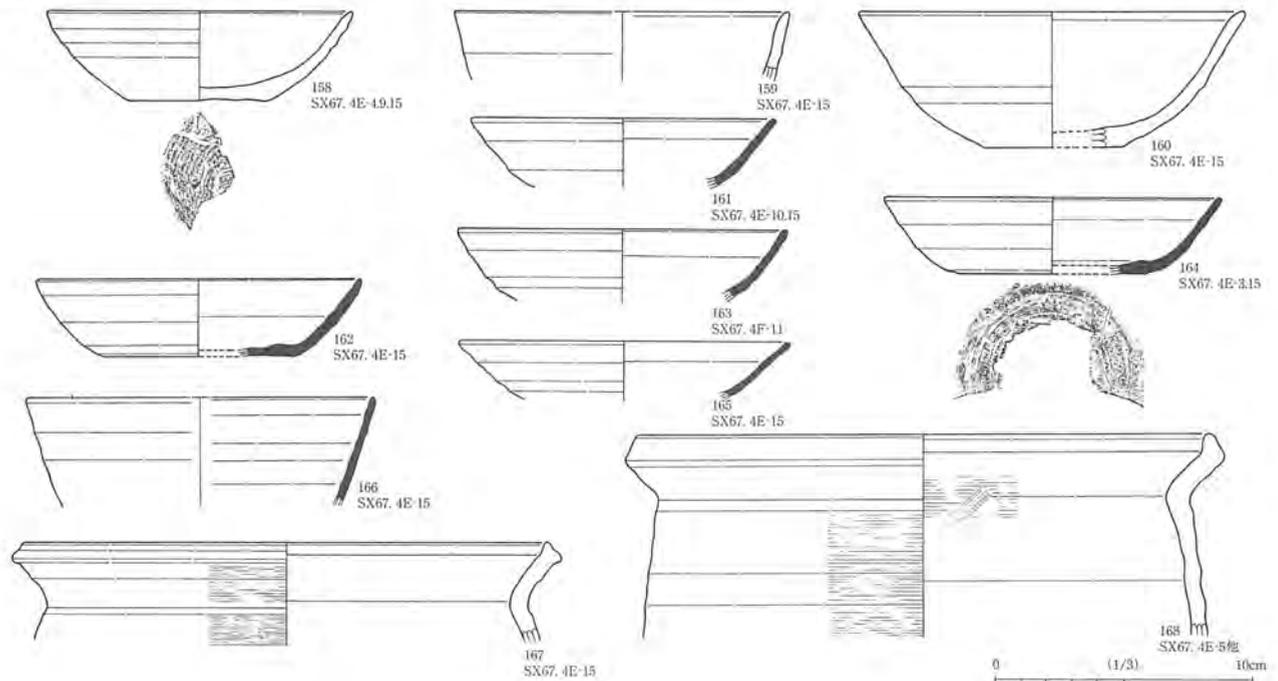
SK59(147,148)



SK60(149~155) SK111(156,157)

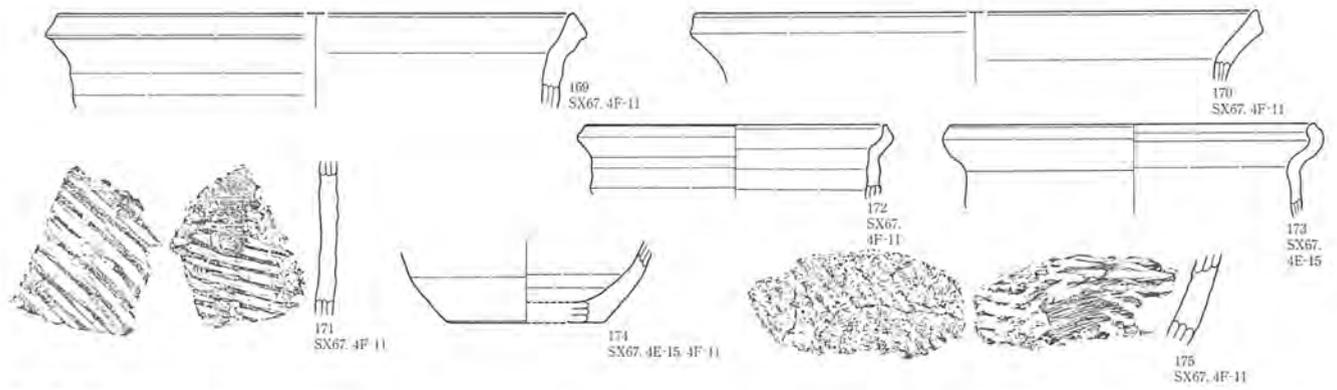


SX67(158~168)

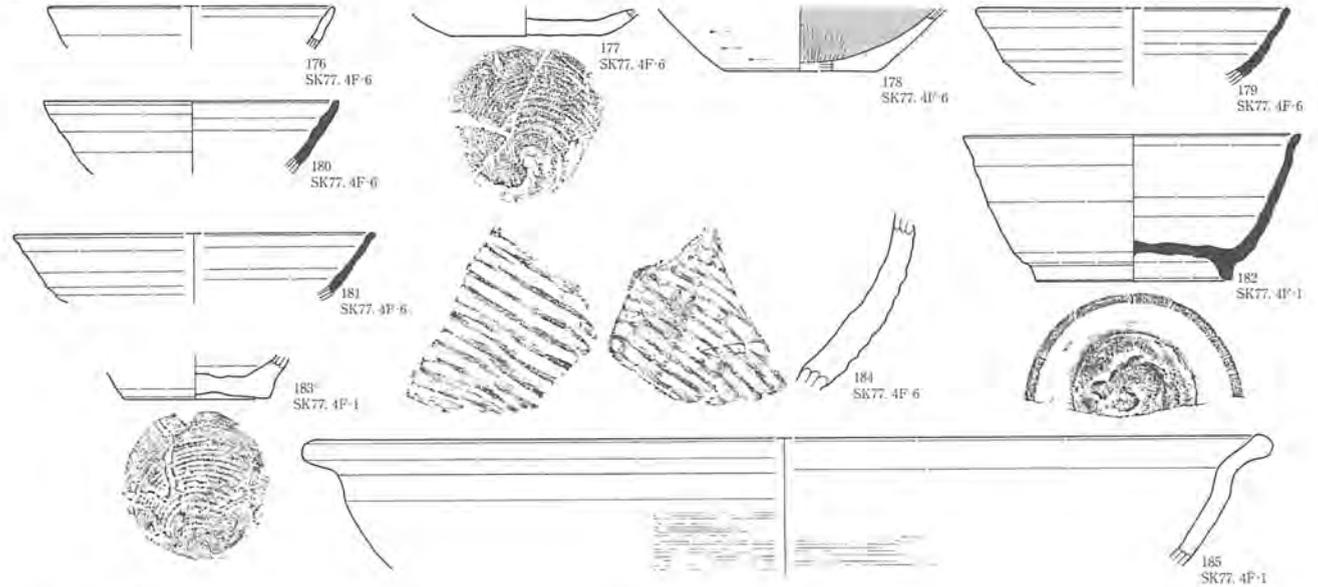


0 (1/3) 10cm

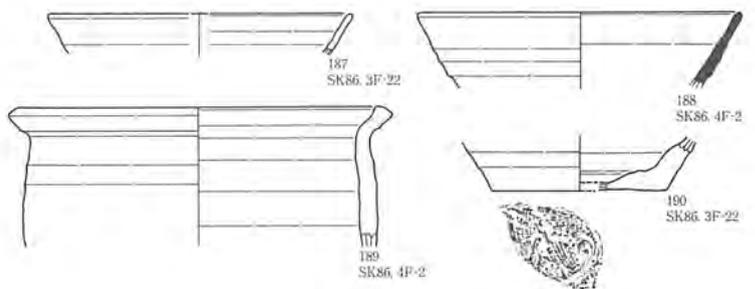
SX67(169-175)



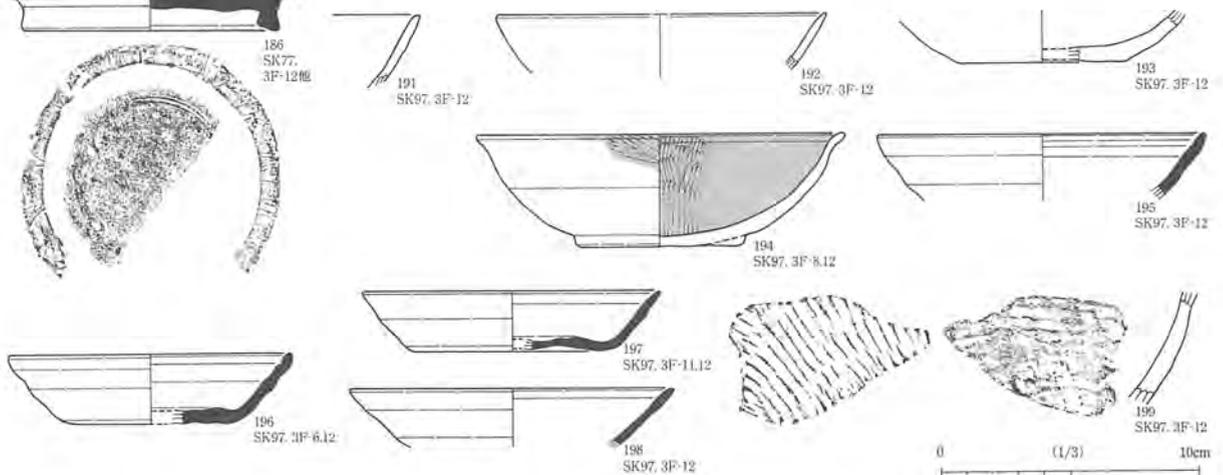
SK77(176-186)



SK86(187-190)

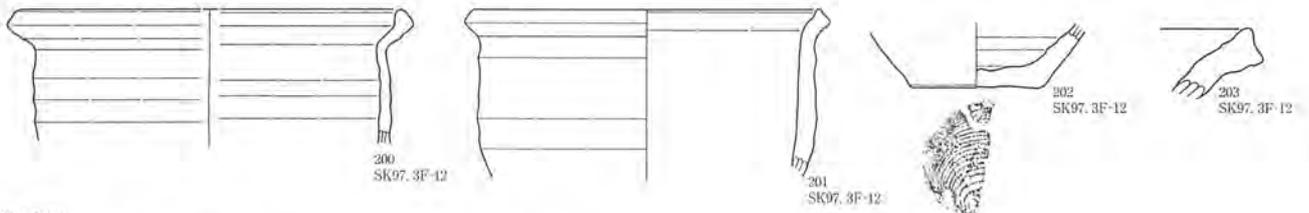


SK97(191-199)



0 (1/3) 10cm

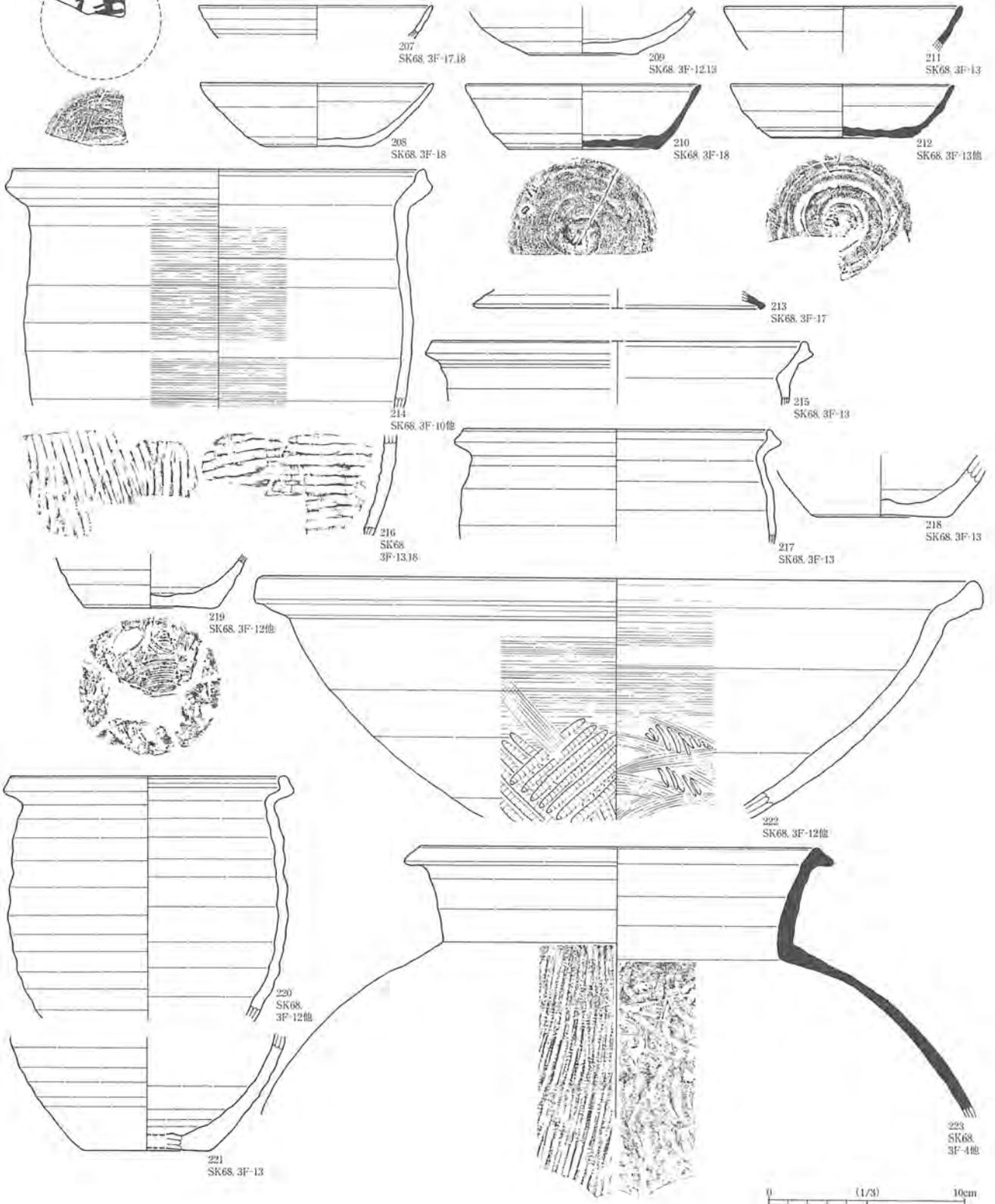
SK97(200-203), SK112(204,205)



SK104(206)

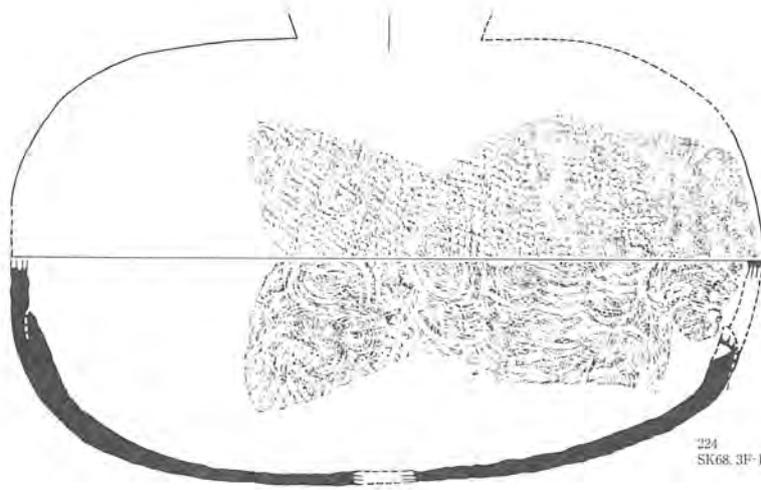


SK68(207-223)

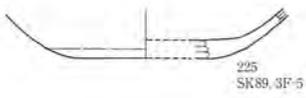


0 (1/3) 10cm

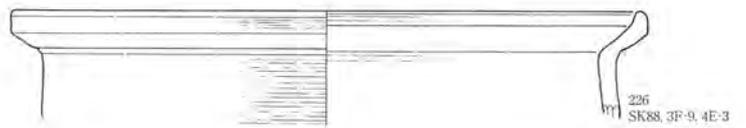
SK68(224)



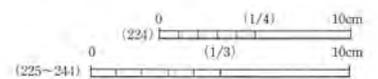
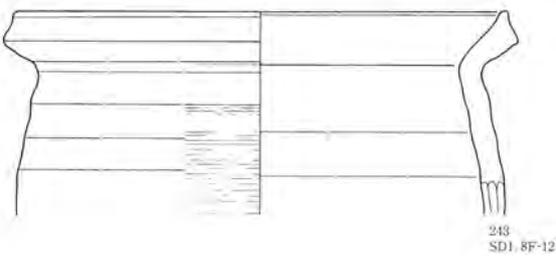
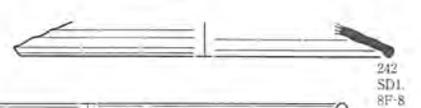
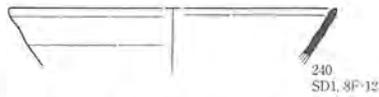
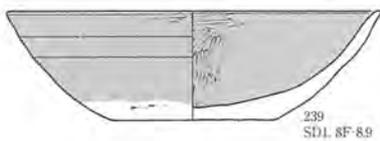
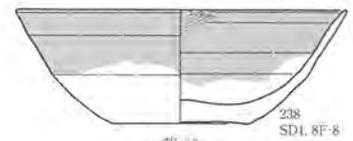
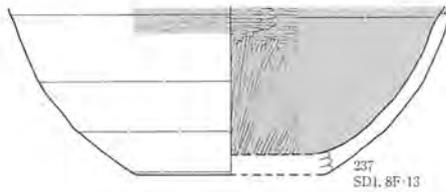
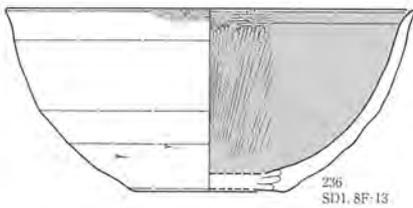
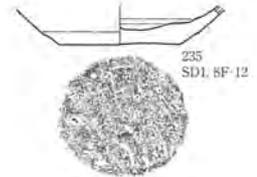
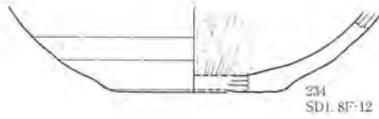
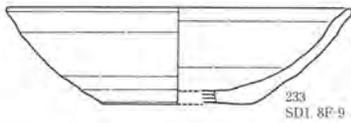
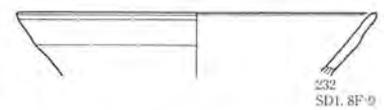
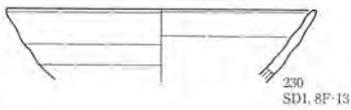
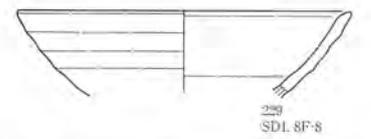
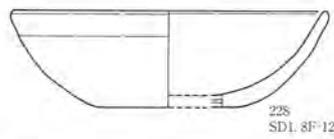
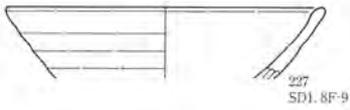
SK89(225)



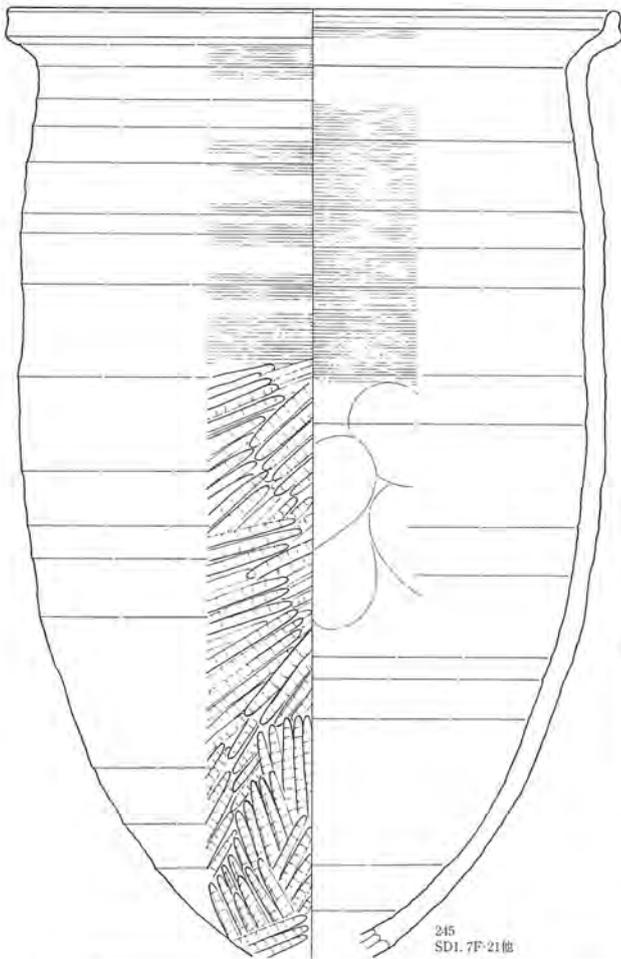
SK88(226)



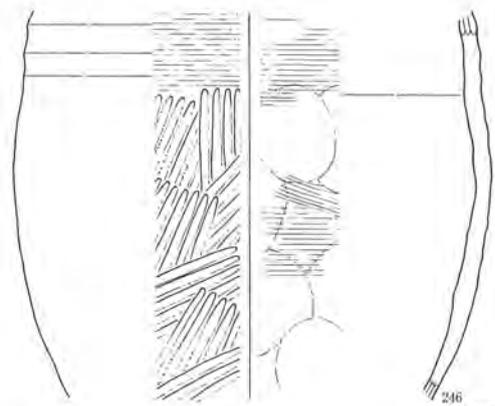
SD1(227~244)



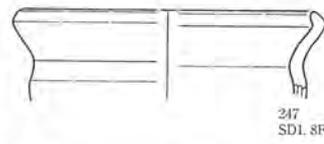
SD1(245~254)



245  
SD1. 7F-21他



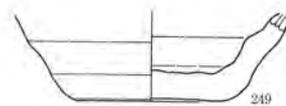
246  
SD1. 7F-21他



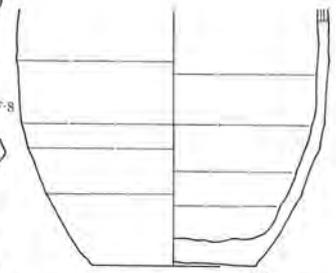
247  
SD1. 8F-8



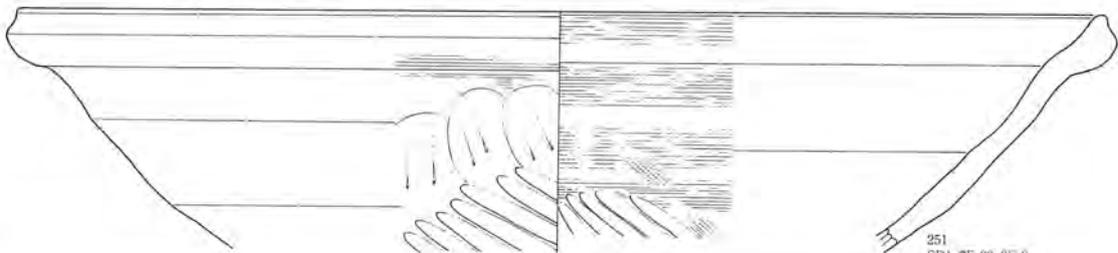
248  
SD1. 8F-9



249  
SD1. 8F-13



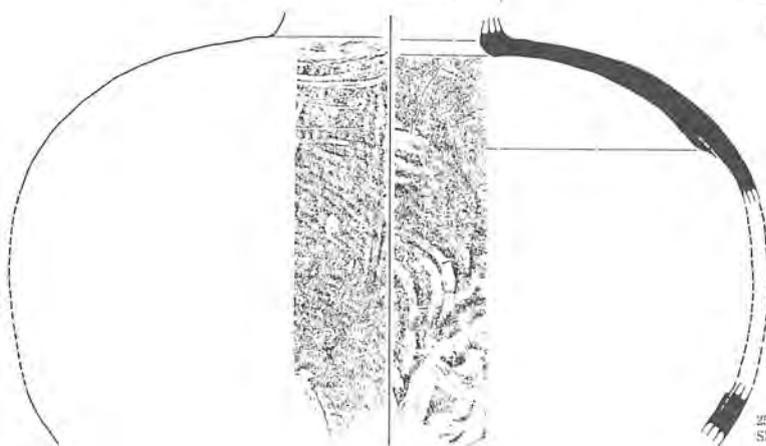
250  
SD1. 8F-9



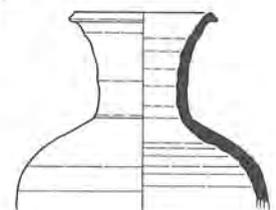
251  
SD1. 7E-20. 8F-8



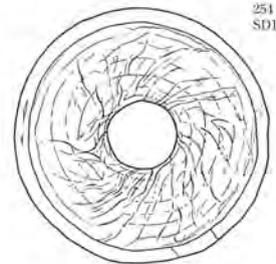
252  
SD1. 8F-12.13



253  
SD1. 8F-8. 13

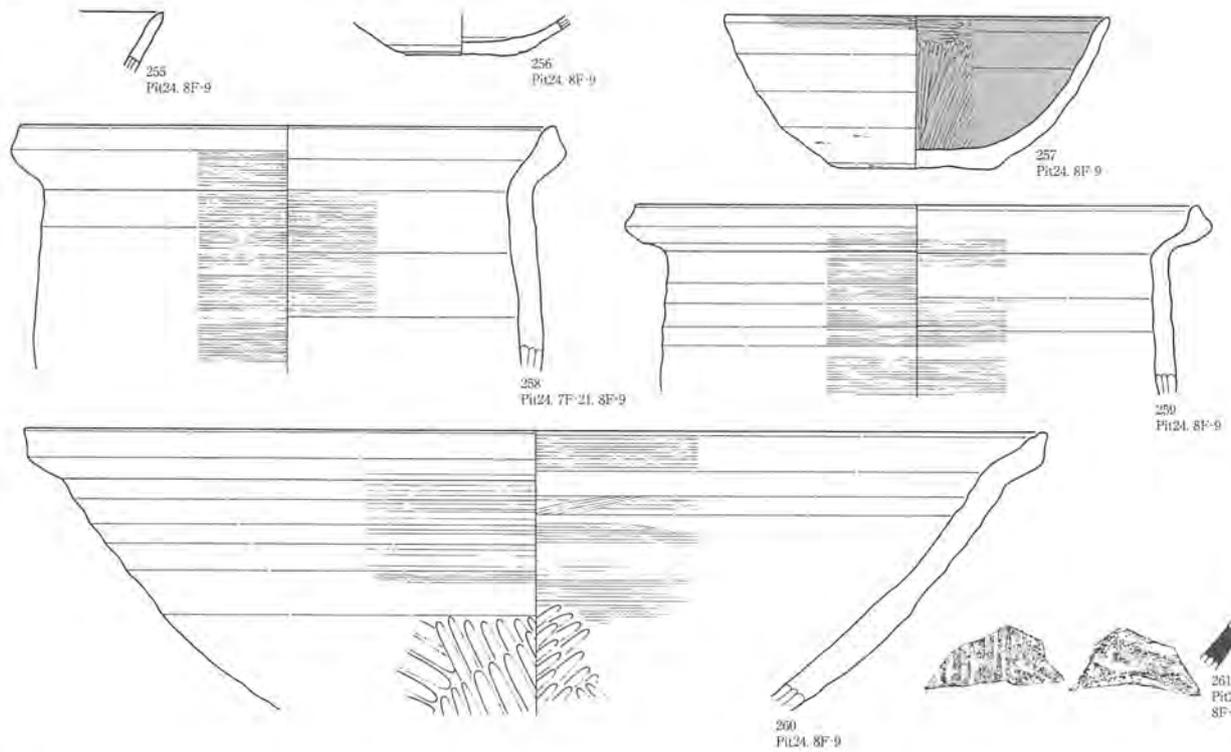


254  
SD1. 8F-9

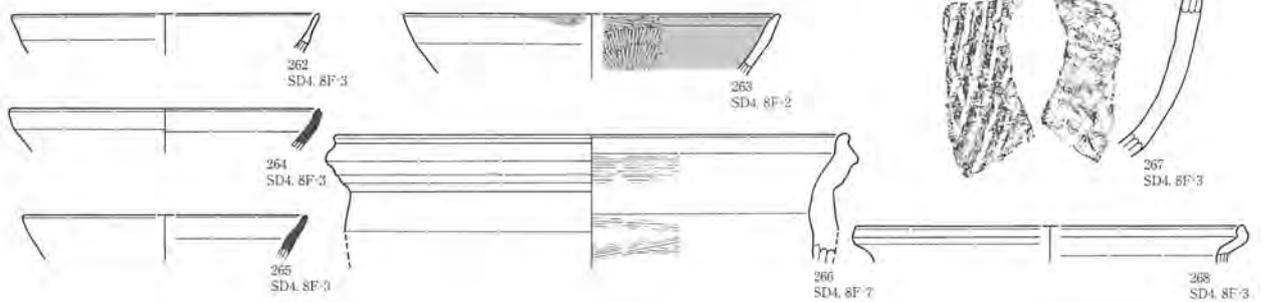


0 (1/3) 10cm

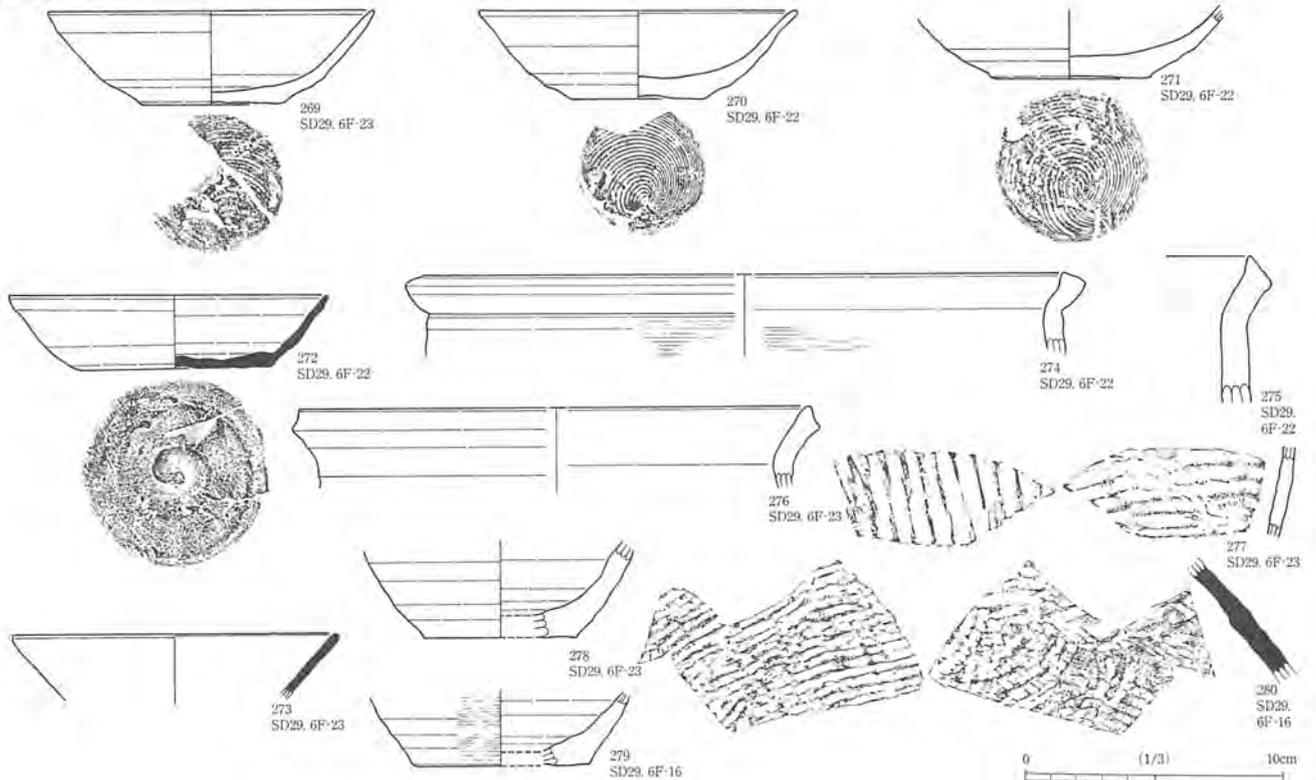
Pit24(255~261)



SD4(262~268)

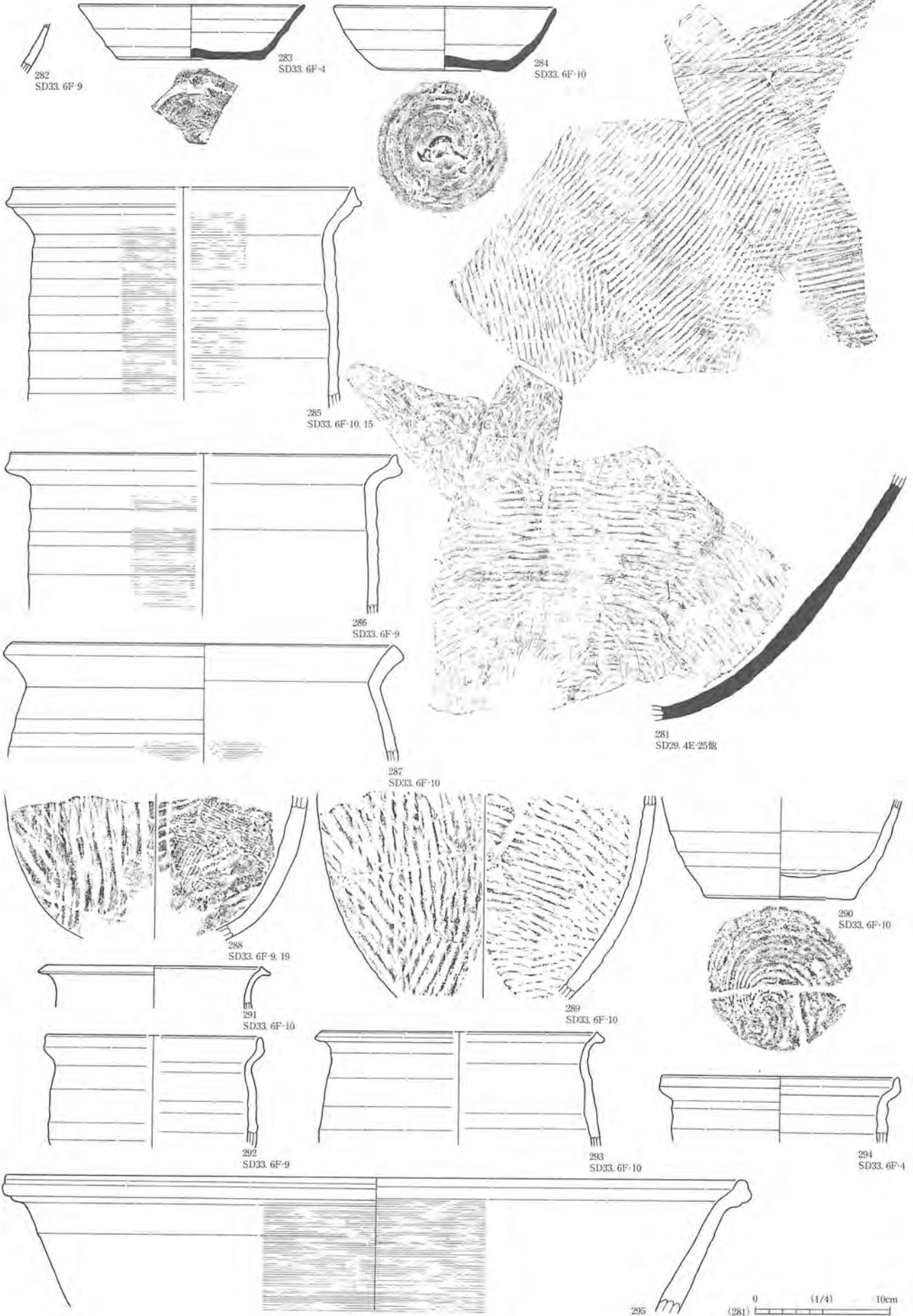


SD29(269~280)



SD33(282-295)

SD29(281)



282  
SD33. 6F-9

283  
SD33. 6F-4

284  
SD33. 6F-10

285  
SD33. 6F-10, 15

286  
SD33. 6F-9

287  
SD33. 6F-10

288  
SD33. 6F-9, 19

291  
SD33. 6F-10

292  
SD33. 6F-9

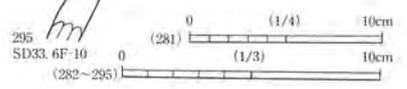
289  
SD33. 6F-10

293  
SD33. 6F-10

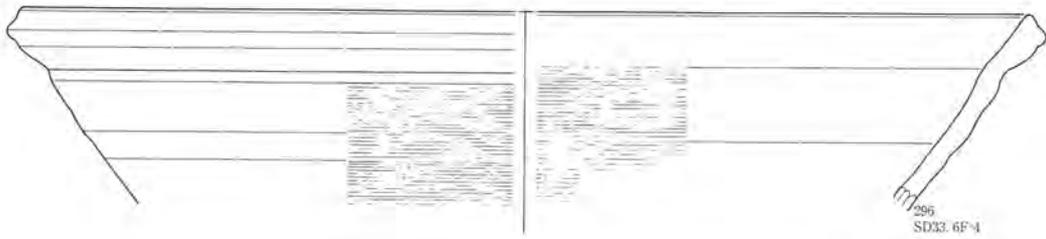
290  
SD33. 6F-10

294  
SD33. 6F-4

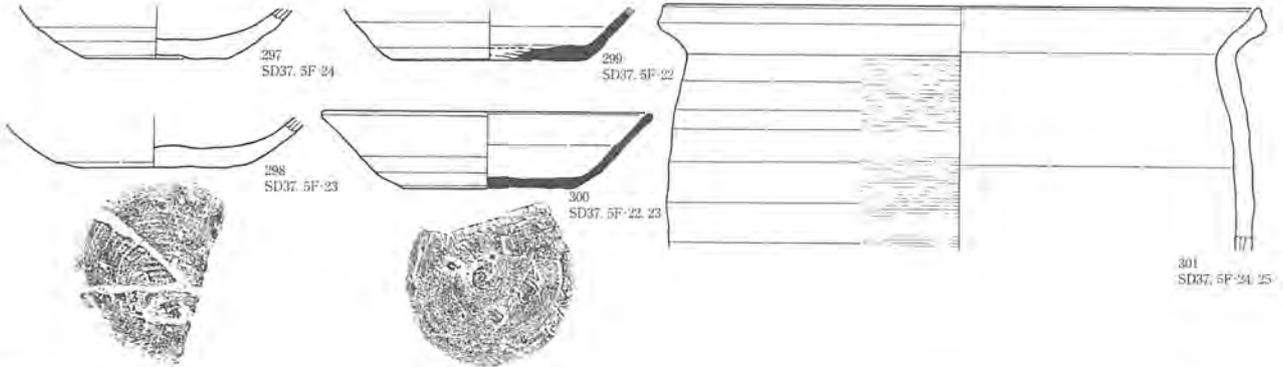
281  
SD29. 4E-25他



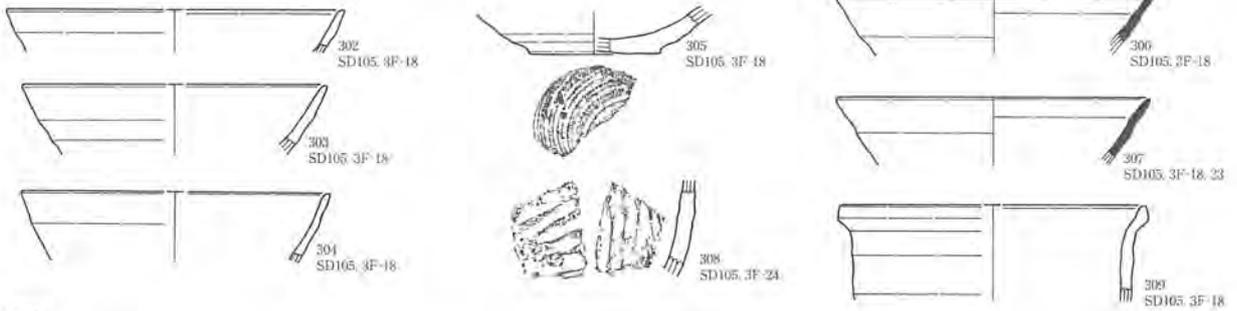
SD33(296)



SD37(297-301)



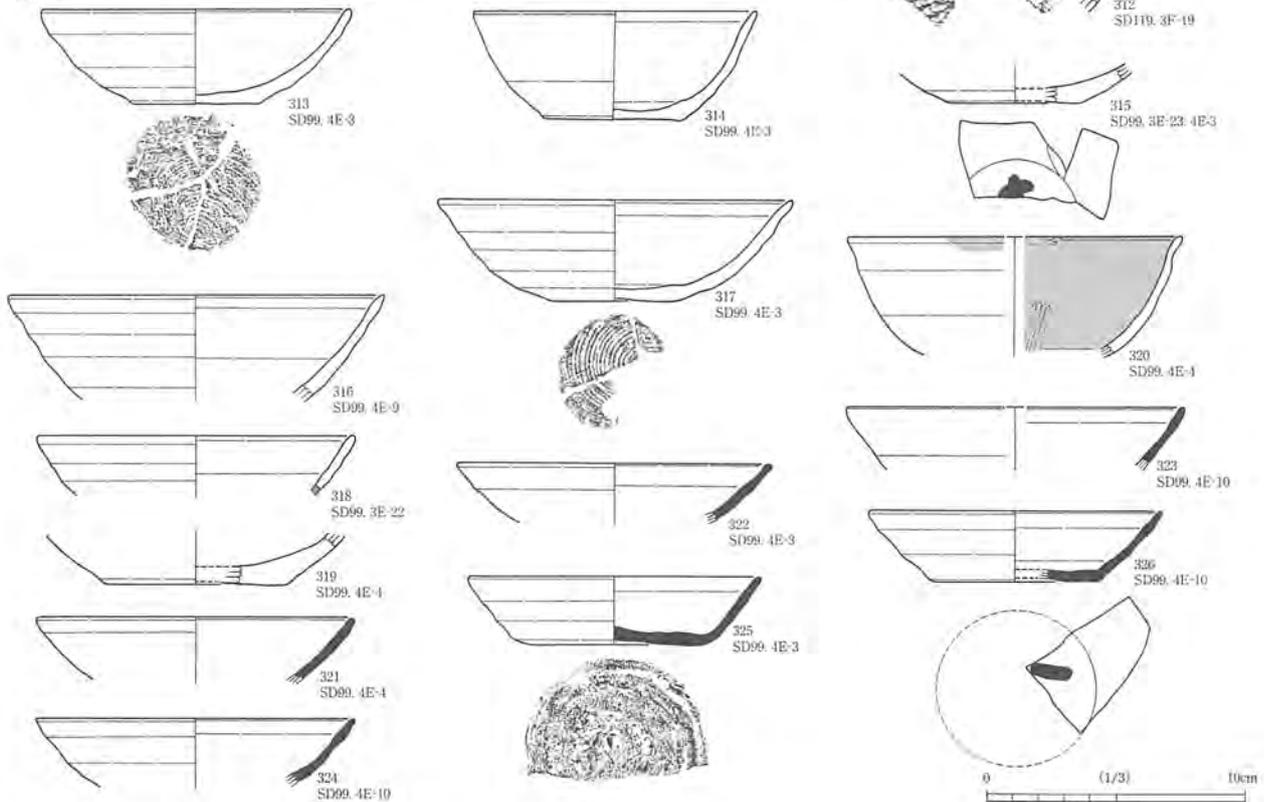
SD105(302-309)



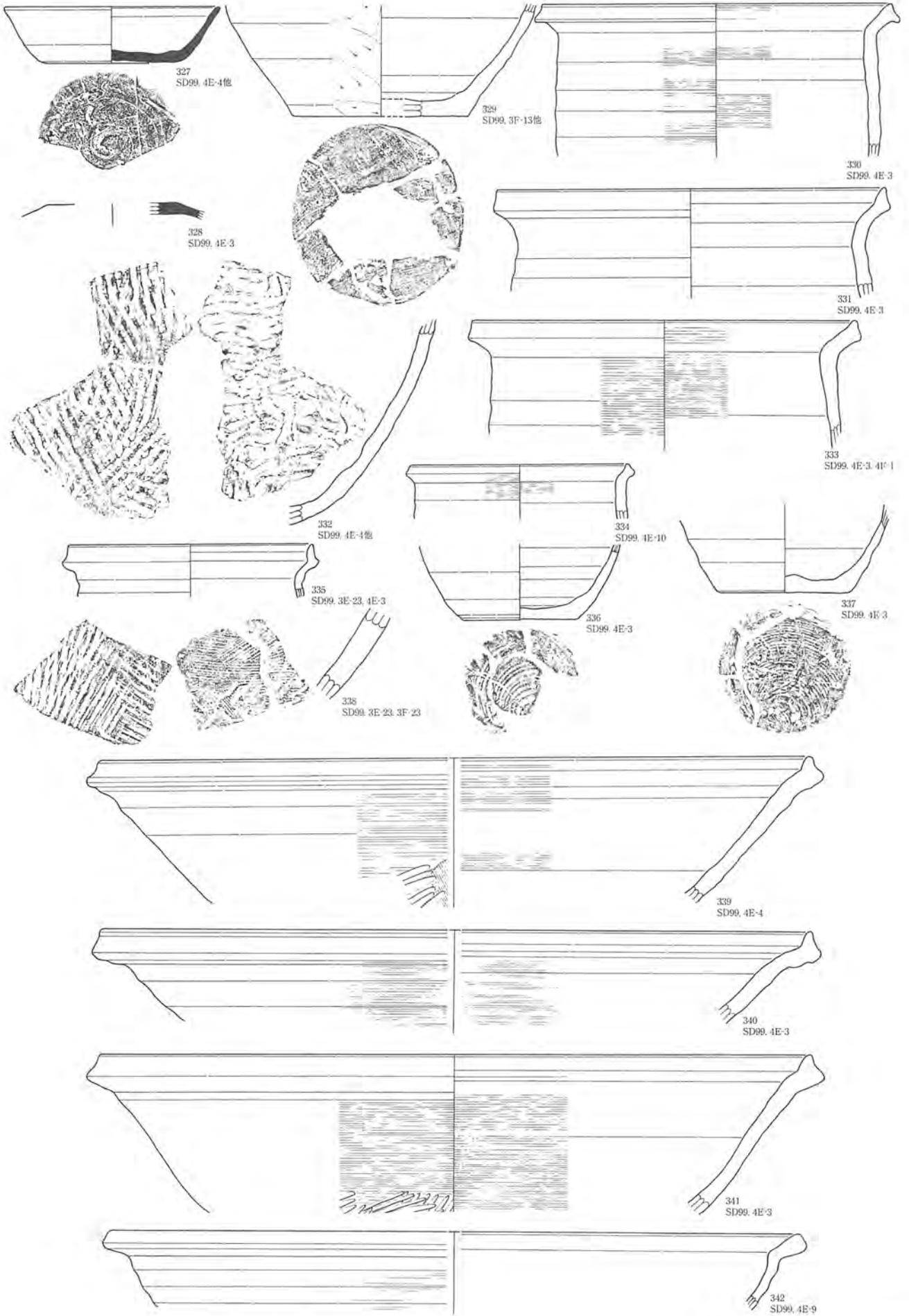
SD119(310-312)



SD99(313-326)

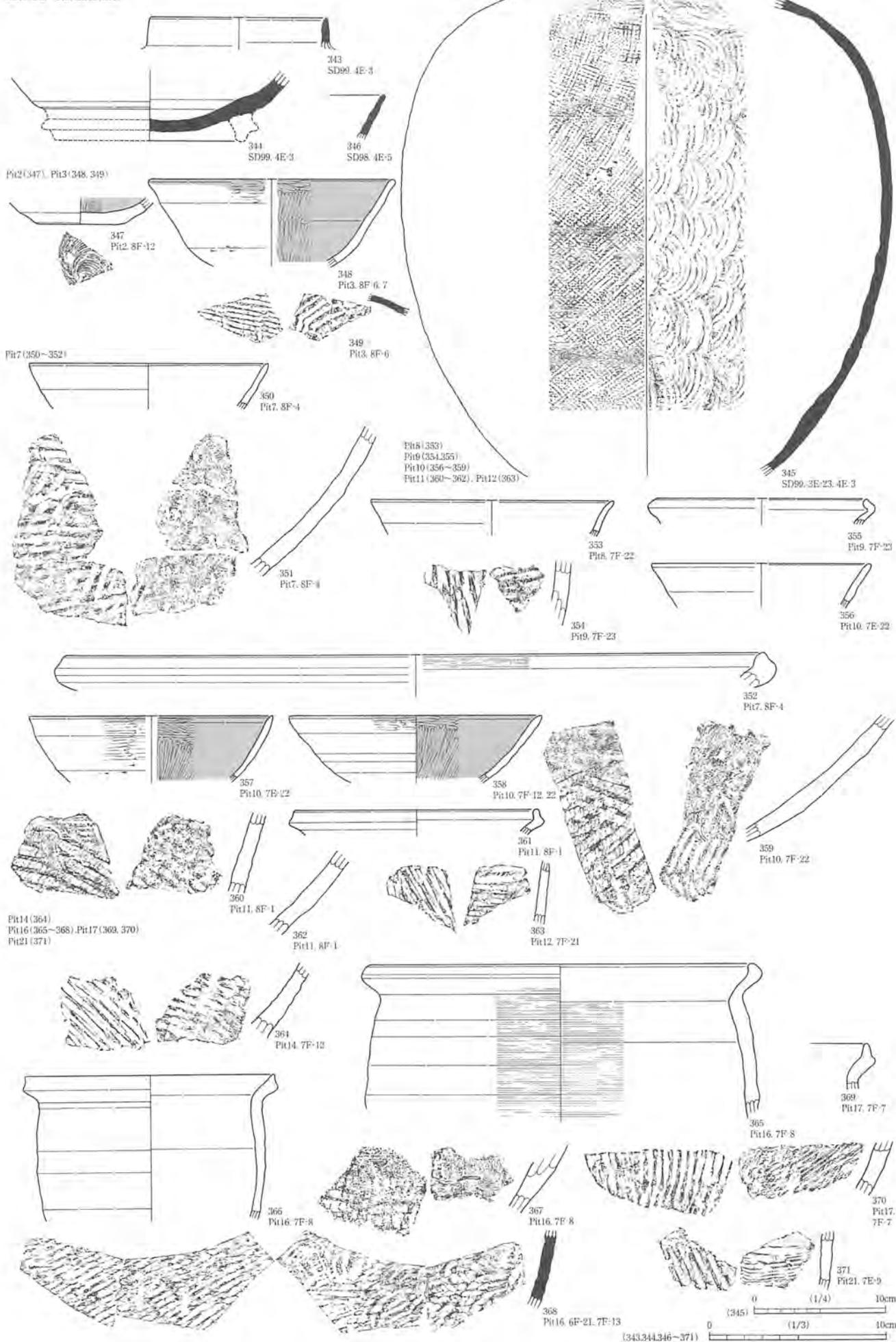


SD99(327-342)

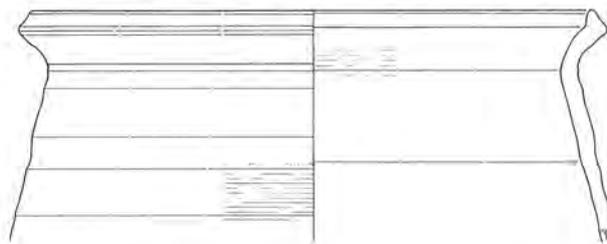


0 (1/3) 10cm

SD99(343~345) SD98(346)

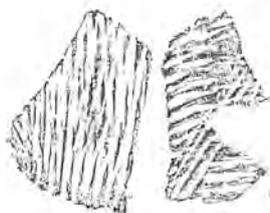


Pit27 (372,373), Pit35 (374), Pit39 (375), Pit69 (376), Pit94 (377), Pit95 (378), Pit108 (379), Pit131 (380,381)



372  
Pit27. 6E-24. 25

374  
Pit35. 7E-1



371  
Pit27. 6E-24



375  
Pit39. 6F-21



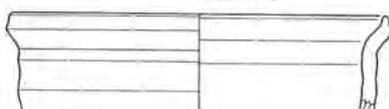
376  
Pit69. 6F-10



377  
Pit94. 3F-21. 4E-11



378  
Pit95. 3F-16



379  
Pit108. 7F-9

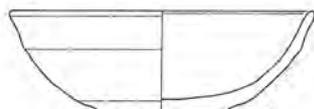


380  
Pit131. 4E-3

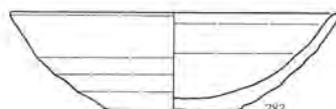


381  
Pit131. 4E-3

包含層 (382~399)



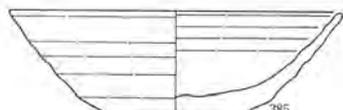
382  
7F-11



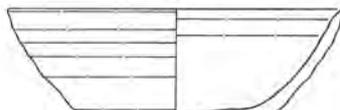
383  
7E-14



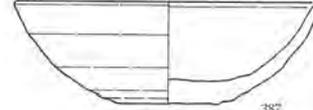
384  
5F-2



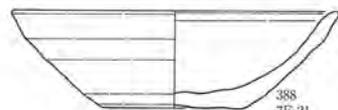
385  
4E-25



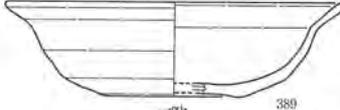
386  
4E-7



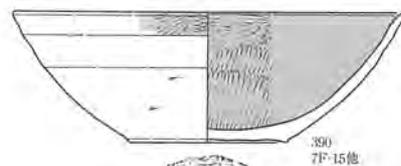
387  
7E-16



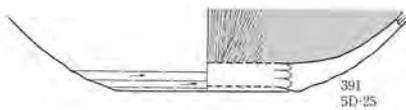
388  
7F-21



389  
4D-22. 5D-9



390  
7F-15他



391  
5D-25



392  
5E-11



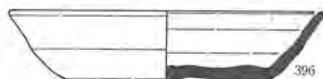
393  
5D-20



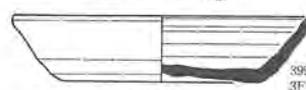
394  
5E-11



395  
5D-8



396  
3F-11. 18



399  
3F-16



397  
4D-22



398  
6E-25

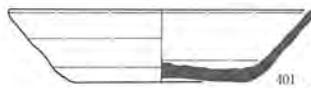


0 (1/3) 10cm

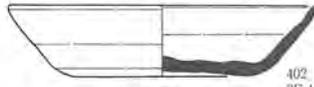
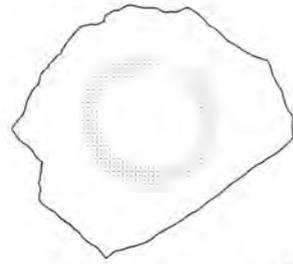
包含層(400~415)



400  
4E-9



401  
3F-16



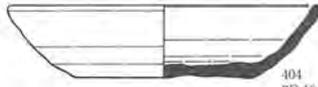
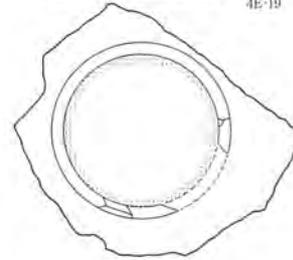
402  
3F-11



403  
6E-25



408  
4E-19



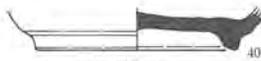
404  
3F-16



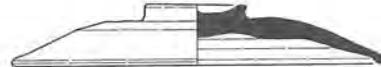
405  
7F-21



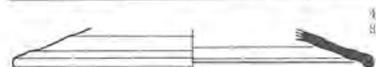
406  
4E-1他



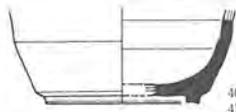
407  
4E-7



411  
3F-16



412  
3F-24



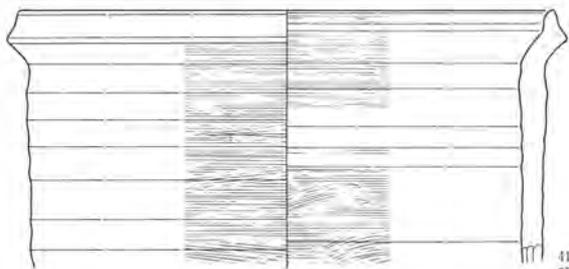
409  
4F-4



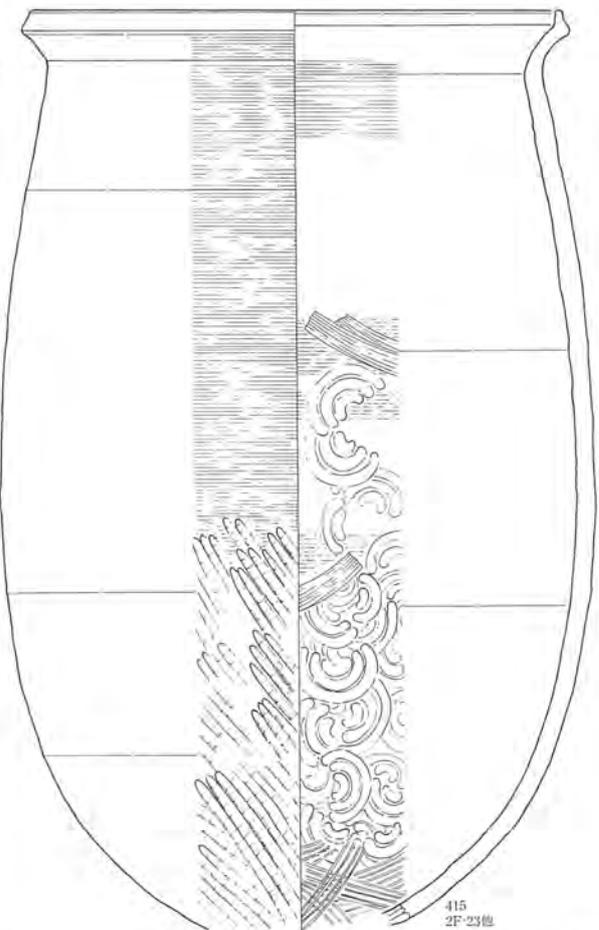
410  
3F-16 4E-9



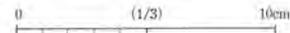
413  
8F-12



414  
5D-3.8



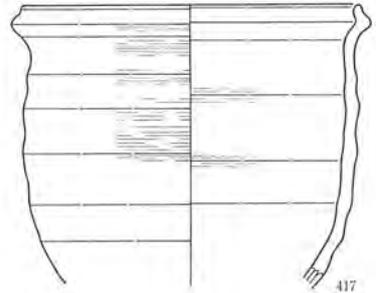
415  
2F-23他



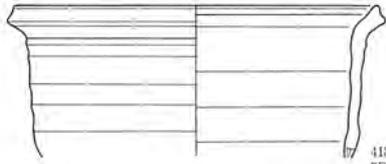
包含層(416~428)



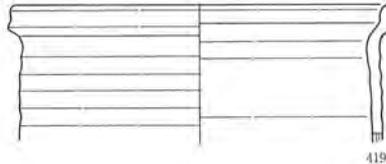
416  
6F-16



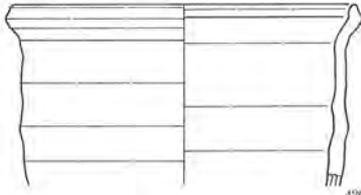
417  
5D-8



418  
7F-8



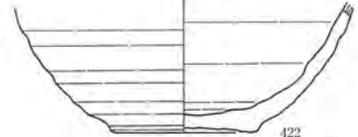
419  
7F-13他



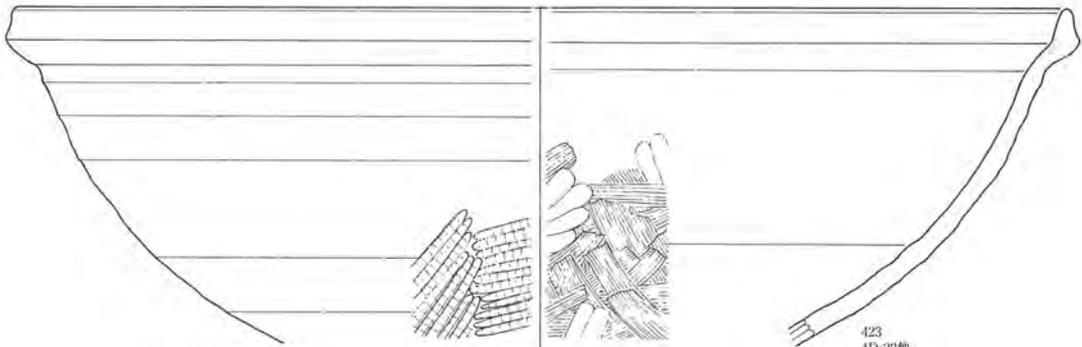
420  
5D-8



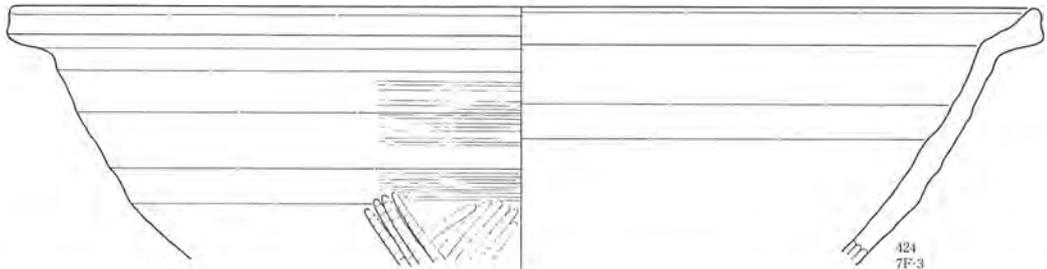
421  
5D-9



422  
5D-3



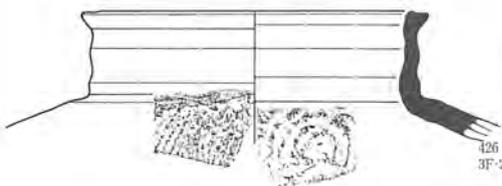
423  
4D-22他



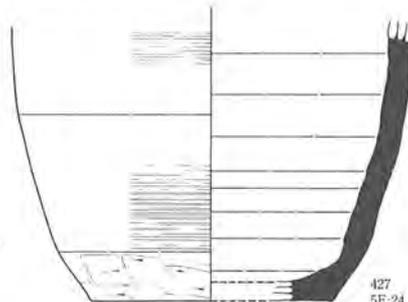
424  
7F-3



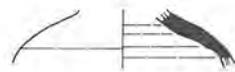
425  
5E-7他



426  
3F-22



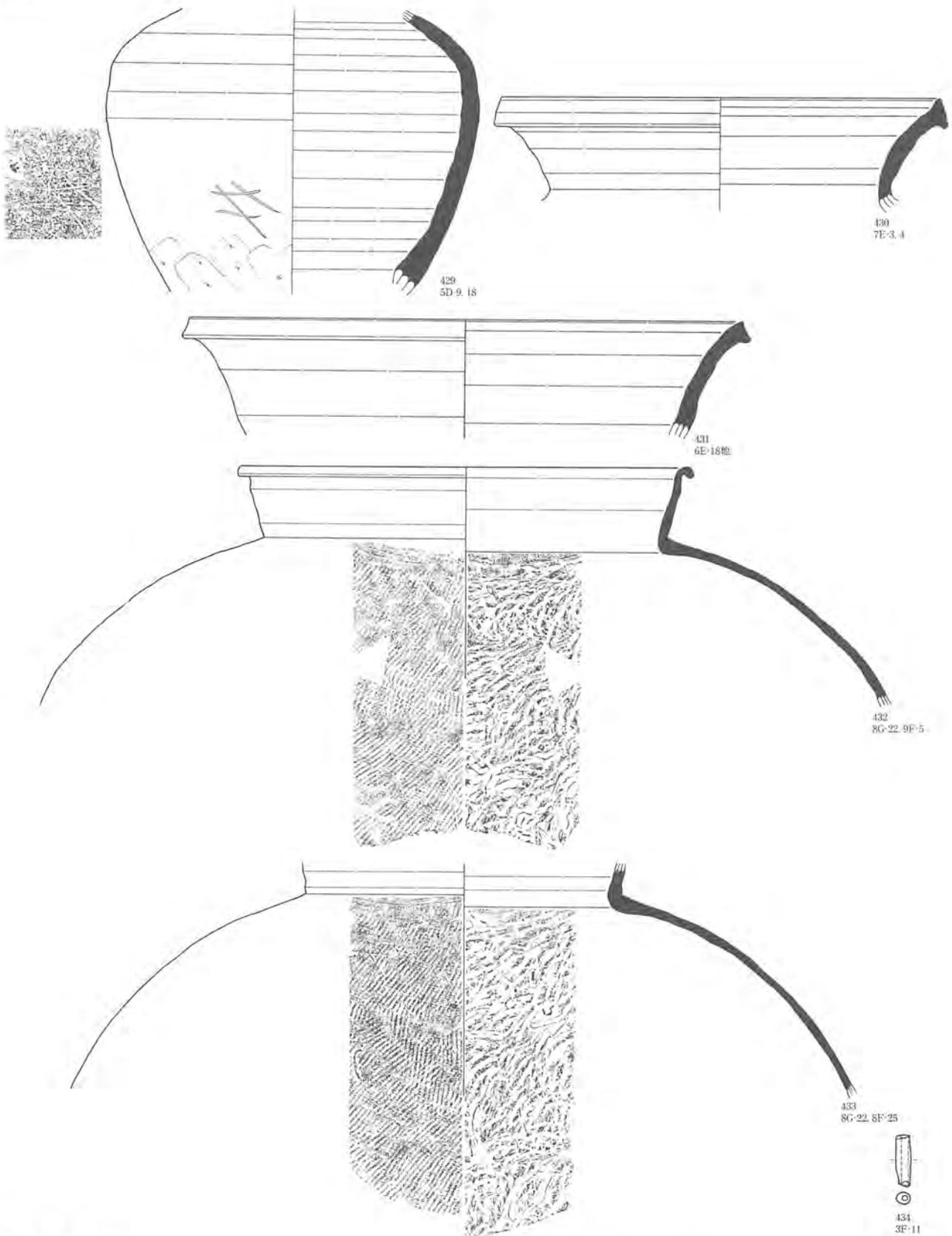
427  
5F-24



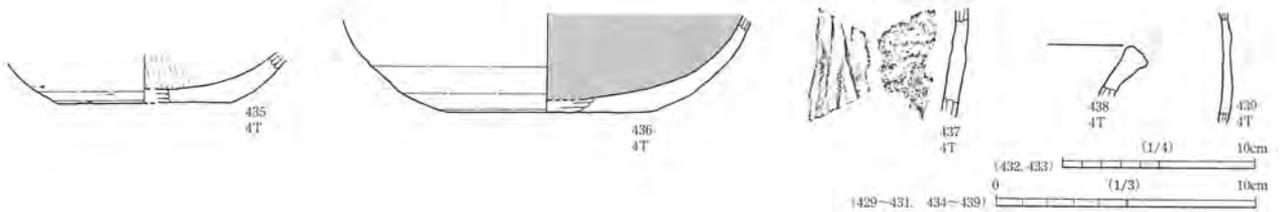
428  
4O-20

0 (1/3) 10cm

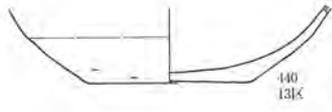
包含層(429-434)



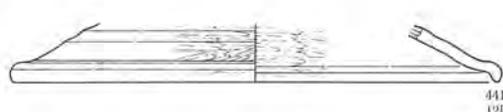
確認調査4T(435-439)



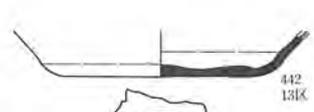
03立会調査(440~455)



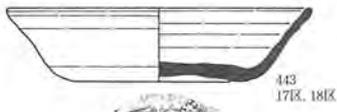
440  
13区



441  
12区



442  
13区



443  
17区, 18区



444  
13区



446  
18区, 19区



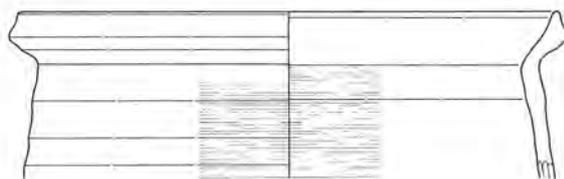
445  
14区



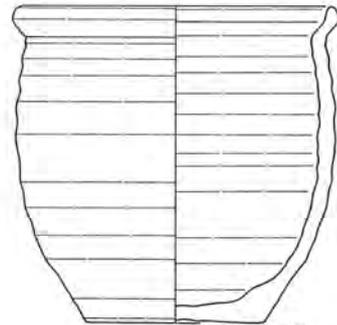
447  
17区, 18区



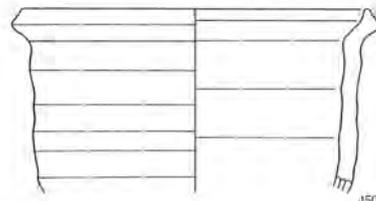
449  
13区



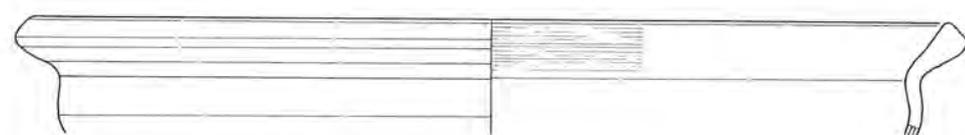
448  
13区



451  
13区, 14区



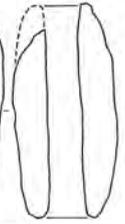
450  
13区



452  
12区



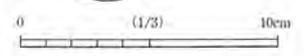
453  
12区



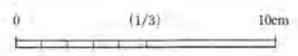
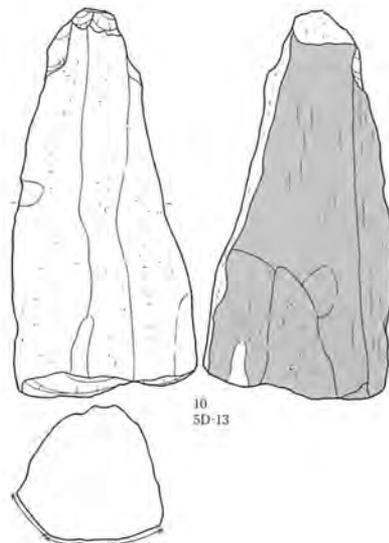
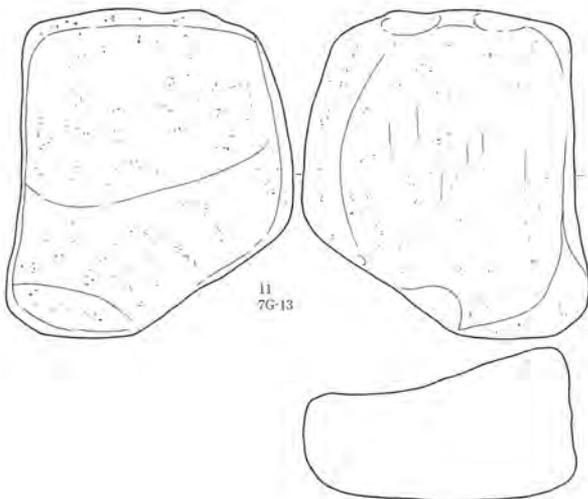
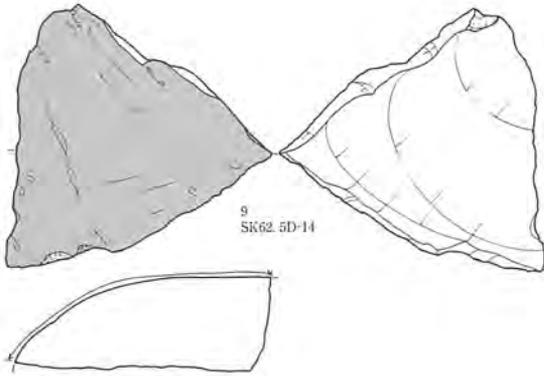
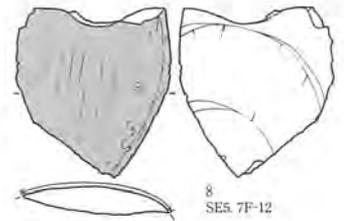
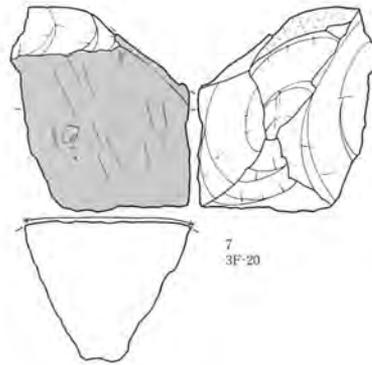
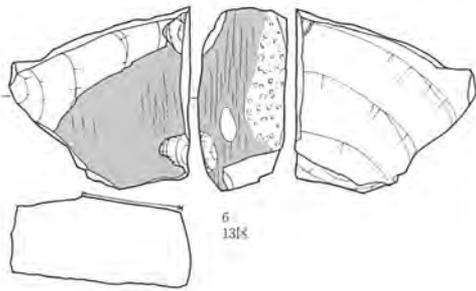
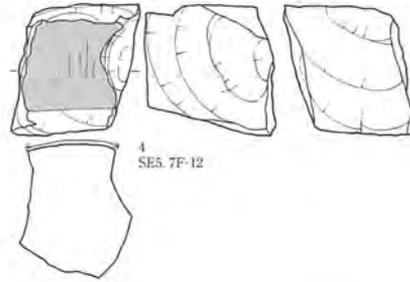
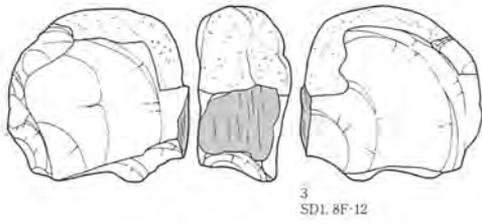
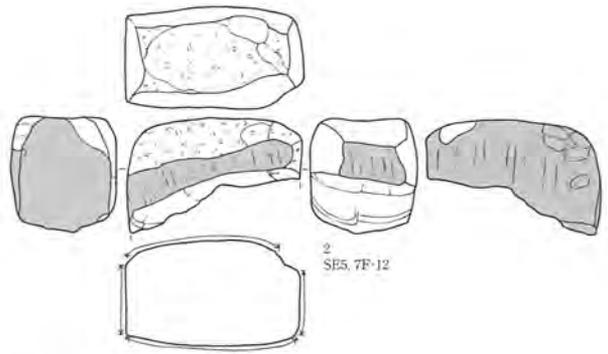
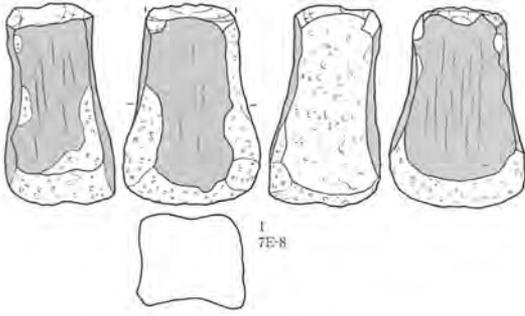
455  
13区



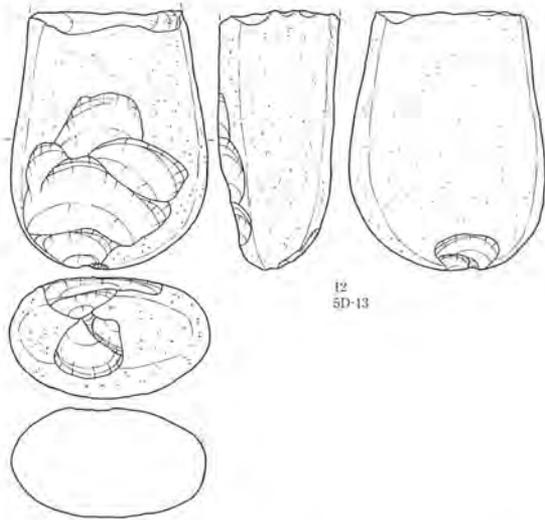
454  
14区



石製品(1~11)

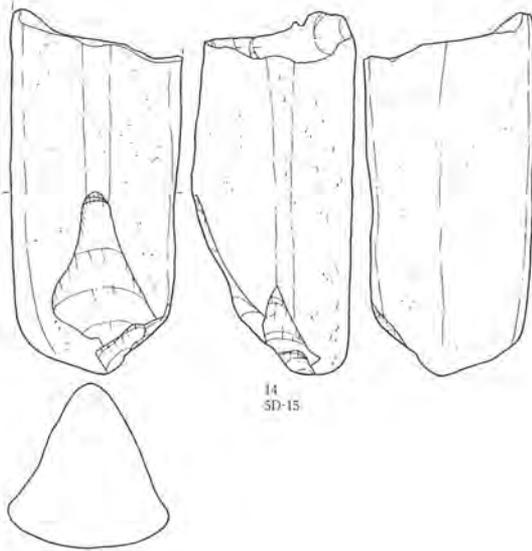


石製品(12-21)、鍛冶関連遺物(22)

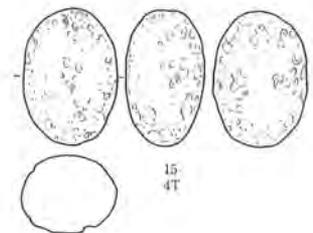


12  
5D-13

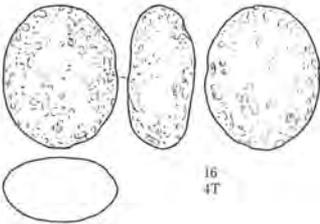
13  
4E-25



14  
5D-15



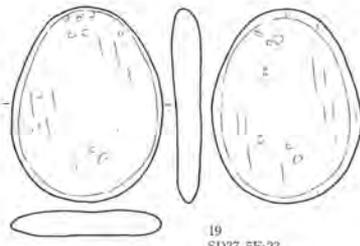
15  
4T



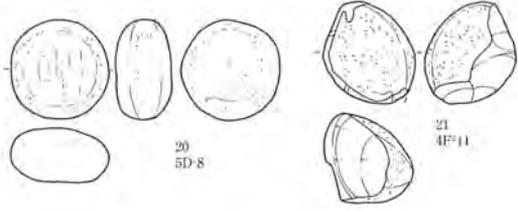
16  
4T



17  
8F-13

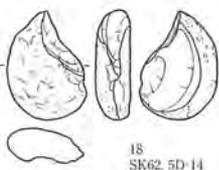


19  
SD37. 5F-23

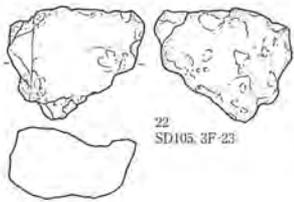


20  
5D-8

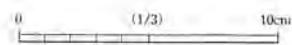
21  
4F-11



18  
SK62. 5D-14



22  
SD105. 3F-23







山王浦遺跡

能代川



空中写真 (南→北)



空中写真 (全景)



空中写真（東→西）



空中写真（北→南）



SB180 周边空中写真



SB182. 183 周边空中写真



SE5 完掘状況 (北東→南西)



SX67、SD99 周辺完掘状況 (南東→北西)



調査前現状 (南東→北西)



調査前現状 (南西→北東)



空中写真1



空中写真2



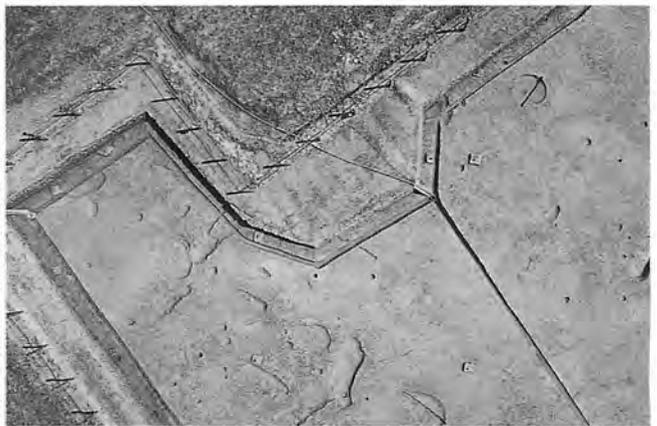
空中写真3



空中写真4



空中写真5



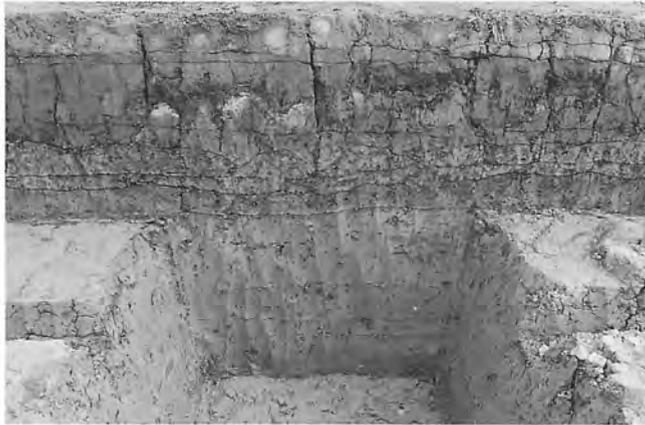
空中写真6



基本層序 A



基本層序 C



基本層序 E



基本層序 G



基本層序 I



基本層序 L



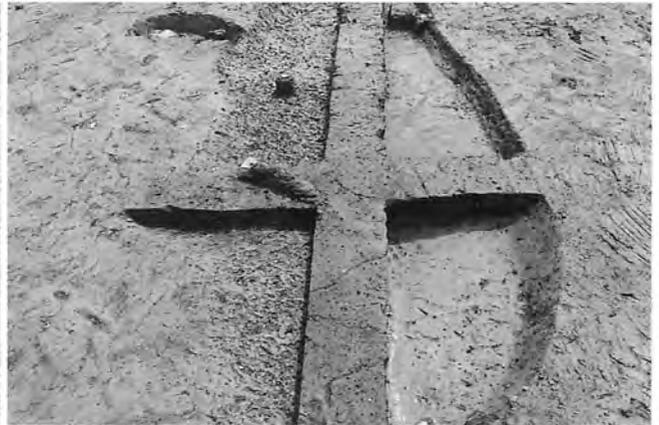
SE5 土層断面 (南西→北東)



SE5 完掘状況 (北東→南西)



SK28 土層断面 (北西→南東)



SK25 土層断面 (北西→南東)



SK25 土層断面 (北東→南西)



Pit27 土層断面 (南東→北西)



SK25、28、Pit27 完掘状況 (西→東)



SK20 土層断面 (北東→南西)



SK20 完掘状況 (北東→南西)



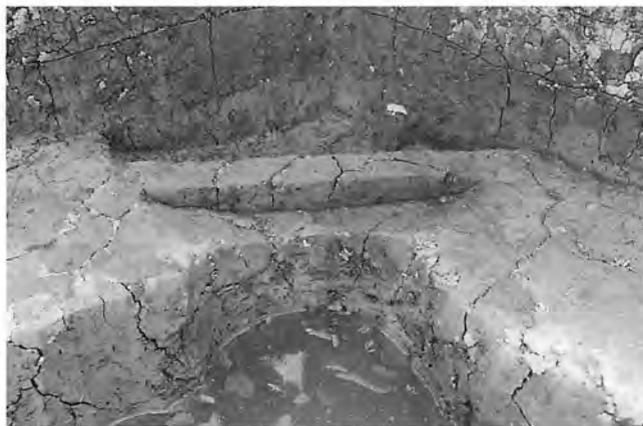
SK41、SD33 土層断面 (北東→北西)



SD33 土層断面 (南東→北西)



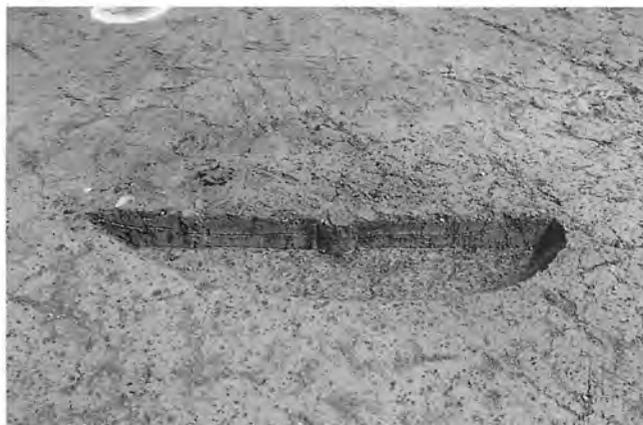
SK41、SD33、SB182 他完掘状況 (北東→南西)



SK61 土層断面 (東→西)



SK61 完掘状況 (東→西)



SK32 土層断面 (北西→南東)



SK32 完掘状況 (南東→北西)



SK57 土層断面 (北東→南西)



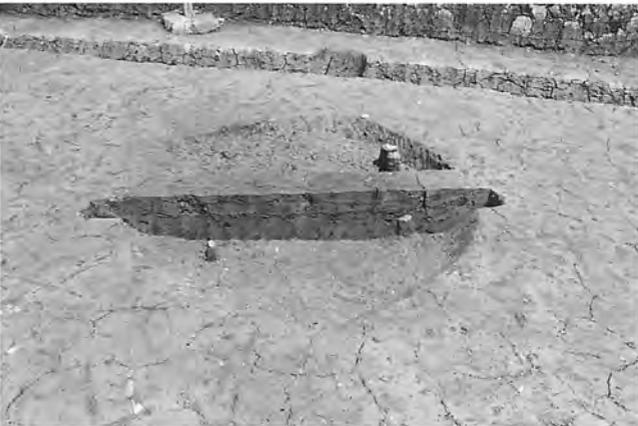
SK57 完掘状況 (北東→南西)



SK64 土層断面 (南西→北東)



SK64 完掘状況 (南西→北東)



SK40 土層断面 (南西→北東)



SK40 完掘状況 (南西→北東)



SK47.62 土層断面 (南西→北東)



SK48 土層断面 (北東→南西)



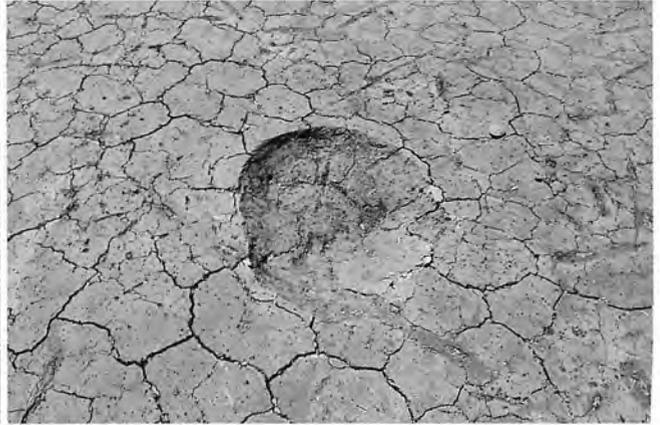
SK59 土層断面 (北東→南西)



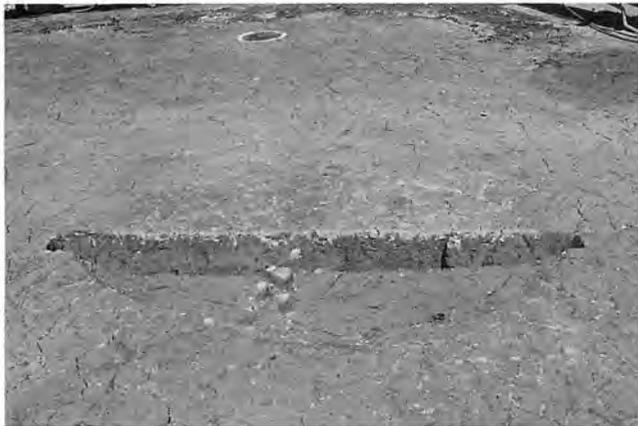
SK47.48.59.62 完掘状況 (南西→北東)



SK46 土層断面 (北東→南西)



SK46 完掘状況 (北東→南西)



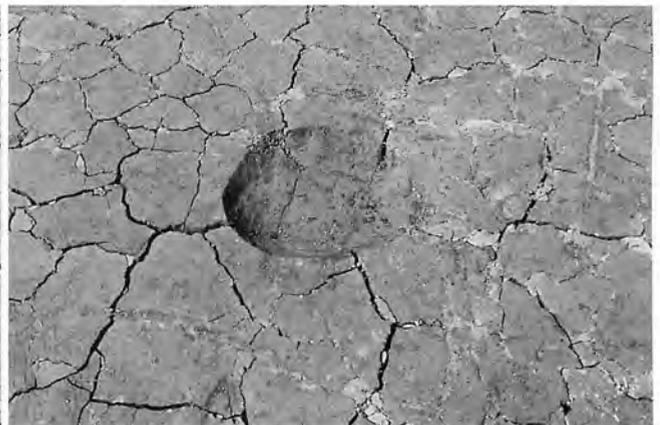
SK60 土層断面 (南東→北西)



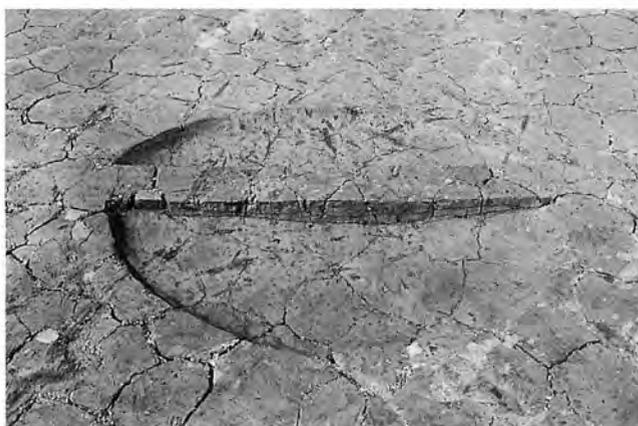
SK60 完掘状況 (南東→北西)



SK114 土層断面 (南東→北西)



SK114 完掘状況 (南東→北西)



SK111 土層断面 (北東→南西)



SK111 完掘状況 (北東→南西)



SX67 土層断面 (東→西)



SD99 土層断面 (南東→北西)



SX67、SD99 完掘状況 (南東→北西)



SK77 土層断面 (南東→北西)



SD98 土層断面 (北東→南西)



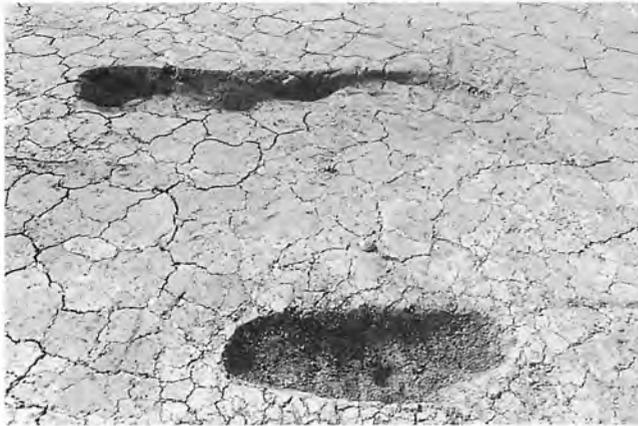
SK77、SD98 完掘状況 (南東→北西)



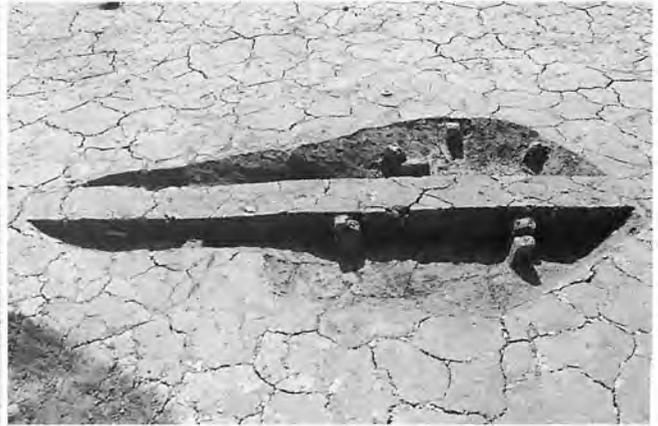
SK84 土層断面 (南東→北西)



SK86 土層断面 (北西→南東)



SK84.86 完掘状況 (南東→北西)



SK97 土層断面 (北東→南西)



SK97 完掘状況 (北東→南西)



SK104 土層断面 (北東→南西)



SK104 完掘状況 (北東→南西)



SK112 土層断面 (西→東)



SK68 土層断面 (北西→南東)



SD105.119 土層断面 (北西→南東)



SK68 完掘状況 (北西→南東)



SK68.112、SD105.110 完掘状況 (南東→北西)



SK89 土層断面 (南東→北西)



SK89 完掘状況 (南東→北西)



SK88 土層断面 (南→北)



SK88 完掘状況 (南→北)



SD1、Pit24 土層断面 (北東→南西)



SD1 土層断面 (南東→北西)



SD4 土層断面 (南西→北東)



SD1.4 他 完掘状況 (北東→南西)



SD29 土層断面 (南東→北西)



SD29、SA181 完掘状況 (南東→北西)



SD37 土層断面 (南東→北西)



SD37 土層断面 (南東→北西)



SD37 他 完掘状況 (北西→南東)



SD66 土層断面 (南西→北東)



SD66 完掘状況 (南西→北東)



SD93 土層断面 (北東→南西)



SD93 完掘状況 (北東→南西)



Pit16, 17 土層断面 (北→南)



Pit16, 17 他 完掘状況 (北東→南西)



Pit22, 23 土層断面 (南西→北東)



Pit22, 23 完掘状況 (南西→北東)



Pit152 他 完掘状況 (北西→南東)



SB180 周辺完掘状況 (北東→南西)



SB183 周辺完掘状況 (北西→南東)



SB184 周辺完掘状況 (空中写真)



南側完掘状況 (南東→北西)



北側完掘状況 (北西→南東)



北側完掘状況 (西→東)



東側完掘状況 (北東→南西)



西側完掘状況 (南西→北東)



山王浦遺跡出土須恵器



山王浦遺跡出土土師器・黒色土器



SE5 (13・24・48)、SK68 (220・222)、SK97 (194)、SD1 (245)、SD99 (314)、包含層 (415)、立会調査13・14区 (451)



SE5 (28・57)、SK28 (67). SK60 (150). SK68 (223). SK77 (186)、SD1 (254). SD37 (300). SD99 (325)、包含層 (402・429)



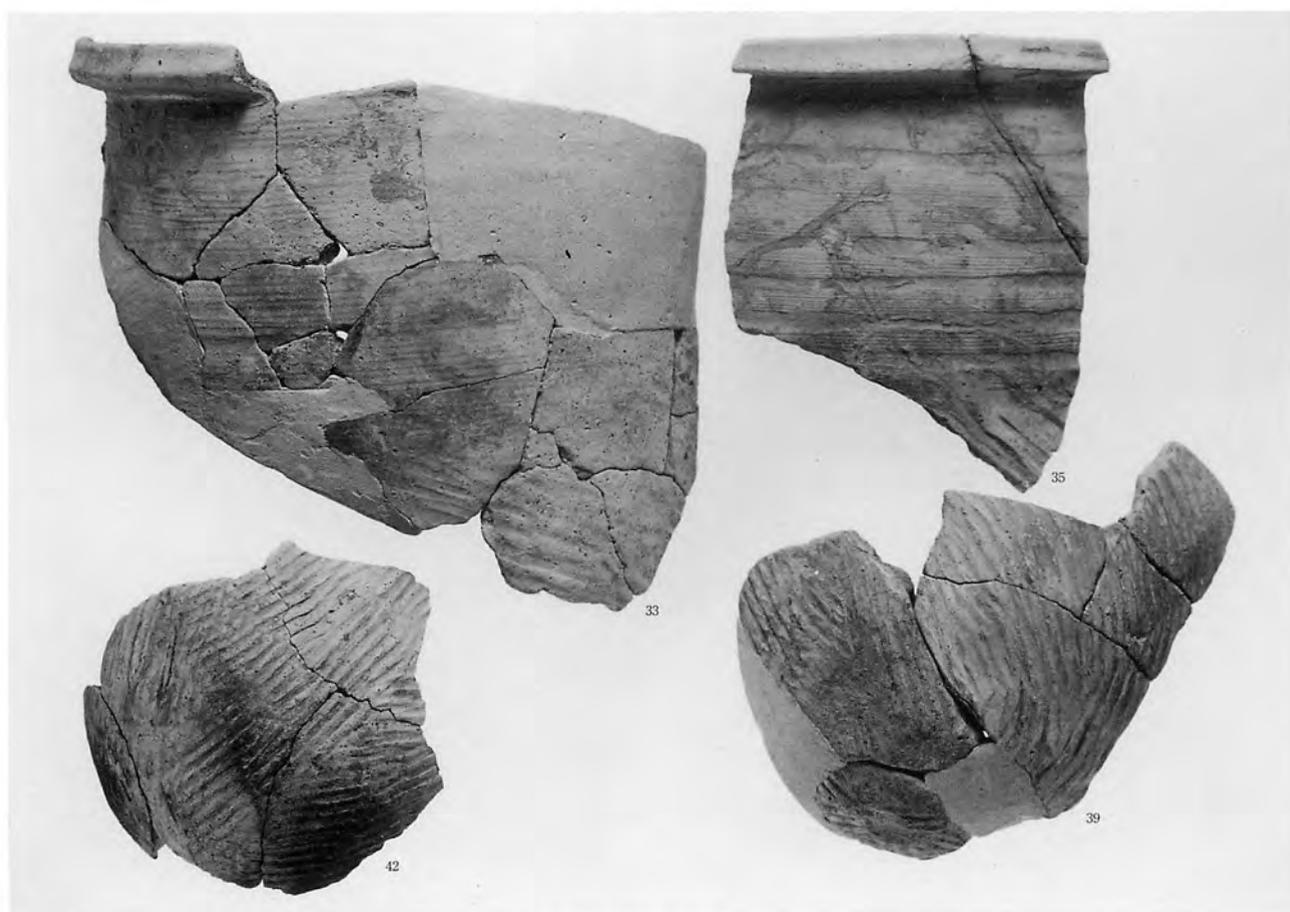
SE5 (1~12・14~16・18)



SE5 (13・17・19~30・36・37)



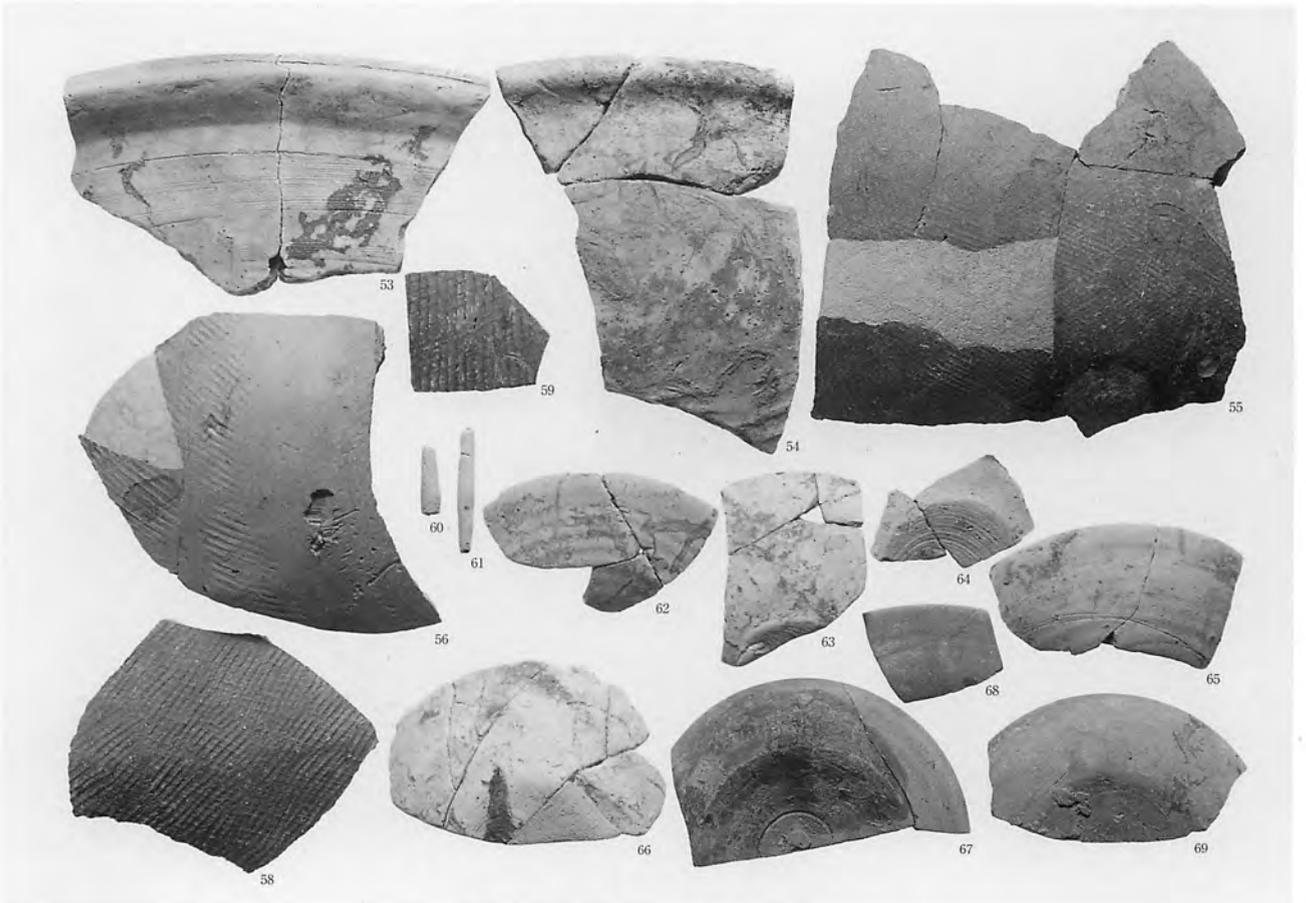
SE5 (31・32・34・38)



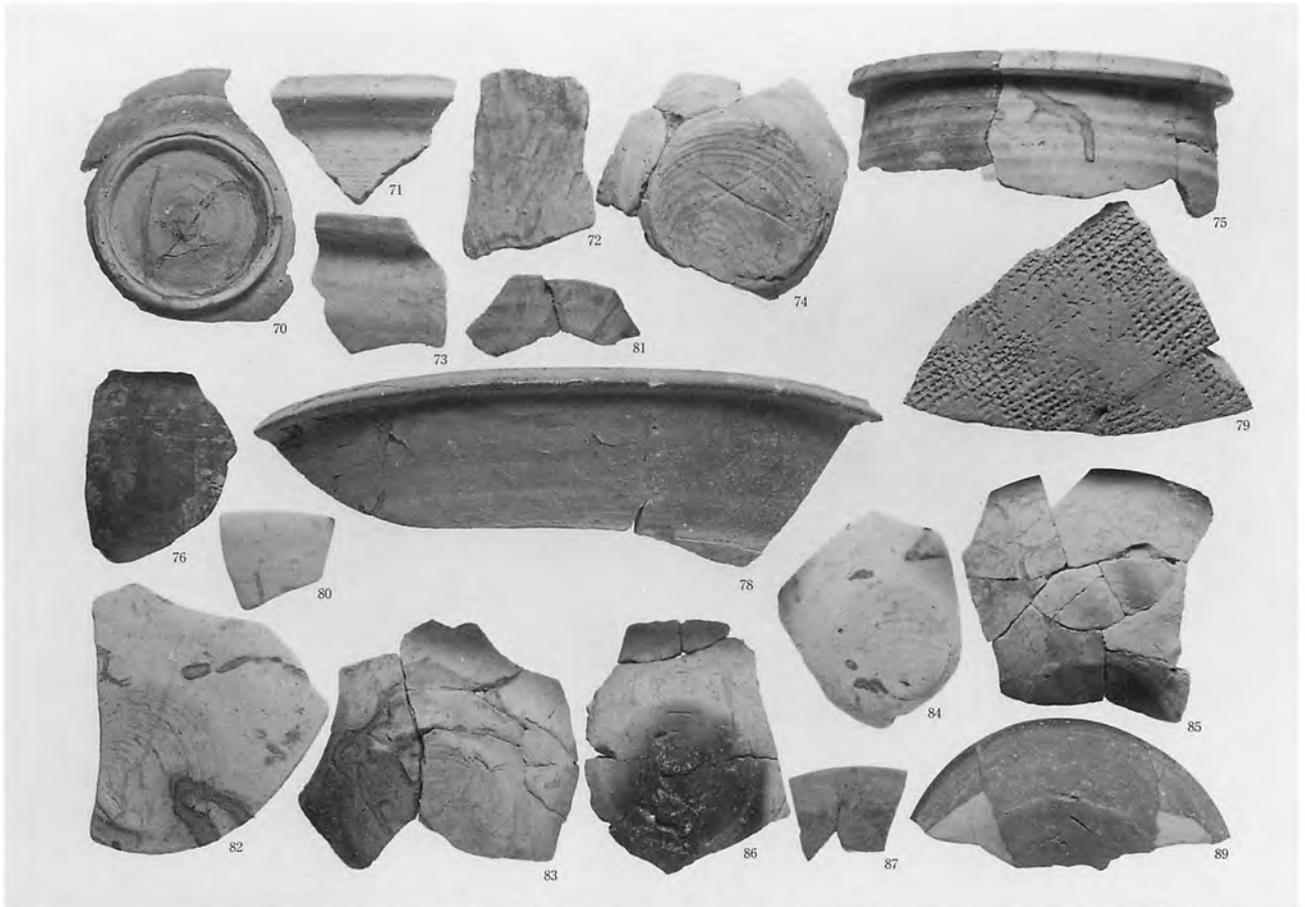
SE5 (33・35・39・42)



SE5 (40 · 41 · 43~47 · 49~52)



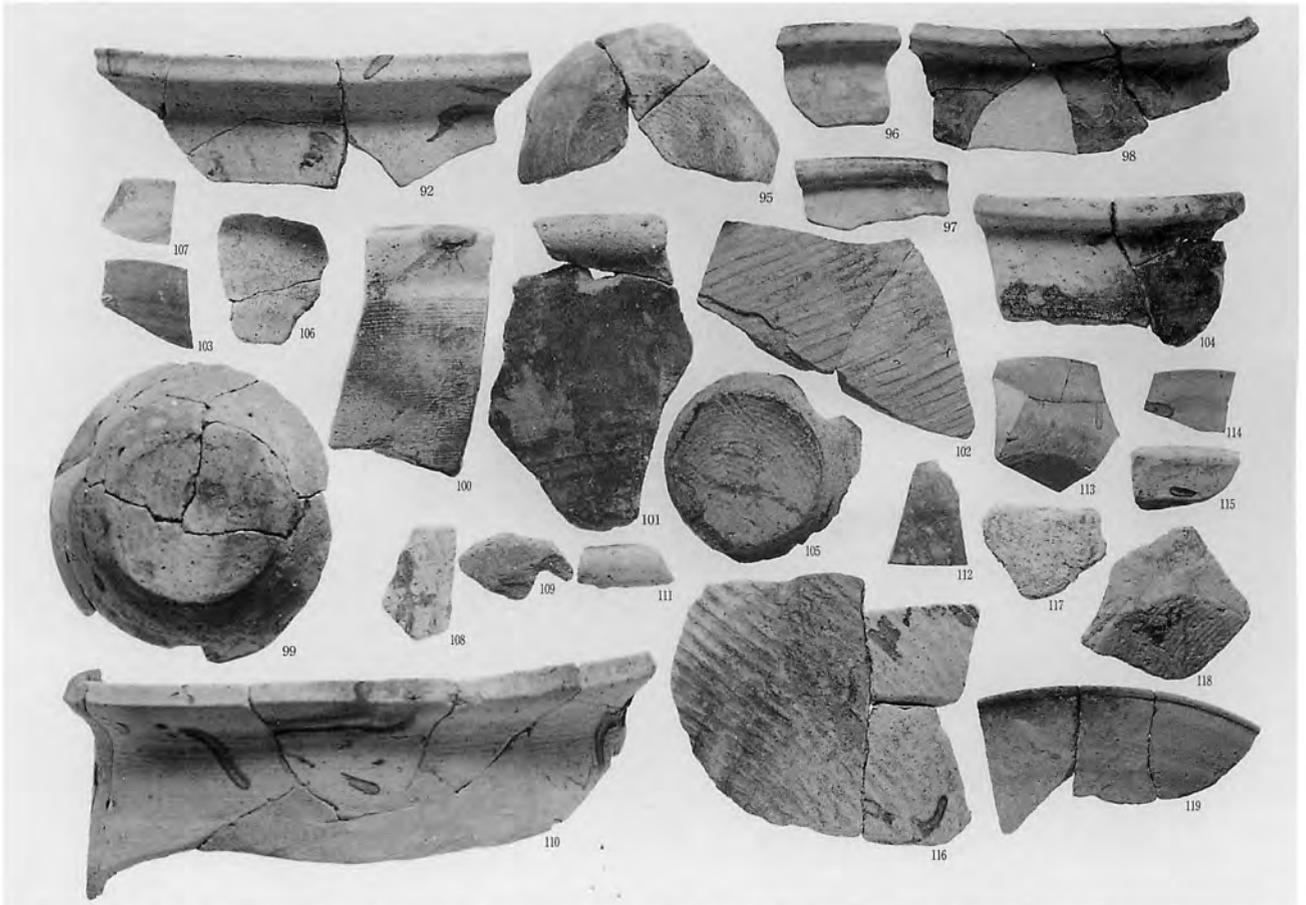
SE5 (53~56 · 58~61)、SK28 (62~69)



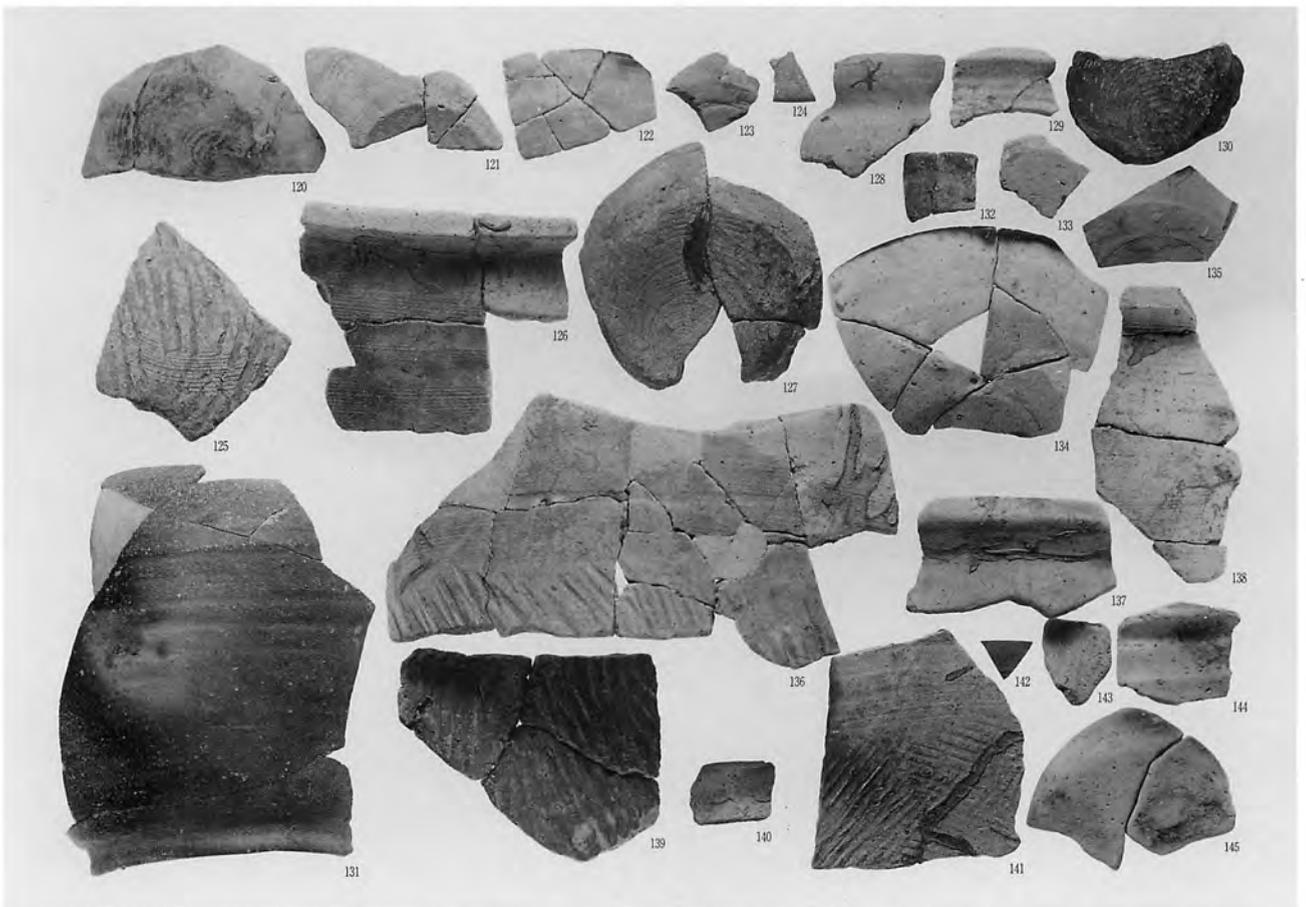
SK28 (70~76・78・79)・SK25 (80~87・89)



SK28 (77)・SK25 (88・90・91・93・94)



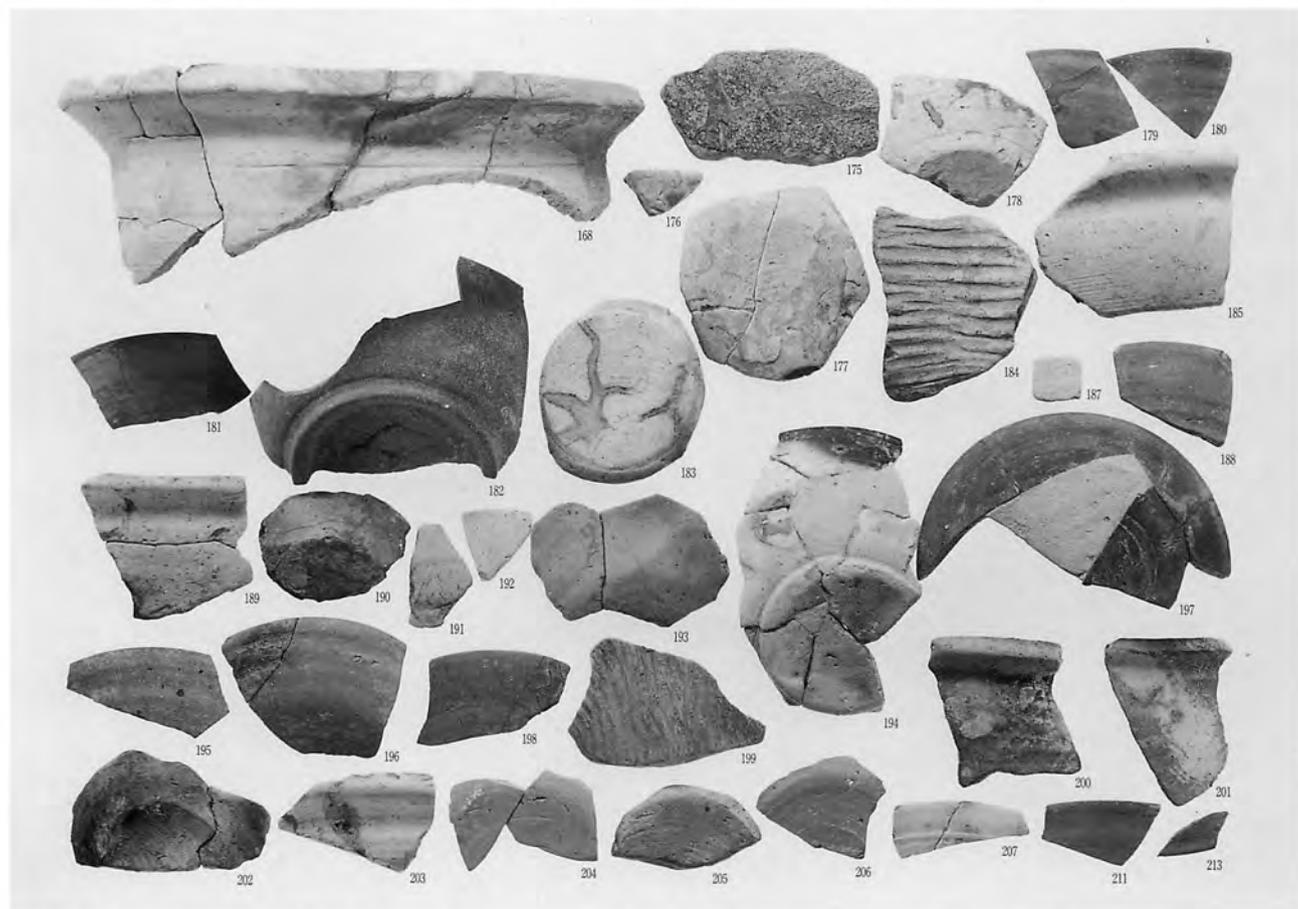
SK25 (92・95~102). SK20 (103). SK41 (104). SK61 (105). SK32 (106~109). SK64 (110・111). SK40 (112~117). SK62 (118・119)



SK62 (120~131). SK47 (132~141). SK48 (142~145)



SK48 (146). SK59 (147 · 148). SK60 (149~155). SK111 (156 · 157). SX67 (158~167 · 169~174)



SX67 (168 · 175). SK77 (176~185). SK86 (187~190). SK97 (191~203). SK112 (204 · 205). SK104 (206). SK68 (207 · 211 · 213)



SK68 (208~210・212・214~219・221)・SK89 (225)・SK88 (226)、SD1 (227・228)



SK68 (224)



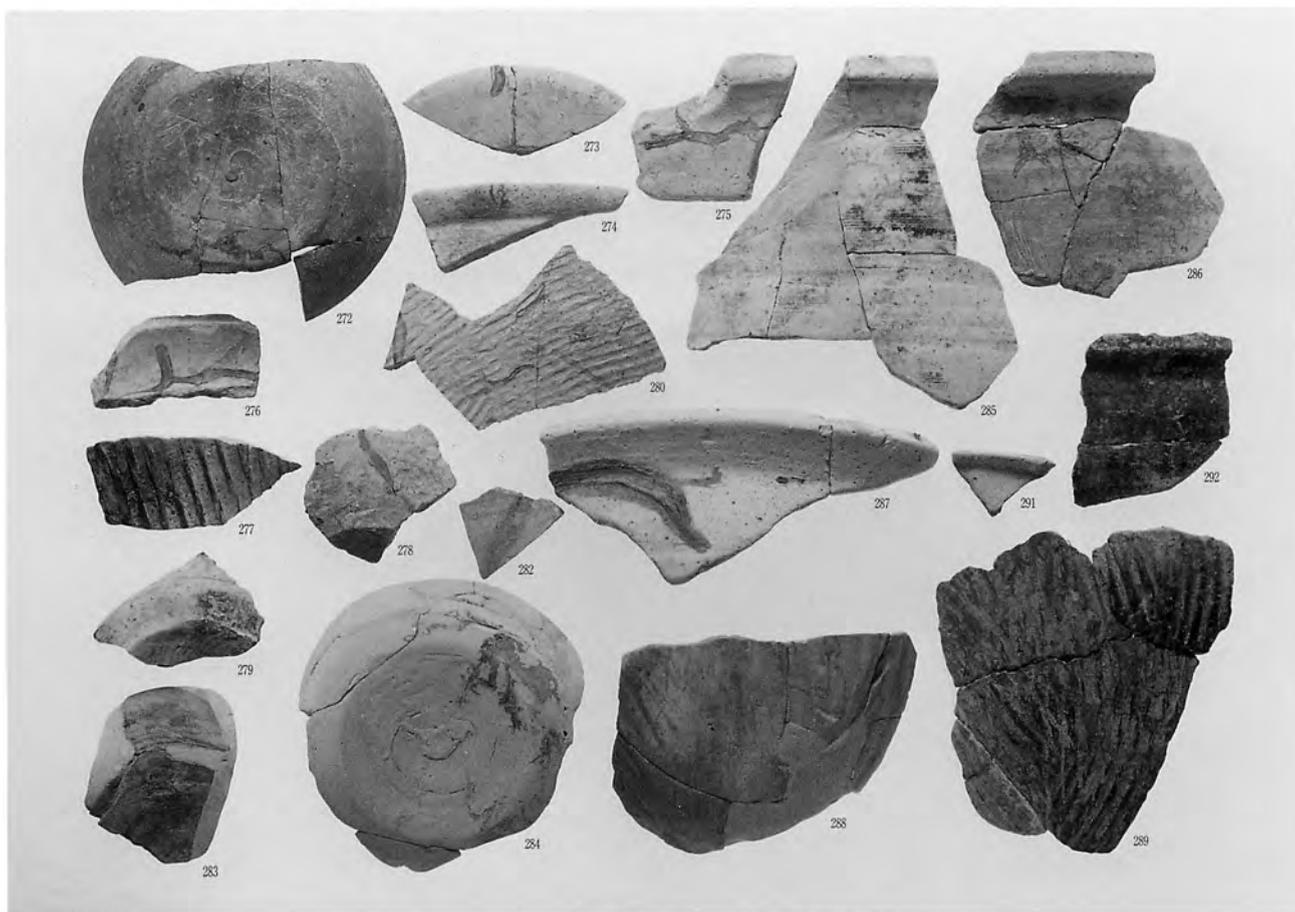
SD1 (229~244・247~249)



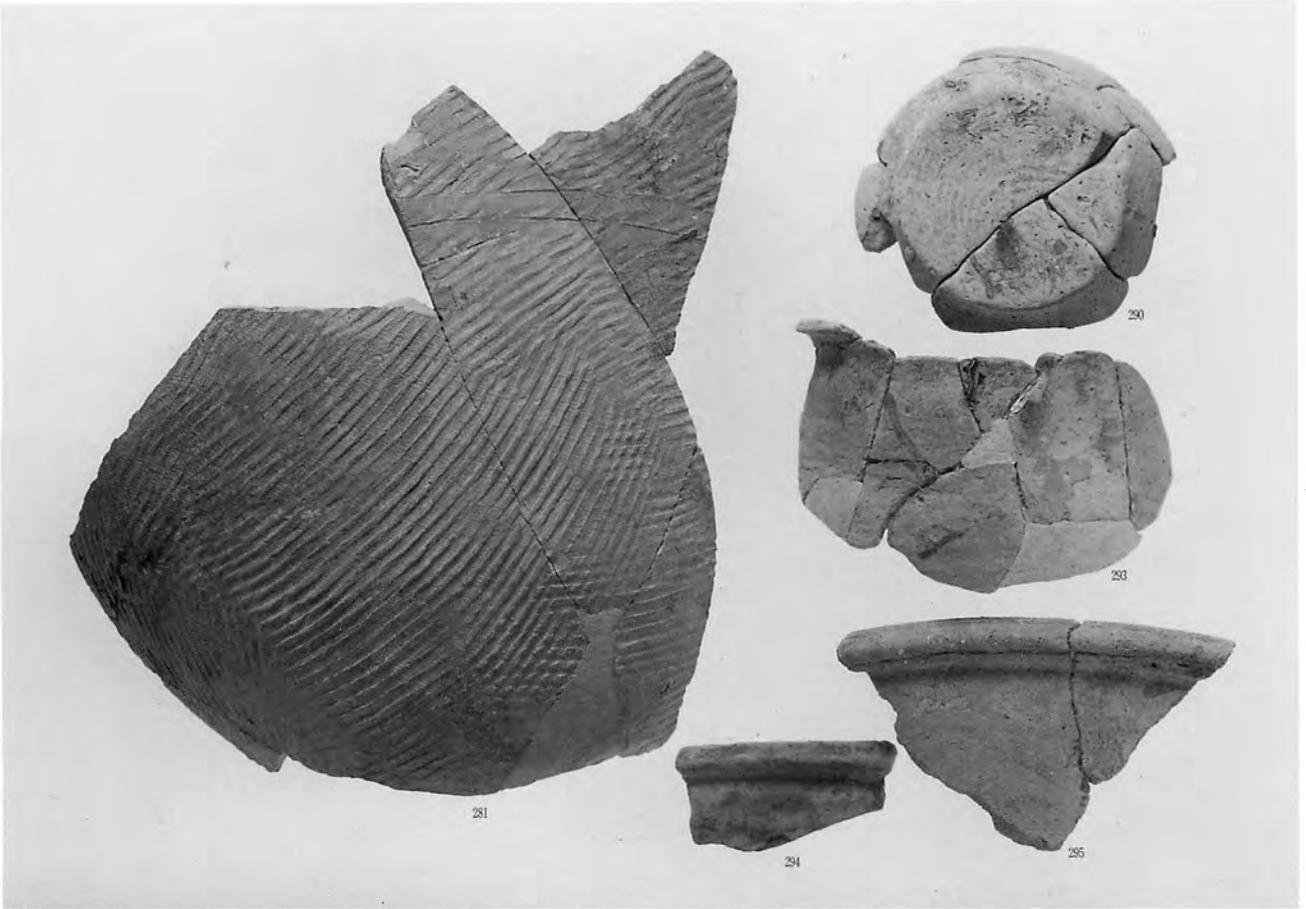
SD1 (246・250~252)、Pit24 (255~257・259)



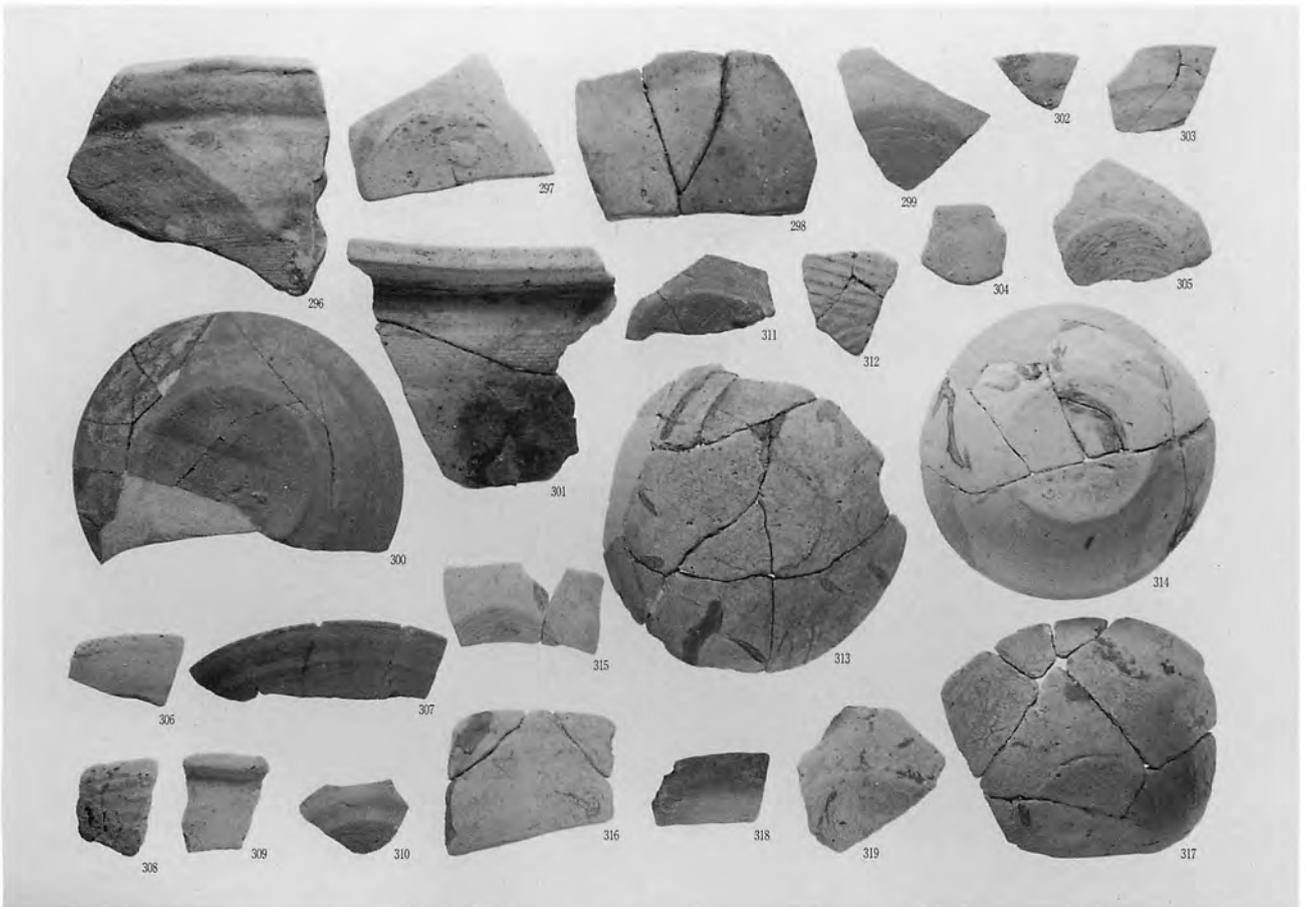
SD1 (253)、Pit24 (258・260・261)、SD4 (262~268) .SD29 (269~271)



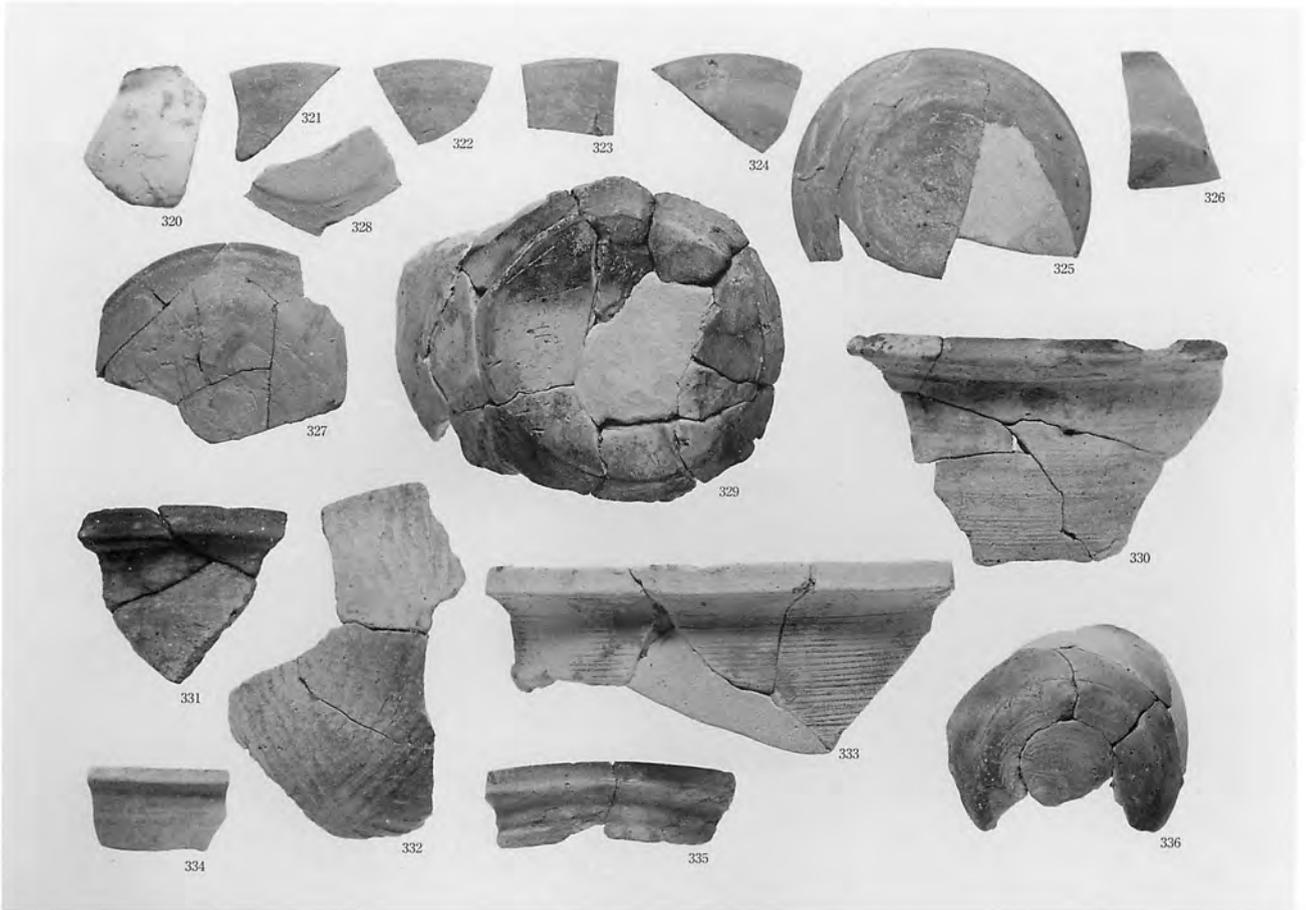
SD29 (272~280) .SD33 (282~289・291・292)



SD29 (281) . SD33 (290・293~295)



SD33 (296) . SD37 (297~301) . SD105 (302~309) . SD119 (310~312) . SD99 (313~319)



SD99 (320~336)



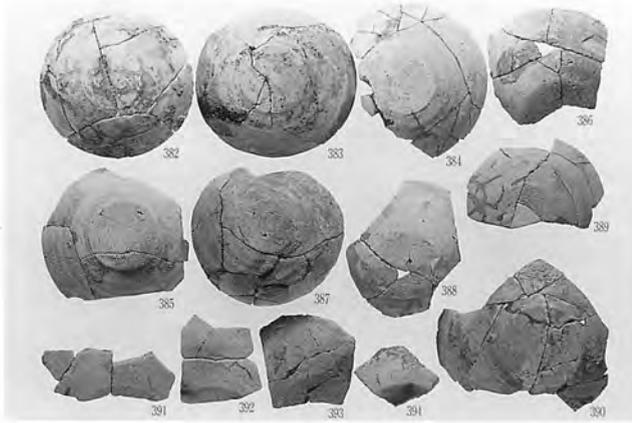
SD99 (337~344). SD98 (346). Pit2 (347). Pit3 (348・349). Pit7 (350~352). Pit8 (353). Pit9 (354・355). Pit10 (356~358). Pit11 (360・361)



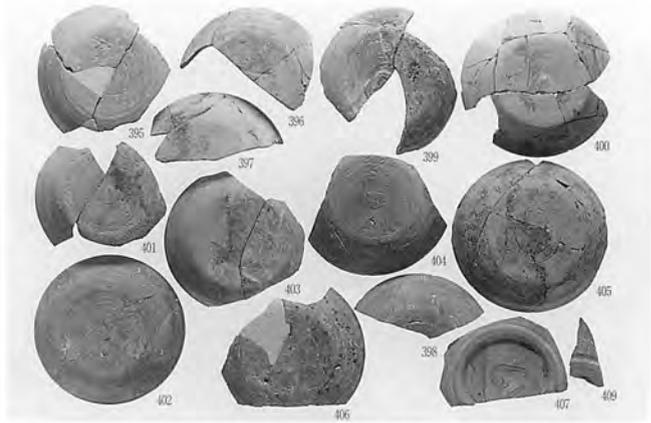
SD99 (345)



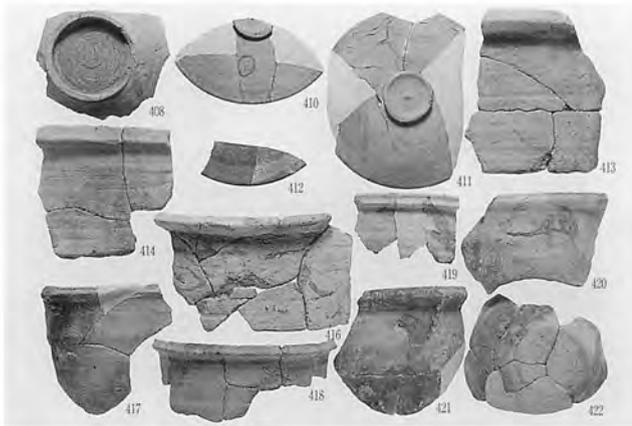
Pit10 (359). Pit11 (362). Pit12 (363). Pit14 (364). Pit16 (365~368). Pit17 (369・370). Pit21 (371). Pit27 (372・373). Pit35 (374)  
Pit39 (375). Pit69 (376). Pit94 (377). Pit95 (378). Pit108 (379). Pit131 (380・381)



包含層 (382~394)



包含層 (395~407・409)



包含層 (408・410~414・416~422)



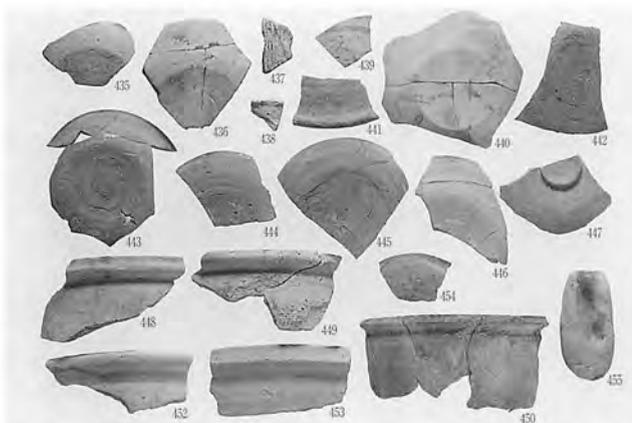
包含層 (423~428・430・431・434)



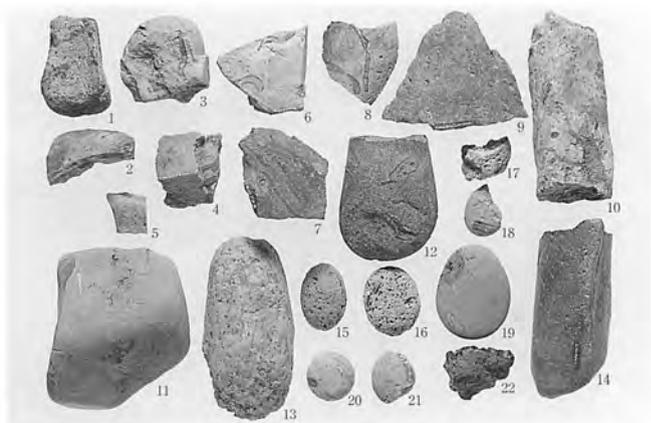
包含層 (432)



包含層 (433)



確認調査 4T (435~439)、立会調査 (440~450・452~455)



石製品・鍛冶関連遺物

# 報告書抄録

ふりがな	さんのうらいせきはつくつちようさほうこくしよ						
書名	山王浦遺跡発掘調査報告書						
副書名							
巻次							
シリーズ名	新津市埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号							
編著者名	立木宏明・澤野慶子・早田 勉・杉山真二・金原正子・金原 明						
編集機関	新津市教育委員会						
所在地	〒956-0035 新潟県新津市程島2009番地 Tel0250-24-2111						
発行年月	西暦2004年3月8日						
よりがな 所収遺跡名	よりがな 所在地	コ ー ド 市町村 遺跡番号	北緯 。 ” ”	東経 。 ” ”	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
さんのうらいせき 山王浦遺跡	にいぎけんしんしんしやうたけのうち おののびらあまごさんのうら 大野開字山王浦459番地ほか	15207 88	37° 48' 46"	139° 07' 54"	20020704 20020628~20021004	1,639.42	ほ場整備事業に伴う 本発掘調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
山王浦遺跡	遺物包含地	古代(9世紀後半)	土坑・溝・井戸 性格不明遺構・掘立柱建物		須恵器・土師器・黒色土器 石製品・鍛冶関連遺物		

## 山王浦遺跡発掘調査報告書

2004年3月8日発行

発行 新津市教育委員会  
新潟県新津市程島2009番地  
〒956-0035 TEL (0250) 24-2111

印刷 北越印刷株式会社  
新潟県長岡市福住1丁目6番27号  
〒940-0034 TEL (0258) 33-0306